



取扱説明書

詳細版

LIFEBOOK

SHシリーズ

サポート情報のご案内

紙

マニュアル

『箱の中身を確認してください』

添付品の一覧です。ご購入後、すぐに添付品が揃っているか確認してください。

『取扱説明書』(本書)

使い始めるために必要な情報を中心に説明しています。

お使いの機種により、これ以外にもマニュアルや重要なお知らせなどの紙・冊子類があります。

電子

マニュアル

インターネットに
接続してください

『取扱説明書＜詳細版＞』

このパソコンの取り扱い方法や、細かい設定を変更する方法などを説明しています。

『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』

Windows 8.1の基本的な操作や、詳しい操作・便利な使い方などを紹介します。

※お使いの機種により、上記以外の電子マニュアルがWebに用意されている場合があります。

Webに掲載されている電子マニュアルの参照方法については「マニュアルの表記」をご覧ください。



「富士通アドバイザー」からご覧ください。
スタート画面のタイルをクリックします。

『取扱説明書＜詳細版＞』

『Windows 8.1基本操作クイックガイド』

クリックし、「トラブル解決」の一覧が表示されたら、「Windows 8.1 基本操作クイックガイド」をクリックしてください。



※デスクトップ版「富士通アドバイザー」からもご覧になれます。

FMV

サポート

インターネットに
接続してください

サポートページ <http://azby.fmworld.net/support/>

FMVに関するQ&A事例や活用情報など、「知りたい・困った」ときに役立つ情報を提供しています。



「富士通アドバイザー」の「サポートページで調べる」からサポートページを開くこともできます。

※デスクトップ版「富士通アドバイザー」では「サポート＆サービス情報」タブにリンクがあります。

豊富な「Q&A」で
トラブルを解決！

さまざまな使い方のご提案
「パソコン活用情報」

(この画面は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。)

目次

このパソコンをお使いになる前に	5
マニュアルの表記	8
安全上のご注意	11
取り扱い上のご注意	15
パソコンの使用環境についての注意	15
使用上のお願ひ	16
疲れにくい使い方	17
各部の名称について	18
1. セットアップする	
セットアップを始める前のチェック	19
セットアップの流れを確認する	19
パソコンの準備をする	20
Windows のセットアップをする	21
パソコンを快適にお使いいただくための準備をする	33
「富士通アドバイザー」の準備をする	33
「はじめに行う設定」で初期設定する	35
2. 各部の名称と働き	
パソコン本体前面	36
パソコン本体右側面	37
パソコン本体左側面	38
パソコン本体上面	39
パソコン本体下面	39
状態表示 LED	40
キーボード	41
3. 取り扱い	
Windows をスタートする／終了する	43
Windows をスタートする	43
Windows を終了する	44
電源ランプの状態	44
スリープにする／復帰させる	45
スリープにするときの注意	45
スリープにする	45
スリープから復帰する	45
バッテリー	46
バッテリーの充電	46
充電状態や残量の確認	46
バッテリーパックの取り扱い上の注意	47
内蔵バッテリーパックの交換方法	47
フラットポイント	49
フラットポイントをお使いになるうえでの注意	49
フラットポイントの基本的な使い方	49
タッチ機能	50
タッチ機能をお使いになるうえでの注意事項	50
タッチ機能を使う	51
音量	53
画面の明るさ	54
CD/DVD ドライブ	55
著作物の録音や複製に関する注意	55
ディスクをお使いになるうえでの注意	55
ディスクを再生するうえでの注意	56
ディスクに書き込み／書き換えをするうえでの注意	56
使えるディスク／使えないディスク	58
ディスクをパソコンにセットする／取り出す	59
ディスクをフォーマットする	61

メモリーカード	62
お使いになるうえでの注意	62
使えるメモリーカード	63
メモリーカードを差し込む／取り出す	63
モバイル・マルチベイユニット	64
モバイル・マルチベイユニットをお使いになるうえでの注意	64
使えるモバイル・マルチベイユニット	65
モバイル・マルチベイユニットの交換方法	65
フォーマットする	66
周辺機器の取り扱い	66
周辺機器の取り扱い上の注意	66
電源オフ USB 充電機能	67
電源オフ USB 充電機能とは	67
電源オフ USB 充電機能をお使いになるうえでの注意	67
メモリ	67
メモリの組み合わせを確認する	67
メモリの取り扱い上の注意	67
必要なものを用意する	68
メモリの取り付け／取り外し	68
メモリ容量を確認する	70
お手入れ	70
パソコン本体やキーボードのお手入れ	70
液晶ディスプレイのお手入れ	71
CD/DVD ドライブのお手入れ	71

4. 便利な機能のご紹介

Sense YOU Technology 機能（人感センサー機能）	72
Sense YOU Technology でできること	72
Sense YOU Technology をお使いになるうえでの注意	73
Sense YOU Technology の初期設定	74
Sense YOU Technology を使う	75
My Cloud	76
MyCloud でできること	76
F-LINK（ケータイ連携機能）	76
F-LINK をお使いになるうえでの注意	77
Skype	77
Skype でできること	77
搭載されているアプリを使う（@メニュー）	78
「@メニュー」の使い方	78
OmniPass（Web かんたんログイン）	78
OmniPass でできること	78
OmniPass をお使いになるうえでの注意	78
指紋センサーをお使いになるうえでの注意	78
指紋認証をお使いになるうえでの注意	79
指のスライドのさせ方	79
OmniPass を登録する	80
OmniPass を使う	80
OmniPass の設定を変更する	81
ステータスパネルスイッチ	82
ステータスパネルスイッチをお使いになるうえでの注意	82
ステータスパネルスイッチの使い方	82
各モードの設定を変更する	83
HDD プロテクション	84
「HDD プロテクション」の特長	84
「Shock Sensor Utility」の使い方	85

5. バックアップ

バックアップナビ	87
バックアップナビの機能	87
バックアップナビをお使いになるうえでの注意事項	87

マイデータ	88
バックアップ／復元できる項目	88
「マイデータ」の注意事項	88
「マイデータ」のバックアップ／コピー／復元方法	88
パソコンの状態	89
「パソコンの状態」の注意事項	89
「パソコンの状態」をバックアップする場所	89
「パソコンの状態」をバックアップする	90
「パソコンの状態」のバックアップデータをコピーする	91
「パソコンの状態」を復元する	91
「パソコンの状態」のバックアップデータを削除する	93
6. 困ったときは	
メールや Office で困ったときは	94
ウイルス対策アプリなどで困ったときは	95
ウイルスバスター クラウド™ のお問い合わせ先	95
その他のアプリのお問い合わせ先	95
アプリのお問い合わせ先の確認方法	97
よくあるトラブルと解決方法	98
トラブルが発生した場合、まず次の点を確認してください	98
起動・終了時のトラブル	98
ディスプレイのトラブル	99
ここまでの確認でトラブルが解決しない場合	100
「富士通ハードウェア診断ツール」を使う	100
パソコンを以前の状態に戻す	101
「トラブル解決ナビ」を起動する	101
富士通の窓口にご相談する	103
ユーザー登録のご案内	103
サポート＆サービス紹介	104
7. ご購入時の状態に戻す	
ご購入時の状態に戻すリカバリとは	109
ご購入時の状態に戻すリカバリの準備	109
ご購入時の状態に戻すリカバリの注意	109
作業中に起こる可能性のあるトラブルの解決方法	110
ディスクが必要な場合	110
ご購入時の状態に戻すリカバリを実行する	110
C ドライブを初期状態に戻す	110
Windows のセットアップをする	111
8. 使いこなすために	
フラットポイント	113
フラットポイントの設定を変更する	113
フラットポイントの有効／無効の切り替え	117
ディスプレイ	118
解像度と発色数についての注意	118
パソコン本体の液晶ディスプレイに表示できる解像度と発色数	118
外部ディスプレイやデジタルテレビの接続	118
外部ディスプレイやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数	120
画面の解像度の変更	122
表示するディスプレイの切り替え	123
ディスプレイ省電テクノロジー設定	127
インテル WiDi を使う	127
サウンド	129
再生時／録音時のサウンドを調節する	129
兼用端子の機能切り替え	133
通信	135
有線 LAN	135
無線 LAN	138
Bluetooth ワイヤレステクノロジー	143
無線通信機能の電波を発信する／停止する	146

スリープ／休止状態	147
スリープ／休止状態とは	147
スリープ／休止状態にするうえでの注意	148
スリープ／休止状態の設定変更	148
電源プラン	150
パソコンの節電	151
ピークシフト設定	151
省電力モード	151
バッテリーユーティリティ - ECO Sleep	151
バッテリーユーティリティ - 満充電量の設定	152
アプリ	152
Windows ストア アプリ	152
デスクトップアプリ	153
ハードディスクの領域について	156
C ドライブと D ドライブの割合を変更する	156
リカバリ領域を削除する	156
リカバリ領域を復元する	157
BIOS の設定	159
BIOS セットアップの操作	159
BIOS のパスワード機能	161
BIOS が表示するメッセージ一覧	165

9. 付録

インターネットに接続せずにセットアップしたときは	167
Windows セットアップ時にローカルアカウントを取得する	167
インターネットに接続する	167
Microsoft アカウントに切り替える	169
インターネットを安心してお使いいただくために	169
青少年によるインターネット上の有害サイトへのアクセス防止について	169
リカバリディスクセットを作っておく	170
リカバリディスクセットを作るうえでの注意	171
リカバリディスクセットの作成手順	171
パソコンの電源を完全に切る	173
富士通パソコンの廃棄・リサイクルに関するご案内	173
PC リサイクルマークについて	173
パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意	173
付属品の廃棄について	174
液晶ディスプレイが添付または内蔵されている機種をお使いのお客様へ	174
海外でのノートパソコンの修理について	174
富士通パーソナルコンピュータ修理規定	176
文字コードの取り扱いに関する注意	178
環境依存文字の取り扱いについて	178
Windows 8.1、Windows 7 と Windows XP 以前との文字の互換性	179

10. 仕様一覧

パソコン本体の主な仕様	181
仕様一覧の注記について	182

このパソコンをお使いになる前に

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。
また、このマニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

保証書について

- ・保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
- ・修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
- ・保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
- ・保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください（詳しくは、保証書をご覧ください）。
- ・修理後は、本製品の内容が修理前とは異なり、ご購入時の状態や、何も入っていない状態になっている場合があります。大切なデータは、バックアップをおとりください。
- ・本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造終了後 6 年間です。

使用許諾契約書（ライセンス条項）

本製品にインストール、または添付されているソフトウェアをご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、ご同意いただくことを使用の条件とさせていただきます。「ソフトウェアの使用条件」は、本製品内のハードディスクに格納しています。
セットアップ時にご同意いただいた後に再度ご覧になりたい場合は、ファイルの検索で「OEMEULA.rtf」を検索してください。
ただし、本ソフトウェアのうち、Windows ストア アプリについては、本契約は適用されず、Microsoft 社所定の標準アプリケーションライセンス条項が適用されます。なお、Microsoft 社所定の標準アプリケーションライセンス条項に加えて、個別の追加条件が適用される場合があります。

データのバックアップについて

本製品に記録されたデータ（基本ソフト、アプリケーションソフトも含む）の保全については、お客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。また、修理を依頼される場合も、データの保全については保証されませんので、事前にお客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。
データが失われた場合でも、弊社ではいかなる理由においても、それに伴う損害やデータの保全・修復などの責任を一切負いかねますのでご了承ください（大切なデータは日ごろからバックアップをとられることをお勧めします）。

添付品は大切に保管してください

ディスクやマニュアル等の添付品は、本製品をご購入時と同じ状態に戻すときに必要です。

液晶ディスプレイの特性について

- ・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は 99.99% 以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。これらは故障ではありません。交換・返品はお受けいたしかねますのであらかじめご了承ください。
- ・本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- ・長時間同じ表示を続けると残像となることがありますが故障ではありません。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
- ・表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがありますが故障ではありません。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。
お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。
ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。
・原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など

有寿命部品について

- ・本製品には、有寿命部品が含まれています。有寿命部品は、使用時間の経過に伴って摩耗、劣化等が進行し、動作が不安定になる場合がありますので、本製品をより長く安定してお使いいただくためには、一定の期間で交換が必要となります。
- ・有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境等により異なりますが、1 日約 8 時間、1 ヶ月に 25 日のご使用で約 5 年です。なお、この期間はあくまでも目安であり、この期間内に故障しないことをお約束するものではありません。また、長時間連続使用等、ご使用状態によっては、この目安の期間よりも早期に部品交換が必要となる場合があります。
- ・本製品に使用しているアルミ電解コンデンサは、寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液のもれや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙の原因となる場合がありますので、早期の交換をお勧めします。
- ・摩耗や劣化等により有寿命部品を交換する場合は、保証期間内であっても有料となります。なお、有寿命部品の交換は、当社の定める補修用性能部品単位での修理による交換となります。
- ・本製品をより長く安定してお使いいただくために、省電力機能の使用をお勧めします。また、一定時間お使いにならない場合は電源をお切りください。

＜主な有寿命部品一覧＞

液晶ディスプレイ、ハードディスクドライブ、CD/DVD ドライブ、キーボード、マウス、AC アダプタ、電源ユニット、ファン

消耗品について

- ・バッテリーパックや乾電池等の消耗品は、その性能／機能を維持するために適時交換が必要となります。なお、交換する場合は、保証期間の内外を問わずお客様ご自身の新品購入ならびに交換となります。
- ・一般的にバッテリーパックは、300 ～ 500 回の充電で寿命となります。（温度条件や使用環境によって異なります。）

24 時間以上の連続使用について

本製品は、24 時間以上の連続使用を前提とした設計にはなっておりません。

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

本製品に接続する LAN ケーブルはシールドされたものでなければなりません。

本製品は、国内での使用を前提に作られています。海外での使用につきましては、お客様の責任で行っていただくようお願いいたします。

無線 LAN について

2.4 DS/OF 4

- ・上記表示の 2.4GHz 帯を使用している無線設備は、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能です。変調方式として DSSS 変調方式および OFDM 変調方式を採用しており、与干渉距離は 40m です。
- ・本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
 - （1）本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
 - （2）万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、下記の連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
 - （3）その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。
連絡先：「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」
- ・本製品は、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。
- ・パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、IEEE 802.11a 準拠では見通し半径 15m 以内、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠では見通し半径 25m 以内、IEEE 802.11n 準拠、IEEE 802.11ac 準拠では見通し半径 50m 以内となります。ただし、無線 LAN の特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。
- ・IEEE 802.11g 準拠と IEEE 802.11b 準拠の無線 LAN の混在環境においては、IEEE 802.11g 準拠は IEEE 802.11b 準拠との互換性をとるため、IEEE 802.11g 準拠本来の性能が出ない場合があります。IEEE 802.11g 準拠本来の性能が必要な場合は、IEEE 802.11g 準拠と IEEE 802.11b 準拠を別のネットワークにし、使用しているチャンネルの間隔を 5 チャンネル以上あけてお使いください。
- ・本製品に内蔵の無線 LAN を 5.2/5.3GHz 帯でご使用になる場合、電波法の定めにより屋外ではご利用になれません。
- ・航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

Bluetooth® ワイヤレステクノロジーについて

2.4 FHSS

- ・ 上記表示の 2.4GHz 帯を使用している無線設備は、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可です。変調方式として FHSS 変調方式を採用しており、与干渉距離は 80m です。
- ・ 本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
 - （1）本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
 - （2）万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、下記の連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
 - （3）その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。
- ・ 連絡先：「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」
- ・ 本製品は、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。
- ・ パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、見通し半径 10m 以内（出力 Class2 の最大値）です。
- ・ ただし、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。
- ・ 航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

本装置は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格を満足しております。しかし、本規格の基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。また、バッテリー残量が不十分な場合は、規定の耐力がないため不都合が生じることがあります。

本パソコンは電気・電子機器の特定の化学物質<鉛、六価クロム、水銀、カドミウム、ポリブロモビフェニル、ポリブロモジフェニルエーテルの 6 物質>の含有表示を規定する JIS 規格「J-Moss」において、化学物質の含有率が基準値以下であることを示す「グリーンマーク（非含有マーク）」に対応しています。

本パソコンにおける特定の化学物質（6 物質）の詳細含有情報は、下記 URL をご覧ください。

<http://www.fmwworld.net/fmv/jmoss/>

クラス 1 レーザ製品

IEC 60825-1:2007

クラス 1 レーザ製品の国際規格である（IEC 60825-1）に準拠しています。

マニュアルの表記

このマニュアルの内容は 2014 年 10 月現在のものです。

お問い合わせ先や URL などが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。

■本文中での書き分けについて

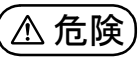
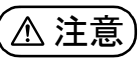
このマニュアルには、複数の機種の内容が含まれています。機種によっては、記載されている機能が搭載されていない場合があります。また、機種により説明が異なる場合は、書き分けています。

お使いの機種に機能が搭載されているかを「各部の名称と働き」、「仕様一覧」、富士通製品情報ページ (<http://www.fmwORLD.net/fmv/>) で確認して、機種にあった記載をお読みください。

■安全にお使いいただくための絵記号について

このマニュアルでは、本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するためのシンボルマークと警告絵文字を使っています。

□警告レベルを表すシンボルマーク

 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負うことがあり、その切迫の度合いが高いことを示しています。
 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、物的損害が発生する可能性があることを示しています。

□危険や障害の内容を表す警告絵文字

△で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。			
 破裂注意	特定の条件において、破裂する可能性について注意を喚起します。	 高温注意	特定の条件において、高温による傷害の可能性について注意を喚起します。
 レーザー光注意	特定の条件において、レーザー光を直視する危険性について注意を喚起します。	 指のケガに注意	特定の条件において、けがする可能性について注意を喚起します。

⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。			
 一般禁止	一般的な禁止行為や禁止事項を示します。	 火気禁止	特定の条件において、外部の火気によって製品の発火する可能性を示します。
 接触禁止	特定の条件において、機器の特定の場所に触れることによって傷害が起こる可能性を示します。	 水場使用禁止	防水処理のない機器を水場で使用して漏電によって傷害が起こる可能性を示します。
 分解禁止	機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性を示します。	 ぬれ手禁止	機器を濡れた手で扱うと、感電する可能性を示します。
 水ぬれ禁止	防水処理のない機器を水がかかる場所で使用または、水に濡らすなどして使用すると、漏電して感電や発火する可能性を示します。		

●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

 アース線を 接続せよ	安全アース端子付きの機器の場合、使用者に必ずアース線を接続するように指示します。	 プラグを抜け	故障時や落雷の可能性がある場合、使用者に電源プラグをコンセントから抜くように指示します。
 一般指示	特定しない一般的な使用者の行為を指示します。		

■危険ラベル／警告ラベル／注意ラベル

本製品には危険・警告・注意ラベルが貼ってあります。

これらのラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
	以降の手順が分かれることを表しています。
	冊子のマニュアルを表しています。
	「富士通アドバイザー」で見るマニュアルを表しています。参照方法は表紙の裏面をご覧ください。
	CD や DVD などのディスクを表しています。
	参照ページを表しています。

■画面例およびイラストについて

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■操作手順について

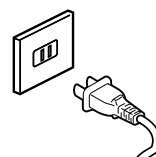
このマニュアルでは、連続する操作手順を「▶」でつなげて記述しています。

なお、アプリの状態を変更した場合は、操作手順が異なることがあります。

■電源プラグとコンセント形状の表記について

本製品に添付されている電源ケーブルの電源プラグは「平行 2 極プラグ」です。マニュアルでは「電源プラグ」と表記しています。

接続先のコンセントには「平行 2 極プラグ (125V 15A) 用コンセント」をご利用ください。マニュアルでは「コンセント」と表記しています。



■タッチ操作について（タッチパネル搭載機種のみ）

タッチ操作の場合、次のように読み替えてください。

スタート画面左下の④をクリックします。



スタート画面でまっすぐ上にスライドします。

マウスポインターを画面の右上隅に合わせて「チャーム」を表示します。



画面右端の外から中へスワイプし、「チャーム」を表示します。

上記以外の操作では、クリックと記載されている箇所をタップと読み替えてください。

■製品の呼び方

本文中では、製品名称を次のように略して表記することがあります。

製品名称	このマニュアルでの表記
Windows 8.1	Windows または Windows 8.1
Windows 8.1 Pro	Windows または Windows 8.1
Windows Internet Explorer 11	Internet Explorer 11 または Internet Explorer
Office Personal Premium プラス Office 365 サービス	Office または Office Personal Premium
Office Home & Business Premium プラス Office 365 サービス	Office または Office Home & Business Premium
Microsoft Word 2013	Word
Microsoft Excel 2013	Excel
Microsoft Outlook 2013	Outlook
Windows Media® Player 12	Windows Media Player
Windows Live®	Windows Live
インテル® WiDi	インテル WiDi
Bluetooth®	Bluetooth
Corel® WinDVD®	WinDVD
スーパーマルチドライブ	CD/DVD ドライブ
Roxio Creator LJ	Roxio Creator

■Web に掲載されている電子マニュアルの参照方法

スタート画面で「@メニュー」をクリックします。

① 安心・サポート

② 使い方調べる

③ マニュアルで調べる

④ 実行する

実行する

↓

マニュアルをダウンロードするページが表示されます。

安全上のご注意

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、必ずお読みになり、正しく安全に、大切に取扱ってください。また、本製品をお使いになるときは、マニュアルをよくお読みになり、正しくお使いください。

「安全上のご注意」はインターネット上でも公開しています。
<http://azby.fmworld.net/support/manual/safety/>

AC アダプタと電源ケーブルが添付されている場合、ここでは、AC アダプタのケーブルと電源ケーブルを合わせて「電源ケーブル」と表記している箇所があります。

お使いの機種によっては、添付や搭載されていない機能などについての記載もありますが、あらかじめご了承ください。

設置／準備

警告



プラグを抜く

コンセントの近くに設置し、電源プラグに容易に手が届くようにしてください。
万一の場合に、電源プラグが抜けなくなり、危険につながるおそれがあります。



一般禁止

梱包に使用している袋類は、お子様の手の届く所に置かないでください。
口に入れたり、頭にかぶったりすると、窒息の原因になります。



一般指示

台に設置して使う場合は、台からはみ出したり、片寄ったりしないように載せてください。
本製品が落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。



一般禁止

振動している場所や傾いた所などの不安定な場所に置かないでください。
本製品が倒れたり、落下して、けが、故障の原因になります。



一般禁止

本製品を風通しの悪い場所、火気のある場所、引火性ガスの発生する場所で使用したり、置いたりしないでください。
火災の原因になります。



一般禁止

矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用 AC 電源など）に接続しないでください。
火災の原因になることがあります。



一般指示

本製品や周辺機器のケーブル類の配線にご注意ください。
ケーブルに足を引っかけ、転倒したり、本製品や周辺機器が落ちたり倒れたりして、けがや故障の原因になります。



一般禁止

添付もしくは指定された以外の AC アダプタや電源ケーブルを本製品に使ったり、本製品に添付の AC アダプタや電源ケーブルを他の製品に使ったりしないでください。
感電、火災の原因になります。



一般指示

電池を機器に入れる場合は、+（プラス）と-（マイナス）の向きに注意し、表示どおりに入れてください。
間違えると電池の破裂、液もれ、発火の原因になります。



一般指示

電源ケーブルやACアダプタは、指定された電圧（100V）の壁のコンセントやコネクタに直接かつ確実に接続してください。

不完全な接続状態で使用すると、感電、火災の原因になります。



一般禁止

タコ足配線をしないでください。

感電、火災の原因になります。



アース線を接続せよ

プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線をコンセントのアースネジへ接続してください。

安全のため、電源プラグにはアース線が付いています。アース接続しないで使用すると、万一漏電した場合に、感電の原因になります。アースネジ付のコンセントが利用できない場合は、お近くの電気店もしくは電気工事士の資格をもつ人に、アースネジ付コンセントの取り付けについてご相談ください。電源ケーブルを抜くときは、先に電源プラグを抜いてからアース線を外してください。



一般禁止

アース線はガス管には絶対に接続しないでください。

火災の原因になります。



ぬれ手禁止

濡れた手で電源ケーブルや AC アダプタを抜き差ししないでください。

感電の原因になります。



一般禁止

ケーブル類を束ねた状態で使用しないでください。

発熱して、火災の原因になります。

注意



一般禁止

本製品を調理台や加湿器のそばなどの油煙や湯気の多い場所や、ほこりの多い場所などで使用したり、置いたりしないでください。

感電、火災の原因になることがあります。



一般禁止

本製品や AC アダプタを直射日光が当たる場所、閉めきった自動車内、ストーブのような暖房器具のそば、ホットカーペットの上で使用したり、置いたりしないでください。

感電、火災、故障の原因になります。



プラグを抜く

本製品を移動する場合は、次の点にご注意ください。

電源ケーブルや AC アダプタが傷つき、感電、火災の原因となったり、本製品が落下したり倒れたりして、けがの原因になります。

・電源ケーブルやACアダプタをコンセントから抜いてください。

・接続されたケーブルなどを外してください。

・作業は足元に充分注意して行ってください。

使用時

⚠ 警告



火気禁止

火中に投入、加熱しないでください。
発煙、発火、破裂の原因になります。



一般禁止

端子をショートさせないでください。
感電、火災の原因になります。



プラグを抜け

発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生したときは、ただちに電源プラグをコンセントから抜いてください。
異常状態のまま使用すると、感電、火災の原因になります。その後、異常な現象がなくなるのを確認して、弊社お問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。



プラグを抜け

落としたり、カバーなどを破損した場合は、電源を切り、電源ケーブルや AC アダプタを抜いてください。
バッテリーパックを取り外せる場合は、バッテリーパックも取り外してください。
そのまま使用すると、感電、火災の原因になります。その後、弊社お問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。



一般禁止

開口部（通風孔など）から内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
感電、火災の原因になります。



一般禁止

本製品や本製品を設置している台にぶら下がったり、上に載ったり、寄りかかったりしないでください。
本製品が落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。



一般禁止

排気孔付近や AC アダプタなど、本製品の温度が高くなる場所に長時間直接触れて使用しないでください。
排気孔からの送風に長時間あたらないでください。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。
低温やけどの原因になります。



水場使用禁止

風呂場やシャワー室など、水のかかるおそれのある場所で使用したり、置いたりしないでください。
感電、火災の原因になります。



水ぬれ禁止

本製品の上や周りに、花びんやコップなど液体の入ったものを置かないでください。
水などの液体が本製品の内部に入って、感電、火災の原因になります。



一般禁止

本製品を持ち上げたり運んだりする場合、液晶ディスプレイや液晶ディスプレイの枠部分を持たないでください。
故障、けがの原因になります。
持ち上げたり運んだりするときは、本製品の底面あるいは本製品中央の両脇を持ってください。



一般禁止

使用中の本製品や AC アダプタに、ふとんや布などをかけないでください。通風孔がある場合は、ふさがないでください。
通気孔が目詰まりしないように、掃除機などで定期的にほこりを取ってください。
内部に熱がこもり、火災の原因になります。



一般指示

ご使用になる場合には、部屋を明るくして、画面からできるだけ離れてください。

お使いになる方の体質や体調によっては、強い光の刺激を受けたり、点滅の繰り返しによって一時的な筋肉のけいれんや意識の喪失などの症状を起こす場合がありますので、ご注意ください。

過去にこのような症状を起こしたことがある場合は、事前に医師に相談してください。

本製品をご使用中にこのような症状を発症した場合には、すぐに本製品の使用を中止し、医師の診断を受けてください。



一般指示

本製品や周辺機器のケーブル類に、お子様が容易に触れないようにしてください。

誤って首に巻きつけると窒息の原因になります。



一般禁止

AC アダプタ本体や、ケーブルが変形したり、割れたり、傷ついている場合は使用しないでください。

感電、火災の原因になります。



一般禁止

AC アダプタ本体を落下させたり、強い衝撃を与えないでください。

カバーが割れたり、変形したり、内部の基板が壊れ、故障、感電、火災の原因になります。修理は、弊社お問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。



一般禁止

自転車、バイク、自動車などを運転中に本製品を使用しないでください。

安全走行を損ない、事故の原因になります。安全な所に止めてからお使いください。



一般禁止

バッテリーパックや電池を取り扱うときは、次の点にご注意ください。

液もれ、けが、やけど、破裂、火災、周囲を汚す原因になります。

- ・指定された方法以外で使用しない
- ・分解や改造をしない
- ・加熱したり、火の中に入れたりしない
- ・熱器具に近づけない
- ・火のそばや炎天下などで充電したり、放置したりしない
- ・落としたり、ぶつけたり、大きな衝撃を与えない
- ・先のとがったもので力を加える、強い圧力を加えない
- ・ショートさせない
- ・端子部分をぬらしたり、水の中に入れたりしない
- ・金属製のネックレスやヘアピンなどといっしょに携帯、保管しない
- ・お子様の手の届く所に保管しない
- ・乾電池を充電しない
- ・ハンダ付けない

特に、バッテリーパックは、落下などの衝撃による内部の電池や回路基板の損傷によって発熱・発火し、けがの原因になったり、破裂・液もれによる周囲の汚損の原因になることがあります。

バッテリーパックに衝撃を与えた場合、あるいは外観に明らかな変形や破損が見られる場合には、使用をやめてください。



一般禁止

電源ケーブルや AC アダプタが傷ついている場合は使用しないでください。

感電、火災の原因になります。



一般禁止

電源ケーブルや AC アダプタの接続部分に、ドライバーなどの金属を近づけないでください。

感電、火災の原因になります。



一般禁止

ケーブル類は、傷つけたり、加工したり、加熱したり、重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。

感電、火災の原因になります。



一般禁止

AC アダプタ本体にケーブル類をきつく巻きつけるなどして、根元部分に負担をかけないでください。

ケーブル類の芯線が露出したり断線したりして、感電、火災の原因になります。



一般禁止

電源ケーブルや AC アダプタを抜くときは、コード部分を引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。

ケーブル類が傷つき、感電、火災の原因になります。

無線 LAN、無線 WAN、Bluetooth® ワイヤレステクノロジー、NFC ポート、CLEARSURE、ワイヤレスキーボード/マウスの注意

次の場所では、無線通信機能を停止してください。「ワイヤレススイッチ自動オン機能」対応の CLEARSURE 搭載機種の場合は、自動的に無線通信機能がオンにならないようにしてください。

無線機器からの電波により、誤動作による事故の原因となります。



一般指示

- ・病院内や医療用電子機器のある場所
特に手術室、集中治療室、CCU（冠動脈疾患監視病室）などには持ち込まないでください。
- ・航空機内など無線通信機能の使用を禁止されている場所
- ・自動ドア・火災報知機など自動制御機器の近く
- ・身動きが自由に取れない状況など、植込み型医療機器（心臓ペースメーカーなど）を装着している方と密着する可能性がある場所
- ・満員電車の中など付近（15cm（NFC ポートは 12cm））に植込み型医療機器を装着している方がいる可能性がある場所

本製品は、レーザー光線を装置カバーで遮断する安全な構造になっていますが、次のことにご注意ください。

- ・光源部を見ないでください。
- 光学ドライブのレーザー光の光源部を直接見ないでください。



レーザー光 注意

また、万一の故障で装置カバーが破損してレーザー光線が装置外にもれた場合は、レーザー光線をのぞきこまないでください。

レーザー光線が直接目に照射されると、視力障害の原因になります。

- ・お客様自身で分解したり、修理・改造したりしないでください。

レーザー光線が装置外にもれて目に照射されると、視力障害の原因になります。



レーザー光 注意

レーザーマウスは底面から、目に見えないレーザー光が出ています。

クラス 1 レーザ製品は、予測可能な使用環境において極めて安全ですが、マウス底面の光は直視しないでください。

注意



一般禁止

本製品の上に重いものを置かないでください。
けがの原因となることがあります。

本製品をお使いになる場合は、次のことに注意し、長時間使い続けるときは 1 時間に 10～15 分の休憩時間や休憩時間の間の小休止をとるようにしてください。

本製品を長時間使い続けると、目の疲れや首・肩・腰の痛みなどを感じる原因になることがあります。画面を長時間見続けると、「近視」「ドライアイ」などの目の健康障害の原因になります。

- ・画面の位置や角度、明るさなどを見やすいように調節する。
- ・なるべく画面を下向きに見るように調整し、意識的にまばたきをする。場合によっては目薬をさす。
- ・背もたれのあるいすに深く腰かけ、背筋を伸ばす。
- ・いすの高さを、足の裏全体が付く高さに調節する。
- ・手首や腕、肘は机やいすの肘かけなどで支えるようにする。
- ・キーボードやマウスは、肘の角度が 90 度以上になるように使用する。



一般指示



指のケガに 注意

液晶ディスプレイを開閉するとき、手などはをさまないように注意してください。

けが、故障の原因になります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。



指のケガに 注意

光学ドライブのトレイやスロット、コネクタ、通風孔など、本製品の開口部に、手や指を入れないでください。ディスクなどをセットまたは取り出す場合も、手や指を入れないでください。

けが、感電の原因になります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。



一般禁止

ヘッドホン・イヤホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないでください。

耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与える原因になります。



一般指示

電源を入れたり切ったりする前には音量を最小にしておいてください。

ヘッドホン・イヤホンをしたまま、電源を入れたり切ったりしないでください。

突然大きな音や刺激音が出て、聴力に悪い影響を与える原因になります。



高温注意

「ExpressCard™」、PC カード、SD メモリーカード、メモリースティック、UIM カードの使用終了直後は、高温になっていることがあります。

これらを取り外すときは、使用後充分に温度が下がるのを待ってから取り出してください。

やけどの原因になります。



一般禁止

マウス底面の光を直視しないでください。レーザー式マウスの場合も、目に見えないレーザー光が出ています。

目の痛みなど、視力障害を起こすおそれがあります。

メンテナンス／増設

警告



分解禁止

お客様ご自身で修理、改造しないでください。また、マニュアルなどで指示がある場合を除いて分解しないでください。

けが、感電、火災の原因になります。修理や点検などが必要な場合は、弊社問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。



一般禁止

取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などの部品は、お子様の手の届く所に置かないでください。誤って飲み込むと窒息の原因になります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。



一般指示

メモリの取り付け、取り外しやお手入れのときなど、カバーをあける場合は、お子様の手が届かない場所で行ってください。

作業が終わるまでは大人が本製品から離れないようにしてください。お子様が手を触れると、けが、故障の原因になります。



一般指示

メモリの取り付け、取り外しやお手入れのときなど、カバーをあける場合は、本製品および接続されている機器の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜いた後、しばらくたってから行ってください。

カバーをあけた状態で電源ケーブルをコンセントに挿し込んだり、電源を入れたりしないでください。やけど、感電、火災の原因になります。



一般禁止

清掃するときに、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。故障や火災の原因になります。



一般禁止

本製品の内部に搭載されているリチウム電池には触らないでください。

取り扱いを誤ると、人体に影響を及ぼすおそれがあります。リチウム電池はご自身で交換せずに、弊社問い合わせ窓口にご相談ください。



一般指示

必ず本製品に添付のバッテリーパックを使用してください。寿命などでバッテリーパックを交換する場合は、必ず指定品を使用してください。

指定以外のバッテリーパックは、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため、火災、破裂、発熱のおそれがあります。



一般禁止

指定以外の電池は使用しないでください。また、2 本以上セットする場合は、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。

電池の破裂、液もれにより、火災、けが、周囲を汚損する原因になります。



一般指示

電源ケーブルや AC アダプタはコンセントから定期的に抜いて、接続部分のほこりやゴミを乾いた布でよく拭き取ってください。

ほこりがたまったままの状態で使用すると感電、火災の原因になります。1 年に一度は点検清掃してください。特に電源プラグ部分についてはほこりがたまりやすいので、ご注意ください。



プラグを抜く

内蔵オプションや周辺機器の取り付け／取り外し、お手入れなどを行うときは、本製品および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。

バッテリーパックを取り外せる場合は、バッテリーパックも外してください。故障、感電、火災の原因になります。



一般指示

周辺機器のケーブルは、本製品や周辺機器のマニュアルをよく読み、正しく接続してください。

誤った接続状態でお使いになると、感電、火災の原因になります。また、本製品および周辺機器が故障する原因になります。

注意



一般禁止

周辺機器などの取り付け、取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。

けが、故障の原因になります。



一般禁止

本製品内部の突起物、および指定された部品以外には、手を触れないでください。

けが、故障の原因になります。



高温注意

電源を切った直後は、本製品の内部が高温になっています。メモリや拡張カードなどの内蔵オプションを取り付け／取り外す場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後、十分に温度が下がるのを待ってから作業を始めてください。

やけどの原因になります。



一般指示

内蔵オプションや周辺機器の取り付け／取り外し、お手入れなどを行うときは、指をはさんだり、ぶつけたりしないように注意してください。

けがの原因になります。

異常時

警告



プラグを抜く

本製品の内部に水などの液体や金属片などの異物が入った場合は、すぐに本製品の電源を切り、電源ケーブルや AC アダプタを抜いてください。

バッテリーパックを取り外せる場合は、バッテリーパックも取り外してください。

そのまま使用すると、感電、火災の原因になります。その後、弊社お問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。



一般禁止

雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまで本製品やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。

落雷の可能性がある場合は、あらかじめ本製品の電源を切り、その後電源ケーブルや AC アダプタをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。落雷による故障、感電、火災の原因になります。



一般指示

タッチパネルのガラスにヒビ、傷などがあった場合は、すみやかにご使用を中止し、弊社お問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。

そのまま使用するとけがをするおそれがあります。



一般指示

バッテリーパックや電池が液もれし、もれ出た液が万一、目や口に入ったときは、こすらず水道水などの多量のきれいな水で充分に洗った後、すぐに医師の治療を受けてください。失明など障害の原因になります。液が皮膚や衣類に付着したときは、ただちに水でよく洗い流してください。皮膚に障害を起こす原因になります。

⚠ 注意



指のケガに注意

カバーや部品などが破損・脱落したり、キーボードのキートップが外れた場合は、使用を中止し、弊社お問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。破損した製品や破片によるけがや故障の原因になります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。



一般指示

液晶ディスプレイが破損し、液状の内容物が流出して皮膚に付着した場合は、流水で 15 分以上洗浄してください。また、目に入った場合は、流水で 15 分以上洗浄した後、医師に相談してください。中毒を起こすおそれがあります。液晶ディスプレイの内部には、刺激性物質が含まれています。

保管／廃棄

⚠ 警告



破裂注意

バッテリーパックの廃棄については、マニュアルの説明に従ってください。本製品は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。バッテリーパックはリチウムイオン電池を使用しており、一般のゴミといっしょに火中に投げられると破裂のおそれがあります。

⚠ 注意



プラグを抜く

本製品を長期間使用しないときは、安全のため電源ケーブルや AC アダプタをコンセントから抜いてください。バッテリーパックや乾電池を取り外せる場合は、取り外してください。火災の原因になります。



破裂注意

本製品の廃棄については、マニュアルの説明に従ってください。本製品は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。本製品はリチウム電池を使用しております。ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウス、リモコンなどには、乾電池、充電電池を使用しております。一般のゴミといっしょに火中に投げられると電池が破裂するおそれがあります。使用済み電池の廃棄については、マニュアルの説明に従ってください。

取り扱い上のご注意

パソコンの使用環境についての注意

パソコンは精密機器です。使用環境に注意してご利用ください。取り扱い方法を誤ると故障や機能低下、破損の原因となります。

内容をよくご理解のうえ、注意してお取り扱いください。

・パソコンをお使いになる環境の温度と湿度

次の範囲内としてください。

・動作時：温度 5 ～ 35 ℃／湿度 20 ～ 80%RH

・非動作時：温度 -10 ～ 60 ℃／湿度 20 ～ 80%RH

・パソコンの結露

動作時、非動作時にかかわらず、パソコン本体が結露しないようにご注意ください。

結露は、空気中の水分が水滴になる現象です。パソコンを温度の低い場所から温度の高い場所、または、温度の高い場所から温度の低い場所へ移動すると、パソコン内部に結露が発生する場合があります。結露が発生したままパソコンを使用すると故障の原因となります。

パソコンを移動したときは、直射日光が当たらない風通りの良い場所に設置し、室温と同じくらいになるのを待ってから電源を入れてください。

・パソコンをお使いにならない場所

・直射日光のあたる場所

感電、火災、破損や故障の原因となります。

・水など液体のかかる場所

パソコン内部の回路がショートして、壊れてしまうことがあります。

・ほこりの多い場所や、油を使用する場所

ファンに詰まったほこりや油分で放熱が妨げられ、故障の原因となります。

・熱がこもりやすい場所（棚、ドア付 AV ラック、ふとんやクッションの上など）

放熱が妨げられ、故障の原因となります。パソコン本体および AC アダプタは平らで堅い机の上などに置いてください。

・静電気の発生しやすい場所

パソコンは、静電気に対して弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。使用する前には、アルミサッシやドアノブなどの金属に手を触れて、静電気を放電してください。

・電磁波の影響を受けやすいもの（テレビやラジオなど）や、磁気を発生するもの（モーターやスピーカーなど）に近い場所

故障や機能低下の原因となります。

・腐食性ガス（温泉から出る硫黄ガスなど）が存在する場所

パソコン本体が腐食する可能性があります。

・吸気孔や排気孔

・吸気孔や排気孔をふさがないでください。

放熱が妨げられ、故障の原因となります。

パソコン本体と壁の間に前後左右 10cm 以上のすき間をあけてお使いください。

- ・排気孔の近くに物を置いたり、排気孔の近くには手を触れないでください。
排気孔からの熱で、排気孔の近くに置かれた物や手が熱くなることがあります。
- ・**パソコン使用中の環境**
 - ・電源が入っているときは、キーボードの上に書類などのおおいかぶさる物を置かないでください。
放熱が妨げられ、故障の原因となります。
 - ・パソコン本体のそばで喫煙しないでください。
タバコのヤニや煙がパソコン内部に入り、ファンなどの機能を低下させる可能性があります。
 - ・パソコンを長時間同じ場所に設置すると、その場所の材質が変質したり劣化したりすることがありますので、ご注意ください。
- ・**無線通信機能をお使いになる場所**
 - ・パソコン本体に搭載されている無線通信機能をお使いになるときは、できるだけ見通しの良い場所でお使いください。電子レンジの近く、アマチュア無線機の近くや足元など見通しの悪い場所でお使いになると、周囲の電波の影響を受けて、接続が正常に行えないことがあります。
 - ・お使いになる場所によっては電波を停止する必要があります（「安全上のご注意」▶「無線 LAN、無線 WAN、Bluetooth® ワイヤレステクノロジー、NFC ポート、CLEARsure、ワイヤレスキーボード／マウスの注意」（→ P.13））。機内モードに切り替えて電波の発信を止めてください。
手順については、サポートページから Q&A ナンバー「5909-9593」を検索してご覧ください。

使用上のお願い

■パソコン本体の取り扱い上の注意

- ・衝撃や振動を与えないでください。
- ・操作に必要な部分を押したり、必要以上の力を加えないでください。
- ・磁気プレスレットや磁気ネックレスなど、磁気を発生するものを身につけたまま、操作しないでください。
画面が表示されなくなるなどの故障の原因となるおそれがあります。
- ・液晶ディスプレイを閉じてもスリープや休止状態にしない設定の場合は、電源が入っているときにパソコン本体の液晶ディスプレイを閉じないでください。
パソコン本体の放熱が妨げられ、故障の原因となることがあります。
- ・バッテリーパックを取り外した状態で使用しないでください。パソコン本体は、バッテリーパックを取り外したまま使用するようには設計されていません。水などの液体や金属片などの異物が混入し、故障・感電・火災の原因になる可能性があります。
- ・水などの液体や金属片、虫などの異物を混入させないようにしてください。
故障の原因になる可能性があります。
- ・パソコン本体を立てたり、傾けて置かないでください。
パソコン本体が倒れて、故障の原因となることがあります。

- ・パソコン本体は昼夜連続動作（24 時間動作）を目的に設計されていません。ご使用にならないときは電源を切ってください。
- ・キーボードやパームレスト部（手を載せる部分）に手をついて立ちあがったり、ひじをついたりしないでください。
キーボードやパームレスト部を強く押すと、パソコン内部にある光学ドライブやハードディスクに力が加わり、故障の原因となる可能性があります。
- ・タッチパネル搭載機種の場合、タッチパネルを操作するときは強く画面を押さないでください。
パソコン本体が倒れて、けがや故障の原因になることがあります。

■パソコンの温度上昇に関して

- ・長時間使用すると、パソコン表面の温度が上昇して、温かく感じるがありますが、故障ではありません。
これは、パソコン内部の温度が一定以上になると、装置全体から放熱するので、キーボードなどの表面も温くなるためです。
- ・ひざの上など直接肌に触れた状態では、長時間使用しないでください。
パソコンの底面が熱くなり、低温やけどを起こす可能性があります。
- ・使用するアプリによっては、パームレスト部（手を載せる部分）が多少熱く感じられることがあります。長時間使用する場合には低温やけどを起こす可能性がありますので、ご注意ください。

■パソコン内部からの音に関して

- パソコン本体内部からは、次の音が聞こえることがあります。これらは故障ではありません。
- ・内部の熱を外に逃がすためのファンの音
 - ・ハードディスクがデータを書き込む音
 - ・CD/DVD ドライブのディスク読み取りヘッドが移動する音

■パソコンを持ち運ぶ場合の注意

- ・必ずパソコンの電源を切り、電源が入ったまま持ち運ばないでください。また、電源を切ってから動かす場合も、5 秒ほど待ってから動かしてください。
衝撃によりハードディスクドライブが故障する原因となります。
- ・液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体に接続しているケーブルなどをすべて取り外してください。
- ・パソコン本体にメモリーカードをセットしている場合は必ず取り外してください。
- ・パソコン本体を持ち上げたり移動させたりするときは、両手で握ってください。
- ・パソコン本体や AC アダプタを運ぶ場合は、ぶつけたり落としたりしないでください。かばんなどに入れて衝撃や振動から保護してください。
- ・パソコン本体をかばんなどに入れて持ち運ぶ場合には、次の点に注意してください。
 - ・パソコン本体の背面を下側にして、かばんなどに入れてください。
 - ・AC アダプタをいっしょに入れて持ち運ぶと、AC アダプタでパソコン本体を傷つけたり、破損したりするおそれがあります。
- ・パソコン本体を自動車内に設置した状態での使用は、保証していません。

■液晶ディスプレイの取り扱い上の注意

- ・液晶ディスプレイを開閉するときは、次の点に注意してください。
 - ・衝撃を与えないようにゆっくりと開閉してください。
 - ・無理に大きく開けないでください。
- ・液晶ディスプレイをたたいたり強く押したりしないでください。また、ひっかいたり先のとがったもので押したりしないでください。
- ・表示面・天板面にかかわらず、液晶ディスプレイに強い圧力が加わると、画面にムラが発生する場合があります。
- ・液晶ディスプレイにゴムやビニール製品を長時間接触させないでください。表面がはげたり、変質したりすることがあります。
- ・液晶ディスプレイを開いたまま、パソコン本体を裏返して置かないでください。
- ・液晶ディスプレイとキーボードの間に、物をはさまないでください。

■雷についての注意

落雷の可能性がある場合は、パソコンの電源を切るだけでなく、すべてのケーブル類を抜いておいてください。

また、雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類、およびそれらにつながる機器に触れないでください。

安全のため、避雷器の設置をお勧めします。

ただし、どのような避雷器をお使いになってもパソコン本体を保護できない場合があります。あらかじめご了承ください。

□落雷について

落雷には、直撃雷と誘導雷の2種類あります。直撃雷と誘導雷のどちらでも避雷器で保護できない可能性があります。

・直撃雷

避雷針によって雷を誘導して対象物を保護できます。

ただし、避雷器の許容値を超えた非常に大きな雷を受けた場合には、避雷器を用いてもパソコン本体を保護できないことがあります。

・誘導雷

パソコンの故障は主に誘導雷によって起こります。

雷により周囲に強力な電磁場ができると発生し、電線や電話線などから侵入するのが誘導雷です。パソコンの場合、電源ケーブル、外部機器との接続ケーブル、LAN ケーブルなどから誘導雷の侵入が考えられます。誘導雷を防ぐにはケーブル類を抜くなどの対策が必要です。

□落雷時の故障について

落雷によるパソコン本体の故障は、保証期間内でも有償修理となります。

故障の状況によっては、修理費用が高額になることもあるので、ご注意ください。

また、場合によっては、落雷によってパソコン本体だけでなく周辺機器などが故障することもあります。

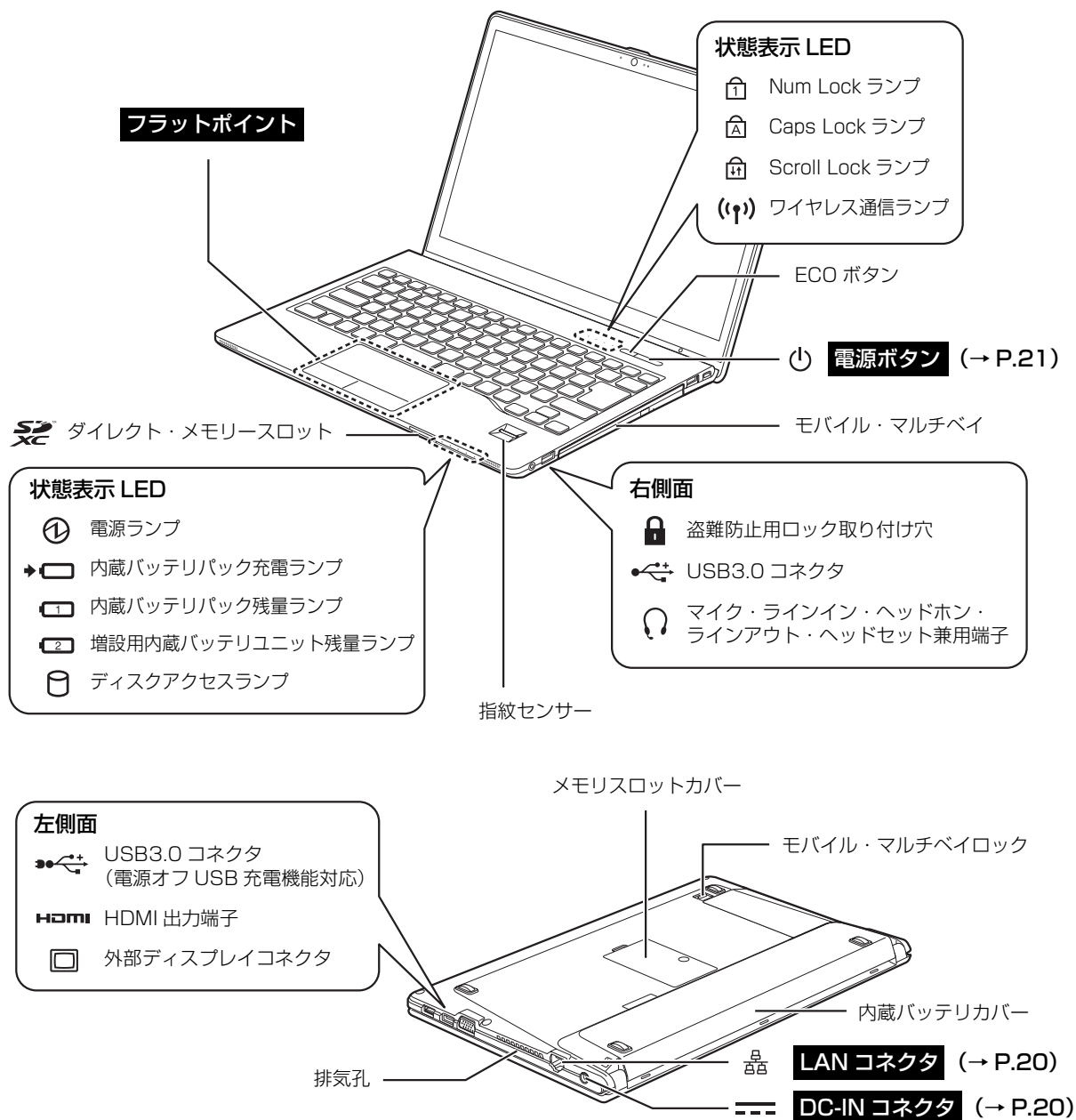
疲れにくい使い方

パソコンを長時間使い続けていると、目が疲れ、首や肩や腰が痛くなることがあります。その主な原因は、長い時間同じ姿勢でいることや、近い距離で画面やキーボードを見続けることです。パソコンをお使いになるときは姿勢や環境に注意して、疲れにくい状態で操作しましょう。

- ・直射日光があたらない場所や、外光が直接目に入ったり画面に映り込んだりしない場所に設置し、画面の向きや角度を調節しましょう。
- ・画面の輝度や文字の大きさなども見やすく調節しましょう。
- ・目と画面との距離をとり、疲れにくい位置を保って利用しましょう。
- ・1 時間以上続けて作業しないようにしましょう。
 - ・続けて作業をする場合には、1 時間に 10 ～ 15 分程度の休憩時間を取りましょう。
 - ・休憩時間までの間に 1 ～ 2 分程度の小休止を 1 ～ 2 回取り入れましょう。
 - ・一定の時間ごとに、休憩をお勧めするウィンドウを表示する機能などを利用しましょう (→ P.72)。

各部の名称について

このパソコンの各部の名称は次のとおりです（イラストは機種や状況により異なります）。



▶ 各部の動きなど詳しくは、「各部の名称と動き」(→ P.36) をご覧ください。

セッアップする

セッアップを始める前のチェック

セッアップの準備が整っているか確認してください。

☐ 添付品の確認は済んでいますか？

→ まだの場合は、『箱の中身を確認してください』をご覧ください。

☐ パソコンを使用する場所は決まっていますか？

→ 使用場所については、「パソコンの使用環境についての注意」(→ P.15) をご覧ください。

☐ インターネットに接続する準備ができていますか？

→ できていない場合は、プロバイダーと契約してください。

☐ ワイヤレス (無線 LAN) を使う場合、ネットワーク名 (SSID) とパスワードが必要です！

→ セッアップの途中で必要になりますので、あらかじめ記載しておいてください。

※わからない場合は、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

パスワードはセキュリティキーなどの名称で説明されていることもあります。

ネットワーク名 (SSID)	
パスワード	

セッアップの流れを確認する

パソコンの準備をする (→ P.20)



Windows のセッアップをする (→ P.21)

Windows のセッアップをする



Windows を終了する



パソコンを快適にお使いいただくための準備をする (→ P.33)

● **セッアップ前に周辺機器を接続しないでください**
プリンター、USB メモリ、メモリーカードなどは、「Windows のセッアップをする」が終わるまで接続しないでください。

● **必ず AC アダプタを接続してください**
途中でバッテリー残量がなくなると電源が切れてしまい、故障の原因になる場合があります。

所要時間は約 30 分～ 1 時間です。

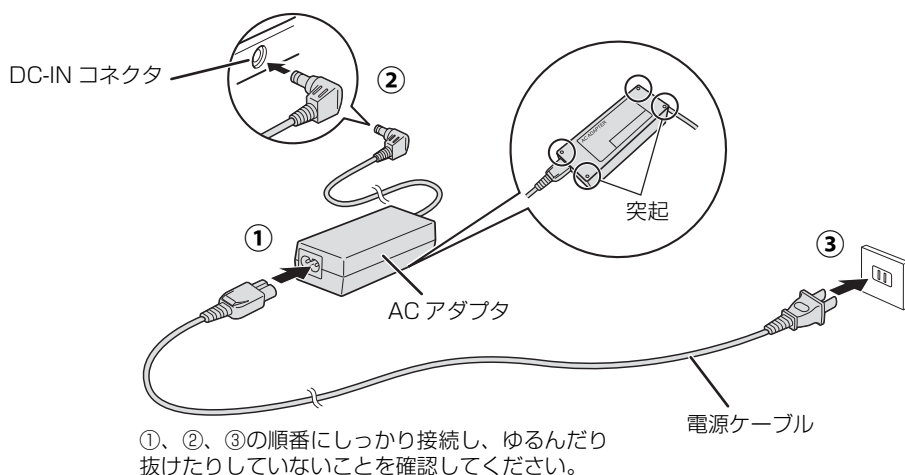
● **このあいだは絶対に電源を切らないでください**
途中で電源を切ると、故障の原因になる場合があります。

● 時間に余裕をもって作業してください

パソコンの準備をする

1 パソコンを電源に接続します。

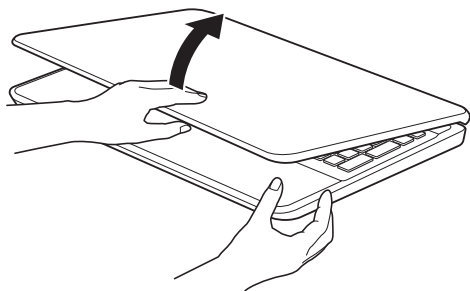
- ① AC アダプタに電源ケーブルを接続します。
 - ② パソコン本体側面の DC-IN コネクタ (→ P.18) に接続します。
 - ③ 電源プラグをコンセントに接続します。
- AC アダプタに突起がある場合は、その面を下にして設置します。



(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

2 有線 LAN をお使いになる場合は、LAN ケーブルを LAN コネクタに接続します。

3 パソコン本体と液晶ディスプレイ上部中央に手を添えて開きます。



Windows のセットアップをする

- 1 有線 LAN をお使いになる場合、LAN ケーブルが LAN コネクタに接続されているか確認します。

- 2 無線 LAN をお使いになる場合、接続するネットワーク名 (SSID) とパスワードを確認します (→ P.19)。

- 3 電源ボタン (⏻) をポチッと押します。



重要

- ▶ 「地域と言語」画面が表示されるまで絶対に電源を切らないでください。

4 「地域と言語」画面が表示されるまで、そのまましばらくお待ちください。



画面が何度か変化します。



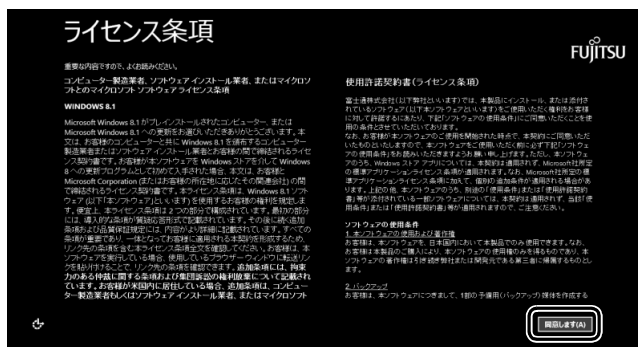
- しばらく操作をしないと省電力機能が働き、画面が真っ暗になることがありますが、電源が切れたわけではありません。フラットポイントやマウス、キーボードを操作すると元の画面に戻ります。画面が戻らなかった場合は、電源ボタン (⏻) をポチッと押してください。

5 「地域と言語」画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。

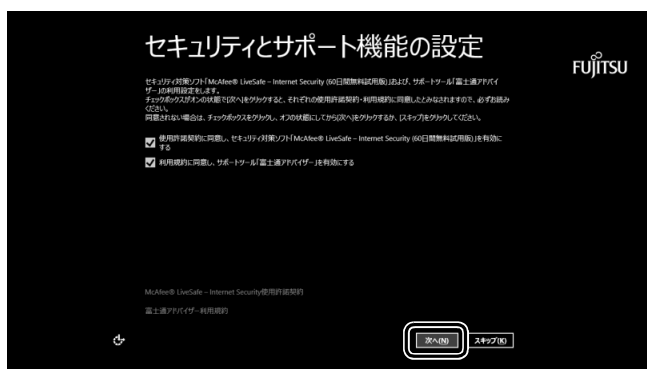


(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

6 「ライセンス条項」をよく読みます。読み終わったら「同意します」をクリックします。



7 セキュリティとサポート機能についての説明をよく読んで、「次へ」をクリックします。



8 パソコンに好きな名前（PC 名）を付けます。



① PC 名を入力します。

例：「fmv1」という名前にする場合は、キーボードから **[F]**、**[M]**、**[V]**、**[1]** と入力します。

② 「次へ」をクリックします。

Point

- ▶ PC 名は、12 文字以内の半角英数字 (a ~ z, A ~ Z, 0 ~ 9) で好きな名前を入力してください。数字を使う場合は英字と組み合わせてください。

9 「セットアップを始める前のチェック」(→ P.19) で記入したネットワーク名 (SSID) をクリックします。

わからない場合は、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。



- ▶ 有線 LAN を使う場合はネットワークが「接続済み」となっていることを確認し、「次へ」をクリックします。手順 11 に進んでください。



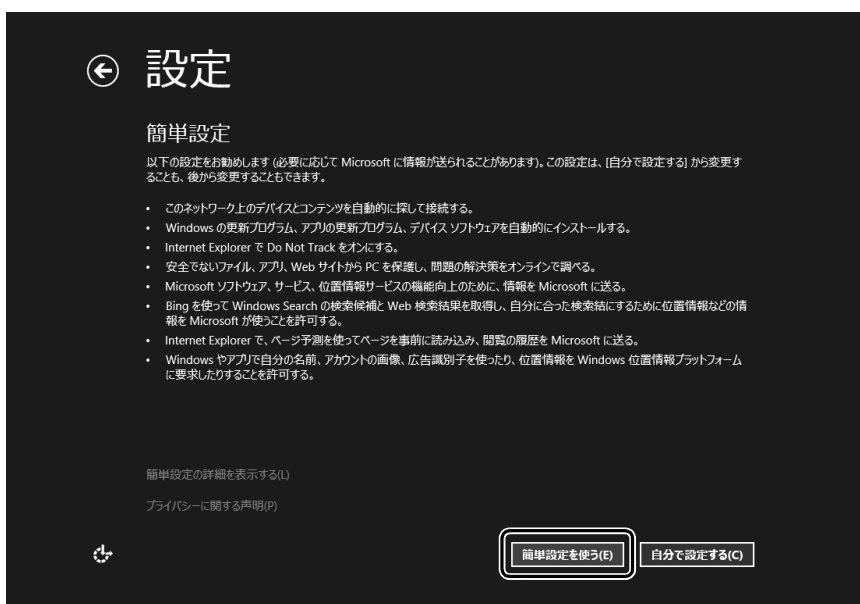
- ▶ セキュリティのためネットワーク名 (SSID) が表示されないように設定している場合は、「非公開のネットワーク」をクリックし、画面の表示に従って操作してください。

10 このネットワークのパスワードを入力します。



- ① 「セットアップを始める前のチェック」(→P.19) で記入したパスワードを入力します。
「ルーターのボタンを押しても接続できます。」と表示されていたら、無線LANアクセスポイント（ルーター）のボタンを押して接続できる場合があります。
詳しくは、無線LANアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。
- ② 「次へ」をクリックします。

11 「簡単設定を使う」をクリックします。



12 「新しいアカウントを作る」をクリックします。

パソコンへサインインするための Microsoft アカウント（メールアドレス）を新規作成します。



Point

- ▶ 右のような画面が表示された場合は、「インターネットに接続せずにセットアップしたときは」（→ P.167）の手順に従って、セットアップを続けてください。



アカウント取得についてのお問い合わせ

手順 12 ～ 18 の Microsoft アカウントを取得する操作については、日本マイクロソフト株式会社のサーバーにインターネットで接続して行っています。本書と異なる画面が表示された場合など、ご不明な点は日本マイクロソフト株式会社にお問い合わせください。

日本マイクロソフト株式会社 パーソナルサポート窓口

※お電話で問い合わせると、「マイクロソフト コミュニティ」のご利用を案内される場合があります。

電話番号：0120-54-2244

受付時間：月～金／9:30-12:00、13:00-19:00（土・日・祝祭日および指定休業日を除く）

マイクロソフト コミュニティ

URL：http://answers.microsoft.com/ja-jp/

13 新しくメールアドレスを作ります。

Microsoft アカウントの作成

普段使っているメール アドレスを利用できます。Xbox Live、Outlook.com、Windows Phone、または OneDrive を既にお使いの場合は、ここでそのアカウントを使うと、あらゆる情報をこの PC で利用できるようになります。

姓 (例: 田中)

名 (例: 太郎)

メール アドレス outlook.jp
普段使っているメールを使う

パスワードの作成

パスワードの再入力

国/地域 日本

Microsoft アカウントを使わずにサインインする

次へ(N)

① 姓・名を入力します。

② メールアドレスとして使いたい文字列を入力します。

③ パスワードを設定します。下段には設定したパスワードを再度入力してください。

④ 「次へ」をクリックします。

① 姓・名を入力します。

② メールアドレスとして使いたい文字列を入力します。

半角英数字 (a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9) およびピリオド (.)、ハイフン (-)、下線 (_) のみ使用できます。

③ パスワードを設定します。下段には設定したパスワードを再度入力してください。

【パスワードの作成例】

半角英字
↓
ab1-c23d4
8 文字以上

半角数字
↓
1
半角記号
↓
-
c

安全性を高めるため、8 文字以上で、半角英数字 (a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9) および半角記号を組み合わせで作成してください。

※ 例とまったく同じ文字をパスワードとして使わないでください。

④ 「次へ」をクリックします。

14 次の欄に手順13で作ったメールアドレスとパスワードを記入します。

メールアドレス (Microsoft アカウント)

パスワード

パスワードは絶対に忘れないようにしてください。
サインインのときに毎回入力が必要です。

※参照しやすいよう本書の巻末にも記入欄を用意しています。
※第三者に漏れないように充分に注意して管理してください。

15 パスワードを忘れた場合のセキュリティ情報を入力します。

ここで入力した情報で、パスワードを再設定することができます。

「電話番号」と「連絡用メールアドレス」のどちらか1つは必ず入力してください。

The screenshot shows a dark-themed form titled "セキュリティ情報の追加" (Add Security Information). Below the title is a note: "この情報は、アカウントをより安全に保ちながら、パスワードを復元できるようにする目的でのみ使用されます。" (This information is used only for the purpose of restoring your password while keeping your account safer). The form contains five fields: "生年月日" (Date of Birth) with three dropdown menus, "性別" (Gender) with a dropdown menu showing "男" (Male), "国コード" (Country Code) with a dropdown menu showing "日本 (+81)", "電話番号" (Phone Number) with a text input field and a red 'x' icon, and "連絡用メール アドレス" (Contact Email Address) with a text input field. At the bottom right is a button labeled "次へ(N)" (Next). Numbered callouts 1 through 5 point to the date of birth dropdowns, the gender dropdown, the phone number field, the contact email field, and the "Next" button, respectively.

- ① ▼をクリックし、生年月日を選択します。
- ② 性別を選択します。
- ③ 電話番号を入力します。固定電話と携帯電話（スマートフォンを含む）、どちらの番号も使用できます。
本人確認をするときに必要になります。すぐに対応できる電話番号を入力してください。
- ④ 以前から使用しているメールアドレスを入力します（携帯電話およびスマートフォンのメールアドレスを除く）。
本人確認をするときに必要になります。すぐに対応できるメールアドレスを入力してください。
- ⑤ 「次へ」をクリックします。

16 最終設定を行います。



- ① 画面に表示されている文字を入力します。
文字が読めない場合は「新規」をクリックします。新しい文字が表示されます。
- ② 「次へ」をクリックします。

Point

- ▶ 文字の入力を失敗した場合、「入力した文字が画面の文字と一致しません」というメッセージが表示され、新しい文字が表示されます。表示されている文字を再度入力してください。
- ▶ セキュリティ情報の入力に間違いがあった場合は、手順 15 に戻ります。入力内容を修正した後、手順 16 をやり直しになります。

17 「後で行う」をクリックします。

⬅ 情報の保護にご協力ください

お使いのアカウントまたはデバイスからプライバシーにかかわる情報にアクセスする場合や、疑わしいアカウントの活動が検出された場合は、ID を確認するためセキュリティ コードの入力をお願いします（このデバイスで頻繁にサインインする場合は、これ以降確認を求められることはありません）。

コードの受け取り方法

***** に SMS を送信 ▼

テキストを受信できない場合は、通話のオプションを選択してください。

これが「自分の電話番号であることを確認するには、“ ”を含む最後の 4 桁を入力し、[次へ] をクリックしてコードを受け取ってください。

最後の 4 桁

コードを持っている場合

後で行う

次へ(N)

Point

- ▶ 「コードの受け取り方法」を選択し、電話番号の最後の 4 桁がメールアドレスを入力して、「次へ」をクリックした場合は、右の画面が表示され、選択した方法でコードが送られてきます。

送られてきたコードを入力し、「次へ」をクリックします。

電話が聞き取れなかったり、メールが受信できなかったりした場合は、⬅ をクリックして手順 15 へ戻り、その場で対応できる電話番号またはメールアドレスに変更し、やり直してください。

⬅ 受け取ったコードを入力してください

お使いのアカウントまたはデバイスからプライバシーにかかわる情報へのアクセスがあった場合や、疑わしいアカウント活動が検出された場合は、ID を確認するために、セキュリティ コードの入力をお願いします（このデバイスに頻繁にサインインしている場合は、この場合もコードの入力をお願いします）。

***** にお送りしたコードを入力してください。

コード

別の確認オプションを使う

今は行わない

次へ(N)

18 OneDrive の説明が表示された場合は、「次へ」をクリックします。

画面が何度か変化します。

スタート画面が表示されるまでお待ちください。



画面が何度か変化します



(スタート画面)

19 Windowsを終了するため、スタート画面の右上にあるをクリックし、表示されたメニューから「シャットダウン」をクリックします。 セットアップを完了させるため、いったん Windows を終了させてください。

これで、Windows のセットアップが完了しました。

プロバイダーから提供されたメールアドレスなどでメールを使うには

Windows ストア アプリの「メール」ではお使いになれません。

「Outlook」、または「Windows Live メール」をお使いください。

使い方については、「富士通アドバイザー」の「メールの使い方」をご覧ください(→ P.33)。

「Outlook」について、ご不明な点がある場合は、次のお問い合わせ窓口をご利用ください。

日本マイクロソフト株式会社 技術サポート窓口

電話：0120-54-2244

受付時間：月～金／9:30～12:00、13:00～19:00、

土／10:00～17:00(日・祝祭日および指定休業日を除く)

URL：<http://support.microsoft.com/contactus/>

Point

▶「ウイルスバスター クラウドTM」について

このアプリをお使いになるには、「Windows のセットアップをする」を完了させた後、インターネットに接続した状態で、オンラインユーザ登録を行ってください。オンラインユーザ登録方法などの情報は、添付の『学生支援ポータルガイドブック』をご覧ください。その後は「ユーザー登録をする」に進んでください。

コンピューターウイルスや不正アクセスなど、さまざまな脅威からパソコンを守るためには、セキュリティ対策アプリをお使いになることをお勧めします。

▶「アルクの英語 簡単スタートガイド」について

このアプリには、「Microsoft PowerPoint 2013 (以降、PowerPoint 2013)」のスライドショーファイル(拡張子「.ppsx」)が収録されています。このコンテンツを再生するためには、「PowerPoint 2013」がインストールされている必要があります。「PowerPoint 2013」がインストールされていないと、デスクトップ上のショートカットアイコン「アルクの英語 簡単スタートガイド」が実行できません。

▶「わかる！英語資格ガイド」について

このアプリのウィンドウ全体が表示されない場合があります。

ウィンドウを移動したり最大化したりしても表示されない場合は、次のように設定を変更してください。

1. 画面左下隅のを右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせるとが表示されます。
2. 「デスクトップのカスタマイズ」▶「タスクバーとナビゲーション」の順にクリックします。
「タスクバーとナビゲーションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
3. 「タスクバー」タブの「タスクバーを自動的に隠す」の☐をクリックして☒にします。
4. 「適用」をクリックし、「OK」をクリックします。

パソコンを快適にお使いいただくための準備をする

「富士通アドバイザー」の準備をする

「富士通アドバイザー」とは、『取扱説明書＜詳細版＞』を表示したり、パソコンを使うために知っておいていただきたい情報をお届けしたりするアプリです。

1 電源ボタン（）をポチッと押します。

2 ロック画面が表示されたら、 を押します。



3 パスワードを入力し、 をクリックします。

「Windows をセットアップする」の手順 14 で記入したパスワードです。

4 スタート画面が表示されたら、「富士通アドバイザー」をクリックします。



5 「富士通アドバイザー」の画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、「同意する」をクリックします。

6 「富士通アドバイザーをバックグラウンドで実行しますか？」と表示されたら、「許可」をクリックします。

この後は、画面の指示に従って操作を進めます。

■ 次のお知らせは、できるだけ早くお読みください

● パソコンを最新の状態にする

Windows を最新の状態にします。

● Windows 8.1 の使い方

Windows 8.1 の基本操作や、スタート画面の使い方、パソコンの音量や画面の明るさの調整方法などをご紹介します。



- ▶ 「富士通アドバイザー」は、このほかにも、パソコンを快適にお使いいただくためのお知らせを配信します。定期的にご確認ください。

また、マニュアル（『取扱説明書<詳細版>』）とトラブル解決の事例などで覧になれます。必要に応じてご確認ください。

- ▶ 「富士通アドバイザー」は、パソコンだけでなく、スマートフォンでもご利用いただけます。

「富士通アドバイザー」（スマートフォン版）をご利用いただくと、万が一、パソコンが起動しなかったり、インターネットに接続できなかったりする場合でも、サポート情報やマニュアルをご覧いただけます。

※ Android 4.0 以降を搭載したスマートフォンが必要です。

[ダウンロード手順]

1. 富士通アドバイザーアプリのダウンロードページを開きます。

<http://azby.fmworld.net/support/mycloudapps/download/#fjadviser>

2. Google play バナーをクリックして、アプリをダウンロードします。

※「富士通アドバイザー」（スマートフォン版）の利用設定が必要です。



スマートフォンから



パソコンの使い方を初歩から学んでみたいけれど、勉強のしかたがわからない、近くにパソコン教室がないなどでお悩みではありませんか。

富士通では、Windows 8.1 を新しく使い始めたお客様を対象に、プロの担当者が基本操作をレッスンする有償のサービスメニューをご用意しています。

お客様の予算や目的にあったサポートプランをご提案しますので、「PC つなげてレッスンに関するお問い合わせ窓口」までお電話ください。

PC つなげてレッスンに関するお問い合わせ窓口（0120-994-499）

受付時間：平日 9 時から 17 時

※土・日・祝日、当社指定の休日を除く

※本サービスをご利用いただくには、ユーザー登録が必要となります。

<http://azby.fmworld.net/support/pclesson/>



「はじめに行う設定」で初期設定する

「はじめに行う設定」ウィンドウから、パソコンを快適にお使いになるために必要な初期設定を行ってください。

- 1 スタート画面で  を押して、デスクトップ画面を表示します。
デスクトップ画面に、「はじめに行う設定」ウィンドウが自動で表示されます。

- 2 「はじめに行う設定」ウィンドウに表示される項目をすべて実行します。



（機種により表示されない項目もあります）

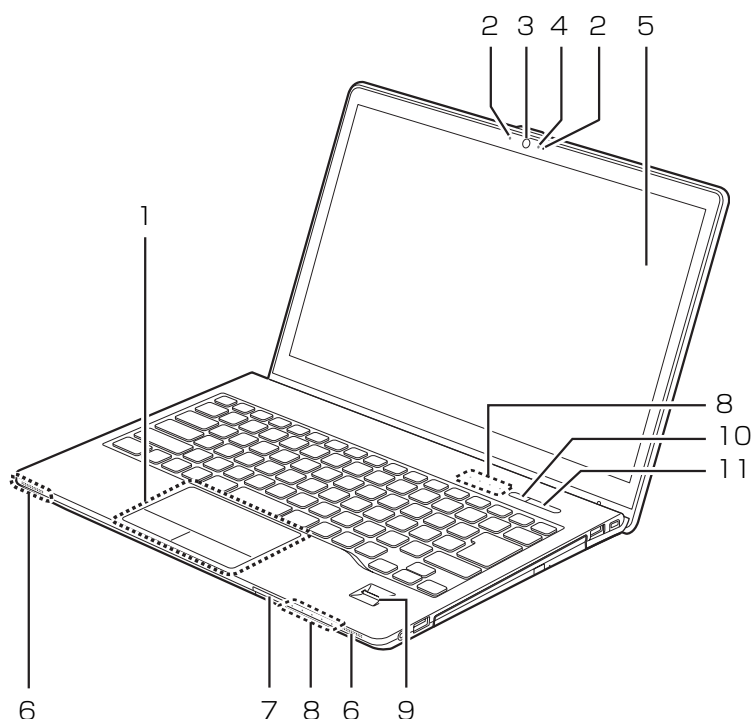
- ①「表示」をクリックすると、「重要なお知らせ」という画面が表示されますので、よくお読みください。画面を閉じるときは、画面の上から下までドラッグしてください。
 - ②「登録画面を表示」をクリックすると、「はじめに行う設定 - ユーザー登録をする」ウィンドウが表示されます。「パソコンの情報を送信する（推奨）」をクリックしてください。インターネットのユーザ登録専用ホームページが表示されます。ユーザー登録については、「ユーザー登録のご案内」（→ P.103）をご覧ください。
 - ③「実行」をクリックすると、各アプリが起動するので初期設定してください。実行した項目は、左側のアイコンが「対応済」に変わります。
- すべての項目を実行した場合は、パソコンを再起動したときに、「はじめに行う設定」ウィンドウが表示されなくなります。

Point

- ▶ 富士通からの「重要なお知らせ」を再度確認したい場合は、スタート画面左下の  をクリックし、「はじめに行う設定」をクリックしてください。
 - ▶  が表示されていない場合は、マウスポインターを動かすと表示されます。
-  『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』

すべての項目を実行するとセットアップは完了です。

パソコン本体前面



(イラストは機種や状況により異なります)

1 フラットポイント

マウスポインター (☞) を操作します (→ P.49)。

2 内蔵マイク

テレビ電話用アプリを利用して音声通話をするときに使います。

3 Web カメラ

この Web カメラは、次の機能で使います。

- ・ Sense YOU Technology 機能 (人感センサー機能) (→ P.72)
- ・ Skype (→ P.77)

4 Web カメラ状態表示 LED

Web カメラが動作しているときに点灯します。



▶ 次の場合は点灯しません。

Sense YOU Technology 機能のみを有効にしている場合 (Web カメラを使用するアプリが他に起動していない場合)

5 液晶ディスプレイ

入力した内容や、パソコン内のデータなどを表示します。タッチパネル搭載機種では、画面に触れて操作することができます (→ P.50)。

表示面・天板面にかかわらず、液晶ディスプレイに強い圧力が加わると、画面にムラが発生する場合があります。

6 スピーカー

パソコンの音声を出力します (→ P.53)。

7 ダイレクト・メモリスロット

SD メモリーカードを差し込みます。miniSD カードなどは、アダプターを使用してください (→ P.62)。

8 状態表示 LED

パソコンの状態を表示します (→ P.40)。

9 指紋センサー

指をスライドさせることで、指紋認証を使うことができます。

詳しくは、「OmniPass (Web かんたんログイン)」(→ P.78) をご覧ください。

10 ECO ボタン

ボタンを押すごとに、省電力モードがオンまたはオフに切り替わります。

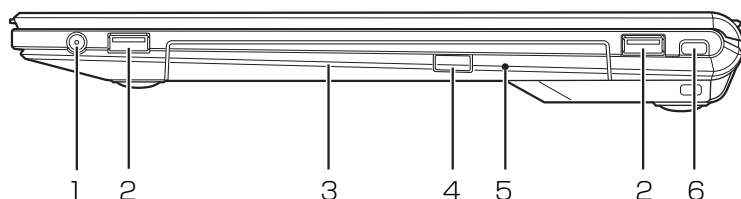
省電力モードについて、詳しくは「ステータスパネルスイッチ」(→ P.82) をご覧ください。

なお、電源オフ時、および休止状態のときにこのボタンを押すと、バッテリー残量ランプが点灯し、ランプの色でバッテリーの残量を表示します (→ P.46)。

11 電源ボタン (⏻)

Windows をスタート/終了します (→ P.43)。

パソコン本体右側面



(イラストは機種や状況により異なります)

1 マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子 (🎧)

外径 3.5mm のミニプラグに対応した市販のヘッドホン・マイク・ヘッドセットを接続します。また、設定を変更することで、マイク入力端子、ライン入力/出力端子、ヘッドセット端子としても使用できます (→ P.133)。

2 USB 3.0 コネクタ (🔌)

USB 規格の周辺機器を接続します。

接続した USB 機器の動作は、周辺機器や間に接続されている USB ハブやケーブルの性能に依存します。

3 モバイル・マルチベイ

内蔵スーパーマルチドライブユニットなどが取り付けられます。ユニットは交換することができます。パソコンをお使いになるときは、必ずモバイル・マルチベイにユニットまたはモバイル・マルチベイ用カバーを取り付けてください (→ P.64)。

4 CD/DVD 取り出しボタン

ディスクをセットしたり取り出したりするときに使用します (→ P.55)。

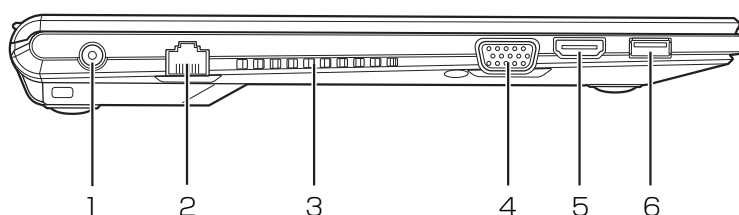
5 強制取り出し穴

CD/DVD ドライブのトレイが開かなくなったときに使用する穴です。詳しくは、「富士通アドバイザー」の「トラブル解決」から「CD/DVD のトラブル」をご覧ください。

6 盗難防止用ロック取り付け穴 (🔒)

市販の盗難防止用ケーブルを接続します。

パソコン本体左側面



(イラストは機種や状況により異なります)

1 DC-IN コネクタ (==)

添付の AC アダプタを接続します。

2 LAN コネクタ (品)

LAN ケーブルを接続します。

3 排気孔

パソコン本体内部の熱を外部に逃がします。

4 外部ディスプレイコネクタ (品)

アナログ接続の外部ディスプレイを接続します。
なお、コネクタの形状によっては、隣接する HDMI 出力端子と同時に使用できない場合があります。

5 HDMI 出力端子

デジタルテレビやデジタル接続の外部ディスプレイを接続します。なお、コネクタの形状によっては、隣接する外部ディスプレイコネクタと同時に使用できない場合があります。



- ▶ 同時表示やマルチモニター表示、HDMI 出力端子接続時の出力方式などについては、「外部ディスプレイやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数」(→ P.120) をご覧ください。

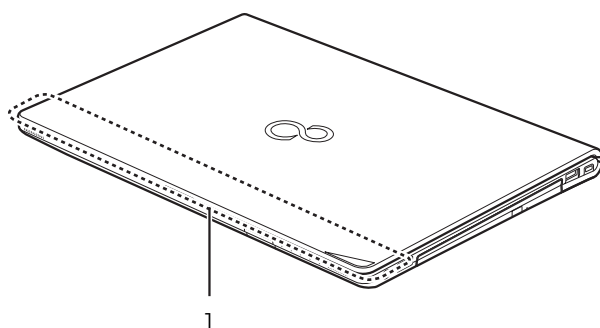
6 USB3.0 コネクタ(電源オフ USB 充電機能対応) (品)

USB 規格の周辺機器を接続します。

接続した USB 機器の動作は、周辺機器や間に接続されている USB ハブやケーブルの性能に依存します。

このコネクタは、設定を変更することにより、電源オフ USB 充電機能を使用できます(→ P.67)。

パソコン本体上面



(イラストは機種や状況により異なります)

1 内蔵無線 LAN アンテナ、内蔵 Bluetooth ワイヤレステクノロジーアンテナ

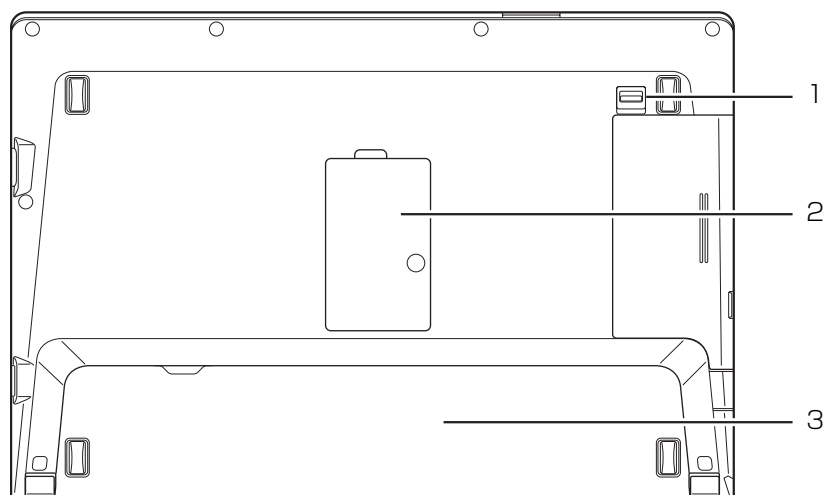
次のアンテナが内蔵されています。

- ・ 無線 LAN 用アンテナ
- ・ Bluetooth ワイヤレステクノロジー用アンテナ

Point

- ▶ 無線 LAN について、詳しくは「無線 LAN」(→ P.138) をご覧ください。
- ▶ Bluetooth ワイヤレステクノロジーについて、詳しくは「Bluetooth ワイヤレステクノロジー」(→ P.143) をご覧ください。

パソコン本体下面



(イラストは機種や状況により異なります)

1 モバイル・マルチベイロック

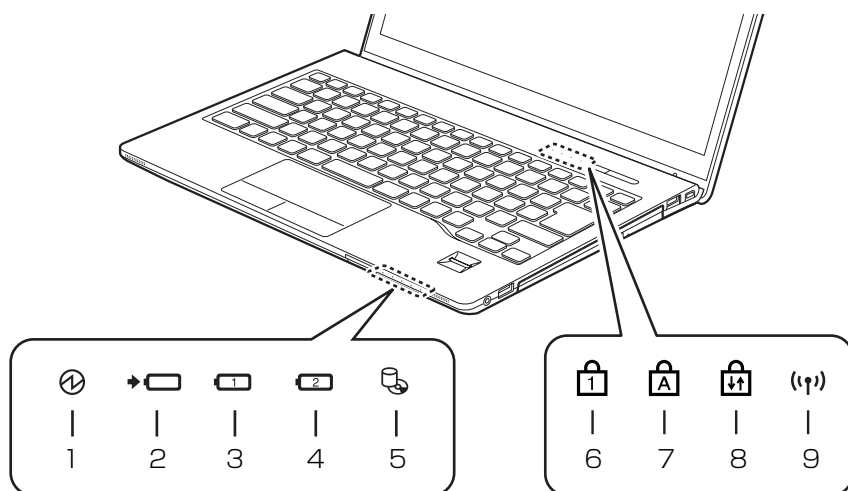
モバイル・マルチベイユニットの取り付け／取り外しをするときに使用します (→ P.64)。

2 メモリスロットカバー

メモリの取り付け／取り外しを行うときに取り外します (→ P.67)。

3 内蔵バッテリーカバー

バッテリーを交換するときに取り外します (→ P.47)。



(イラストは機種や状況により異なります)

1 電源ランプ (⏻)

電源の状態を表示します (→ P.44)。

2 内蔵バッテリーパック充電ランプ (➡🔋)

パソコンにACアダプタが接続されている場合に、内蔵バッテリーパックの充電状態を表示します (→ P.46)。

3 内蔵バッテリーパック残量ランプ (🔋1)

内蔵バッテリーパックの残量を表示します (→ P.46)。

4 増設用内蔵バッテリーユニット残量ランプ (🔋2)

増設用内蔵バッテリーユニットの残量を表示します。増設用内蔵バッテリーユニットが装着されていると点灯します (→ P.46)。

5 ディスクアクセスランプ (💿)

内蔵ハードディスクや、CD/DVD にアクセスしているときに点灯します。

6 Num Lock ランプ (🔢)

キーボードがテンキーモード (→ P.41) のときに点灯します。点灯時は、「テンキーになるキー」で数字や記号を入力できます。

7 Caps Lock ランプ (🔤)

英大文字固定モード (英字を大文字で入力する状態) のときに点灯します。

8 Scroll Lock ランプ (🔍)

[Fn] を押しながら [Scr Lk] を押したときに点灯します。点灯中の動作は、アプリによって異なります。

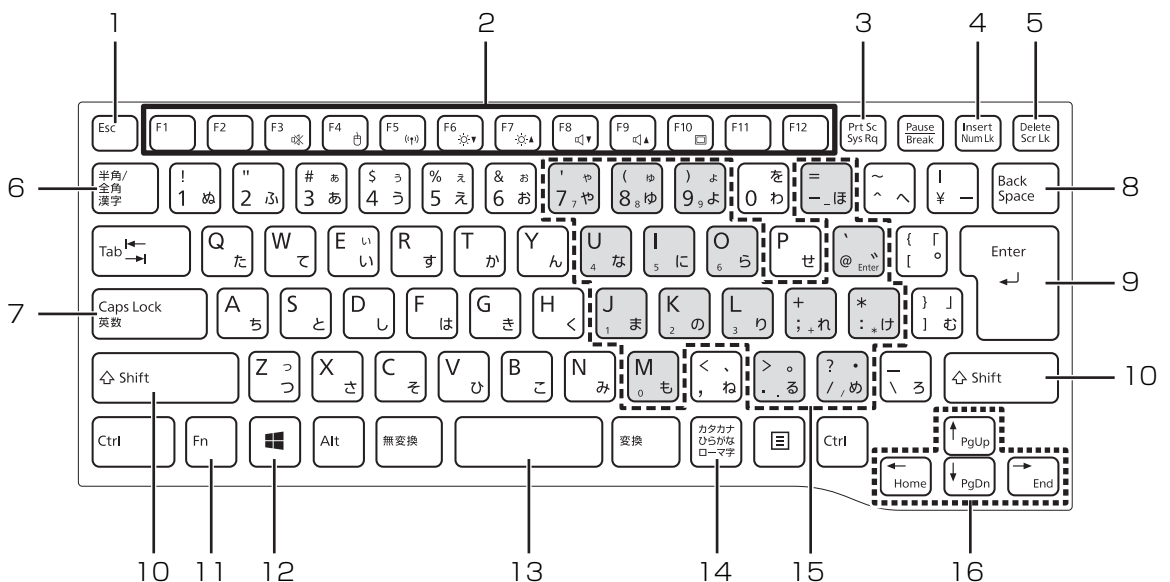
9 ワイヤレス通信ランプ (📶)

機内モードの状態を表示します。

Point

- ▶ 機内モードは、本パソコンに搭載された無線通信機能の電波を停止する機能です。機内モードをオンにすると電波が停止します。
- ▶ 機内モードがオフ (ワイヤレス通信ランプ点灯時) でも電波が停止している場合があります。電波の発信/停止の状態は、次の手順で表示される画面で確認できます。
 1. マウスポインターを画面の右上隅に合わせて「チャーム」を表示します。
『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』
 2. そのまま真下にマウスポインターを移動させて「設定」をクリックします。
 3. 「PC設定の変更」▶「ネットワーク」▶「機内モード」の順にクリックします。
- ▶ 電波の発信/停止を切り替えるには、[Fn] + [F5] を押してください。

キーボード



1 Esc キー

現在の作業を取り消します。

2 ファンクションキー

アプリごとにいろいろな機能が割り当てられています。青い刻印の機能は、**(Fn)** を押しながらそのキーを押して使います。

3 Prt Sc キー

画面に表示されている内容を画像としてコピーできます。

4 Num Lk キー

(Fn) を押しながらこのキーを押すと、テンキーモードになります。もう一度押すと解除されます。

5 Delete キー

カーソルの右側にある 1 文字を削除します。

6 半角／全角キー

キーを押すごとに、半角入力／全角入力を切り替えます。全角入力にすると、日本語を入力できます。

7 Caps Lock キー

(Shift) を押しながらこのキーを押して、英大文字入力／小文字入力を切り替えます。

8 Back Space キー

カーソルの左側にある 1 文字を削除します。

9 Enter キー

入力した文字を確定したり、改行したりします。

10 Shift キー

(Shift) を押しながら文字キーを押すと、キーの upper 段に刻印されている記号を入力できます。

11 Fn キー

[Fn] を押しながら青い刻印のあるキーを押すと、それぞれのキーに割り当てられた機能を使用することができます。

[Fn] + [F3] 音声出力の ON/OFF を切り替えます。

[Fn] + [F4] フラットポイントの有効／無効を切り替えます (→ P.117)。

[Fn] + [F5] 本パソコンの内蔵アンテナを使用する無線通信機能の電波の発信／停止を切り替えます。

[Fn] + [F6] 画面を暗くします。

[Fn] + [F7] 画面を明るくします。

[Fn] + [F8] 音量を小さくします。

[Fn] + [F9] 音量を大きくします。

[Fn] + [F10] 外部ディスプレイを接続した場合に、液晶ディスプレイと外部ディスプレイで表示先を切り替えます。

[Fn] + [Home] カーソルを行の最初に移動します。

[Fn] + [Ctrl] 文章の最初に移動します。

+ **[Home]**

[Fn] + [Pg Up] 前の画面に切り替えます。

[Fn] + [Pg Dn] 次の画面に切り替えます。

[Fn] + [End] カーソルを行の最後に移動します。

[Fn] + [Ctrl] 文章の最後に移動します。

+ **[End]**

12 Windows キー

スタート画面を表示したいときに押します。

13 空白 (Space) キー

文字を入力するときに、空白 (スペース) を入力します。

14 カタカナ／ひらがなキー

[Alt] を押しながらこのキーを押して、ローマ字入力／ひらがな入力を切り替えます。

15 テンキーになるキー

テンキーモードのときに、テンキーとして使えるキーです。

16 カーソルキー

カーソルを上下左右に移動します。

Windows をスタートする／終了する

Windows をスタートする

⚠ 注意

- 落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源ケーブルをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。落雷による感電、火災の原因となります。雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。
- AC アダプタは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体が故障する原因となります。

重要

- ▶ 必ず内蔵バッテリーパックが取り付けられた状態でお使いください。
- ▶ パソコンを長時間お使いになる場合は、バッテリー切れによるデータ消失などを防ぐため、必ず AC アダプタを取り付けてください。
- ▶ 内蔵バッテリーパックや AC アダプタを取り付けるときは、変形や破損のないことを確認してください。
- ▶ 電源を入れてから Windows がスタートするまでは、キーボードやマウスなどで操作しないでください。正常にスタートできない場合があります。

1 電源ボタン (⏻) を押します。

電源ボタンを 4 秒以上押すと、パソコンの電源が強制的に切れてしまいます。データが失われる場合もありますので、ご注意ください。



(イラストは機種や状況により異なります)

電源ランプ (⑪) が白色に点灯し、ロック画面が表示されます。

2 **Enter** を押します。

パスワードを入力する画面が表示されます。

3 パスワードを入力し、**→** をクリックします。

スタート画面が表示されます。

Point

- ▶ 手順3で入力するパスワードは、Windowsのセットアップのときに入力したパスワードです。パスワードについて、詳しくは「アプリ画面」の「ヘルプとサポート」をクリックして Windows のヘルプを表示し、「パスワード」で検索して表示される内容をご覧ください。
「アプリ画面」の表示方法は、『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』をご覧ください。

- ▶ Windows がスタートしないときは
 - ・ AC アダプタを接続している場合
AC アダプタが正しく接続されているか確認してください。
 - ・ バッテリのみで使う場合
 - 内蔵バッテリーパックが正しく取り付けられているか確認してください。
 - バッテリ残量が少ないと電源を入れても Windows が起動しないことがあります。残量が少ない場合は、AC アダプタを接続してください。
- それでも Windows がスタートしない場合は、「起動・終了時のトラブル」(→ P.98) をご覧ください。
- ▶ 「Windows のライセンス認証」の青い画面が表示されたときは、「富士通アドバイザー」の「トラブル解決」から「Windows・アプリ関連のトラブル」をご覧ください。

Windows を終了する

重要

- ▶ Windows を終了する前に、作業中のデータがある場合は保存してください。また、CD/DVD ドライブにディスクが入っている場合は取り出してください。
- ▶ 次のような場合は、「パソコンの電源を完全に切る」(→ P.173) をご覧になり、電源を切ってください。
 - ・ メモリを取り付ける／取り外す
 - ・ 内蔵バッテリーパックを取り外す
 - ・ トラブル解決ナビを起動する
 - ・ BIOS セットアップを起動する
 - ・ モバイル・マルチベイユニットの取り付け／取り外し
- ▶ Windows がスタートして 1 分以上たってから終了するようにしてください。

- 1 スタート画面を表示させた後、スタート画面の右上にある  をクリックします。
- 2 表示されたメニューから「シャットダウン」をクリックします。
しばらくすると、Windows が終了します。

Point

- ▶ Windows が終了できないときは、「起動・終了時のトラブル」(→ P.98) をご覧ください。
- ▶ パソコンは Windows を終了した状態でも少量の電力を消費します。バッテリー残量を減らさないためには、AC アダプタを接続してください。
- ▶ 長期間パソコンを使用しない場合は、パソコンの電源を切ってから内蔵バッテリーパックと AC アダプタを取り外してください。
 - ・ AC アダプタや電源ケーブルは、変形したり、割れたり、傷が付かないように保管してください。保管するときは、AC アダプタにケーブル類を巻きつけたりしないでください。

電源ランプの状態

電源ランプ (①) は、パソコンの状態によって次のように動作します。

電源ランプの状態	パソコンの状態
白色点灯	パソコンの電源が入っている
点滅	スリープ
消灯	・ 休止状態 ・ パソコンの電源が切れている

スリープにする／復帰させる

スリープとは、Windows を終了せずに、作業中のデータなどをメモリに保存して、パソコンを待機状態にすることです。

スリープにしておくと、次にパソコンを使うときにすぐに使い始めることができます。

スリープにするときの注意

次の場合は、いったんパソコンの電源を切り、電源を入れ直してください。

- パソコンを長期間使わないとき
- パソコンの動作が遅くなったり、正常に動作しなくなったりするとき

Point

- ▶ スリープ中は、メモリに保存したデータなどを保持するために少しずつ電力を消費しています。
- ▶ ご購入時は、スリープしてから一定時間経過するか、バッテリーの残量が少なくなると、休止状態に移行するように設定されています。休止状態について、詳しくは「スリープ／休止状態」(→ P.147) をご覧ください。
- ▶ Web カメラを使用するアプリを起動中は、一定時間パソコンを操作しない場合に自動的にスリープや休止状態になる機能はご使用になれません。

スリープにする

- 1 スタート画面を表示させた後、スタート画面の右上にある  をクリックします。
- 2 表示されたメニューから「スリープ」をクリックします。
ディスプレイの表示が消えスリープになります。

Point

- ▶ 液晶ディスプレイを閉じることで、スリープすることもできます (→ P.148)。

スリープから復帰する

- 1 電源ボタン (⏻) を押します。
ロック画面が表示されます。
電源ボタンは 4 秒以上押さないでください。パソコンの電源が切れてしまいます。
- 2  を押します。
パスワードを入力する画面が表示されます。
- 3 パスワードを入力し、 をクリックします。

Point

- ▶ スリープにした後は、必ず 10 秒以上たってから復帰 (レジューム) するようにしてください。
- ▶ 復帰 (レジューム) させた後は、必ず 10 秒以上たってから、スリープにするようにしてください。
- ▶ 液晶ディスプレイを開くことで、復帰 (レジューム) することもできます。
- ▶ 電源ボタンを押す以外の方法でスリープからレジュームさせると、Windows の仕様により、画面が表示されない場合があります。
画面が表示されない場合は、キーボードやマウス、およびフラットポイントなどから入力を行うと画面が表示されます。
- ▶ レジューム後、画面が表示されないままの状態ですら一定時間経過すると、再度スリープになります。

バッテリー

このパソコンは、AC アダプタを使わずにバッテリーのみで動作させることができます。

なお、内蔵バッテリーパック残量ランプと増設用内蔵バッテリーユニット残量ランプのことを総称して、バッテリー残量ランプと呼んでいます。

重要

- ▶ バッテリーのみで使用する場合は、バッテリーが充電されているか確認してください。特にご購入時にはバッテリーが充電されていない場合があるので、ご注意ください。
- ▶ Windowsを終了しても少量の電力を消費するため、AC アダプタを接続してお使いになることをお勧めします。

バッテリーの充電

- AC アダプタを接続すると、バッテリーの充電を開始します。充電が始まると、バッテリー充電ランプが点灯します。
- バッテリー残量が 90% 以上のときに AC アダプタを取り付けても充電は始まりません。バッテリー残量が少なくなると自動的に充電が始まります。

充電状態や残量の確認

バッテリーの充電の確認は、バッテリー充電ランプ／バッテリー残量ランプで行います。

また、電源オフ時／休止状態のときに、ECO ボタンを押すと、バッテリー残量ランプでバッテリー残量が確認できます。

バッテリー充電ランプ (➡) およびバッテリー残量ランプ () は、次のように表示されます。

■ バッテリー充電ランプ (➡)

- AC アダプタ接続時

充電ランプの表示	状態
オレンジ色点灯	充電中
白色点灯	充電完了 [注]

注：ECO Sleep が動作中の場合、電源オフ状態や休止状態ではバッテリー充電ランプは点灯しません (→ P.151)。

- 次の場合、バッテリー充電ランプがオレンジ色点滅します。
 - ・ 内蔵バッテリーパックが熱を持って温度が高くなった場合
 - ・ 冷やされて温度が低くなったときに、バッテリーの保護機能が働いて充電を停止している場合内蔵バッテリーパックの温度が平常に戻ると、オレンジ色点灯になり充電を再開します。
- AC アダプタ未接続時は、充電ランプは消灯します。

■ バッテリー残量ランプ ()

バッテリー残量ランプの色 [注 1]	バッテリー残量
白色	100 ~ 51%
オレンジ色	50 ~ 13%
赤色	12% 以下 (LOW バッテリー状態) [注 2]

注 1：本パソコンの電源の状態により次のようになります。

- ・ 電源オン時：点灯
- ・ スリープ中：点灯 (充電中)、またはゆっくり点滅 (充電していないとき)
- ・ 休止状態：点灯 (充電中)、または消灯 (充電していないとき)
- ・ 電源オフ時：点灯 (充電中)、または消灯 (充電していないとき)

なお、「充電中」とは、バッテリー充電ランプがオレンジ色に点灯しているときを指します。

注 2：LOW バッテリー状態のまま使用し続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。

- バッテリーパック未装着時は、バッテリー残量ランプは消灯します。
- バッテリー残量ランプが短い間隔で赤色点滅する場合は、バッテリーが正しく充電できないことを示しています。パソコン本体の電源を切ってからバッテリーを取り付け直してください。それでも解消されない場合はバッテリーが異常です。純正の新しいバッテリーと交換してください (→ P.47)。
- バッテリー残量が少なくなると、バッテリー残量不足を通知する警告画面が表示され、その後しばらくすると、強制的に休止状態に移行します。バッテリー残量不足の警告画面が表示されたら、すぐに AC アダプタを接続してください。

- 表示されるバッテリーの残量は、バッテリー（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリーの充放電回数など）により実際のバッテリーの残量とは異なる場合があります。

バッテリーパックの取り扱い上の注意

⚠ 警告



- バッテリーパックの交換を行う場合は、パソコンの電源を必ず切りACアダプタを取り外してください。また、パソコンやバッテリーパックのコネクタに触れないでください。
感電や故障の原因となります。

- バッテリーを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリー駆動時間が短くなります。駆動時間が極端に短くなってきたら、純正の新しいバッテリーパックに交換してください。
使用できるバッテリーパックについては、製品情報ページ（<http://www.fmworld.net/fmv/>）をご覧ください。
- バッテリーの交換時に、液晶ディスプレイにネジや文房具などをはさんだり、パソコン本体内部にパソコンの部品やネジを落とさないように注意してください。

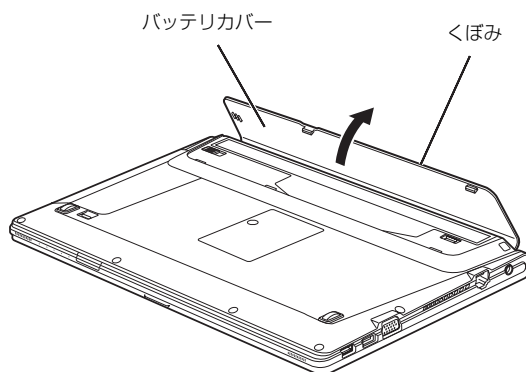
重要

- ▶ 取り外した内蔵バッテリーパックは、ショート（短絡）防止のために、内蔵バッテリーパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置を行ってください。なお、取り外した内蔵バッテリーパックは乾電池などの電池と混ざないようにしてください。
- ▶ 内蔵バッテリーパック（リチウムイオン電池）は、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします（→ P.174）。

内蔵バッテリーパックの交換方法

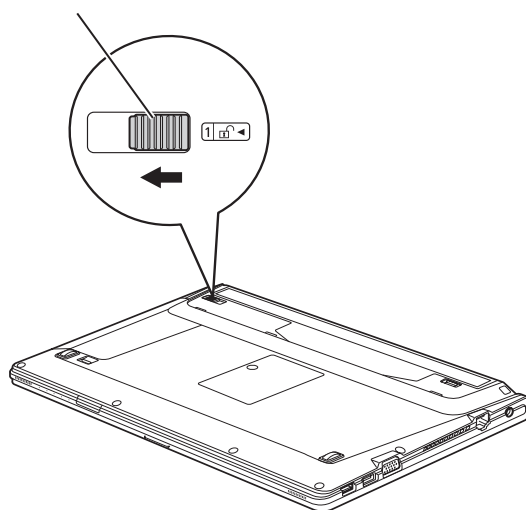
電源を切って作業しますので、この内容を印刷しておくことをお勧めします。

- 1 パソコンの電源を切り（→ P.173）、AC アダプタを取り外します。
- 2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。
- 3 バッテリーカバーを取り外します。
①くぼみに指をかけて、②バッテリーカバーを斜めに持ち上げて取り外します。



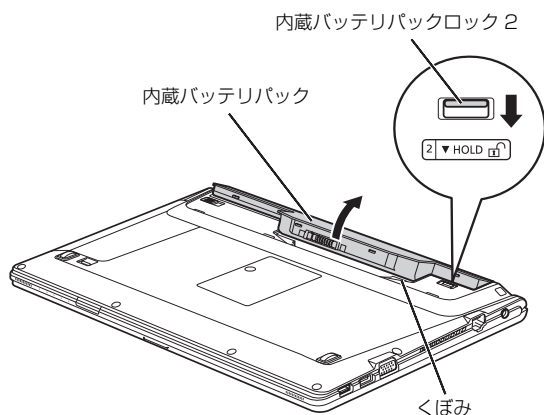
- 4 内蔵バッテリーパックロック 1 を解除します。
内蔵バッテリーパックロック 1 を矢印の方向にスライドさせます。

内蔵バッテリー
パックロック 1



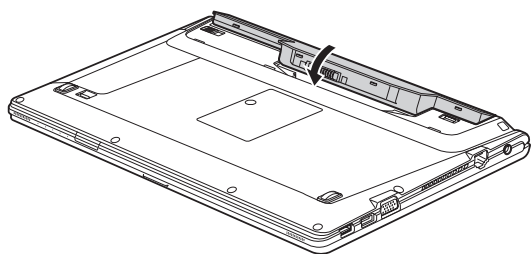
5 内蔵バッテリーパックを取り外します。

①内蔵バッテリーパックロック2を矢印の方向にスライドさせたまま、②くぼみに指をかけて、③内蔵バッテリーパックを斜めに持ち上げて取り外します。



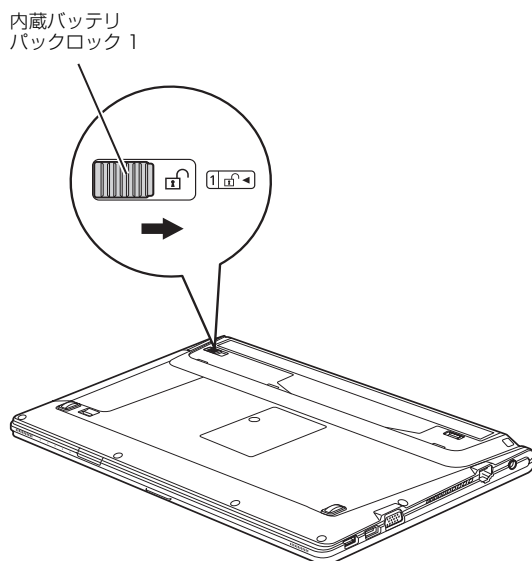
6 新しい内蔵バッテリーパックを取り付けます。

内蔵バッテリーパックロック1が解除されていることを確認し、新しい内蔵バッテリーパックのふちとパソコン本体のふちを合わせ、しっかりとはめます。

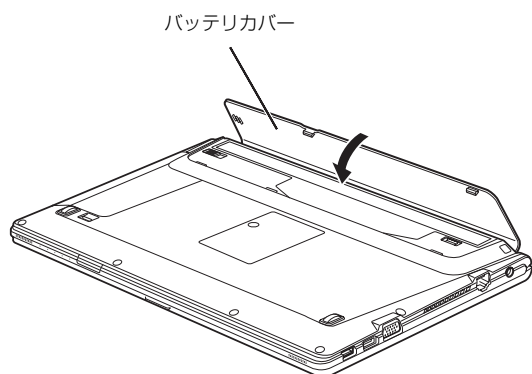


7 内蔵バッテリーパックロック1をロックします。

内蔵バッテリーパックロック1を矢印の方向にスライドさせます。



8 バッテリーカバーを取り付けます。



■増設用内蔵バッテリーユニットを交換する

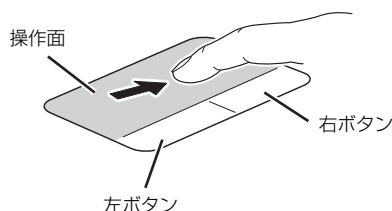
増設用内蔵バッテリーユニットの交換方法については、「モバイル・マルチベイユニット」(→ P.64)をご覧ください。

フラットポイント

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインターを動かしたり、画面やウィンドウの表示を切り替えたりすることができるポインティングデバイスです。

操作面を指先でなぞることで、画面上のマウスポインターを移動させることができます。

左右のボタンは、それぞれマウスの左右のボタンに相当し、その機能はアプリにより異なります。



(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

フラットポイントをお使いになるうえでの注意

- フラットポイントは操作面表面の結露、湿気などにより誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいは操作面の表面が汚れている場合は、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。このような場合は、電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- フラットポイントの操作面で操作するときは、指の先が接触するようにしてください。指の腹を押さえるように操作すると、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。



- ▶ フラットポイントの詳しい設定方法については、「使いこなすために」－「フラットポイント」(→ P.113) をご覧ください。

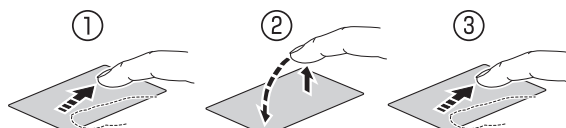
フラットポイントの基本的な使い方

ここでは、フラットポイントの機能について説明しています。

■マウスポインター(マウスカーソル)を移動させる

操作面を指先でなぞります。

指が操作面の端まできたら、いったん操作面から指を離して、もう一度別の位置からなぞってください。指を離してもマウスポインター(マウスカーソル)は動きません。



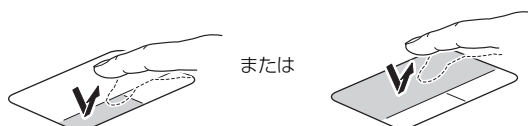
指を離している間はマウスポインターは動きません。



- ▶ ボタン部分を指先でなぞることでマウスポインターを移動させることもできます。

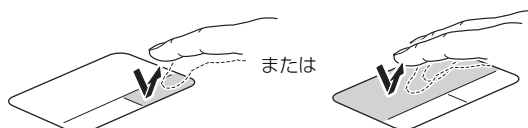
■クリック

左ボタンを1回押してすぐに離すか、操作面を1回軽くたたく(タップする)ことです。



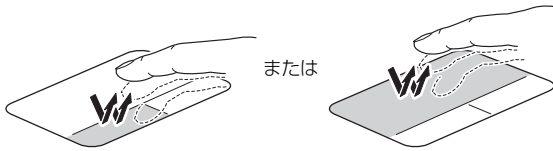
■右クリック

右ボタンを1回押してすぐに離すか、操作面を2本指で1回軽くたたく(タップする)ことを「右クリック」といいます。



■ダブルクリック

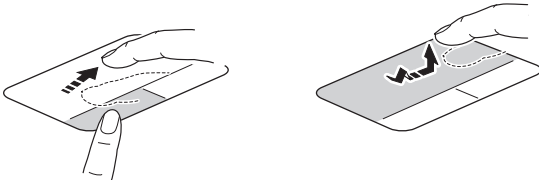
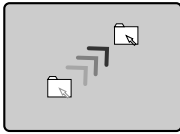
左ボタンを2回連続して押すか、操作面を2回連続して軽くたたく（タップする）ことです。



■ドラッグ

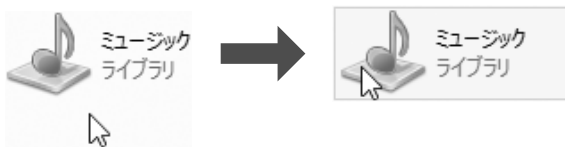
アイコンやウィンドウを、マウスポインター（)で掴むようにして移動させることです。

左ボタンを押したまま操作面をなぞり、希望の位置で指を離します。または、操作面を素早く2回タップし、2回目のタップのときに指を操作面上から離さずになぞり、希望の位置で指を離します。



■ポイント

マウスポインター（)をアイコンやメニューなどに合わせることです。ポイントすると、項目が反転表示されたり、項目の説明が表示されたりします。



フラットポイントの設定を変更する方法など、詳しくは「使いこなすために」－「フラットポイント」（→P.113）をご覧ください。

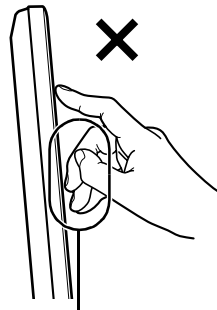
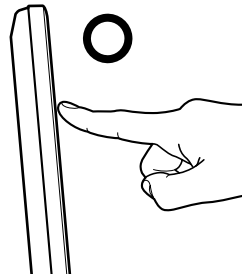
タッチ機能

タッチパネル搭載機種のみ

このパソコンは、液晶ディスプレイ（タッチパネル）を直接指先でタッチして操作できるタッチ機能を搭載しています。画面を指でタッチするだけで操作することができます。画面上で直接操作できるので、直感的でスピーディな操作が可能です。

タッチ機能をお使いになるうえでの注意事項

- 液晶ディスプレイを強く押さないでください。
- 液晶ディスプレイ表面をひっかいたり、金属製のものや固いもので突いたりしないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- 濡れた手や、指先が汚れた状態で操作しないでください。
- アプリによっては、タッチ機能の反応が悪かったり、タッチ機能に対応していない場合があります。
- つめや手袋をした指では操作できません。必ず、指の皮膚の部分が画面に触れるようにしてください。
- 指のはらでタッチしたり、タッチしない指や手のひらをディスプレイに近づけすぎないでください。タッチした位置が正しく認識されないことがあります。



タッチしない指がディスプレイに触れていたり近づいていたりする



タッチしない指や手のひらがディスプレイに近づいている

（イラストは機種や状況により異なります）

- 液晶ディスプレイ（タッチパネル）に、ほこりや皮脂が付着していると、タッチ機能が正しく動作しない場合があります。液晶ディスプレイは、ときどき清掃してください（→P.71）。

Point

- ▶「タブレット PC 設定」ウィンドウの「画面」タブにある「調整」をクリックして表示される画面で、タッチする位置を調整しないでください。調整してしまった場合は、ご購入時の設定に戻してください。ご購入時の設定に戻す方法は、次のとおりです。
 1. 画面左下隅のを右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
※ スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせるとが表示されます。
 2. 「ハードウェアとサウンド」▶「タブレット PC 設定」の順にクリックします。
「タブレット PC 設定」ウィンドウが表示されます。
 3. 「画面」タブで、「リセット」をクリックします。
ご購入時の設定に戻ります。
- ▶ このパソコンのタッチパネルでは、複数箇所を同時にタッチして操作することができます。

タッチ機能を使う

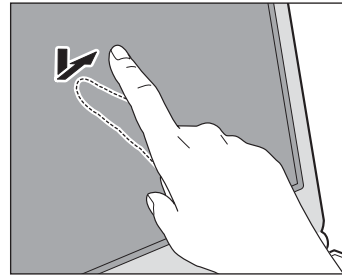
画面上でタップ（マウスのクリックと同様の操作）をする場合は、指で操作します。

マウスポインターは、画面上をなぞった方向に移動します。

タッチ機能を使った主な操作は次のとおりです。

■タップ

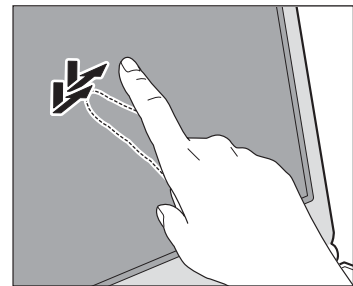
画面を 1 回軽くたたきます。



（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

■ダブルタップ

画面を 2 回連続して軽くたたきます。

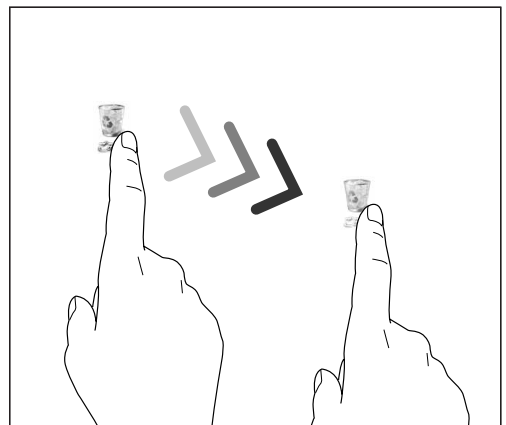


■右タップ

1 本指でデスクトップ画面を触れた状態でしばらく待ち、四角い枠が表示されたら画面から指を離します。

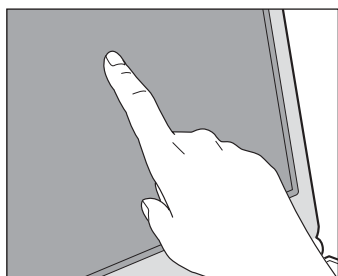
■ドラッグ

画面に指を軽く押しつけながらずらします。



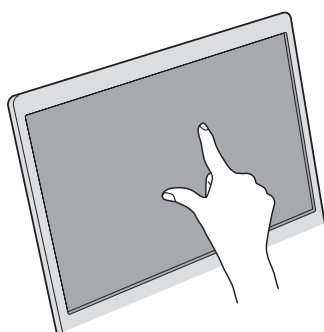
■ポイント

画面に軽く触れます。

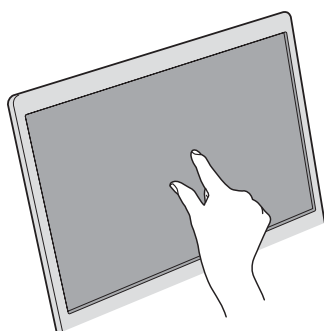


■拡大／縮小

2本指を画面に軽く押しつけながら指をひらいたりつまんだりします。ひらくと画像やウィンドウ内の画面が拡大表示され、つまむと縮小表示されます。



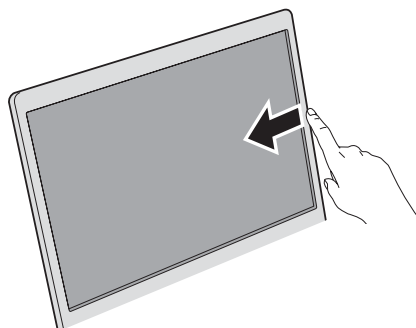
画面の様子



画面の様子

■「チャーム」を表示する

1 本指を画面右端の外から中へスワイプすると「チャーム」が表示されます。

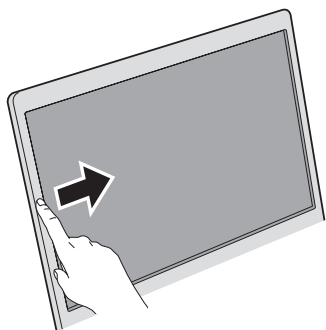


チャーム



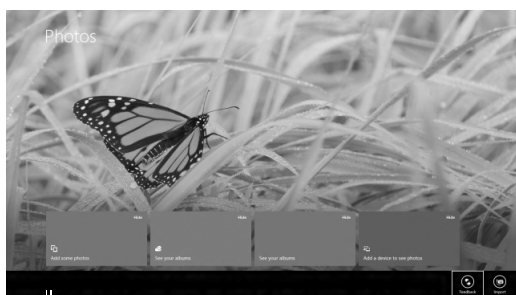
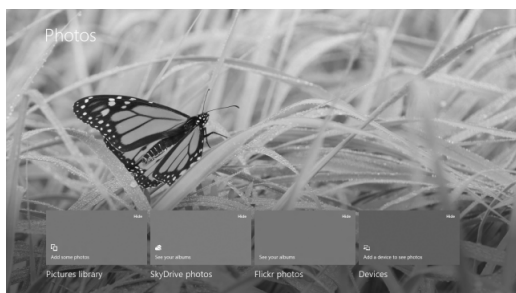
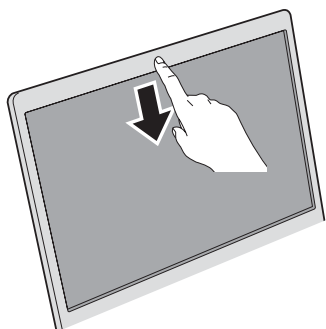
■アプリを切り替える

1 本指を画面左端の外から中へスワイプすると起動中のアプリが切り替わります。



■「アプリバー」を表示する

1 本指を画面上端または下端の外から中へスワイプすると「アプリバー」が表示されます。



アプリバー

音量

次の方法で音量を調節できます。

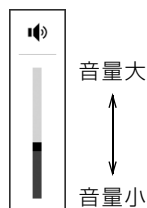
重要

- ▶ 音量はスピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定・調節してください。スピーカーが故障する原因となる場合があります。
- ▶ 「ステータスパネルスイッチ」の設定で、スピーカーを「ミュート」に設定している場合、省電力モードに移行すると音声の再生や録音ができなくなります。
設定の変更については、「ステータスパネルスイッチ」(→ P.82) をご覧ください。

■画面上で調節する(タッチパネル搭載機種のみ)

●音量を調節する

- 1 画面右端の外から中へスワイプし、「チャーム」を表示します。
『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』
- 2 (設定) をタップします。
- 3 をタップします。
- 4 スライダーを上下に動かします。

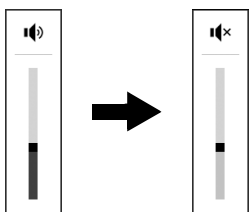


(イラストは機種や状況により異なります)

●音を消す

- 1 画面右端の外から中へスワイプし、「チャーム」を表示します。
『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』
- 2 (設定) をタップします。
- 3 をタップします。

4 スライダーの上にある をタップします。

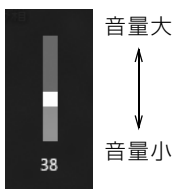


(イラストは機種や状況により異なります)

もう一度タップすると音が出るようになります。
音量はデスクトップ画面右下の通知領域にある  でも調節できます。

■キーボードで調節する

- 音量を大きくする
 を押しながら、 を押します。
- 音量を小さくする
 を押しながら、 を押します。



(イラストは機種や状況により異なります)

- 音を消す
 を押しながら、 を押します。



(イラストは機種や状況により異なります)

もう一度押すと、音が出るようになります。
音量はデスクトップ画面右下の通知領域にある  でも調節できます。

Point

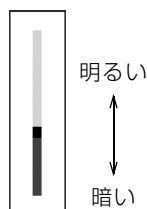
- ▶ フラットポイントを使って、音量を調節することもできます。詳しくは、「使いこなすために」－「フラットポイント」(→ P.113) をご覧ください。

画面の明るさ

次の方法で画面の明るさを調節できます。

■画面上で調節する(タッチパネル搭載機種のみ)

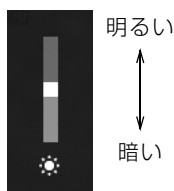
- 1 画面右端の外から中へスワイプし、「チャーム」を表示します。
 『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』
- 2  (設定) をタップします。
- 3 「設定チャーム」で「ディスプレイ」をタップします。
- 4 スライダーを上下に動かします。



(イラストは機種や状況により異なります)

■キーボードで調節する

- 明るくする
 を押しながら、 を押します。
- 暗くする
 を押しながら、 を押します。



(イラストは機種や状況により異なります)

Point

▶ 明るさの設定について

- ・パソコンを再起動したり、スリープから復帰（レジューム）したり、AC アダプタの接続や取り外しを行った直後は、キーボードで明るさを変更しても有効にならないことがあります。このような場合は、しばらく時間をおいてから変更してください。
- ・ご購入時は、ACアダプタを接続している場合は明るく、バッテリーで使っている場合は少し暗くなるように設定されています。
- ・明るさは、ACアダプタを接続している場合と、バッテリーで使っている場合とで別々に設定できます。設定を変更する場合は、次の手順で操作してください。

1. 画面左下隅の  を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

※ スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると  が表示されます。

2. 「システムとセキュリティ」▶「電源オプション」の順にクリックします。
3. 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をクリックします。
4. 明るさを変更し、「変更の保存」をクリックします。

CD/DVD ドライブ

このパソコンでは、CD や DVD、Blu-ray Disc (Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ) などのディスクの再生や読み出し／書き込みを行うことができます。

著作物の録音や複製に関する注意

- 音楽や画像などの著作物は、著作権法で保護されています。録音・複製（データ形式の変換を含む）などは、お客様個人またはご家庭内で楽しむ目的のみ、行うことができます。音楽や画像をネットワーク上で配信するなど、上記目的を超える場合は、著作権者の許諾が必要です。
- 著作権を保護されたディスクはコピーできません。ディスクの種類によっては、著作権保護のため、コピープロテクトがかかっている場合があります。このパソコンでは、著作権保護として、デスクランブル機能および相互認証機能が用意されています。著作権を保護されたデータなどをコピーしても、再生できません。

ディスクをお使いになるうえでの注意

- ディスクの再生中や書き込み／書き換え中は、振動や衝撃を与えないでください。
- ディスクに頻繁にアクセスしたり、ディスクに書き込み／書き換えをする場合や、長時間再生する場合は、パソコンに AC アダプタを取り付けることをお勧めします。
- Blu-ray Disc をご覧になるとき（Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）は、パソコンに AC アダプタを必ず取り付けてください。
- ケースから取り出すときやパソコンにセットするときなど、ディスクは両面とも触らないようにしてください。
- ディスクは両面とも指紋やほこり、傷などを付けないでください。
- ディスクは両面ともラベルを貼らないでください。
- ディスクの表面にボールペンや鉛筆などの硬いもので字を書くと、ディスクに傷が付くおそれがあります。

- 汚れたり水滴が付いたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- シリコンクロスは使用しないでください。
- ヘアードライヤーなどで乾燥させたり、自然乾燥をさせないでください。
- ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤などで拭かないでください。
- 使わないときは、ケースに入れて保管してください。
- 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- 高温・低温の場所に保管しないでください。
- スーパーマルチドライブをお使いの場合、アプリが Blu-ray Disc に対応していても、Blu-ray Disc はお使いになれません。

ディスクを再生するうえでの注意

- ディスクの再生直後、数秒間画面が正常に表示されないことがあります。
- デジタル放送を録画した DVD を初めて「WinDVD」で再生するときは、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されます。必ず「はい」をクリックしてください。
- ディスクによっては、正常に再生されなかったり、「WinDVD」の一部の機能が使用できない場合があります。
- 再生するディスクのマニュアルも必ずご覧ください。
- 各ボタンを操作する間隔は、1 秒以上あけてください。
- 再生するディスクによっては、コマ落ちする場合があります。
- ディスクを再生する前に、他のアプリは終了させてください。
- ディスクをパソコンに接続されたデジタルテレビでご覧になる場合、お使いのデジタルテレビによってはテレビの解像度が液晶ディスプレイよりも低い場合、鮮明に表示できない場合があります。
- 著作権保護されたコンテンツ（一般的な市販の Blu-ray Disc のタイトルや Blu-ray Disc に録画したデジタル放送、AVCREC 形式で DVD に録画したデジタル放送など）は、アナログディスプレイでは再生できません。



- ▶ DTS で記録された DVD-VIDEO は、このパソコンでは音声再生ができません。

■「WinDVD」の更新をする

このパソコンには、ディスクを再生するアプリ「WinDVD」が用意されています。「WinDVD」は常に最新の状態で更新してお使いください。

「WinDVD」を更新するには、サポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) の「ダウンロード」からアップデートプログラム（随時提供）をダウンロードして、インストールしてください。

インストール手順については、アップデートプログラムに添付されている「Readme.txt」をご覧ください。

■AACs キーの更新をする（Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）

Blu-ray Disc には、著作権保護技術のキーが働いています。

AACs キーは常に最新の状態で更新してお使いください。

更新方法については、下記の URL をご覧ください。

<http://www.fmworld.net/aacs/lifebook/>

ディスクに書き込み／書き換えをするうえでの注意

- ディスクに書き込み／書き換えを行うときは、30℃以上の環境を避けてください。ディスクの書き込み／書き換えが正常に行われないことがあります。
- 書き込み／書き換え中にディスク面に傷を検出した場合、書き込み／書き換えが中断されることがあります。
- ディスクへ正常に書き込み／書き換えができない場合は、書き込み／書き換え速度を落とすことで、できる場合があります。
- DVD プレーヤーで映像を見る目的で、DVD に書き込みをする場合、画像の解像度は 720 × 480 に設定することをお勧めします。
その他の解像度で作成されたファイルを DVD に保存すると、一部の DVD プレーヤーで再生できない場合があります。
- 「Roxio Creator」では DVD-RAM への書き込み／書き換えは行えません。

■書き込み／書き換えを行う前に

ディスクに、書き込み／書き換えを行う前に、次の操作をしてください。

- 他のアプリは終了させてください。
- ディスクに書き込み／書き換え中にスリープや休止状態にならないように、「電源オプション」ウィンドウで「コンピューターをスリープ状態にする」を、「なし」に設定してください。
設定の変更については、「スリープ／休止状態」(→ P.147)をご覧ください。
- ディスクに書き込み／書き換え中にディスプレイがスクリーンセーバーに移行しないように次の設定をしてください。

1. スタート画面で「デスクトップ」をクリックします。



『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』

2. デスクトップ画面で何もないところを右クリックします。
3. 表示されるメニューから、「個人設定」をクリックします。
4. 「スクリーンセーバー」をクリックします。
5. 「スクリーンセーバー」の▼をクリックし、一覧から「(なし)」をクリックします。
6. 「OK」をクリックします。
7.  をクリックします。

■書き込み／書き換え中にはいけない操作

ディスクに書き込み／書き換え中は、次の操作を行わないでください。

書き込み／書き換えに失敗したり、時間がかかる場合があります。

- Windows を終了する
- パソコンの電源を切る
- パソコンをスリープや休止状態にする
- 電源ボタンを押す
- CD/DVD 取り出しボタンを押す
- (Ctrl)** と **(Alt)** を押しながら **(Delete)** を押す
- ディスクを操作するボタンを押す
- 他のアプリを起動または操作する
- LAN などによるデータ転送をする

■一度書き込み／書き換えしたディスクをお使いになるときは

一度書き込み／書き換えしたディスクをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

- パケットライト方式でデータが書き込まれたディスクは、このパソコンでは読み込むことはできません。これらのディスクの読み出しや書き込みを行う方法については、ディスクを作成するときに使用したアプリのマニュアルをご覧ください。
- 一度フォーマットや書き込みをした後は、同じアプリを使って書き換え、追記を行ってください。
- DVD+RW や DVD-RW、CD-RW、BD-RE、BD-RE DL、BD-RE XL (BD-RE、BD-RE DL、BD-RE XL は Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ) に保存したファイルは、そのまま編集や更新をすることはできません。編集や更新をする場合は、次の手順で操作してください。
 1. デスクトップ画面でハードディスクにファイルをコピーします。
 2. ファイルが読み取り専用になっていたら、「読み取り専用」の属性を外します。
「読み取り専用」の属性を外すには、対象のファイルを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。
プロパティウィンドウで「全般」タブをクリックし、「読み取り専用」の ☒ をクリックして ☐ にし、「OK」をクリックします。
 3. ファイルの編集や更新をし、再度ディスクへ書き込みを行います。
- このパソコンで書き込みをしたディスクは、別のパソコンやアプリで利用できない場合があります。

使えるディスク／使えないディスク

■使えるディスク

このパソコンでお使いになることのできるディスクは、次のとおりです。



- ▶ お使いになるアプリによって使えるディスクは異なります。ディスクをお使いになるアプリのヘルプをご覧ください。

○：対応 ×：非対応

	読み出し (再生)	書き込み	書き換え
CD-ROM、音楽 CD、 ビデオ CD、フォト CD	○	×	×
CD-R	○	○	×
CD-RW	○	○[注1]	○[注1]
DVD-Audio	×	×	×
DVD-ROM、 DVD-VIDEO	○[注2]	×	×
DVD-R (4.7GB)	○	○	×
DVD-RW	○	○[注1]	○[注1]
DVD-R DL (8.5GB)	○	○	×
DVD+R (4.7GB)	○	○	×
DVD+RW (4.7GB)	○	○[注1]	○[注1]
DVD+R DL (8.5GB)	○	○	×
DVD-RAM (2.6GB・5.2GB)	×	×	×
DVD-RAM (4.7GB・9.4GB)	○	○[注3]	○[注3]
BD-ROM [注4]	○[注5]	×	×
BD-R (25GB) [注4]	○	○	×
BD-R DL (50GB) [注4]	○	○	×
BD-RE (25GB) [注4][注6]	○	○ [注1] [注3]	○ [注1] [注3]
BD-RE DL (50GB) [注4][注6]	○	○ [注1] [注3]	○ [注1] [注3]
BD-R LTH TYPE [注4]	○	○	×
BD-R XL (100GB) [注4]	○	○	×
BD-RE XL (100GB) [注4]	○	○ [注1] [注3]	○ [注1] [注3]

- 注1 次のディスクに書き込んだデータを削除するには、データをすべて消去する必要があります。
- ・ CD-RW、DVD-RW、DVD+RW に書き込んだデータ
 - ・ BD-RE や BD-RE DL、BD-RE XL にライティングアプリで書き込んだデータ
- 注2 DVD-VIDEO は、リージョン（地域）コードに [2] が含まれているか、もしくは [ALL] のものを再生できます。
- 注3 購入した DVD-RAM や、Blu-ray Disc (BD-RE や BD-RE DL、BD-RE XL) を使い始めるには、フォーマットを行う必要があります。ディスクのフォーマットについては、「ディスクをフォーマットする」(→ P.61) をご覧ください。
- 注4 Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ
- 注5 Blu-ray Disc は、リージョン（地域）コードに [A] が含まれているか、もしくは [FREE] のものを再生できます。
- 注6 BD-RE Ver1.0 には対応しておりません。

■推奨ディスク

次のディスクの使用をお勧めします。

次の表に記載のないディスクをお使いになると、書き込み／書き換えが正常に行えない場合や、再生できない場合があります。

なお、それぞれのディスクの詳しい仕様については、各メーカーのホームページなどをご覧ください。

(2014 年 10 月現在)

	メーカー	メーカー型名
CD-R	太陽誘電 (That's)	CDR80WTY10SV、 CDR80WPY10BV
CD-RW	Verbatim (バーベイトム)	SW80QU5V1、 SW80QM5V1、 SW80QP5V1、 SW80EU5V1
DVD-R	太陽誘電 (That's)	DR-47WTY50BNT、 DR-47WWY10SNT、 DR-47WWY50BN、 DVD-R47XY10P
	Verbatim (バーベイトム)	DHR47J10V1、 DHR47JM10V1、 DHR47JP10V1
DVD-R DL	Verbatim (バーベイトム)	DHR85HP5V1、 DHR85HP10V1
DVD-RW	Verbatim (バーベイトム)	DHW47Y10V1
DVD+R	ソニー	10DPR47HPSH
DVD+R DL	Verbatim (バーベイトム)	DTR85HP5V1

	メーカー	メーカー型名
DVD+RW	ソニー	5DPW47HPS
DVD-RAM	パナソニック	LM-HC47L (4.7GB、カートリッジ無)、 LM-HC47LW5 (4.7GB、カートリッジ無)、 LM-HB94L (9.4GB、カートリッジ有、取り出し可)
BD-R [注]	パナソニック	LM-BR25LDH5 (25GB)、 LM-BR25MDH5 (25GB)
BD-R DL [注]	パナソニック	LM-BR50LDH5 (50GB)、 LM-BR50MDH (50GB)
BD-RE [注]	パナソニック	LM-BE25DH5A (25GB)
BD-RE DL [注]	パナソニック	LM-BE50DHA (50GB)

注：Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ

■使えないディスク

次のディスクはお使いにならないでください。

- 円形以外の異形ディスク（星型やカード型などの変形ディスク）

このパソコンは円形のディスクのみお使いになれます。

円形以外の異形ディスクをお使いになると故障する場合があります。

異形ディスクをお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。

- 規格外の厚さの DVD 媒体

DVD 規格では媒体の厚さを 1.14mm ～ 1.5mm と規定しています。

記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。

規格外の DVD 媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。

- 規格外の厚さの Blu-ray 媒体 (Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ)

規格では媒体の厚さを 1.15mm ～ 1.3mm と規定しています。

記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。

規格外の Blu-ray 媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。

- 中心に穴のあいていないディスク
- 傷またはヒビの入ったディスク、ゆがんだディスク
および重心の偏ったディスク
お使いになると、ドライブ内部で破損する場合がありますので、お使いにならないでください。
- カートリッジに入れた状態で使用するタイプの DVD-RAM (Type1)
DVD-RAM は、カートリッジなしタイプまたはカートリッジからディスクが取り出せるタイプをお使いください。なお、カートリッジに入れた状態で使用するタイプの DVD-RAM を、カートリッジから無理に取り出してお使いにならないでください。
- BD-RE Ver1.0規格のBlu-ray Disc (Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ)
- 市販のクリーニングディスク、レンズクリーナー
お手入れのときにお使いになると、逆にゴミを集めてしまい、CD/DVD ドライブのレンズが汚れてしまう場合がありますので、お使いにならないでください。

ディスクをパソコンにセットする／取り出す

ディスクのセット／取り出しは、パソコンの電源が入っている状態のときのみ可能です。

⚠ 注意



- ディスクをセットまたは取り出す場合は、トレイに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。



- 落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源ケーブルをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。落雷による感電、火災の原因となります。けがの原因となることがあります。

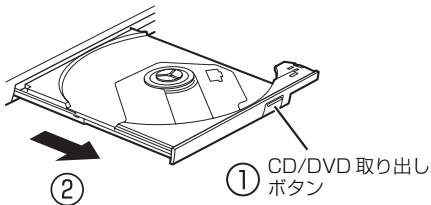
■ディスクをセットする

重要

- ▶ ディスクをセットするときの注意
 - ・ ディスク読み取りヘッドが移動する音がすることがあります。
 - ・ ディスクに頻繁にアクセスしたり、書き込み、書き換えをしたり、DVD-VIDEO を再生したりする場合は、パソコンに AC アダプタを接続することをお勧めします。
- ▶ ディスク使用時の注意
ディスクはデータの読み出しをするときに高速回転するため、使用時には振動や風切音がすることがあります。

1 トレーを出します。

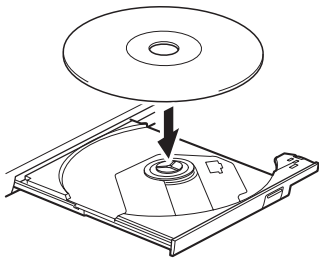
① CD/DVD 取り出しボタンを押すと、トレーが少し飛び出します。②トレーを静かに引き出します。ディスクアクセスランプ点灯中でも操作が可能です。



(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

2 トレーを支えながら、ディスクをセットします。

ディスクのレーベル面を上（両面タイプの DVD-RAM の場合は、データの読み取り／書き込みを行う面を下）にして、トレー中央の突起にディスクの穴を合わせ、パチッと音がするまでしっかりとセットします。



重要

- ▶ ディスクはパチッと音がするまでしっかりとセットしてください。
ディスクの穴を突起にきちんとはめこまないと、ディスクがドライブ内部で外れて、読み取りができなかったり、取り出せなくなったりすることがあります。また、トレーやドライブ内部およびディスクを破損する原因となります。

3 カチッと音がするまで、トレーを静かに押し込みます。

ディスクをセットしてからパソコンで使えるようになるまで、約 30 秒かかります。

デスクトップ画面の「PC」ウィンドウの CD/DVD ドライブのアイコンがディスクのアイコンに変わったことを確認してから次の操作を行ってください。

ディスクが認識される前に次の操作をすると、ディスクが自動で取り出される場合があります。

■ディスクを取り出す

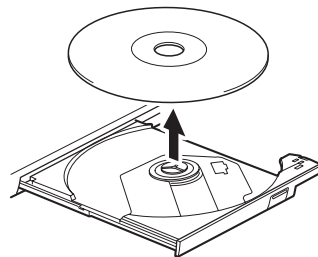
1 ディスクを利用しているアプリがあれば終了します。また、ディスク内のファイルを開いている場合はファイルを閉じてください。

2 トレーを出します。

① CD/DVD 取り出しボタンを押すと、トレーが少し飛び出します。②トレーを静かに引き出します。ディスクアクセスランプ点灯中でも操作が可能です。

3 トレーを支えながら、ディスクを取り出します。

トレー中央の突起を押さえながら、ディスクがパソコン本体にぶつからないように、ディスクのふちを持ち上げてください。



4 カチッと音がするまで、トレーを静かに押し込みます。

ディスクが取り出せなかった場合は、「富士通アドバイザー」の「トラブル解決」から「CD/DVD のトラブル」をご覧ください。

ディスクをフォーマットする

次のディスクはお使いになる前にこのパソコンで読み書きできるようにするフォーマット（初期化）を行う必要があります。9.4GB の両面タイプの DVD-RAM については、片面ごとにフォーマットしてください。

●DVD-RAM

●BD-RE、BD-RE DL、BD-RE XL（Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）

ここでは、特定のアプリを使用せずに、「PC」ウィンドウから DVD-RAM などに直接データを書き込んで使用する場合のフォーマットの方法を説明します。

特定のアプリを使用して、データの書き込み、書き換えをする場合は、お使いになるアプリのマニュアルやヘルプをご覧ください。フォーマット形式を選択してください。

⚠ 注意

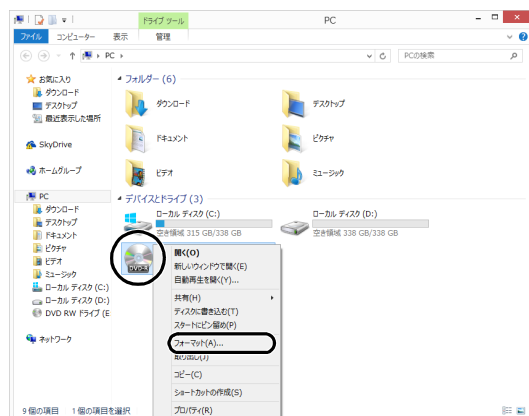


- DVD-RAM ディスクや Blu-ray Disc をセットまたは取り出すときに、トレイに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

重要

- ▶ リカバリディスクセットを作成する場合は、Windows の機能でフォーマットをしないでください。ご利用方法は、「リカバリディスクセットを作っておく」（→ P.170）をご覧ください。

- 1 フォーマットするディスクをセットします。
- 2 デスクトップ画面の （PC）をダブルクリックします。
「PC」ウィンドウが表示されます。
- 3 ディスクのアイコンを右クリックし、表示されるメニューから、「フォーマット」をクリックします。



（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

- 4 「ファイルシステム」の ▼ をクリックして、フォーマット種別を選びます。



■DVD-RAM の場合

「UDF 2.00」を選びます。

■Blu-ray Disc の場合（Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）

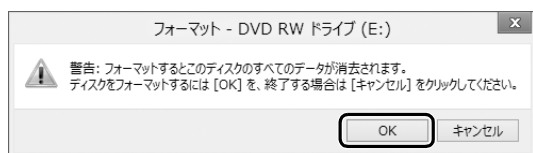
「UDF 2.50」を選びます。

Point

- ▶「ボリュームラベル」に入力した文字列がディスクの名前になります。ディスクに好きな名前を付けることができます。
- ▶「クイックフォーマット」の☒を☐にすると、フォーマットに時間がかかる場合があります。

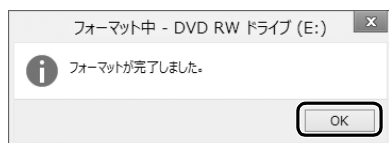
5 「開始」をクリックします。

6 フォーマットを確認するメッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。



フォーマットが始まります。

7 「フォーマットが終了しました」と表示されたら、「OK」をクリックします。



8 「閉じる」をクリックします。

メモリーカード

ダイレクト・メモリースロットは、デジタルカメラなどに使われているメモリーカードに直接データを読み書きするためのスロットです。

お使いになるうえでの注意

●メモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリーカードを取り扱う前は、一度アルミサッシやドアノブなどの金属に手を触れて、静電気を放電してください。

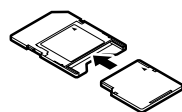
●次のメモリーカードをお使いになる場合はアダプターが必要です。

・miniSDカード、microSDカード、microSDHCカード、microSDXCカード

必ずアダプターに差し込んでからお使いください。そのままダイレクト・メモリースロットに挿入すると、メモリーカードが取り出せなくなります。

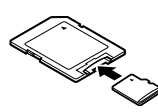
また、メモリーカードを取り出す場合は、必ずアダプターごとに取り出してください。アダプターだけをダイレクト・メモリースロットに残すと、故障の原因となります。

miniSD カードアダプター



miniSD カード

microSD カードアダプター

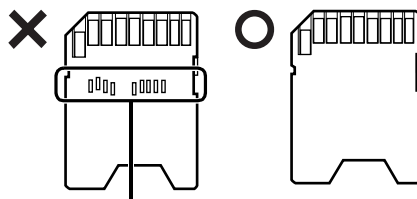


microSD カード
microSDHC カード
microSDXC カード

●端子が露出しているminiSDカードアダプターは使用できません。

ダイレクト・メモリースロット内部の端子が接触し、故障の原因となります。

miniSD カードのアダプターは、裏面中央部から端子が露出していない製品をご利用ください。



端子が露出している

UHS-II 対応の SDXC カードも裏面中央部から端子が露出していますが、このカードはそのままご利用ください。

- Windows の ReadyBoost には対応していません。
- メモリーカードや記録されているデータの取り扱いについては、メモリーカードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- メモリーカードをデジタルカメラなどで使っている場合は、お使いの機器でフォーマットしてください。このパソコンでフォーマットすると、デジタルカメラなどでメモリーカードが使えなくなります。デジタルカメラなどでのフォーマットの方法については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

使えるメモリーカード

ダイレクト・メモリスロットが対応しているメモリーカードと、その最大容量は次のとおりです。ただし、すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

[注]	・ SD メモリーカード (2GB) ・ miniSD カード (2GB) ・ microSD カード (2GB) ・ SDHC カード (32GB) ・ microSDHC カード (32GB) ・ SDXC カード (128GB) ・ microSDXC カード (64GB)
---	--

注：・ マルチメディアカード、セキュアマルチメディアカードには対応していません。

- ・ SDIO カードには対応していません。
- ・ 著作権保護機能（CPRM [シーピーアールエム]）に対応しています。

メモリーカードを差し込む／取り出す

■メモリーカードを差し込む

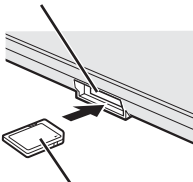
注意

- メモリーカードを差し込む場合は、ダイレクト・メモリスロットに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

1 メモリーカードをダイレクト・メモリスロットに差し込みます。

アダプターが必要なメモリーカードは、必ずアダプターに差し込んだ状態でセットしてください。

ダイレクト・メモリスロット



SD メモリーカード

(イラストは機種や状況により異なります)

※ 製品名のある面を上側にして、まっすぐに差し込みます。

重要

- ▶ 書き込み禁止の状態のメモリーカードにファイルの書き込みや削除を行った場合、エラーメッセージの表示に時間がかかることや、メモリーカードの内容の一部が正しく表示されないことがあります。その場合は、書き込み禁止の状態を解除し、差し込み直してください。

■メモリーカードを取り出す

⚠ 注意



- メモリーカードを取り出す場合は、ダイレクト・メモリスロットに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

重要

- ▶ ダイレクト・メモリスロットからメモリーカードを取り出す場合は、次のことに注意してください。
 - ・メモリーカードを強く押さないでください。指を離したときメモリーカードが飛び出し、紛失したり、衝撃で破損したりするおそれがあります。
 - ・メモリーカードを引き抜くときは、ひねったり斜めに引いたりして、メモリーカードに無理な力がかからないようにしてください。
 - ・ダイレクト・メモリスロットを人に向けて、顔を近づけたりしないでください。メモリーカードが飛び出して、思わぬけがをするおそれがあります。
 - ・必ずメモリーカードを一度押して、少し飛び出した状態にしてから引き抜くようにしてください。そのまま引き抜くと誤動作の原因になります。

1 デスクトップ画面右下の通知領域にある  をクリックし、表示された  (ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す) をクリックします。メモリーカードによっては、 (ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す) が表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、メモリーカードのマニュアルをご覧ください。

2 「nnn の取り出し」をクリックします。
nnn にはお使いのメモリーカードの名称が表示されます。

3 「nnn はコンピューターから安全に取り外すことができます。」というメッセージが表示されたら、メモリーカードをパソコンから取り出します。メモリーカードを一度押すと、少し飛び出します。飛び出したメモリーカードを引き抜きます。

モバイル・マルチベイユニット

モバイル・マルチベイユニットをお使いになるうえで注意していただきたいことや、モバイル・マルチベイユニットの取り外し／取り付け方法について説明します。

モバイル・マルチベイユニットをお使いになるうえでの注意

重要

- ▶ パソコンをお使いになるときは、必ずモバイル・マルチベイにユニットまたはモバイル・マルチベイ用カバーを取り付けてください。何も取り付けしていない状態でお使いになると、故障の原因となります。

- 内蔵スーパーマルチドライブユニットや内蔵 Blu-Ray Disk ドライブユニットは、ディスクが高速で回転する非常にデリケートな装置です。ディスクにアクセスしている状態で、パソコン本体を持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。ユニットが破損したりデータが壊れたりするおそれがあります。
- 極端に高温、低温の場所、温度変化の激しい場所での保管は避けてください。
- 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないようにしてください。
- 衝撃や振動の加わる場所での保管は避けてください。
- 湿気やほこりの多い場所での使用は避けてください。
- 内部に液体や金属など異物が入った状態で使用しないでください。もし、何か異物が入ったときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元へご連絡ください。
- 汚れは、柔らかい布でから拭きするか、柔らかい布に水または水で薄めた中性洗剤を含ませて軽く拭いてください。ベンジンやシンナーなど揮発性のものは避けてください。
- 分解したり、解体したりしないでください。
- 磁石や磁界を発生する装置の近くでの使用や保管は避けてください。

使えるモバイル・マルチベイユニット

- 内蔵 Blu-ray Disc ドライブユニット [注]
- 内蔵スーパーマルチドライブユニット
- 増設用内蔵バッテリーユニット (別売)
- 増設用内蔵ハードディスクユニット (別売)
- モバイル・マルチベイ用カバー

モバイル・マルチベイユニットについて、詳しくは富士通ショッピングサイト「WEB MART」の「周辺/ソフト」(<http://www.fujitsu-webmart.com/>)をご覧ください。

注：カスタムメイド選択時のみ

モバイル・マルチベイユニットの交換方法

電源を切って作業しますので、この内容を印刷しておくことをお勧めします。

⚠ 注意

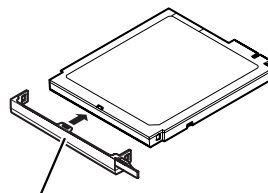
- ❌ 振動している場所や傾いたところなどの不安定な場所に置かないでください。本製品が落ちて、けがの原因となります。
- ❌ コネクタ端子に触れないでください。本製品やパソコン本体の故障の原因になることがあります。
- ❌ 本製品を調理台や加湿器のそば、ほこりの多い場所などで使用したり、置いたりしないでください。感電・火災の原因となる場合があります。
- ❌ 衝撃や振動を与えないでください。故障の原因になることがあります。

Point

- ▶ 増設用内蔵バッテリーユニットまたは増設用内蔵ハードディスクユニットの場合
お使いになる前に、増設用内蔵バッテリーユニットカバーまたは増設用内蔵ハードディスクユニットカバーを取り付けます。

カバーの溝とユニットの突起を合わせて、しっかり取り付けてください。

なお、一度取り付けたカバーは、取り外さないでください。破損するおそれがあります。

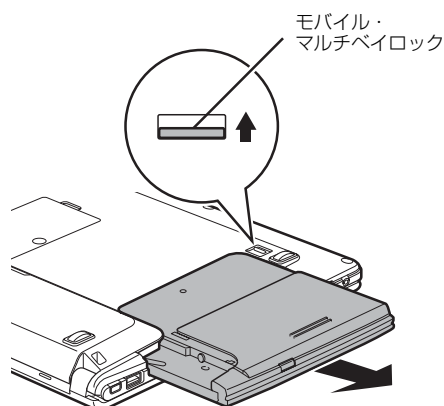


増設用内蔵バッテリーユニットカバーまたは増設用内蔵ハードディスクユニットカバー

※ カバーは2色添付されています。ご使用のパソコンに合わせて取り付けてください。

(イラストは機種や状況により異なります)

- 1 パソコンの電源を切り (→ P.173)、AC アダプタを取り外します。
- 2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。
- 3 モバイル・マルチベイユニットを取り外します。
 - ①モバイル・マルチベイロックをスライドさせ、
 - ②モバイル・マルチベイユニットを取り外します。



(イラストは機種や状況により異なります)

- 4 お使いになるモバイル・マルチベイユニットを取り付けます。
ユニットのコネクタを奥にして、突き当たるまで、しっかり押し込みます。

モバイル・マルチベイにユニットを取り付けていない状態でお使いになると、故障の原因となります。

Point

- ▶ ユニットの交換直後は「PC」ウィンドウからドライブの表示が消えることがあります。しばらくすると再表示され、使用することができます。
- ▶ 増設用内蔵バッテリーユニットを取り外した場合は、内蔵バッテリーの残量が充分にあることを確認してください。内蔵バッテリーの残量が充分でない場合は、AC アダプタを接続してください。
- ▶ 裏返したパソコンを元に戻すときは静かに戻してください。元に戻すときに強い力が加わると故障の原因となる場合があります。
- ▶ モバイル・マルチベイ用カバーを取り付けるときは、モバイル・マルチベイ用カバーを奥までしっかり押し込んでください。

フォーマットする

増設用内蔵ハードディスクユニットのみ

フォーマット（初期化）する場合は、次の手順で操作してください。

- 1 デスクトップ画面の  (PC) をダブルクリックします。
「PC」ウィンドウが表示されます。
- 2 ハードディスクのアイコンを右クリックし、表示されるメニューから、「フォーマット」をクリックします。
- 3 「ファイルシステム」で「NTFS」を選びます。

Point

- ▶ 「クイックフォーマット」のチェックをはずすと、フォーマットに時間がかかる場合があります。
- 4 「開始」をクリックします。
 - 5 フォーマットを確認するメッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。
フォーマットが始まります。
 - 6 「フォーマットが終了しました」と表示されたら、「OK」をクリックします。
 - 7 「閉じる」をクリックします。

周辺機器の取り扱い

周辺機器とは、USB マウス、プリンター、デジタルカメラ、USB メモリ、携帯オーディオプレーヤーなどのパソコン本体に接続する装置の総称です。

警告



- 周辺機器のなかには、取り付け／取り外しを行うときに、パソコンや周辺機器の電源を切り、AC アダプタや電源ケーブルをコンセントから抜いた状態で行わなければならない場合があります。必ず添付のマニュアルでご確認ください。感電の原因となります。
- 周辺機器のケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコンおよび周辺機器が故障する原因となります。

周辺機器の取り扱い上の注意

- 周辺機器の接続は、取り付ける周辺機器のマニュアルをよくご覧になり、正しく行ってください
- 弊社純正品をお使いください
弊社純正の周辺機器については、販売店にお問い合わせいただくか、富士通ショッピングサイト「WEB MART」(<http://www.fujitsu-webmart.com/>) をご覧ください。
他社製品につきましては、このパソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください
一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われずおそれがあります。1 つの周辺機器の取り付けと動作確認が完了してから、別の周辺機器を取り付けてください。
- コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください

電源オフ USB 充電機能

電源オフ USB 充電機能とは

電源オフ USB 充電機能とは、パソコンが電源オフ、スリープ、休止状態のときでも、USB 充電に対応した周辺機器を充電することができる機能です。

電源オフ USB 充電機能は、ご購入時には無効に設定されています。

お使いになる場合は、機能を有効にしてください。詳しくは、サポートページから Q&A ナンバー「6708-5851」を検索してご覧ください。

また、お使いになるときは、次の注意をよくお読みになり、正しくお使いください。

電源オフ USB 充電機能をお使いになるうえでの注意

- 周辺機器によっては、電源オフ USB 充電ができない場合があります。
- 電源オフ USB 充電機能に対応する USB コネクタに接続した周辺機器（キーボード、マウス）を使ってスリープから復帰できません。
- スリープから復帰したときに、電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタに接続した USB 周辺機器について、次の現象が発生する場合があります。

なお、現象が発生しても USB 周辺機器本体および記録データが破損することはありません。

- ・デバイス認識のポップアップウィンドウが表示される
- ・「自動再生」ウィンドウが表示される
- ・接続した USB 周辺機器のドライブ名が変わる
- ・接続した USB 周辺機器と連携しているアプリが起動する

- 電源ボタンを 4 秒以上押してこのパソコンの電源を切った場合は、電源オフ USB 充電はできません。

メモリ

メモリの組み合わせを確認する

■ご購入時のメモリの組み合わせ

このパソコンは、次の組み合わせでメモリが搭載されています。

お使いの機種	総容量	オンボードメモリ	メモリスロット
SH90/S、SH75/S	4GB	4GB	－

■メモリの組み合わせ

お使いの機種によっては、メモリ容量を増やして、パソコンの処理能力などを上げることができます。メモリを増設または交換する場合は、必ず次の表のように組み合わせてください。

総容量	オンボードメモリ [注 1]	メモリスロット	デュアルチャネル [注 2]
4GB	4GB	－	－
8GB	4GB	4GB	8GB
12GB (最大)	4GB	8GB	8GB

注 1 ご購入時の状態から変更することはできません。

注 2 デュアルチャネルとして動作する合計容量

メモリの取り扱い上の注意

- 操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。故障の原因となります。
- メモリの増設や交換時に、液晶ディスプレイにネジや文房具などをはさんだり、パソコン本体内部にパソコンの部品やネジを落とさないように注意してください。
- メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いて、取り付け直してください。

警告

- メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコンの電源を切り、AC アダプタやバッテリー、および周辺機器を取り外してください。なお、スリープや休止状態では、取り付け／取り外しを行わないでください。感電の原因となります。また、データが消失したり、パソコンやメモリが故障する原因となります。

- 取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などの部品は、小さなお子様の手が届かないところに置いてください。誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。

注意

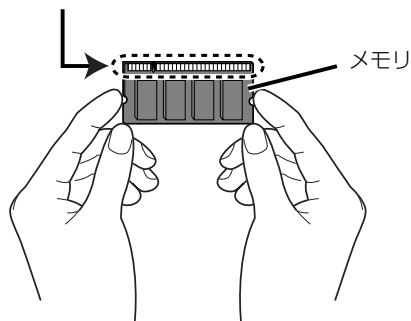
- メモリの取り付け位置のすぐそばに高温になる部分があります。メモリの取り付け／取り外しを行うときは、パソコンの電源を切って、しばらくしてから行ってください。やけどの原因となります。

重要

- ▶ メモリを取り扱う前に、一度アルミサッシやドアノブなどの金属に手を触れて、静電気を放電してください。メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。
- ▶ メモリは何度も抜き差ししないでください。
- ▶ メモリの表面の端子やIC部分に触れたり押ししたりしないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。

- ▶ メモリは下図のようにふちを持ち、金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。

この部分には手を触れないでください。



必要なものを用意する

■メモリ

このパソコンに取り付けられるメモリについては、富士通ショッピングサイト「WEB MART」の「周辺機器」(<http://www.fujitsu-webmart.com/>) をご覧になるか、ご購入元にお問い合わせください。

■プラスドライバー（ドライバーサイズ：1 番）
ネジのサイズに合ったものをお使いください。他のドライバーを使うと、ネジの頭をつぶすおそれがあります。

メモリの取り付け／取り外し

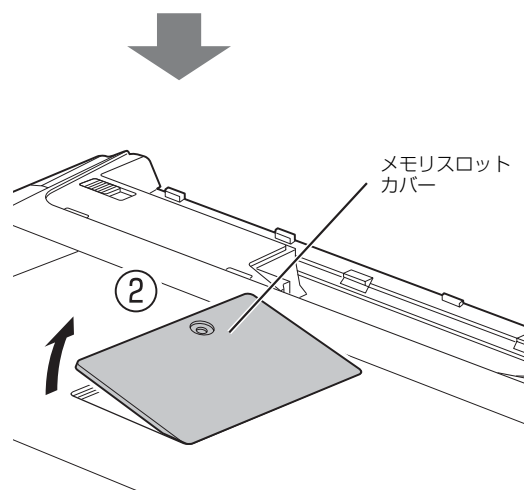
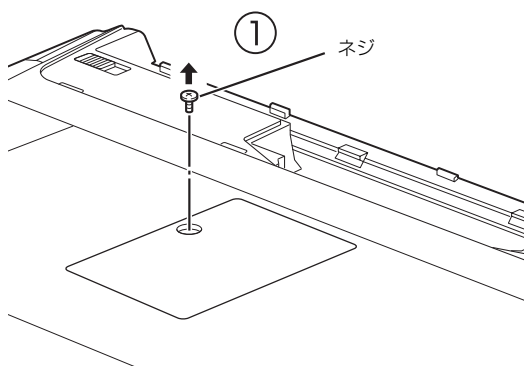
メモリは、パソコン本体下面のメモリスロットに取り付けられています。

電源を切って作業しますので、この内容を印刷しておくことをお勧めします。

- 1 パソコンの電源を切り（→ P.173）、10 分ほど待ってから AC アダプタを取り外します。
電源を切った直後は、パソコン本体内部が熱くなっています。
- 2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。
- 3 内蔵バッテリーパックを取り外します（→ P.47）。
増設用バッテリーユニットを使用している場合は、増設用バッテリーユニットも取り外してください（→ P.65）。

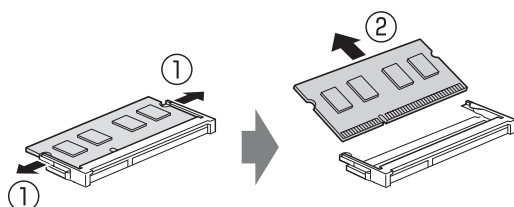
4 メモリスロットカバーを取り外します。

①ネジ（1ヶ所）を取り外します。②メモリスロットカバーを斜め上の方向に持ち上げ、取り外します。



5 メモリを交換する場合は、交換したいメモリを取り外します。

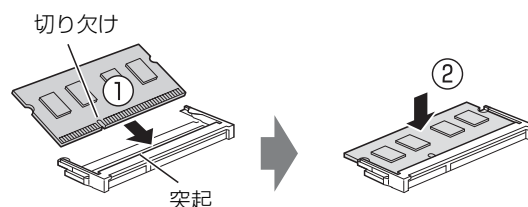
①メモリを押さえている両側のツメを左右に開くと、メモリが少し斜めに持ち上がります。
②両手でメモリのふちを持って斜め上の方向に引っ張り、メモリスロットから取り外します。



6 メモリを取り付けます。

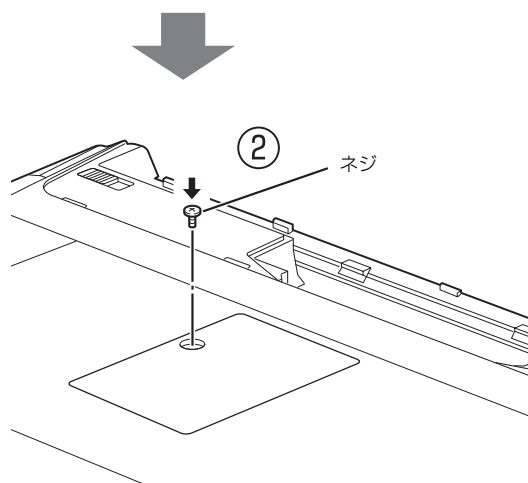
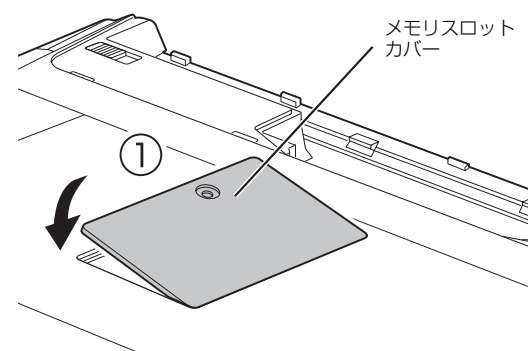
①両手でメモリのふちを持って、メモリの欠けている部分とコネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかりと差し込みます。

②パチンと音がするまで下に倒します。メモリを押さえている両側のツメが、きちんとはまっていることを確認してください。



7 メモリスロットカバーを取り付けます。

①メモリスロットカバーを取り付けます。②ネジ穴を合わせてから、ネジで固定します。



8 内蔵バッテリーパックを取り付けます。

続いて、メモリが正しく取り付けられたかメモリ容量を確認しましょう。

メモリ容量を確認する

1 パソコンの電源を入れます。

「拡張メモリエラー」または「メモリエラーです。」というメッセージや「Extended Memory Failed」という英語のメッセージが表示されたり、画面に何も表示されない場合は、電源ボタンを4秒以上押し、電源を切り、メモリを取り付け直してください。

2 画面左下隅のを右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

※ スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせるとが表示されます。

3 「システムとセキュリティ」▶「システム」の順にクリックします。

4 「実装メモリ」欄に表示されたメモリ容量を確認します。



(画面は状況により異なります)

Point

▶ メモリ容量の数値が正しくない場合は、メモリがきちんと取り付けられているかを確認してください。

5 ウィンドウの右上にあるをクリックして、ウィンドウを閉じます。

お手入れ

このパソコンを快適にお使いいただくための、日ごろのお手入れについて説明します。

警告



● 感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。

- ・ パソコン本体の電源を切り、ACアダプタとバッテリーを取り外してください。
- ・ プリンターなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。



● 清掃するときは、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。故障・火災の原因となります。

パソコン本体やキーボードのお手入れ

● パソコン本体やマウスなどの汚れを取る場合

- ・ 爪や指輪などで傷を付けないように注意してください。
- ・ OA クリーニング用のクロスや不織布などの乾いた柔らかい布を使って軽く拭き取ってください。
- ・ 汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を固く絞って拭き取り、中性洗剤を使用した場合は、水に浸した布で拭き取ってください。また、拭き取るときは、パソコン本体やマウスに水が入らないよう充分に注意してください。
- ・ アセトン、シンナー、ベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきん、除光液、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）は絶対に使わないでください。

● キーボードのキーとキーの間のほこりを取る場合

- ・ ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となる場合があります。また、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
- ・ ほこりなどを取る場合は、柔らかいブラシなどを使って軽くほこりを取り除いてください。そのとき、毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となる場合があります。

● マウスのお手入れのときは、マウスを取り外してください。

液晶ディスプレイのお手入れ

- 液晶ディスプレイの背面を手で支えてください。パソコンが倒れるおそれがあります。
- OA クリーニング用のクロスや不織布などの乾いた柔らかい布かメガネ拭きを使って軽く拭き取ってください。水や中性洗剤を使用して拭かないでください。
- 市販のクリーナー、除光液、化学ぞうきんを使うと、成分によっては、画面の表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは、使わないでください。
 - ・アルカリ性成分を含んだもの
 - ・界面活性剤を含んだもの
 - ・アルコール成分を含んだもの
 - ・アセトン、シンナー、ベンジンなどの揮発性の強いもの
 - ・研磨剤を含むもの
- 爪や指輪などで傷を付けないように注意してください。
- 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。破損するおそれがあります。

CD/DVD ドライブのお手入れ

市販のクリーニングディスクやレンズクリーナーを使うと、逆にゴミを集めてしまい、CD/DVD ドライブのレンズが汚れてしまう場合があります。故障の原因になりますので絶対に使わないでください。

うまく読み取れない場合には、ディスクの指紋、ほこりなどの汚れを拭き取ることで改善されることがあります。拭き取り方法はディスクの種類により異なります。詳しくは、ディスクの説明書／レーベルなどをご覧ください。

このパソコンには、次の機能が搭載されています。

これらの機能を使うと、パソコンをもっと便利に活用することができます。

- 「Sense YOU Technology 機能（人感センサー機能）」（→ P.72）
- 「My Cloud」（→ P.76）
- 「F-LINK（ケータイ連携機能）」（→ P.76）
- 「Skype」（→ P.77）
- 「搭載されているアプリを使う（@メニュー）」（→ P.78）
- 「OmniPass（Web かんたんログイン）」（→ P.78）
- 「ステータスパネルスイッチ」（→ P.82）
- 「HDD プロテクション」（→ P.84）

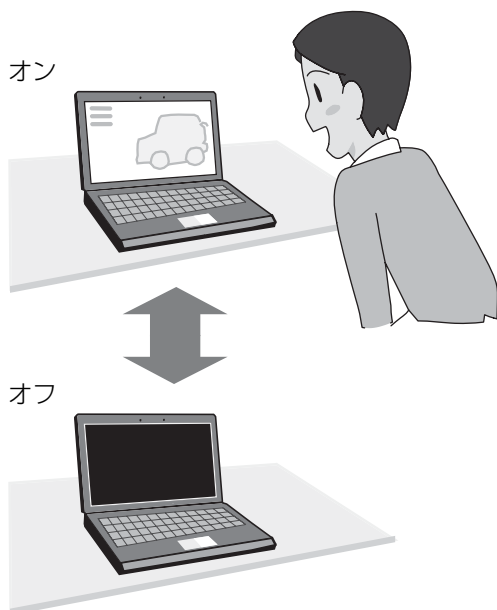
Sense YOU Technology 機能 （人感センサー機能）

Sense YOU Technology [センス ユー テクノロジー] とは、搭載されている Web カメラを利用して人の顔や動きを検出する富士通独自の技術です。ご購入時の設定では、これらの機能は無効になっています。有効にする場合は、「Sense YOU Technology の初期設定」（→ P.74）をご覧ください。

Sense YOU Technology でできること

■画面オフ機能

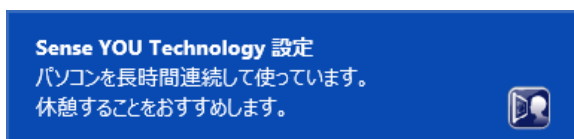
パソコンの前に人がいるかどうかを検出し、画面をオンまたはオフに切り替えます。



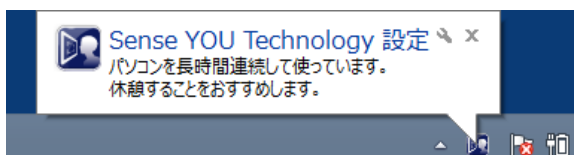
■休憩おすすめタイマー

パソコンの前に1時間以上連続して人がいることを検出し、休憩をおすすめするメッセージを表示します。

（スタート画面の場合）



（デスクトップ画面の場合）



■おまかせポーズ機能

パソコンの前に人がいるかどうかを検出し、動画や音楽を自動的に一時停止したり再生を再開したりすることができます。この機能は次のアプリに対応しています。

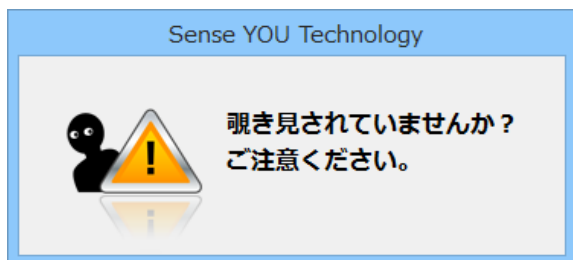
- Windows Media Player
- WinDVD

Point

- ▶ 対応しているアプリが複数同時に起動している場合、おまかせポーズ機能はお使いになれません。
- ▶ 常に手前に表示するように設定したウィンドウが表示されている場合や、デスクトップ画面右下の通知領域にポップアップが表示されている場合、おまかせポーズ機能が正しく動かない場合があります。
- ▶ Windows Media Player を全画面モードで起動中に、おまかせポーズ機能が働くと、一時的にウィンドウモードになります。

■覗き見お知らせ機能

パソコンを使用する人以外に人の顔を検出した場合に、画面を覗かれている可能性があることをお知らせします。



Sense YOU Technology をお使いになる うえでの注意

- Sense YOU Technologyの機能を有効にしていると、パソコンが一定時間後に自動的にスリープや休止状態になる機能はご使用になれません。
自動的にスリープや休止状態にするには Sense YOU Technology の機能を無効にしてください。
- Sense YOU Technology を有効にしていると、「カメラ」や「Skype」などの Web カメラを使用するアプリを使用することはできません。
これらのアプリを使用する場合は、Sense YOU Technology を無効にするか Sense YOU Technology を終了してください。
- 次の場合、人を検出できないことがあります。
 - ・ Web カメラから 1m 以上離れている場合
 - ・ サングラス、マスク、眼帯などを着用している場合
 - ・ 顔を横または上下に向けていたり、首をかしげたりしている場合
 - ・ Web カメラに対して逆光の場合や部屋が暗い場合
上記に該当しない場合でも、ご使用の環境によっては、Sense YOU Technology が正しく動作しない場合があります。
- 次のものを Web カメラが撮影すると、パソコンの前に人がいると誤検出することがあります。
 - ・ 人の顔が掲載されたポスターや雑誌
 - ・ テレビや鏡に映る人
- 2人以上パソコンの前にいる状態で Sense YOU Technology を有効にした場合、1人がパソコンの前から離れると、Sense YOU Technology が正しく動作しないことがあります。
- パソコンの設置場所や液晶ディスプレイの向きによっては、顔がうまく検出されないことがあります。
「Sense YOU Technology 設定」ウィンドウ右にあるプレビューエリア（→ P.74）で、顔の位置に緑色の枠が表示されるように、パソコンの位置や向きを調節してください。
- 休憩おすすめタイマーは、1時間以上パソコンの前に人がいることを検知し続けると休憩をおすすめする機能です。ただし、途中で15分以上パソコンの前に人がいることを検出しなかった場合は、休憩していると判断して連続使用時間の計測をリセットします。
また、次のような場合にも連続使用時間の計測をリセットします。
 - ・ 休憩おすすめタイマーを無効から有効に変更したとき
 - ・ 「Sense YOU Technology 設定」を終了したとき
 - ・ 省電力状態から復帰したとき
 - ・ 「Sense YOU Technology 設定」の機能が一時的に無効になったとき
- Web カメラの映像が上下逆さまになっていたり、白黒の映像になっていたりすると、人を検出できません。
「Sense YOU Technology 設定」ウィンドウの「カメラの詳細設定」から表示されるプロパティウィンドウを表示して、「既定」や「初期設定」と書かれたボタンを押してご購入時の状態にしてください。
- 画面オフ機能とおまかせポーズ機能を同時にお使いになることはできません。

●「覗き見お知らせ機能」は、Web カメラの映像から 2 人以上の顔を検知すると他の人にパソコンの画面を覗かれている可能性があることをお知らせする機能ですが、次の場合は画面にお知らせが表示されない場合があります。

- ・パソコンの画面から約 2m 範囲内にいない場合（使用する環境によっては周りの明るさ等の影響で検知できる範囲が変わります。）
- ・サングラスやマスクなどで顔の一部を隠している場合
- ・Web カメラの画角に入っていない場合

●次のアプリを起動している間は、Sense YOU Technology は無効になります。

- ・Windows Media Player [注]
- ・WinDVD [注]
- ・Corel DirectDiscRecorder

注：おまかせポーズ機能はお使いになれます。

Sense YOU Technology の初期設定

Sense YOU Technology を初めてお使いになるときは、初期設定が必要です。次の手順で設定を行ってからお使いください。

1 スタート画面左下の🔍をクリックします。

🔍が表示されていない場合は、マウスポインターを動かすと表示されます。

📖『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』

2 表示された画面から、「Sense YOU Technology 設定」をクリックします。

「Sense YOU Technology 設定」ウィンドウが表示されます。

初めて使用する場合は、「ようこそ」画面が表示されます。

3 お使いになる機能の設定を行います。

■画面オフ機能、休憩おすすめタイマーを使う場合



（以降の画面は機種や状況により異なります）

- ① 「人感センサー」タブをクリックします。
- ② お使いになる機能の「オン」をクリックします。

「画面オフ」をお使いになる場合は、必要に応じて次の項目を設定します。

- ・画面消灯までの時間
Webカメラに人の顔が検知されなくなってから画面を消すまでの時間を設定します。
- ・10 秒前からカウントダウンを表示する
☑にすると、画面がオフになる 10 秒前からカウントダウンするウィンドウが表示されます。
- ・再点灯時にロック画面を表示する
☑にすると、画面オフ状態から復帰するときにサインイン画面を表示します。

■おまかせポーズ機能を使う場合



- ① 「おまかせポーズ」タブをクリックします。
- ② 「動画や音楽の一時停止」の「オン」をクリックします。

Point

- ▶ おまかせポーズ機能をお使いになる場合は、おまかせポーズ機能に対応したアプリ（「Windows Media Player」など）を起動して、「Sense YOU Technology 設定」ウィンドウ右にあるプレビューエリアに黄色い枠が表示されたことを確認します。

- 4 「適用」をクリックします。
- 5 「お使いになるうえでのご注意」が表示された場合は、内容を確認し、「OK」をクリックします。
- 6 ウィンドウ右にあるプレビューエリアで、顔の位置に緑色の枠が表示されているか確認します。
- 7 「OK」をクリックします。

Sense YOU Technology を使う

- 1 スタート画面で「カメラセンサー機能ON/OFFツール」をクリックします。
- 2 「人感センサー」の「ON」をクリックし、「閉じる」をクリックします。
デスクトップ画面右下の通知領域にある  をクリックし、 (Sense YOU Technology設定) が表示されていることを確認します。

Point

- ▶ 画面をオフにするカウントダウンが頻繁に表示されるときは、液晶ディスプレイを顔の方に向けて初期設定のときと同じような状態にし、「Sense YOU Technology 設定」ウィンドウの右にあるプレビューエリアで、顔の位置に緑色の枠が表示されていることを確認してください。
- ▶ 環境によっては顔がうまく検出されない場合があります。その場合は、次の手順で Web カメラの設定を変更すると改善する場合があります。
 1. スタート画面左下の  をクリックします。
 が表示されていない場合は、マウスポインターを動かすと表示されます。
 2. 表示された画面から、「Sense YOU Technology設定」をクリックします。「Sense YOU Technology 設定」ウィンドウが表示されます。
 3. 「カメラの詳細設定」をクリックします。
※ Sense YOU Technology の機能をすべて無効にしていると「カメラの詳細設定」はクリックできません。
 4. 表示されるプロパティウィンドウの「色合い」を微調整し、「Sense YOU Technology 設定」ウィンドウ右にあるプレビューエリアに緑色の枠が表示されるようにします。
 5. 「OK」▶「OK」の順にクリックします。
- ▶ 「カメラセンサー機能 ON/OFF ツール」を使って Sense YOU Technology を有効にすると、次のような場合に自動で Sense YOU Technology が起動するようになります。
 - ・ パソコンを再起動したとき
 - ・ パソコンの電源を切り、再度電源を入れたとき
 - ・ サインアウトやアカウントの切り替えを行ったとき
- ▶ 「Sense YOU Technology 設定」ウィンドウですべての機能を無効の状態にしていると、「カメラセンサー機能ON/OFFツール」を使ってSense YOU Technology を有効にしても、機能が有効になるのは画面オフ機能のみになります。
他の機能を有効にする場合は、「Sense YOU Technology 設定」ウィンドウで設定を行ってください。

My Cloud

My Cloud [マイクラウド] は、パソコンを使って日常の生活をもっと楽しく便利にする、富士通の新しい機能とサービスのご提案です。

スタート画面の「My Cloud」(My Cloud ホーム 2.0)のタイルをクリックすると、My Cloud の活用方法などをご紹介しますチュートリアルが始まります。



My Cloudで使える機能には次のようなものがあります。各機能は、スタート画面左下の🔍をクリックして表示されるアプリ画面から起動することができます。

MyCloud でできること

■My Cloud プレイ

パソコンに取り込んだ写真、ビデオ、音楽、ドキュメントなどのデータを一元管理することができます。



写真やビデオを選んでアルバムを作ったり、富士通が運営するクラウドサービス「My Cloud ライブラリー」に写真をアップロードしたりすることができます。また、ご家庭のパソコンやレコーダーに保存した動画やテレビ番組をまとめて管理したり、ネットワーク経由で再生したり、外出先からご家庭のパソコンのデータを閲覧したりすることができます。

■My Cloud エコ DX

スマートフォンやタブレット端末を使って、外出先から ECHONET Lite 対応家電製品の運転をオン/オフしたり、使用電力を確認したりすることができます。



※ ご利用いただくには最新版へのアップデートが必要です。

さらに詳しい説明をご覧になるには…

「My Cloud アプリ」のページ
(<http://azby.fmworld.net/support/mycloudapps/>)
をご覧ください。

F-LINK (ケータイ連携機能)

F-LINK は、ネットワークを使ってパソコンやスマートフォン／タブレット端末／携帯電話間でデータのやり取りができる富士通独自の技術です。ケーブルを接続したり、媒体を用意したりする必要がなく、ワイヤレスで手軽にデータの転送ができます。

※ この機能で「ケータイ」と表記する場合、スマートフォン／タブレット端末を含みます。



F-LINK を使うと、次のようなことができます。

- 携帯機器内の写真、動画などのデータや、歩数・活動量を自分のパソコンに自動で取り込みます。
- 無線 LAN 搭載 SDHC メモリーカードから、写真、動画などのデータがワイヤレスで取り込めます。
- F-LINK 対応機器どうして個別にデータのやり取りをします。

詳しい使い方については…

「サポートページ」(<http://azby.fmworld.net/support/>) から Q&A ナンバー「6009-8007」を検索してご覧ください。

F-LINK をお使いになるうえでの注意

■携帯機器の対応機種について

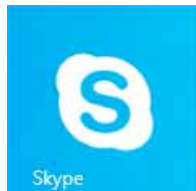
F-LINK に対応した携帯機器については、ホームページ (<http://azby.fmworld.net/support/soft/flink/>) をご覧ください。

■注意事項

- このパソコンにあらかじめインストールされているもの以外のセキュリティ対策アプリをインストールしている場合、次のプログラムからネットワークの接続の要求があったときは、接続を許可するように設定してください。
 - ・ F-LINK.exe
- 送受信したデータを利用するには、送信側／受信側ともにデータを利用できる環境が必要です（例：受信側に送信側と同様のアプリが搭載されていない場合、データは閲覧できません）。
なお、携帯機器によっては扱えるファイル形式やファイルサイズが異なります。携帯機器に添付のマニュアルをご覧ください。
- 受信側の空き容量が少ないと全てのファイルが取り込めないことや、送信側からファイルを送れない場合があります。表示されたメッセージに従ってください。
- ルーターで機器間の通信を遮断する設定が行われていた場合、ルーター経由で F-LINK の機能が動作しません。ルーターを経由する場合は、機器間の通信を許可する設定をしてください。設定の方法は、ルーターのマニュアルをご覧ください。

Skype

Skype [スカイプ] ではさまざまな方法で世界中のお友達、ご家族、同僚と連絡を取り合うことができます。Skype を起動する場合は、スタート画面で「Skype」をクリックします。



Skype でできること

■ユーザーどうしの通話

Skype のユーザーどうしなら無料で通話ができます。海外の友人と無料で通話したり、複数人で同時に通話したりできます。

■ビデオ通話

お互いの顔を見ながら通話するなど、1 対 1 のビデオ通話を無料で楽しむことができます。

なお、Web カメラを使用している間は、パソコンが一定時間後に自動的にスリープや休止状態になる機能はご使用になれません。

■インスタントメッセージやファイル送信

リアルタイムにメッセージを送受信することで、複数人と文字で会話をすることができます。また、通話中やメッセージの送受信中に必要となったファイルを転送することができます。

詳しい使い方については…

「サポートページ」 (<http://azby.fmworld.net/support/>) から Q&A ナンバー「2009-7938」を検索してご覧ください。

搭載されているアプリを使う (@メニュー)

このパソコンには、搭載されているデスクトップアプリを簡単に探すための、「@メニュー」が搭載されています。

やりたいことがあるけれど、どのアプリを使えば良いかわからないときは、「@メニュー」で探すことができます。

「@メニュー」の使い方

- 1 スタート画面で「@メニュー」をクリックします。
- 2 次の画面の操作をします。



(画面は機種や状況により異なります)

- ① カテゴリを選択します。
- ② ジャンルを選択します。
- ③ やりたいことを選択します。
「名前でさがす」をクリックすると、アプリの名称から探すことができます。
- ④ 「実行する」をクリックして、アプリを起動します。

Point

- ▶ アプリを起動する方法は他にもあります。
詳しくは、『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』をご覧ください。
- ▶ このパソコンに搭載されているアプリの一覧は、富士通製品情報ページ (<http://www.fmwORLD.net/fmv/>) に掲載されています。

詳しい使い方については…

「サポートページ」(<http://azby.fmwORLD.net/support/>) から Q&A ナンバー「8107-4567」を検索してご覧ください。

OmniPass (Web かんたんログイン)

OmniPass は、指紋や PIN (4 桁の数字) を使って、Windows へのサインインやセキュリティで保護されたホームページへのログインを簡単にします。

OmniPass でできること

OmniPass を登録しておくで、指紋センサーに指をスライドさせるまたは PIN を入力するだけで次のようなことができます。

- ID (ユーザー名) やパスワードを必要とするホームページへログインする
- パスワードが設定されたスクリーンセーバーを解除する
- Windows のアカウントを切り替える (指紋認証を使った場合)
- Windows のパスワードを設定している場合、Windows へサインインする

OmniPass をお使いになるうえでの注意

- Windows パスワードを設定しないと、OmniPass は使用できません。

指紋センサーをお使いになるうえでの注意

- 指紋センサーに指を置く前に金属に手を触れるなどして、静電気を取り除いてください。静電気が故障の原因となる場合があります。冬期など乾燥する時期は特にご注意ください。
- 次のような場合は、故障および破損の原因となることがあります。
 - ・ 指紋センサー表面を引っかいたり、先のとがったものでつついたりした場合
 - ・ 指紋センサー表面を爪や硬いもので強く擦り、センサー表面にキズが入った場合
 - ・ 泥などで汚れた手で指紋センサーに触れ、細かい異物などでセンサー表面にキズが入ったり、表面が汚れたりした場合
 - ・ 指紋センサーのセンサー部にシールを貼ったり、インクなどで塗りつぶしたりした場合

●次のような場合は、指紋の読み取りが困難になったり、認証率が低下したりすることがあります。指紋センサー表面の清掃を行ってください。現象が改善されることがあります。

- ・指紋センサー表面がほこりや皮脂などで汚れている
- ・指紋センサー表面に汗などの水分が付着している
- ・指紋センサー表面が結露している

●パソコンの電源を入れたり、復帰（レジューム）させたりするときに、指紋センサーに指を置いたままにしないでください。

●指紋センサーを清掃するときは、メガネ拭きなどの乾いた柔らかい布でセンサー表面の汚れを軽く拭き取ってください。

●長期間使用することにより、センサー周辺にゴミがたまることがあります。先のとがったもので取り除かないようにしてください。

●センサー表面が濡れていたり結露していたりすると、誤作動の原因となります。柔らかい布で水分を取り除いてからご使用ください。

指紋認証をお使いになるうえでの注意

●指紋認証技術は完全な本人認証・照合を保障するものではありません。

当社では本製品を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

●本機能は画像に含まれる指紋の特徴を基に照合を行うものです。このため、お客様によっては指紋の特徴情報が少なく、登録ができない場合があります。

●指紋の登録には同一の指で最低3回の読み取りが必要です。異なる指で登録を行うと、認証できない場合があります。

●指の状態が次のような場合は、指紋の登録が困難になったり、認証率（正しく指をスライドさせたときに指紋が認証される割合）が低下することがあります。なお、手を洗う、手を拭く、認証する指を変える、手荒れや乾いている場合はクリームを塗るなど、お客様の指の状態にあわせて対処することで、認証時の状況が改善されることがあります。

- ・お風呂上がりなどで指がふやけている場合
- ・指に汗や脂が多く、指紋の間が埋まっている場合
- ・手が荒れたり、指に損傷（切傷、ただれなど）を負っている場合

- ・手が極端に乾燥していたり、乾燥肌の場合
- ・指が泥や油などで汚れている場合
- ・太ったり、やせたりして指紋が変化した場合
- ・磨耗して指紋が薄くなった場合
- ・指紋登録時に比べ、指紋認証時の指の表面状態が極端に異なる場合
- ・濡れたり、汗をかいたりしている場合

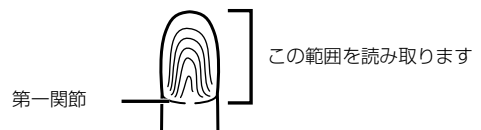
●本パソコンでは、Windows 標準機能の指紋認証は利用できません。

指のスライドのさせ方

指紋の登録や認証を行う場合は、次のように指をスライドさせてください。認証の失敗を減らすことができます。

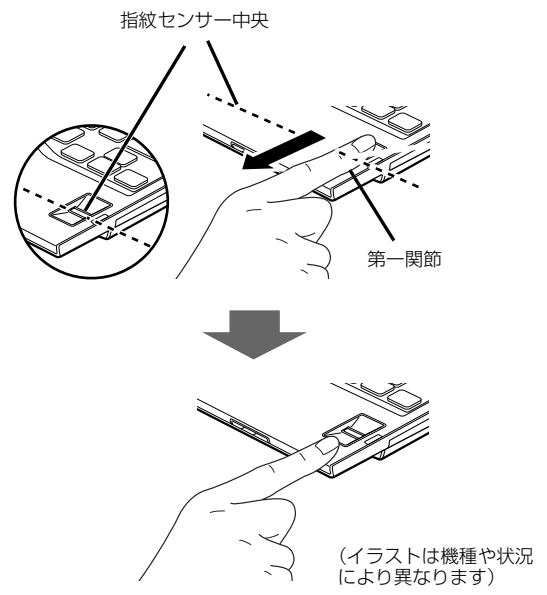
1 操作する指の第一関節が、指紋センサーの中央部に当たるように準備します。

第一関節より先の部分が読み取り範囲となります。



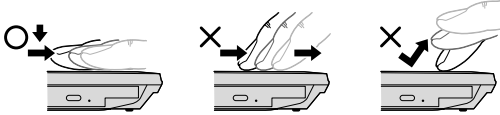
2 指をまっすぐ伸ばして第一関節を指紋センサーに軽く当てます。

センサー部が完全に見えるまで水平にスライドさせます。



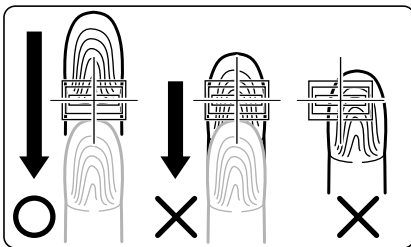
■指をスライドさせるときの注意

- 指のはら（指紋の中心部）が指紋センサーに接触するようにスライドさせてください。指紋センサーに指のはら（指紋の中心部）が接触していなかったり、指を引っかけるようにスライドさせると指紋の読み取りがうまくいかない場合があります。



（イラストは機種や状況により異なります）

- 指の第一関節より先の部分が、指紋センサー上を通過するようにしてください。
- 指紋の渦の中心が、指紋センサーの中心を通過するようにしてください。
- 指紋の入力画面が表示されていることを確認し、入力が可能な状態になってから操作してください。
- 1秒程度で通過するくらいの速さで、途中で止めずに指を動かしてください。



なお、親指など、指紋の渦の中心を合わせにくい指は、うまく認識できないことがあります。
そのときは、中心を通過させやすい指を登録してください。

OmniPass を登録する

■指紋を OmniPass として登録する

- 1 デスクトップ画面のタスクバーにある  をクリックします。
「OmniPass」ウィンドウが表示されます。
- 2 「開始」をクリックします。
- 3 「指紋認証を使用する」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 4 「指紋認証の設定」をクリックします。
- 5 「指紋認証」の「追加」をクリックします。
完了画面が表示され、指紋認証が、OmniPass として登録されます。

Point

- ▶ 2つ以上の指紋を登録することをおすすめします。

■PIN(4桁の数字)を OmniPass として登録する

- 1 デスクトップ画面のタスクバーにある  をクリックします。
- 2 「開始」をクリックします。
- 3 「PIN（4桁の数字）を使用する」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 4 4桁の数字（PIN）を入力します。
- 5 前の画面で入力したものと同一4桁の数字（PIN）をもう一度入力します。
入力した PIN（4桁の数字）が OmniPass として登録されます。

OmniPass を使う

■OmniPassを使ってWindowsにサインインする

OmniPass を使うと、Windows のパスワードを入力する代わりに、PIN を入力または指紋センサーに指をスライドさせるだけで Windows にサインインできるようになります。

また、複数のユーザーでパソコンを使用している場合に指紋認証を使うと、アカウントの選択も省略できます。

Point

- ▶ Windowsのパスワードについて、詳しくはアプリ画面の「ヘルプとサポート」をクリックして Windows のヘルプを表示し、「パスワード」で検索して「パスワードを変更する」をご覧ください。

- 1 パソコンの電源を入れます。

- ・ OmniPass として PIN を登録した場合、しばらくすると「ログオン認証」ウィンドウが表示されます。
- ・ OmniPass として指紋を登録した場合、「ログオン認証」ウィンドウは表示されません。

2 PIN 入力、または指紋登録した指のいずれかを指紋センサーにスライドさせ、サインインします。

- ・ PIN の認証画面が表示されない場合、サインインオプションをクリックして、 を選択して、認証画面を表示させます。
- ・ ロックスクリーンの状態でも指紋センサーに指をスライドさせるだけで、登録したアカウントにサインインできます。

指紋の認証に成功すると、Windows にサインインします。



- ▶ PIN を登録した場合は、サインインするアカウントを選択します。また、サインインオプションで、ピクチャパスワードや Windows の PIN を設定した場合は、サインインのときにサインインオプションで  を選択していないと、OmniPass の PIN を入力するウィンドウが表示されません。
- ▶ 指紋の読み取りがうまくいかない場合
 - ・ 指紋センサーに指をスライドさせる方法を確認してください。
 - ・ 指を繰り返しスライドしても指紋認証に失敗する場合は、Windows のパスワードを使ってサインインしてください。

■OmniPass でホームページにログインする

セキュリティが設定されたホームページにログインするために、ID（ユーザー名）やパスワードなどのログイン情報を入力しなければならない場合があります。OmniPass を使うと、特定のホームページに対してあらかじめログイン情報を記憶させておくことにより、PIN 入力、パスワード入力、または指紋認証でホームページにログインすることができます。ただし、ホームページによっては、OmniPass がパスワードを検出できないことがあります。

1 登録したいホームページにログインします。

すべてのコンテンツが読み込み終わると、「このパスワードを記憶しますか？」と画面に表示されます。

2 「はい」をクリックします。

次回以降、ログイン情報を登録したホームページにログインする場合は、OmniPass を使ってログインすることができます。

登録したホームページを開くと、上に OmniPass のメッセージが表示されます。

OmniPass として PIN を登録した場合は、PIN を入力するウィンドウが表示されます。

重要

- ▶ 銀行など重要な情報を扱うサイトでは本機能を使用しないでください。

OmniPass の設定を変更する

1 デスクトップ画面のタスクバーにある をクリックします。

2 認証画面で PIN 入力、Windows パスワード入力、または指紋認証を行います。 OmniPass の設定画面が表示されます。

3 各画面で設定を変更します。

- ・ 登録した Web サイトの起動
登録した Web サイトが起動できます。
- ・ パスワードの管理
登録した Web サイトのユーザー名、パスワードを保存、削除、エクスポート、インポートができます。
- ・ 設定
OmniPass の認証方法を変更できます。

ステータスパネルスイッチ

ステータスパネルスイッチは、画面上のボタンを操作してモードを切り替えるだけで、画面の明るさやCPUのパフォーマンスなどを一括で変更し、パソコンを使用する状況に適したモードに変更することができる機能です。

ステータスパネルスイッチをお使いになるうえでの注意

- CPUを次の設定にしていると動画の再生時にコマ落ちが発生する場合があります。
 - ・電池持ちを最優先
 - ・電池を節約このような場合には、CPU を次のいずれかに設定してください。
 - ・パフォーマンス最優先
 - ・「モード切り替え設定」で、CPU の☑を□にする
- 複数のユーザーアカウントでパソコンを使用している場合、各モードでの設定は、パソコン 1 台に対して 1 つの設定です。例えば、省電力モード中に他のユーザーアカウントでサインインし直しても、省電力の状態は変化しません。
- 各デバイスの状態を「ON」から「OFF」に切り替える場合、切り替え前にそのデバイスの利用を中止し、接続または挿入されているデバイスをすべて取り外してから切り替えてください。デバイスを使用中に切り替えると、デバイスを停止できない場合があります。また、各デバイスの状態を「OFF」から「ON」に切り替える場合は、切り替え後に各デバイスをパソコンに接続または挿入してください。
- Windowsへサインインした直後は、各デバイスの状態を切り替えると、切り替えに失敗する場合があります。各デバイスの状態の切り替えは、Windowsへサインインした後、しばらくしてから実行してください。
- ブルーライトカットモードは、画面の色合いを調整してブルーライトを約 30% カットします。画面の設定をお好みに調整した後、ブルーライトカットモードの「ON」／「OFF」を切り替えると、出荷時の色設定に戻ります。ブルーライトカットモードを「OFF」にした状態で、再度、画面の設定をお好みに調整してください。
- ブルーライトカットモードは、パソコン本体の液晶ディスプレイにのみ効果があります。

- WinDVD による Blu-ray Disc の再生画面では、ブルーライトカットモードは有効になりません。

ステータスパネルスイッチの使い方

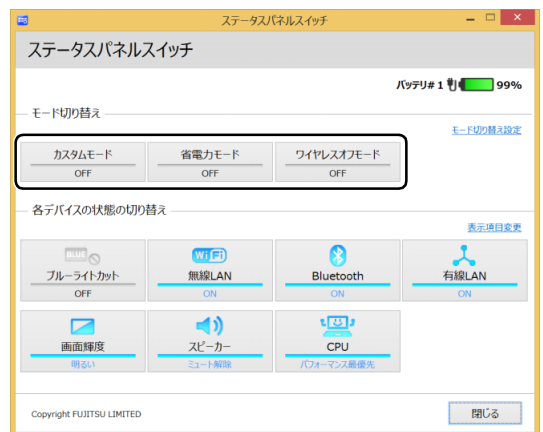
- 1 デスクトップ画面のタスクバーにある  をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。

- 2 「モード切り替え」から、使用したいモードのボタンをクリックします。
選択したモードに切り替わります。



- ・カスタムモード
各デバイスの状態を個別に設定して、カスタムモードとして登録することができます。設定方法については「各モードの設定を変更する」(→P.83)をご覧ください。
- ・省電力モード
画面の明るさや CPU のパフォーマンスを下げることによって、パソコンの消費電力を抑えることができるモードです。
- ・ワイヤレスオフモード
無線 LAN や Bluetooth ワイヤレステクノロジーなどの無線通信機能の電波を停止するモードです。

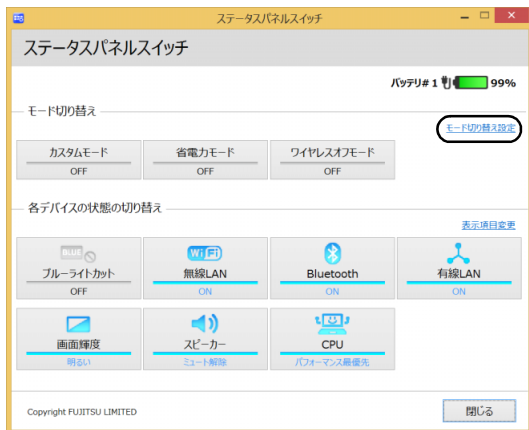


- ▶ 「各デバイスの状態の切り替え」で、それぞれの機能のボタンをクリックすると、個別に状態を変更することができます。
- また、「表示項目変更」をクリックすると、「各デバイスの状態の切り替え」に表示する項目を変更することができます。
- ▶ 画面の明るさを、省電力モードで設定された画面の明るさよりも暗くしている場合は、省電力モードにしても画面が暗くならない場合があります。
- ▶ ECO（エコ）ボタンを押して、省電力モードの「ON」／「OFF」を切り替えることもできます。ECO（エコ）ボタンの場所については、「各部の名称と働き」（→ P.36）をご覧ください。

各モードの設定を変更する

各モードで制御するデバイスを選択したり、各デバイスの状態を個別に変更したりすることができます。

- 1 「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウで、「モード切り替え設定」をクリックします。



- 2 設定を変更します。



- ① モードを選択します。
- ② 制御するデバイスを選択します。
- ③ デバイスの状態や値を設定します。

- 3 「適用」をクリックします。

- 4 「OK」をクリックします。

HDD プロテクション

「HDD プロテクション」とは、パソコン本体に落下の兆候などによる加速度が加わったことを感知して、自動的にハードディスクドライブ（HDD）内のデータを守る機能です。

「HDD プロテクション」は「Shock Sensor Utility」で設定を変更することができます（ご購入時にフラッシュメモリディスクを選択した場合は、HDD 加速度センサーは搭載されておりません）。

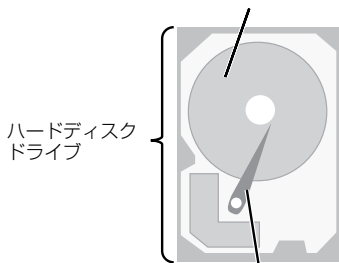
「HDD プロテクション」の特長

ハードディスクドライブの中では、磁気ヘッドがハードディスク上のデータを読み書きしています。落下などによりパソコンに強い衝撃が加わると、磁気ヘッドやハードディスクがダメージを受け、大切なデータを一瞬で失う危険性があります。

「HDD プロテクション」はパソコンに搭載されている「HDD 加速度センサー」により、落下の兆候などによる加速度を感知し、磁気ヘッドをハードディスクから自動的に退避して、磁気ヘッドやハードディスクの損傷を防ぎます。

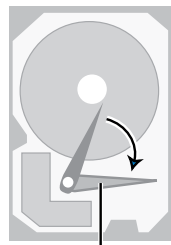
「HDD 加速度センサー」が加速度を感知している間は、デスクトップ画面右下の通知領域にある「Shock Sensor Utility」のアイコンが🌈から💡に変わり、「ハードディスクの磁気ヘッドを一時的に退避しました。」というメッセージが表示されます。

ハードディスクにデータが書き込まれています。



磁気ヘッドで、データの読み書きを行っています。

落下の兆候などの加速度を感知！



磁気ヘッドがハードディスクから退避し、予期せぬ事故から大切なデータを守ります。

重要

- ▶ 「HDD プロテクション」の有効範囲について
すべての状況に対してハードディスクの破損防止やデータ保護を保証するものではありません。

「Shock Sensor Utility」の使い方

「HDD プロテクション」は、「HDD 加速度センサー」がこのパソコンに加わる落下の兆候などの加速度を3次元（前後・左右・上下）で感知することにより働きます。

「Shock Sensor Utility」のメイン画面には、「HDD 加速度センサー」が感知した加速度が表示されます。

■「Shock Sensor Utility」のメイン画面を表示する

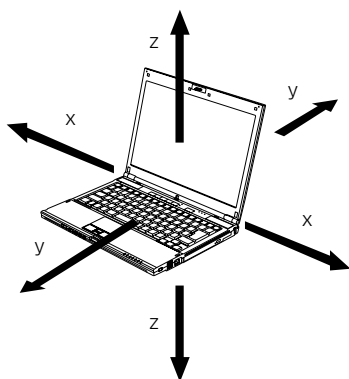
- 1 スタート画面左下の🔍をクリックします。

🔍が表示されていない場合は、マウスポインターを動かすと表示されます。

『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』

- 2 表示された画面から、「FUJITSU-Shock Sensor Utility」の「設定」をクリックします。

「Shock Sensor Utility」のメイン画面が表示されます。



x : 「HDD 加速度センサー」が感知した「左右」の加速度を表示します。

y : 「HDD 加速度センサー」が感知した「前後」の加速度を表示します。

z : 「HDD 加速度センサー」が感知した「上下」の加速度を表示します。

■「Shock Sensor Utility」の設定

「Shock Sensor Utility」では、「HDD プロテクション」を働かせるための、「HDD 加速度センサー」の感度などの設定を変更することができます。

「Shock Sensor Utility」の詳しい設定方法については、「Shock Sensor Utility」のヘルプをご覧ください。

- 1 「Shock Sensor Utility」のメイン画面にある赤いボタンをクリックします。



「Shock Sensor Utility」の設定画面が表示されます。

「ヘルプ」ボタンをクリックすると、「Shock Sensor Utility」のヘルプが表示されます。

■「HDD 加速度センサー」の感度の簡単な切り替え
安全性を高めたい場合には「高感度モード」、電車の中など振動の多い場所でご使用の場合には「モバイルモード」というように、状況に合わせた設定が可能です。「HDD 加速度センサー」の感度の切り替えは、デスクトップ画面右下の通知領域にあるアイコンを右クリックして表示されるメニューから簡単に変更することができます。

- 1 デスクトップ画面右下の通知領域にある  をクリックし、表示された  を右クリックします。



(画面は機種や状況により異なります)

「Shock Sensor Utility」のメニューが表示されたら、お使いの状況に合ったモードを選択してください。

バックアップナビ

Windows が起動しなくなった場合や、データを誤って紛失してしまった場合に備え、大切なデータのコピーを保存しておくことを「バックアップ」といいます。バックアップは大変重要ですので、忘れずに行うようにしてください。

このパソコンは「バックアップナビ」というバックアップツールを搭載しています。

バックアップナビの機能

2種類のバックアップ方法を組み合わせて効率的にバックアップをとります。

■日々作成するデータをバックアップ

デジタルカメラで撮った写真や、作成した文書などは定期的にバックアップしましょう。

「バックアップナビ」では、マイドキュメントやマイピクチャなどのそれぞれのユーザーが持っているフォルダーのデータを「マイデータ」と呼んでいます。「バックアップナビ」では「マイデータ」をまとめて簡単にバックアップできます。

詳しくは「マイデータ」(→ P.88) をご覧ください。

自動バックアップ

「マイデータ」を定期的にバックアップするよう設定できます。「毎日」または「週に1回」など設定しておく、忘れずにバックアップできて便利です。

「バックアップする」タブにある「マイデータの自動バックアップ」の「設定」ボタンをクリックすると設定を変更できます。

「バックアップナビ」の起動方法は「「パソコンの状態」をバックアップする」(→ P.90) をご覧ください。

●ご利用になるうえでの注意

- ・LIFEBOOK の場合、液晶ディスプレイは開いた状態でお使いください。
- ・ネットワークテレビチューナー対応機種、テレビチューナー搭載機種およびワイヤレスTV対応機種の場合、テレビ番組の視聴、録画中はバックアップしないでください。

このほかにも、いくつか注意していただきたい点があります。「自動バックアップの設定」のステップ2の画面に表示される「注意事項」の内容をよく読んでから設定してください。

■Cドライブをまるごとバックアップ

トラブルに備えて、パソコンが快適に使用できている状態をまるごとバックアップしましょう。

「バックアップナビ」ではCドライブをまるごとバックアップできます。パソコンのセットアップが完了した後、およびインターネットやメールなどパソコンの設定を変更した後にバックアップすることをお勧めします。詳しくは「パソコンの状態」(→ P.89) をご覧ください。

バックアップナビをお使いになるうえでの注意事項

■すべてのデータのバックアップ／復元を保証するものではありません

すべてのデータの保存／復元を保証するものではありません。また著作権保護された映像（デジタル放送の録画番組など）や音楽などは保存／復元できない場合があります。

■管理者アカウントでWindowsにサインインしていることを確認してください

セットアップ時に作成したアカウントは管理者アカウントです。

標準アカウントでサインインしている場合は、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウで管理者アカウントのパスワードを入力してバックアップしてください。

■「バックアップナビ」以外のアプリはすべて終了させてください

■DドライブにバックアップしたデータはDVDなどのディスク（マイデータのみ）や外付けハードディスクなどにコピーしてください

パソコンが故障したときは、Dドライブにバックアップしたデータも含め、ハードディスクのすべてのデータが使えなくなる可能性があります。

(LIFEBOOKの約128GB SSD搭載機種は、Dドライブに「パソコンの状態」をバックアップすることができません。)

■「トラブル解決ナビ」以外で領域を変更した場合は、「バックアップナビ」はお使いになれません
市販のアプリなどでハードディスクの領域設定を行った場合は「バックアップナビ」はお使いになれません。

「バックアップナビ」を使える状態にするには、「リカバリ領域を復元する」(→ P.157) をご覧になり、「ハードディスク全体をリカバリ」を実行してください。

■他のパソコンには復元できません

バックアップしたデータを復元できるのは、このパソコンの C ドライブのみです。

■スリープや休止状態にしないでください

バックアップ／復元や、バックアップデータをディスクにコピー中にスリープや休止状態などの省電力状態にすると、データが正常に書き込まれなくなります。パソコンを省電力状態にする操作はしないでください。

マイデータ

バックアップ／復元できる項目

- ユーザーのデータ
ライブラリなどに登録されているフォルダーのデータがバックアップされます。
- 自分で指定したフォルダー

「マイデータ」の注意事項

■次のデータは、バックアップできません

- 著作権保護された音楽データ、映像データ
デジタル放送の録画番組、インターネット上の音楽配信サイトからダウンロードしたファイルなど、著作権保護された映像データや音楽データなどはバックアップ／復元できない場合があります。
著作権保護された音楽データ、映像データのバックアップ／復元については、お使いのアプリのマニュアルやヘルプをご覧ください。
- テレビ番組を録画したデータ
容量が大きいため、個別に DVD などのディスクにバックアップすることをお勧めします。

「マイデータ」のバックアップ／コピー／復元方法

バックアップ／コピー／復元方法については、サポートページから次の Q&A ナンバーを検索してご覧ください。

- マイデータをバックアップする方法「3309-7979」
- マイデータをコピーする方法「4309-7982」
- マイデータを復元する方法「0609-7981」

パソコンの状態

ハードディスクのCドライブをまるごとバックアップします。パソコンにトラブルが発生した場合、Cドライブをまるごとバックアップしたときの状態に戻すことができます。

電源を切って作業しますので、この内容を印刷しておくことをお勧めします。

「パソコンの状態」の注意事項

■必ず AC アダプタを接続してください

■パソコンに不具合が起きているときは、「パソコンの状態」をバックアップしないでください
「パソコンの状態」をバックアップすると、パソコンのCドライブをそのままの状態に保存するため、不具合も保存されてしまい、復元時に不具合も復元してしまいます。

■保存先の容量を確認してください

「パソコンの状態」のバックアップデータは、前回のバックアップデータを上書きすることなく、バックアップするごとに新規で作成されます。Cドライブで使用している容量より保存先の容量が少ない場合は、「パソコンの状態」のバックアップはできません。不要になったバックアップデータは削除してください（→P.93）。

重要

- ▶ 「パソコンの状態」をバックアップ、および復元する場合、「バックアップナビ」起動時に外付けハードディスクや USB メモリを接続しないでください。増設用内蔵ハードディスクユニットを取り付けている場合は取り外してください。
 - ・ 接続したまま「パソコンの状態」のバックアップ、および復元を開始すると、大切なデータを壊してしまう可能性があります。
 - ・ 外付けハードディスクや増設用内蔵ハードディスクユニットにバックアップする場合は、「バックアップナビ」起動後に、画面の指示に従って接続してください。
- ▶ メモリーカードなどのその他の外部記憶装置は、必ずパソコンから取り外した状態で操作してください。

「パソコンの状態」をバックアップする場所

「パソコンの状態」をバックアップする場所を選択できます。また、作成した「パソコンの状態」のバックアップデータを外付けハードディスクなどにコピーできます。

■D ドライブ

LIFEBOOK の約 128GB SSD 搭載機種を除く
外部のドライブなどを接続する手間がなく簡単に「パソコンの状態」のバックアップ、復元できます。ただし、次の場合は、D ドライブのバックアップも含めハードディスクのすべてのデータが使えなくなります。そのような場合に備え、このパソコンのハードディスク以外の場所にバックアップデータをコピーすることをお勧めします。

●ハードディスクの領域を変更したとき

詳しくは、「C ドライブと D ドライブの割合を変更する」（→P.156）

ハードディスク全体のファイルが削除されてしまうため、D ドライブに作成した「パソコンの状態」のバックアップデータも削除されます。領域変更する場合は、あらかじめパソコンのハードディスク以外にバックアップをコピーしてください。

●このパソコンが故障したとき

パソコンが故障したときは、D ドライブに作成した「パソコンの状態」のバックアップデータも含め、ハードディスクのすべてのデータが使えなくなる可能性があります。

■外付けハードディスク、増設用内蔵ハードディスクユニット

直接「パソコンの状態」をバックアップできます。外付けハードディスクは USB 接続のものを用意してください。USB 接続以外の接続方式では正常に動作しない場合があります。

■ネットワーク上のドライブ （LAN コネクタ搭載機種のみ）

直接「パソコンの状態」をバックアップできます。ネットワークの知識が必要です。別のパソコンの共有フォルダーに、「パソコンの状態」をバックアップしたり、そこから復元したりできます。ネットワーク上のドライブを使う方法は、サポートページから Q&A ナンバー「7209-7934」を検索してご覧ください。

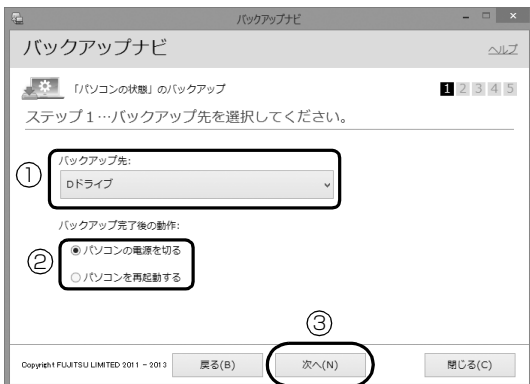
「パソコンの状態」をバックアップする

- 1 スタート画面左下の📌をクリックします。
📌が表示されていない場合は、マウスポインターを動かすと表示されます。
- 2 「FUJITSU-バックアップナビ」の「バックアップナビ」をクリックします。
- 3 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。
「続行するには管理者アカウントのパスワードを入力して、[はい]をクリックしてください。」と表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「はい」をクリックします。
- 4 「バックアップナビ」の概要を説明するウィンドウが表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 5 次の画面の操作をします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります。)

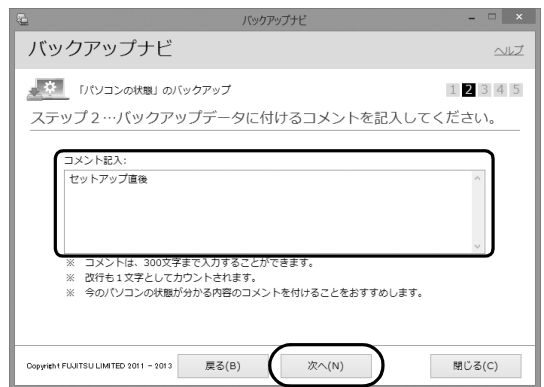
- ① 「バックアップする」タブをクリックします。
 - ② 「パソコンの状態のバックアップ」をクリックします。
- 6 次の画面の操作をします。



- ① 「Dドライブ」または外付けハードディスクなどにバックアップする場合は「その他のドライブ」を選択します。バックアップ先の外付けハードディスクなどは後で接続します。
- ② Dドライブを選択した場合に表示されます。
「パソコンの電源を切る」または「パソコンを再起動する」を選択します。
- ③ 「次へ」をクリックします。

- 7 コメント入力域に、いつの時点の「パソコンの状態」かわかるようなコメントを入力し、「次へ」をクリックします。

例) ・セットアップ直後
・インターネット設定変更



- 8 内容を確認して「次へ」をクリックします。
- 9 「OK」をクリックします。

■Dドライブにバックアップする場合

(LIFEBOOK の約 128GB SSD 搭載機種を除く)

再起動して、「パソコンの状態」をバックアップします。その後、パソコンは手順 6 で選択した動作をします。

これで、バックアップは完了です。

P point

- ▶ バックアップ先にDドライブを選択した場合、バックアップ後初めてWindowsを起動したときに、デスクトップ画面で「バックアップナビ」が起動し、パソコンのバックアップが完了したというメッセージが表示されます。「閉じる」をクリックして、画面を閉じてください。

■ その他のドライブにバックアップする場合
手順 10 に進んでください。

10 「「パソコンの状態」のバックアップ」という画面が表示されたら、次の操作をします。



- ① 外付けハードディスクや増設用内蔵ハードディスクユニットを接続し、認識されるまで10秒ほど待ってから、「一覧を更新」をクリックします。
- ② 「ドライブ一覧」に接続したドライブが表示されたら、保存先のドライブを選択します。
- ③ 「次へ」をクリックします。

11 画面の内容を確認し、「開始する」をクリックします。

「パソコンの状態」のバックアップが始まります。しばらくお待ちください。終了までの時間表示が増えることがあります。これは、途中で終了時間を計算し直しているためです。完了すると「バックアップを終了しました。結果をご確認ください。」と表示されます。

12 「閉じる」をクリックします。
パソコンが再起動します。

これで、指定したドライブに「パソコンの状態」がバックアップされました。

「パソコンの状態」のバックアップデータをコピーする

「パソコンの状態」のバックアップデータは外付けハードディスクなどにコピーできます。コピー方法については、サポートページから Q&A ナンバー「6909-7980」を検索してご覧ください。

「パソコンの状態」を復元する

C ドライブをまるごと、「パソコンの状態」のバックアップ時点に戻します。

C ドライブの現在のデータは失われてしまいます。D ドライブまたは DVD などのディスクや別の媒体などにバックアップしてください。

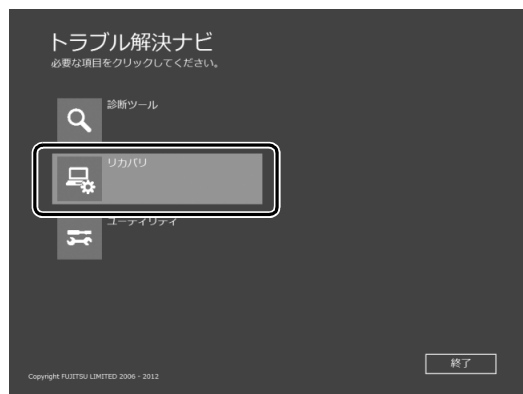
Point

- ▶ Windows が起動できないときは、「かんたんバックアップレスキュー Light」でバックアップできる場合があります（→ P.98）。

1 「トラブル解決ナビ」を起動します。

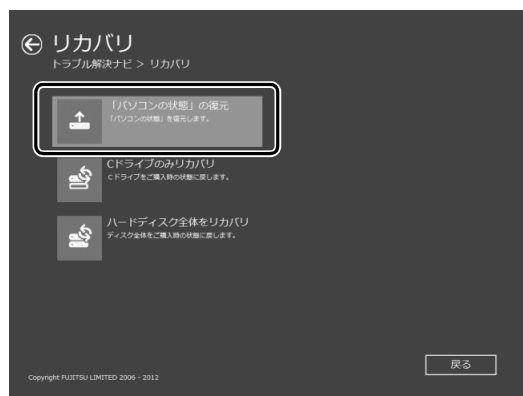
起動方法は「「トラブル解決ナビ」を起動する」（→ P.101）をご覧ください。

2 「リカバリ」をクリックします。



（これ以降の画面は機種や状況により異なります。）

3 「「パソコンの状態」の復元」をクリックします。



4 画面の内容を確認し、次の操作をします。



①「ご使用上の注意」を下までスクロールして確認します。

「同意する」が選択できるようになります。

②「同意する」をクリックして●にします。

③「次へ」をクリックします。

5 復元したい「パソコンの状態」のバックアップデータを選択します。



① Dドライブ以外に保存したバックアップデータを復元する場合、外付けハードディスクや増設用内蔵ハードディスクユニットを接続した後、認識されるまで10秒ほど待ってから、「一覧を更新」をクリックします。「バックアップデータ一覧」に「パソコンの状態」のバックアップデータが表示されます。

② 復元する「パソコンの状態」のバックアップデータをクリックして選択します。

③「次へ」をクリックします。

Point

- ▶ Dドライブに保存した「パソコンの状態」のバックアップデータが表示されない場合 (LIFEBOOKの約128GB SSD搭載機種を除く) 削除してしまっている可能性があります。ハードディスクの領域設定を変更した場合、CドライブのデータもDドライブのデータやバックアップデータも削除されます。

6 「復元開始」をクリックします。



「パソコンの状態」のバックアップデータを使ってCドライブの復元が始まり、復元の進行状況を示す画面が表示されます。

7 そのまましばらくお待ちください。

終了までの残り時間は正確に表示されない場合や増える場合があります。これは途中で終了時間を計算し直しているためです。

しばらくすると、「復元が正常に終了しました。」と表示されます。

8 「閉じる」をクリックします。

パソコンが再起動します。

これで、「パソコンの状態」のバックアップデータを使った復元が完了しました。

「パソコンの状態」のバックアップデータを削除する

「バックアップナビ」の「管理」タブで、D ドライブなどに保存した「パソコンの状態」のバックアップデータを削除できます。画面の指示に従って操作してください。



- ▶ 外付けハードディスクや増設用内蔵ハードディスクユニットに保存した「パソコンの状態」のバックアップデータを削除する場合は、「バックアップナビ」を起動する前に接続してください。

メールや Office で困ったときは

「Outlook」（メールアプリ）や「Word」、「Excel」などの Office の製品については、アプリ提供元の日本マイクロソフト株式会社にお問い合わせください。

オフィス ホーム ビジネス Office Home & Business Premium オフィス パーソナル Office Personal Premium マイクロソフト エクセル マイクロソフト ワンノート マイクロソフト アウトルック マイクロソフト パワーポイント マイクロソフト ワード マイクロソフト パワーポイント ・ Microsoft Excel 2013 ・ Microsoft OneNote 2013 ・ Microsoft Outlook 2013 ・ Microsoft PowerPoint 2013 ・ Microsoft Word 2013 ・ Microsoft PowerPoint 2013 楽しむ フォト ウィザード	日本マイクロソフト株式会社 技術サポート窓口 電話：0120-54-2244 受付時間：月～金／ 9:30 ～ 12:00、13:00 ～ 19:00、 土・日／ 10:00 ～ 17:00（日曜はインストール サポートのみ） URL：http://support.microsoft.com/contactus/
---	--

※搭載されているアプリはお使いの機種により異なります。

ウイルス対策アプリなどで困ったときは

ウイルスバスター クラウド™ のお問い合わせ先

ウイルスバスター クラウド™	※購入後 1 年間のサポート窓口 グローバルソリューションサービス株式会社 電話：0800-300-3337 受付時間：10:00～23:00 ※購入後 2 年目以降のサポート窓口 トレンドマイクロ株式会社 ウィルスバスタークラブセンター URL：http://jp.trendmicro.com/jp/support/personal/contact/index.html
----------------	--

その他のアプリのお問い合わせ先

記号	@nifty でブロードバンド	ニフティ株式会社 @nifty お申し込み受付デスク 電話：0120-50-2210 ※携帯電話・PHS からもご利用可 受付時間：10:00～19:00（年中無休）
C	Campus English わかる！英語資格ガイド	株式会社 朝日出版社 第三編集部 電話：03-3263-3326 FAX：03-3239-0479 受付時間：10:00～18:00 E メール：otoiawase@asahipress.com
D	DigiBook® Browser for FUJITSU	株式会社 DigiBook 電話：03-6805-9240 FAX：03-5468-1250 受付時間：10:00～17:00 URL：https://secure.digibook.net/contact/ E メール：info@digibook.net
I	i-フィルター® 6.0	デジタルアーツ株式会社 サポートセンター 電話：0570-00-1334 受付時間：10:00～18:00（指定休業日を除く） URL：http://www.daj.jp/faq/ お問い合わせフォーム：http://www.daj.jp/ask/ 90 日間の試用期間中、サポートいたします。
S	Skype	日本マイクロソフト株式会社 URL：https://support.skype.com/ja/
あ 行	アルクの英語 簡単スタートガイド	株式会社アルク 文教営業部 電話：03-3323-0709 FAX：03-3323-1173 受付時間：9:00～18:00（土・日・祝祭日を除く） URL：http://www.alc.co.jp/college/ E メール：kke@alc.co.jp
か 行	学研パーソナル英和辞典 学研パーソナル和英辞典 学研パーソナル現代国語辞典 学研パーソナル版漢字辞典 広辞苑第六版	株式会社学研教育出版 デジタルコンテンツ事業室 電話：03-3493-3286（辞書データについてのお問い合わせ先） 受付時間：10:00～12:00、13:00～17:00（土・日・祝祭日を除く） 辞書のひき方や、「電子辞書」の使い方については「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」（→P.105）へお問い合わせください。 株式会社岩波書店 電子出版編集部 電話：03-5210-4082（辞書データについてのお問い合わせ先） 受付時間：13:00～17:00（土・日・祝祭日を除く） 辞書のひき方や、「電子辞書」の使い方については「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」（→P.105）へお問い合わせください。

※搭載されているアプリはお使いの機種により異なります。

さ 行	情報倫理デジタルビデオ小品集4	大学 ICT 推進協議会 事務局 電話：092-409-2360 FAX：092-642-2294 受付時間：10:00～16:00 URL：http://axies.jp/ja Eメール：office@axies.jp
	新和英中辞典第5版 リーダーズ英和辞典第3版	株式会社研究社 電子出版室 電話：03-3288-7711（辞書データについてのお問い合わせ先） 受付時間：10:00～12:00、13:00～17:00（土・日・祝祭日を除く） 辞書のひき方や、「電子辞書」の使い方については「富士通/パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」（→P.105）へお問い合わせください。
	ソフト使い放題	株式会社オブティム ソフト得 ソフト使い放題サポートセンター 電話：ご契約前のお客様 03-6435-8566 ご契約後のお客様 050-3734-4960 受付時間：10:00～18:00（年中無休） FAQ：http://azby.fmworld.net/monthly/faq.html?unlimitedfrom=unlimitedNavi_faq#unlimited お問い合わせフォーム：http://www.optim.co.jp/contents/12049
な 行	ナレロー 成績上々 Office 2013	株式会社ナレロー カスタマーサポート 電話：019-656-1706 受付時間：10:00～12:00、13:00～17:00 URL：http://narero.com/customersupport/customersupport.html Eメール：inquiry@narero.com
は 行	筆ぐるめ 21	富士ソフト株式会社 インフォメーションセンター 電話（ナビダイヤル）：0570-550-211 （IP電話/PHSの場合：03-5638-6139） 受付時間：9:30～12:00、13:00～17:00 （土日、祝祭日、及び弊社休業日を除く／11月1日から12月30日までは無休（12月30日は12:00まで）） URL：http://www.fudegurume.jp/ Eメール：users@fsi.co.jp
	筆まめ Ver.24 ベーシック 富士通バンドル版	電話（ナビダイヤル）：0570-666-226（ナビダイヤルがご利用いただけない場合：042-679-7566） 受付時間：10:00～17:00（日曜、祝日除く） URL：http://fudemame-guide.com/support/product/fmfw24/faq/ ※本ソフトのサポートサービスは、2015年12月31日までです。

※搭載されているアプリはお使いの機種により異なります。

アプリのお問い合わせ先の確認方法

本書に記載されていないアプリのお問い合わせ先は、「@メニュー」で確認することもできます。

- 1 スタート画面で「@メニュー」をクリックします。
- 2 アプリを探し、お問い合わせ先を表示します。



(画面は機種や状況により異なります)

- ① カテゴリを選択します。
- ② ジャンルを選択します。
- ③ 「目的でさがす」をクリックし、やりたいことを選択します。
- ④ 「お問い合わせ先」をクリックします。

よくあるトラブルと解決方法

トラブルが発生した場合、まず次の点を確認してください

- 使用する装置（パソコンや周辺機器）の電源はすべて入っていますか？
- ケーブル類は正しいコネクタに接続されていますか？ また、ゆるんだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありますか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（ハブなど）の接続や電源も確認してください。
- パソコンを再起動するとトラブルが解消される場合があります。パソコンの操作が可能なときは、次の手順で再起動してください。
 1. スタート画面の右上にある  をクリックします。
 2. 表示されたメニューから「再起動」を選択します。

起動・終了時のトラブル

症状	考えられる原因	対処方法
電源が入らない	電源ケーブルや AC アダプタが正しく接続されていない	電源ケーブルや AC アダプタが正しく接続されているか確認してください（→ P.20）。
	バッテリー残量が少ない	AC アダプタを接続し、バッテリーを充電してください。
	バッテリーパックを交換した場合に正しく取り付けられていない	バッテリーパックが正しく取り付けられているか確認してください（→ P.46）。
	上記の対処で解決しない	AC アダプタと内蔵バッテリーパックをいったん取り外し、2 ～ 3 分放置後、再び取り付けてください。
Scroll Lock ランプが点滅し、Windows が起動しない	メモリを増設または交換した場合にメモリが正しく取り付けられていない	メモリが正しく取り付けられているか確認してください（→ P.68）。
	メモリを増設または交換した場合にサポートしていないメモリを取り付けている	取り付けたメモリがこのパソコンでサポートされているか確認してください（→ P.68）。
画面に何も表示されない	外部ディスプレイのみに表示する設定になっている	次の手順で表示先を切り替えてください。 1.  を押しながら  を 2 回押す、または、 を押しながら  を 2 回押す。 2.  を押す。
	画面が暗すぎる	 +  を押して、画面を明るくしてください。
	ディスプレイのバックライトが消灯している	何かキーを押してください。
	スリープや休止状態になっている	電源ボタンを押してください。
	上記の対処で解決しない	電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れ直してください。 なお、ハードディスクに保存されていない作業中のデータは失われます。

症状	考えられる原因	対処方法
Windows が起動しない	周辺機器が正しく取り付けられていない	周辺機器のマニュアルをご覧ください、正しく取り付けられているか確認してください。
	上記の対処で解決しない	ハードウェアの診断を行ってください(→P.100)。
電源が切れない	Windows が動いていない	次の手順で Windows を終了させてください。 ハードディスクが動作しているときに電源を切ると、ファイルが失われたり、ハードディスクが壊れたりする可能性がありますので、ご注意ください。 1. [Ctrl] + [Alt] + [Delete] を押す。 2. 画面右下の [U] をクリックして表示されるメニューで「シャットダウン」を選択する。
	フラットポイントやマウスが使えない	次の手順で、Windows を終了させてください。 1. [Win] + [C] を押す。 2. カーソルキーで「設定」を選択して [Enter] を押す。 3. カーソルキーで [U] を選択して [Enter] を押す。 4. カーソルキーで「シャットダウン」を選択して [Enter] を押す。
	上記の対処で解決しない	電源ボタンを 4 秒以上押して、電源を切ってください。 なお、ハードディスクに保存されていない作業中のデータは失われます。

Point

- ▶ このパソコンには、Windows が起動しなくなったとき、C ドライブにあるお客様のデータファイル（ドキュメントや画像など）を D ドライブにコピーする「かんたんバックアップレスキュー Light」が搭載されています。

お使いになるには、「トラブル解決ナビ」を起動し（→ P.101）、「ユーティリティ」の「かんたんバックアップレスキュー Light」をクリックしてください。なお、操作については、表示された「必ずお読みください」をご覧ください。

ディスプレイのトラブル

症状	考えられる原因	対処方法
画面に何も表示されない	「起動・終了時のトラブル」の「画面に何も表示されない」の項目をご覧ください（→ P.98）。	
画面が急に表示されなくなった	パソコンが磁気に反応し、スリープや休止状態になった	磁気の発生するものを遠ざけ、電源ボタンを押してください。

ここまでの確認でトラブルが解決しない場合

次の手順で表示される説明をご覧ください。

- 1  を押して、スタート画面を表示します。
- 2 「富士通アドバイザー」をクリックします。
「富士通アドバイザー」の画面が表示された場合は、内容をよくお読みになり、「同意する」をクリックします。
また、「富士通アドバイザーをバックグラウンドで実行しますか?」と表示された場合は、「許可」をクリックします。
- 3 「富士通アドバイザー」の「トラブル解決」をクリックします。

インターネットに接続して上記の操作を行うと、表示される内容が最新の状態に更新されます。

「富士通ハードウェア診断ツール」を使う

Windows が起動しなくなったときに、このパソコンのハードウェア（CPU、メモリ、ディスプレイ、ハードディスク、CD/DVD ドライブ）に問題がないか診断します。

- 「トラブル解決ナビ」から起動できます。
- パソコン本体の電源を切り、あらかじめ周辺機器を取り外しておいてください。
- 診断したいハードウェアを選択できます。
- 診断時間は 5 ～ 20 分程度です。

■「富士通ハードウェア診断ツール」で診断する

- 1 「トラブル解決ナビ」を起動し（→ P.101）、「診断ツール」▶「富士通ハードウェア診断ツール」の順にクリックします。
「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「情報」ウィンドウが表示されます。
- 2 表示された注意事項をよく読み、「OK」をクリックします。
「情報」ウィンドウが閉じます。
- 3 診断したいアイコンにチェックが入っていることを確認し、「実行」をクリックします。
ハードウェア診断が始まります。
診断時間は通常 5 ～ 20 分程度ですが、お使いのパソコンの環境によっては、長時間かかる場合があります。

Point

- ▶ 「CD/DVD/BD(E:) ドライブに CD-ROM または DVD-ROM をセットしてください。」などと表示された場合は、お手持ちの CD や DVD をセットして「診断開始」をクリックしてください。
ただし、データが書き込まれていないディスクや、コピーガードされたメディア（映画などの DVD、およびコピーコントロール CD など）は使用できません。
- ▶ 診断を取りやめる場合は「キャンセル」をクリックしてください。

- 4 「診断結果」ウィンドウに表示された内容を確認します。

■エラーコードが表示された場合

メモなどに控え、お問い合わせのときにサポート担当者にお伝えください。

■問題がない場合

診断後、「パソコンを以前の状態に戻す」（→ P.101）に進んでください。

- 5 「診断結果」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。
「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウに戻ります。
- 6 「終了」をクリックします。
「終了」ウィンドウが表示されます。
- 7 「はい」をクリックします。
「トラブル解決ナビ」ウィンドウに戻ります。
- 8 「終了」▶「シャットダウン」の順にクリックします。
パソコンの電源が切れます。

Point

- ▶ Windows が起動しなくなったときは、起動メニューから起動できる「診断プログラム」を使用してもハードウェアの障害箇所を診断できます。
診断時間は通常 5 ～ 20 分程度ですが、診断するパソコンの環境によっては長時間かかる場合があります。
- 1. BIOS の設定をご購入時の状態に戻します。
- 2. パソコン本体に外付けハードディスクなどを接続している場合は、取り外します。
- 3. パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります。
- 4.  を押しながら、パソコンの電源ボタンを押します。

5. 起動メニューが表示されたら、**[F12]** から指を離します。
6. キーボードの **[Tab]** を押し、画面を切り替えます。
7. メニューが表示されたら、**[↓]** を押して、「診断プログラム」または「Diagnostic Program」を選択し、**[Enter]** を押します。
8. 「診断プログラムを実行しますか？」または「Do you want to continue?」と表示されたら、**[Y]** を押してハードウェア診断を開始します。
ハードウェア診断が終了すると、診断結果が表示されます（お使いの機種によっては、いったんパソコンが再起動した後で診断結果が表示されます）。
 - ・ 診断後にエラーコードが表示された場合は、メモしておき、サポートの窓口伝えてください。
 - ・ トラブルが検出されなかった場合
[Enter] を押してください。「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「情報」ウィンドウが表示されます。
この後の操作については、「「富士通ハードウェア診断ツール」で診断する」(→ P.100) をご覧ください。
 - ・ トラブルが検出された場合
画面に表示された内容をメモなどに控え、お問い合わせのときにサポート担当者にお伝えください。その後、**[Y]** を押してパソコンの電源を切ってください。

パソコンを以前の状態に戻す

ハードウェアに問題がなく、マニュアルやインターネットの Q&A でも解決できなかった場合は、パソコンが問題なく動作していた時点の状態に戻す、という解決方法があります。

ただし、この解決方法は、今まで作成した C ドライブ内のデータや設定がすべて削除されてしまうなど、現在お使いの状態に戻すには大変手間がかかります。本当に必要かどうか再度確認してください。

どうしても必要な場合は、注意事項を必ず確認したうえで行ってください。

このパソコンでは2つのやり方でパソコンを以前の状態に戻すことができます。

- 「バックアップナビ」で「パソコンの状態」を復元する
詳しくは、「バックアップ」(→ P.87) をご覧ください。
「パソコンの状態」のバックアップを作成している場合、バックアップを作成した時点に戻すことができます。
バックアップ後に行った設定や作成したデータなどは削除されます。
- ご購入時の状態に戻す
詳しくは、「ご購入時の状態に戻す」(→ P.109) をご覧ください。
「パソコンの状態」のバックアップを作成していない場合は、ハードディスクの「リカバリ領域」のデータを使用し、ご購入時の状態に戻します。
ご購入時の状態に戻るため、再度セットアップが必要です。現在お使いの状態に戻すには、アプリをインストールしたり、データを復元したりなど大変手間がかかります。

「トラブル解決ナビ」を起動する

■ハードディスクから起動する

- 1 パソコン本体に外付けハードディスクなどを接続している場合は、取り外します。
- 2 パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります(→ P.173)。
- 3 **[F12]** を押しながら、パソコンの電源ボタンを押します。
- 4 起動メニューが表示されたら、**[F12]** から指を離します。



- ▶ Windows が起動してしまった場合は、手順2から操作をやり直してください。

- 5 キーボードの **[Tab]** を押し、画面を切り替えます。
- 6 メニューが表示されたら、**[↓]** を押し、「トラブル解決ナビ」または「Recovery and Utility」を選択して、**[Enter]** を押します。
「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。

■「トラブル解決ナビディスク（リカバリ起動ディスク）」から起動する

◎「トラブル解決ナビディスク（リカバリ起動ディスク）」または◎「トラブル解決ナビ&ソフトウェア&リカバリデータディスク」から「トラブル解決ナビ」を起動する方法です。パソコンを廃棄するときやリカバリ領域の削除／復元をするときなど、特別な操作をするときだけ行います。

- 1 パソコン本体に外付けハードディスクなどを接続している場合は、取り外します。
- 2 パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります（→ P.173）。
- 3 **[F12]** を押しながら、パソコンの電源ボタンを押します。
- 4 起動メニューが表示されたら、**[F12]** から指を離します。
起動メニューが表示されます。
「アプリケーションメニュー」または「Application Menu」が表示された場合は、**[Tab]** を押して「起動メニュー」または「Boot Menu」に切り替えます。
- 5 ◎「トラブル解決ナビディスク（リカバリ起動ディスク）」または◎「トラブル解決ナビ&ソフトウェア&リカバリデータディスク」をセットします。
認識されるまで 30 秒ほど待ってから、次の手順に進んでください。
ディスクをセットする方法については、「ディスクをパソコンにセットする／取り出す」（→ P.59）をご覧ください。
- 6 **[↓]** を押して「CD/DVD」や「CD/DVD Drive」などを選択し、**[Enter]** を押します。

Point

- ▶ 「CD/DVD の起動モードを選択してください。」または「Please select CD/DVD boot mode:」という画面が表示された場合は、「UEFI モードで起動」または「UEFI Mode」を選択し、**[Enter]** を押します。

- 7 そのまましばらくお待ちください。
この間、画面が真っ暗になったり、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。電源を切らずに、そのままお待ちください。
- 8 「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。

■「トラブル解決ナビ」が起動しない場合の解決方法

「トラブル解決ナビ」が表示されない場合は、次のように対処してください。

- BIOS の設定をご購入時の状態に戻すと解決する場合があります（→ P.102）。
- 市販のアプリや、Windows の「ディスクの管理」で領域設定を変更している場合は、「全ドライブをご購入時の状態に戻す」を実行してください。
詳しくは、「ハードディスクの領域について」（→ P.156）をご覧ください。

□ BIOS の設定をご購入時の状態に戻す

- 1 パソコン本体に外付けハードディスクなどを接続している場合は、取り外します。
- 2 パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります（→ P.173）。
- 3 **[F2]** を押しながら、パソコンの電源ボタンを押します。
- 4 BIOS の画面が表示されたら、**[F2]** から指を離します。

Point

- ▶ Windows が起動してしまった場合は、手順 2 から操作をやり直してください。
- ▶ BIOS の画面が表示されず、Windows も起動しない場合は、電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切り、10 秒以上待った後、手順 3 から操作をやり直してください。

- 5 **[←]**、**[→]**、**[↑]**、または **[↓]** で「終了」または「Exit」メニュー▶「標準設定値を読み込む」または「Load Setup Defaults」の順に選んで **[Enter]** を押します。
- 6 「はい」または「Yes」を選んで **[Enter]** を押します。
- 7 「変更を保存して終了する」または「Exit Saving Changes」を選んで **[Enter]** を押します。
- 8 「はい」または「Yes」を選んで **[Enter]** を押します。

BIOS セットアップについて詳しくは、「BIOS の設定」（→ P.159）をご覧ください。

富士通の窓口相談する

ユーザー登録のご案内

■ユーザー登録とは

ご購入されたパソコンとお客様の情報を、富士通に登録していただくことです（入会費・年会費無料）。ユーザー登録をすると、1年間の無料電話相談などの手厚いサポートや専用の充実したサービスをご利用いただけます。

重要

- ▶ ご登録いただける住所は、日本国内のみとなります。

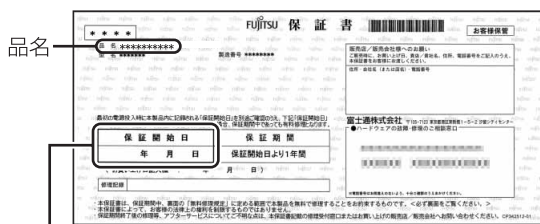
■ユーザー登録をする

ここではインターネットでユーザー登録する方法を説明します。操作できない場合など、ユーザー登録に関するお問い合わせは、「お問い合わせ窓口のご紹介」（→ P.105）の「電話で相談する」をご覧ください。

□必要なものを用意してください

●保証書

製品の情報を確認するときに必要になります。登録後も大切に保管してください。



保証開始日

Point

- ▶ 保証開始日に初めて電源を入れた日を記入してください。
保証開始日は「@メニュー」から確認できます。「安心・サポート」▶「トラブル診断」▶「目的でさがす」▶「パソコンの情報を表示する」の順にクリックし、「パソコンの情報」が表示されたら「実行する」をクリックしてください。

●筆記用具

ユーザー登録時に発行されるユーザー登録番号などを本マニュアルに控えていただくときに必要になります。

□ユーザー登録方法

セットアップ後に表示された「はじめに行う設定」の「ユーザー登録を表示」のリンクをクリックすると、インターネットのユーザー登録専用ホームページが表示されます。

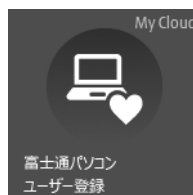
1 画面上の説明をお読みになり、手続きを行ってください。

ユーザー登録時に発行されるユーザー登録番号などを、次の欄に記入して、大切に保管してください。記入後は第三者に漏れないよう注意してください。

A screenshot of a user registration form. It has two main input fields: 'ユーザー登録番号' (User Registration Number) and 'パスワード' (Password). There is a pencil icon in the top right corner of the form area.

Point

- ▶ ユーザー登録専用ホームページを表示するにはインターネットに接続する必要があります。
- ▶ ユーザー登録にはメールアドレスが必要です。
- ▶ スタート画面で「富士通パソコンユーザー登録」をクリックしてもユーザー登録専用ホームページを表示することができます。



サポート＆サービス紹介

富士通のパソコンをより楽しく快適に利用いただくために、インターネット上のサポートページやサービスをご用意しております。

■サポートページ

<http://azby.fmworld.net/support/>



(画面は状況により異なります)

■会員専用サポート

マニュアルや、サポートページなどで確認しても、問題が解決できない場合、電話やメールで技術相談を受けられます。

詳しくは、「お問い合わせ窓口のご紹介」(→ P.105)をご覧ください。

富士通パソコンユーザーのためのサポートページです。過去に電話窓口などにお問い合わせいただいたときの履歴をご確認いただくことができます。

富士通からの重要なお知らせなど、役立つ内容があります。

□新着情報

すぐに使えるテクニックや、富士通パソコンユーザー向けのサービス情報などが毎週更新されます。

パソコン活用情報

新着情報 (2014年10月10日更新)



パソコンの寿命ってどのくらい？壊れてからでは遅すぎる！

大事なデータは消えてしまうと元に戻せません。寿命をきちんと把握してその日のために備えましょう。

分散...

■ [私物のスマホやアプリを勝手に仕事で利用していませんか？ - 【ウィル】](#)

■お問い合わせ窓口のご紹介

富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口

お客様に合わせた様々な方法でお問い合わせができます。

メール

Twitter

ネットで故障診断

電話予約

電話

が、ご利用できます。

技術相談も、修理相談もワンストップで解決！より便利に簡単にご利用できる窓口になりました。

富士通FMVサポートページ <http://azby.fmwworld.net/support/> ※最新の情報はホームページをご覧ください。



“メール”で相談する

メール

ホームページ上の専用の質問フォームから送信いただいたFMVに関するお問い合わせを受け付け、Eメールで回答いたします。
Q&A・パソコン活用情報を検索後にお問い合わせいただけます。

- 1 Q&Aで調べる
- 2 質問フォームに入力する
- 3 メールで回答

各Q&Aページの下の方に質問フォームを表示するボタンがあります。

Q&Aで問題が解決しないときは、下記の方法もお試しください。



詳しい人に聞く
- OK Corporation -



メールサポートを利用する



サポートコール予約を利用する

*ユーザー登録が必要となります。

パソコン

スマートフォン



“Twitter”でアドバイスを受ける

Twitter

TwitterのFMV公式アカウントを、ぜひフォローしてください。
お役立ちQ&Aをご紹介します。お困り内容をつばやくと、担当者からアドバイスが届くことも！（「富士通」「FMV」「My Cloud」などの言葉を交えてツイートしてみましょう）

FMV公式アカウント：@Fujitsu_FMV_QA

- *お問い合わせにはTwitterへのログインが必要となります。
- *お客様に沿った案内が必要な場合は、メールでの相談をご案内する場合がございます。
- *お問い合わせいただいたすべてのご質問にお答えできない場合もございます。
- *Twitterの特性を最大限に生かすため、お客様とのやりとりはみなさまに見える状態でツイートいたします。

パソコン

スマートフォン



“インターネットで故障を診断”する

ネットで故障診断

画面にしたがって状況を確認したり設定を変更したりするだけでトラブルを診断し、解決方法をアドバイスします。
故障と診断された場合は、その場で修理申し込みができます。

<http://azby.fmwworld.net/webpcrepair/>

トラブル診断



※方角一歩間違えられた場合は閲覧料金が確認できます。

パソコン

スマートフォン

電話予約

電話



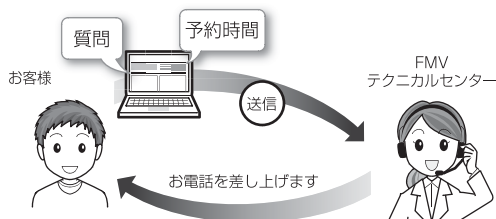
“電話”で相談する

*ご利用料金に関しては、次ページの「ご利用料金とお支払いについて」をご覧ください。

電話相談の“予約”をする

お客様がホームページよりご予約された時間帯に、FMVテクニカルセンターのサポート担当者からお電話を差し上げ、ご予約の際に入力されたご質問にお答えします。

<https://azby.fmwworld.net/callback/>



*ユーザー登録が必要となります。

*富士通からお電話をかける連絡先は、日本国内に限らせていただきます。
また日本語対応のみとなります。

パソコン

スマートフォン

お困りごとのご相談はこちら

通話料無料 **0120-950-222** 受付時間：9:00～19:00(注)

携帯電話、PHS、IP電話、海外からはこちら **045-514-2255**
(通話料金お客様負担) 受付時間：9:00～17:00

修理受付はこちら

通話料無料 **0120-926-220** 受付時間：9:00～19:00(注)

携帯電話、PHS、IP電話、海外からはこちら **045-514-2260**
(通話料金お客様負担) 受付時間：9:00～17:00

注：受付時間は窓口によって異なります。ガイダンスに従ってご利用ください。
※電話番号はお間違えないように、十分ご確認のうえおかけください。
※システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合があります。
※音声ガイダンス内容・操作方法・受付時間は、予告なく変更させていただく場合があります。
※ユーザー登録されている電話番号をお客様の発信番号が一致した場合には、ユーザー登録番号の入力が省略できます。
※非通知設定による発信や、ユーザー登録されている番号と異なる発信番号等、一部ユーザー登録情報の確認ができない場合は、音声ガイダンスの指示に従ってユーザー登録番号を入力してください。

□ご利用料金とお支払いについて

●ご利用料金

- ・パソコン本体に初めて電源を入れた日（保証開始日）から、**1年間無料**でご利用いただけます。[注]

注：Refreshed PCに関する電話による技術サポートに関しては、1年目もお問い合わせ1件あたり2,060円（税込）となります。

また、受付時間は月～金曜日（祝日を除く）9時～17時となります。

- ・2年目以降

お問い合わせ1件あたり2,060円（税込）

※ My CloudカードまたはAzbyClubカードでお支払いの場合は、1,540円/件（税込）でご利用いただけます。My CloudカードおよびAzbyClubカードについて詳しくは、(<http://azby.fmworld.net/members/mycloudcard/>) をご覧ください。

※ プレミアムサービスに利用登録されているお客様のご利用料金につきましては、プレミアムサービスの専用ホームページにてご案内いたします。



- ▶ お問い合わせ1件は、お電話の回数ではなく、技術相談1項目ごとに1件と扱います。同じご相談内容であれば次回お問い合わせいただく際、料金は加算いたしません。（ただし14日以内に限りです）

●お支払い方法

お支払い方法は、音声ガイダンスに従って、次のいずれかを選択してください。

クレジット カード支払い	音声ガイダンスで、クレジット カード番号、有効期限の入力をお 願いします。
コンビニ振込	コンビニ振込をご利用の場合は、 手数料が別途210円かかります。

□お問い合わせ前に確認してください

- 「サポートページ」(<http://azby.fmworld.net/support/>) で解決方法を確認しましたか？
知りたい情報やトラブル解決方法をお調べいただけます。
- ユーザー登録はしましたか？
電話サポートの利用にはユーザー登録が必要です。
ユーザー登録方法は「ユーザー登録のご案内」(→ P.103) をご覧ください。

- アプリのお問い合わせ先を確認しましたか？
各アプリ提供会社のお問い合わせ先は、「メールやOffice で困ったときは」(→ P.94) および「ウイルス対策アプリなどで困ったときは」(→ P.95) をご覧ください。
- お使いのパソコンをお手元にご用意いただいていますか？
お電話中に操作を行っていただく場合がございますので、お手元にご用意ください。
- データのバックアップはしましたか？
大切なデータの予備を保存しておく、安心です。
バックアップ方法については、「バックアップ」(→ P.87) をご覧ください。

■修理を申し込む前の準備

- 故障かどうかをもう一度ご確認ください
パソコンのトラブルは、設定の誤りなど、故障以外が原因のこともあります。実際に「故障や修理に関する受付窓口」へのお電話の半数以上は、パソコンの故障ではなく、設定を変更することで問題が解決しています。
「ネットで故障診断」(<http://azby.fmworld.net/webpcrepair/>) で、本当にパソコンが故障しているか確認してください。
- 修理規定をご確認ください
お申し込み前に必ず「富士通パーソナルコンピュータ修理規定」(→ P.176) を確認のうえ、同意をお願いします。
- 修理料金の目安を確認できます
ホームページで概算修理料金をご覧ください。
<http://azby.fmworld.net/support/repair/syuribin/charge.html>
- 保証書をお手元にご用意ください
保証期間は、初めてパソコン本体の電源を入れた日（保証開始日）から1年間となります。保証期間内は無料で修理させていただきます。
ただし、保証期間内でも有料となる場合があります。詳しくは、保証書裏面「無料修理規定」を確認してください。



- ▶ 保証開始日は「@メニュー」から確認できます。「安心・サポート」▶「トラブル診断」▶「目的でさがす」▶「パソコンの情報を表示する」の順にクリックし、「パソコンの情報」が表示されたら「実行する」をクリックしてください。

●故障品をお手元にご用意ください

お申し込み時に操作いただく場合があるため、お手元に故障品をご用意ください。

●データのバックアップをおとりください

修理前の診断作業および修理の結果、記憶装置（ハードディスクなど）内に記録されたお客様データが消失する場合があります。弊社ではいかなる作業においても、お客様のデータの保証はいたしかねるため、大切なデータは必ずお客様自身で DVD などのディスクや外付けハードディスクなどにバックアップしてください。

バックアップの方法については、「バックアップ」（→ P.87）をご覧ください。

また、パソコンの故障などによりお客様がバックアップできない場合には、「PC データ復旧サービス」（有料）もご利用いただけます。

PCデータ復旧サービス(有料)

<http://azby.fmworld.net/datarescue/>

■修理の申し込み

パソコンの修理は、ホームページまたは電話でお申し込みください。

□ホームページで申し込む（ネットで故障診断）

「ネットで故障診断」では、パソコンが故障しているかどうかを調べることができます。

故障と診断された場合は、ホームページから修理を申し込むことができます。

ネットで故障診断

<http://azby.fmworld.net/webpcrepair/>

□電話で申し込む

「お問い合わせ窓口のご紹介」（→ P.105）の「修理受付はこちら」をご覧ください。

重要

- ▶ 修理のために交換した故障部品は返却しません。あらかじめご了承ください。
- ▶ 修理のお申し込みの際は、お客様の名前や電話番号をお伺いいたします。お客様の個人情報の取り扱いについては「富士通パーソナルコンピュータ修理規定」（→ P.176）の第13条（個人情報の取り扱い）をご覧ください。

■お引き取りとお届け（パソコン修理便）

弊社指定の宅配業者がご自宅へパソコンをお引き取りに伺います。

お引き取りから修理・お届けまで約7日間です（土・日・祝日を含む）。[注]

注：修理の内容によっては、日数を要する場合があります。また、離島の場合は船便のための日数がかかります。

□お引き取り日時について

お引き取りは、修理受付の翌日以降、弊社設定の時間帯（9:00～21:00[注]）で指定できます。

注：地域により異なります。お申し込み時にご確認ください。また、交通事情などにより指定日時にお伺いできない場合があります。

□お引き取りについて

宅配業者が指定日時にご自宅へ伺います。

梱包は宅配業者が行いますので、故障品は梱包せずに玄関先にご準備ください。

重要

- ▶ 次の各種パスワードは事前に解除してください。確認のために修理作業が中断し、修理に時間がかかる場合があります。

- ・ BIOS パスワード
- ・ ハードディスクパスワード

- 保証書を用意してください（保証期間中の場合）。宅配業者が故障品といっしょに梱包いたします。
- 宅配業者がお渡しする「お預かり伝票」を大切に保管してください。
- お引き取り後のキャンセルについては、診断料を申し受けます。あらかじめご了承ください。
- 「修理状況確認サービス」

（<http://azby.fmworld.net/support/pcrepair/>）で携帯電話やスマートフォン、パソコンのメールアドレスをご登録ください。故障品の当社への到着、お見積もり発行時の連絡、修理完了品の発送、お届け予定日などをメールでお知らせします。

□お届けとお支払いについて

修理完了品を玄関先までお届けします。有料の場合は代金引換払いとなりますので、宅配業者に現金でお支払いください。

●修理料金について

- ・保証期間内（保証開始日より1年間）：無料（保証書記載の「無料修理規定」による）
 - ・保証期間外：有料（修理にかかる部品代、技術料等）
- ※ 交通事情などにより、ご指定の日時にお伺いできない場合があります。

■修理状況の確認

ホームページや電話で、修理状況を確認できます。

□ホームページで確認する（修理状況確認サービス）

パソコン、スマートフォン、携帯電話（iモード、Ezweb、Yahoo! ケータイ）で「お預かり伝票」の「修理お問合せ番号」（8桁の番号）を入力して、修理状況を確認できます。

修理状況確認サービス

パソコン・スマートフォン・携帯電話から

<http://azby.fmworld.net/support/pcrepair/>

バーコード読み取り機能付きのスマートフォンや携帯電話では、右のバーコードからアクセスいただけます。



※ 携帯電話、スマートフォンの操作方法については、お使いの機種のメーカーにお問い合わせください。

□電話で確認する

音声ガイダンスに従ってダイヤルを押してください。「お預かり伝票」の「修理お問合せ番号」（8桁の番号）と、修理お申し込み時にご登録されたお電話番号を入力してください。

富士通修理お問い合わせダイヤル

キューニーロク ニーニーマル
0120-926-220

▶▶ダイヤル **3** をプッシュ



通話料無料 / 受付時間：24時間365日

携帯電話、PHS、海外からはこちら

ゴーイチヨン ニーニーロクマル
045-514-2260

（通話料金お客様負担）

受付時間：9：00～17：00

※ システムメンテナンスのため、サポートを休止させていた場合があります。

■訪問修理サービス（有料）

弊社指定の修理サービス会社でご自宅に伺い、その場で修理を行う有料サービスです。

ご利用料金は、修理作業完了後に、修理担当者に現金でお支払いください。

●訪問修理の料金体系

	訪問料金	修理料金
保証期間内 （保証開始日より 1年間）	有料	無料 （保証書記載の「無料修理規定」による）
保証期間外	有料	有料

※ 離島の場合は、訪問料金とは別に、訪問に要する実費（フェリー代、宿泊代等）をご負担いただく場合があります。

訪問修理サービスの詳細は、「お問い合わせ窓口のご紹介」（→ P.105）の「修理受付はこちら」にお問い合わせください。

■PC引取点検サービス（有料）

パソコンを安心して長く使っていただくために、ハードウェア・アプリの点検や、パソコン内部の清掃を行う有料サービスです。

PC引取点検サービス

<http://azby.fmworld.net/support/repair/tenken>

ご購入時の状態に戻すリカバリとは

リカバリとは、パソコンを以前の状態に戻す操作です。

「よくあるトラブルと解決方法」(→ P.98) と「富士通アドバイザー」のトラブル解決をご覧ください。すべて対処しても解決しなかった場合のみ行います。

ここではCドライブをご購入時の状態に戻すリカバリについて説明します。

●ご購入時の状態に戻すリカバリの仕組み

Cドライブをご購入時の状態に戻すリカバリは、ハードディスクの「リカバリ領域」という場所に保存されているデータを使用します。

「リカバリ領域」のデータでCドライブをまるごと上書きします。

Point

- ▶ 「リカバリ領域」を削除している場合や「リカバリ領域」が破損してしまった場合にのみ、「リカバリディスクセット」を使用してリカバリします。詳しくは「ディスクが必要な場合」(→ P.110) をご覧ください。

●現在のCドライブのデータについて

Cドライブをまるごとご購入時の状態にするため、今まで作成したCドライブ内のデータや設定がすべて削除されてしまいます。そのためリカバリ後には、セットアップを行ったり、必要に応じてアプリをインストールしたり、現在お使いの状態に戻すには大変手間がかかります。

重要

- ▶ リカバリする場合は必ず、バックアップをとってください。

ご購入時の状態に戻すリカバリの準備

ご購入時の状態に戻すリカバリの注意

■必ずバックアップをとってください

リカバリを行うと、Cドライブのデータはすべて削除されます。

必要なデータはバックアップしてください。

- Windows が起動できるときは、「バックアップ」(→ P.87) をご覧ください。

- Windows が起動できないときは、「かんたんバックアップレスキュー Light」でバックアップできる場合があります (→ P.98)。

■外付けハードディスクやUSB メモリ、増設用内蔵ハードディスクユニットは必ず取り外してください

リカバリを行う前に必ず取り外してください。接続したまま操作を続けると、大切なデータを壊してしまう可能性があります。

■周辺機器 (プリンター、デジタルカメラ、スキャナーなどの装置、HDMI 入力/出力端子、USB コネクタに接続しているすべての周辺機器) は取り外してください

アンテナケーブルやLANケーブルなどもすべて抜いてください。接続したままだとマニュアルに記載されている手順と異なってしまう場合があります。

マウスも取り外してください。

ワイヤレスマウスをお使いの場合は、ワイヤレスマウスの底面の電源スイッチを OFF 側にして電源を切ってください。

■メモリーカードは取り出してください

メモリーカードをセットしていると、マニュアルに記載されている手順と異なってしまう場合があります。

■ファイルコピー中は他の操作をしないでください

むやみにクリックせず、しばらくお待ちください。他の操作をすると、リカバリが正常に終了しない場合があります。

■時間に余裕をもって作業しましょう

リカバリ実行からアプリのインストール終了まで、早く終了する機種でも2～3時間はかかります。

半日以上は時間をとり、じっくりと作業することをお勧めします。

■必ず AC アダプタを接続してください

作業中に起こる可能性のあるトラブルの解決方法

■画面が真っ暗になった

画面が真っ暗になった場合は、省電力機能が働いた可能性があります。

フラットポイントの操作面に触れるか、キーボードの

↑ ↓ ← → や **[Shift]** を押してください。

それでも復帰しない場合は、電源ボタンをポチッと押してください。

■電源が切れない

電源ボタンを4秒以上押して電源を切ってください。

ディスクが必要な場合

- リカバリ領域を削除している場合、リカバリ領域が破損してしまった場合は、「リカバリディスクセット」が必要です
- ディスクがない場合や破損してしまった場合、弊社のホームページから購入できます
「リカバリディスク有償サービス」
<http://azby.fmworld.net/support/attachdisk/>
ただし、Webカスタムメイドモデルの「リカバリディスクセット」は電話で申し込んで購入してください。
「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」
0120-950-222（通話料無料）
- CD/DVD ドライブが搭載されていない機種でディスクを使ってリカバリする場合、ポータブル CD/DVD ドライブを用意してください
 - ・ポータブル CD/DVD ドライブは、「スーパーマルチドライブユニット (FMV-NSM54)」をお勧めします。
 - ・リカバリを開始する前のパソコンの電源が切れた状態のときに、あらかじめ接続してください。
- 「リカバリディスクセット」はハードディスク全体をリカバリする場合などにも使用します。詳しくは「ハードディスクの領域について」の「リカバリ領域を復元する」(→ P.157) をご覧ください。

ご購入時の状態に戻すリカバリを実行する

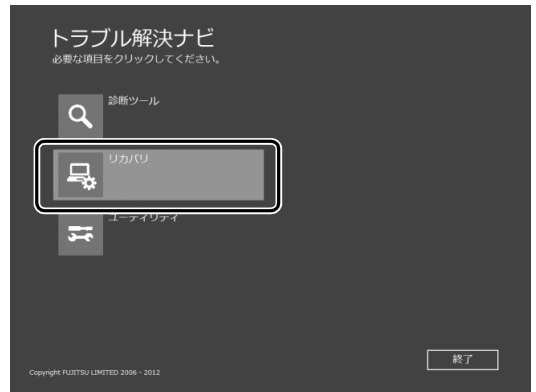
準備ができたならリカバリを実行します。ハードディスクの C ドライブの内容がいったんすべて消去され、リカバリ領域（または「リカバリディスクセット」）から Windows やアプリがインストールされてご購入時の状態に戻ります。

C ドライブを初期状態に戻す

1 「トラブル解決ナビ」を起動します。

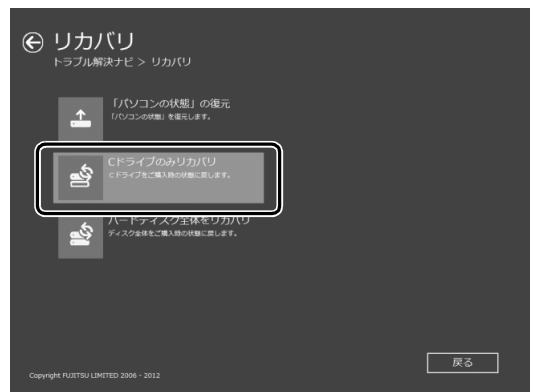
「「トラブル解決ナビ」を起動する」(→ P.101) をご覧ください。

2 「リカバリ」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります。)

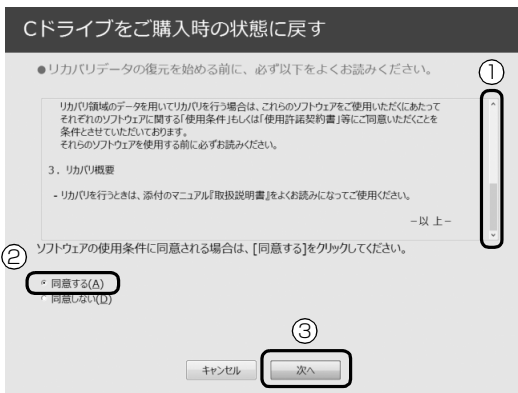
3 「C ドライブのみリカバリ」をクリックします。



4 「次へ」をクリックします。



5 「ご使用上の注意」の内容を確認し、次の画面の操作をします。



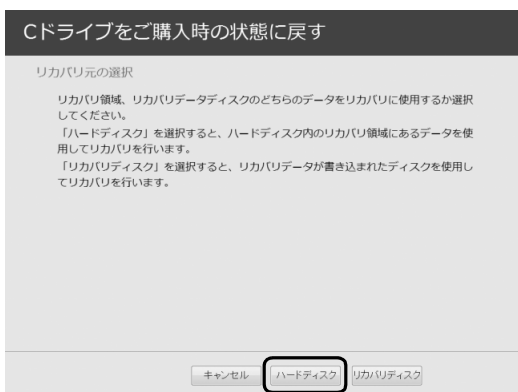
①「ご使用上の注意」を下までスクロールして確認します。

「同意する」が選択できるようになります。

②「同意する」をクリックして  にします。

③「次へ」をクリックします。

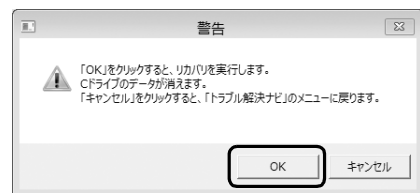
6 「ハードディスク」をクリックします。



Point

- ▶ ハードディスクにリカバリデータがない場合など、リカバリディスクセットを使用してリカバリする場合、「リカバリディスク」をクリックしてください。ディスクを用意し、画面の指示に従って操作してください。

7 警告画面で、「OK」をクリックします。



復元の進行状況を示す画面が表示され、ご購入時の状態に戻すリカバリが始まります。

リカバリ途中で計算し直しているため、終了までのパーセンテージは正確に表示されない場合や増える場合があります。

8 そのまましばらくお待ちください。

しばらくすると、「ディスクの復元が完了しました。」と表示されます。

9 「完了」をクリックします。

パソコンの電源が自動的に切れます。

Windows のセットアップをする

これで Windows がご購入時の状態に戻りました。この後、ご購入後初めて電源を入れたときと同じように、Windows のセットアップが必要です。「セットアップする」(→ P.19) をご覧になり、セットアップしてください。

なお、電源は 30 秒以上待ってから入れてください。

Point

- ▶ 「リカバリディスク有償サービス」で購入したリカバリディスクセットを使い、ご購入時の状態に戻すリカバリを行った場合、「地域と言語」の画面が表示されるまで 30 分以上かかることがあります。ご了承ください。

■セットアップ時の注意事項

- ユーザー登録は再度行う必要はありません。
- すでに Microsoft アカウントを取得されているため、「Windows のセットアップをする」の手順 12 では Microsoft アカウントを入力し、「次へ」をクリックしてください。その後は画面の指示に従って操作してください。



- ▶ Office搭載機種で、「リカバリディスク有償サービス」で購入したリカバリディスクセットを使い、ご購入時の状態に戻すリカバリを行った場合、Office がインストールされた状態にリカバリされません。

セットアップ後に、マイクロソフト社のホームページからダウンロードしてインストールしてください。

インストール方法については次のホームページをご覧ください。

<http://www.office.com/jppipcsetup/>

フラットポイント

フラットポイントの設定を変更する

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインターを動かすことのできる便利なポインティングデバイスです。フラットポイントの基本操作については、「取り扱い」－「フラットポイント」(→ P.49)をご覧ください。

■フラットポイントでできること

「コントロールパネル」の「マウス」で設定することで、フラットポイントをさらに便利に使えるようになります。



- ▶ ここで説明している使い方は、使用するアプリや、アプリの状態によって、動作が異なったり、お使いになれなかったりすることがあります。

□複数の指によるジェスチャー

フラットポイントの操作面で、次のような操作を行うことができます。

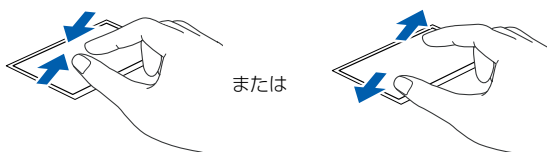
●2本指でのスクロール

フラットポイントの操作面の任意の位置に2本の指を置き、上下や左右になぞると画面やウィンドウのスクロールが行えます。



●つまみズーム

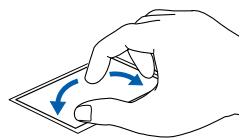
フラットポイントの操作面で、2本の指でつまんだりひらいたりする動作をします。つまむ操作をすると画像やウィンドウ内の画面が縮小表示され、ひらく操作をすると拡大表示されます。



●回転

・TwistRotate (ツイストローテイト)

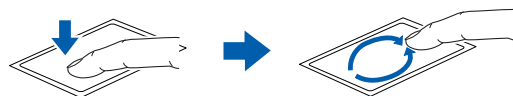
フラットポイントの操作面に2本の指を置き、時計回り、または反時計回りに弧を描くようになぞると、なぞった方向に画像などを回転させることができます。



・ChiralRotate (カイラルローテイト)

フラットポイントの操作面の左端に指を置き、そこから時計回りまたは反時計回りに円を描くようになぞります。

なぞった方向に画像を90度単位で回転させることができます。

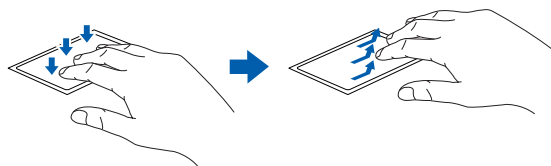


●3本指で弾く

フラットポイントの操作面に3本の指を置き、すばやくはらいます。

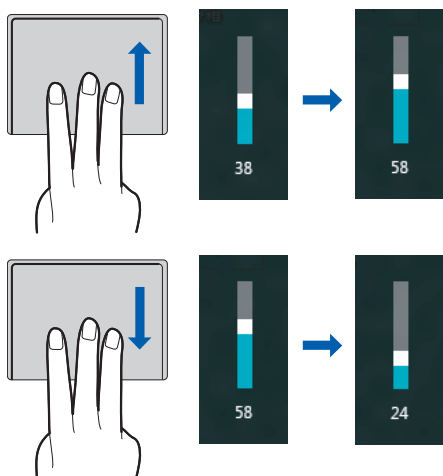
ブラウザーなどを表示しているときに、右にはらうと「進む」と同様の動きをします。左にはらうと「戻る」と同様の動きをします。

うまく反応しない場合は、3本の指を少し離して操作してください。



●音量を調節する

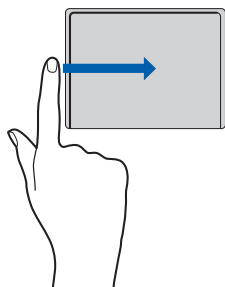
フラットポイントの操作面に3本の指を置いて、上下になぞることによって音量を調節できます。



□エッジスワイプ

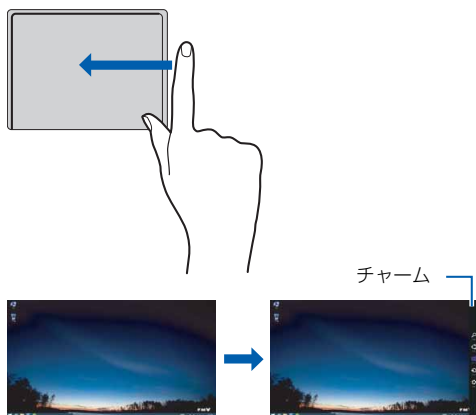
●アプリを切り替える

1 本指を左端の枠の外から中へスライドすると起動中のアプリが切り替わります。



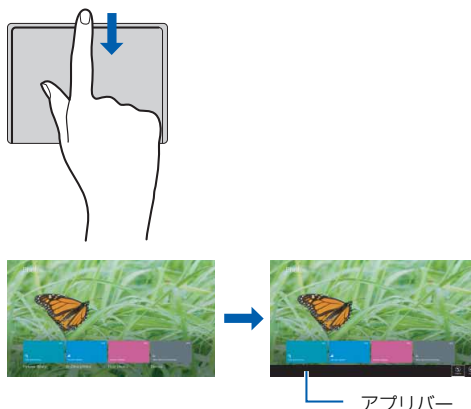
●「チャーム」を表示する

1 本指を右端の枠の外から中へスライドすると「チャーム」が表示されます。



●「アプリバー」を表示する

1 本指を上端の枠の外から中へスライドすると「アプリバー」が表示されます。

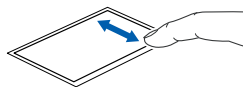


□スクロール

フラットポイントの操作面の右端や下端をなぞると画面やウィンドウのスクロールが行えます。

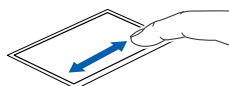
●上下にスクロールしたい場合（垂直スクロール）

フラットポイントの操作面の右端を上下になぞります。



●左右にスクロールしたい場合（水平スクロール）

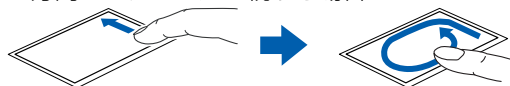
フラットポイントの操作面の下端を左右になぞります。



●ChiralScrolling（カイルススクローリング）

1 本指でのスクロールをした後に、そのままフラットポイントの操作面から指を離さずに、フラットポイント内を時計回りや反時計回りになぞると、指を動かしている間、ウィンドウ内のスクロールが続きます。

・上方方向にスクロールし続ける場合



・下方方向にスクロールし続ける場合



- ・ 右方向にスクロールし続ける場合



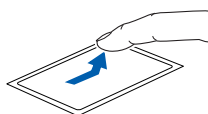
- ・ 左方向にスクロールし続ける場合



□ポインティング

●Momentum（モーメントム）

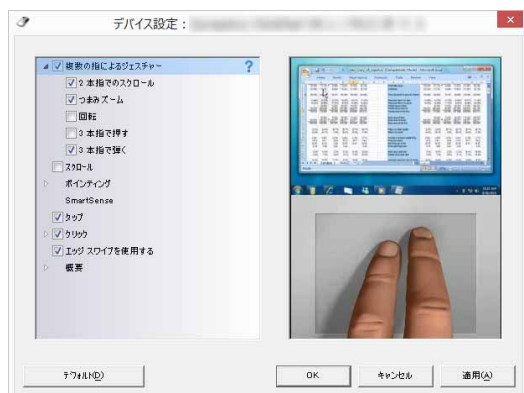
フラットポイントの操作面をすばやくなぞると、しばらくの間、なぞった方向にマウスポインターが動きます。



□各機能を使えるように設定する

各機能の設定は、「コントロールパネル」の「マウス」で行います。

- 1 デスクトップ画面右下の通知領域にある をクリックし、表示された (Synaptics ポインティングデバイス) をダブルクリックします。「デバイス設定」ウィンドウが開きます。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

- 2 設定したい機能の ☐ を ☒ にし、「適用」をクリックします。



- ▶ 各項目を選択すると、ウィンドウの右側に各機能の操作方法が動画で表示されます。
- ▶ 各項目を選択したときに表示される をクリックすると、詳細な設定を行うことができます(項目によっては が表示されないものもあります)。

■その他の設定

□左きき用に設定する

- 1 画面左下隅の を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると が表示されます。

- 2 「ハードウェアとサウンド」▶「デバイスとプリンター」の「マウス」をクリックすると表示される「マウスのプロパティ」ウィンドウの、「ボタン」タブの設定画面から変更することができます。

□マウスポインターのデザインを変える

- 1 画面左下隅の を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると が表示されます。

- 2 「ハードウェアとサウンド」▶「デバイスとプリンター」の「マウス」をクリックすると表示される「マウスのプロパティ」ウィンドウの、「ポインター」タブの設定画面から変更することができます。

□マウスポインターの速度を変える

- 1 画面左下隅の を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると が表示されます。

- 2 「ハードウェアとサウンド」▶「デバイスとプリンター」の「マウス」をクリックすると表示される「マウスのプロパティ」ウィンドウの、「ポインターオプション」タブの設定画面から変更することができます。

□ホイールのスクロールの量を変える

- 1 画面左下隅の を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると が表示されます。

- 2 「ハードウェアとサウンド」▶「デバイスとプリンター」の「マウス」をクリックすると表示される「マウスのプロパティ」ウィンドウの、「ホイール」タブの設定画面から変更することができます。

□フラットポイントのタッチの感度を変更する

- 1 デスクトップ画面右下の通知領域にある  をクリックし、表示された  (Synaptics ポインティングデバイス) をダブルクリックします。
「デバイス設定」ウィンドウが表示されます。
- 2 「ポインティング」をダブルクリックし、「感度」▶「感度」の右にある  の順にクリックします。
- 3 タッチ感度の設定を変更します。
スライダーを「軽く」側に動かすとタッチ感度が上がり、「重く」側に動かすとタッチ感度が下がります。
- 4 「閉じる」▶「OK」の順にクリックします。



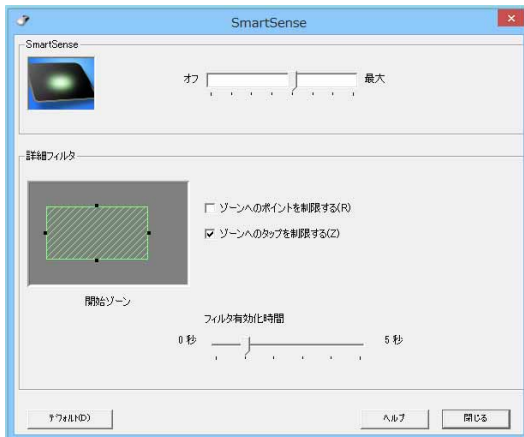
- ▶ マウスポインターが勝手に動くときは、タッチの感度を下げると改善できる場合があります。

□フラットポイントの誤動作を軽減する

フラットポイントの誤動作を軽減する SmartSense 機能が搭載されています。

次のように調整ができます。

- 1 デスクトップ画面右下の通知領域にある  をクリックし、表示された  (Synaptics ポインティングデバイス) をダブルクリックします。
「デバイス設定」ウィンドウが表示されます。
- 2 「SmartSense」をダブルクリックします。
- 3 「SmartSense」ウィンドウが表示されたら設定を変更します。



・ SmartSense

フラットポイントの反応を制限する機能です。手のひらがフラットポイントに触れてマウスポインターが動いてしまう場合に、スライダーを「最大」のほうに動かして調整してください。調整後フラットポイントが反応しにくくなったなら、「オフ」のほうへ戻し調整してください。

・ オフ

SmartSense による制限が無効になり、フラットポイントの反応を制限しません。

・ 最大

SmartSense による制限が最大になり、手のひらで触れても反応しにくくなります。

・ 詳細フィルタ

操作に制限をかけるフィルタを設定できます。意図せず触れてしまうことが多い部分にフィルタがかかることで、誤動作を防げます。

・ フィルタ有効化時間

いったん指を離した後、続けて操作ができる時間を設定できます。設定した時間を過ぎるとフィルタがかかり操作が制限されます。時間を短くすることで誤動作を防ぐ効果があります。

・ 開始ゾーン

緑色の開始ゾーンでは、ポイント操作とタップ操作のフィルタが無効になります。「フィルタ有効化時間」経過後にフィルタが有効になり操作できなくなっても、緑色の開始ゾーンで操作するとすぐに反応します。

黒い点をドラッグするとサイズ変更ができます。

・ ゾーンへのポイントを制限する

チェックを付けると、「フィルタ有効化時間」経過後、フィルタ有効化部分（灰色の部分）でマウスポインター操作ができなくなります。

・ ゾーンへのタップを制限する

チェックを付けると、「フィルタ有効化時間」経過後、フィルタ有効化部分（灰色の部分）でタップ操作ができなくなります。

- 4 「閉じる」▶「OK」の順にクリックします。

□シングルクリックとダブルクリックの設定を変更する

1 画面左下隅の  を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると  が表示されます。

2 「デスクトップのカスタマイズ」▶「フォルダーオプション」の順にクリックし、「全般」タブの「クリック方法」で設定を変更することができます。

フラットポイントの有効／無効の切り替え

ここでは、フラットポイントの有効／無効の切り替え方法について説明します。

■デスクトップ画面から切り替える

Point

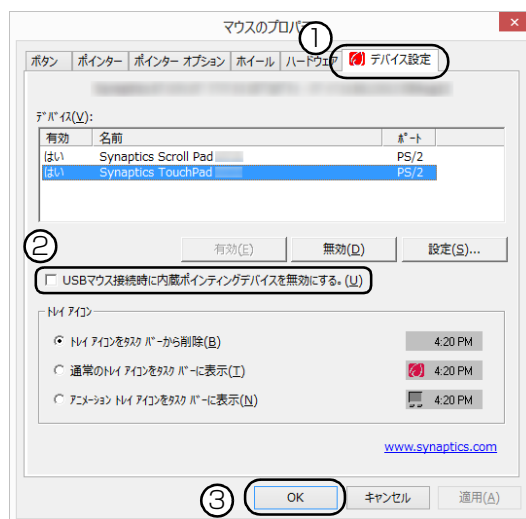
▶ フラットポイントを無効にする場合は、必ず USB マウスを接続してください。

1 画面左下隅の  を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると  が表示されます。

2 「ハードウェアとサウンド」▶「デバイスとプリンター」の「マウス」の順にクリックします。「マウスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 次の画面の操作をします。



① 「デバイス設定」タブをクリックします。

② USB マウスを接続したときにフラットポイントを無効にする場合は、「USB マウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする。」の ☒ を ☒ にし、「OK」をクリックします。

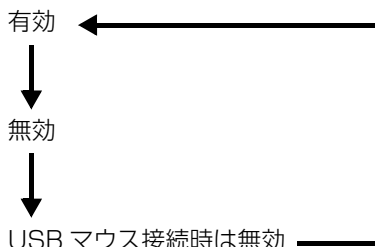
③ 「OK」をクリックします。

Point

▶ フラットポイントを使えなくする場合は、「Synaptics ClickPad」を選択し、「無効」をクリックします。
使えるようにする場合は「有効」をクリックします。

■キーボードで切り替える

(Fn) + (F4) を押すと、次のようにフラットポイントの設定が切り替わります。



Point

▶ なお、この設定はシャットダウンや再起動を行っても維持されます。
▶ また、サインアウトしている状態では、常に有効（タッチパッドが使える状態）になります。

ディスプレイ

解像度と発色数についての注意

パソコンの画面は、パソコン本体の液晶ディスプレイの他に、次のディスプレイやテレビにも表示することができます。

■接続できるディスプレイ

- パソコン本体の外部ディスプレイコネクタに接続したアナログディスプレイ（外部ディスプレイコネクタ搭載機種のみ）
- パソコン本体のHDMI出力端子に接続したデジタルテレビ（HDMI出力端子搭載機種のみ）



- ▶ パソコン本体の外部ディスプレイコネクタに接続したアナログディスプレイでは、著作権保護された Blu-ray Disc（Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）や DVD の映像の視聴はできません。

■注意事項

ディスプレイにパソコンの画面を表示するときは、次の点に注意してください。

- アプリによっては、解像度の設定により、正常に動作しないことがあります。アプリの動作環境を確認し、解像度を変更してください。
- 外部ディスプレイやデジタルテレビで表示できる解像度は、ディスプレイによって異なります。外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルでご確認ください。
- プラグアンドプレイに対応している外部ディスプレイやデジタルテレビの場合、最大解像度は、パソコン本体の液晶ディスプレイまたは接続したディスプレイの、どちらかの最大解像度の小さい方に設定されます。
- 同時表示を選択した場合、外部ディスプレイやデジタルテレビの画面は、パソコン本体の液晶ディスプレイの画面と同一の解像度になります。
- 解像度を切り替えるときなどに、一時的に表示画面が乱れることがあります。故障ではありません。
- 同時表示時に、外部ディスプレイやデジタルテレビの画面が正しく表示されないことがあります。
- 解像度と発色数は、「外部ディスプレイやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数」（→ P.120）の表の組み合わせ以外には設定しないでください。

- 画面の解像度、およびリフレッシュレートを変更するときは、起動中のアプリや常駐しているプログラムを終了させてください。また、変更後は必ずパソコンを再起動してください。
- HDMI出力端子で出力した場合、出力先のデジタルテレビでは画面の端が一部欠けることがあります。このような場合は、外部ディスプレイやデジタルテレビ側で設定を「ドットバイドット表示」などに変更してください。
詳しくは、お使いのデジタルテレビや外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

パソコン本体の液晶ディスプレイに表示できる解像度と発色数

パソコン本体の液晶ディスプレイに表示できる解像度と発色数は、次のとおりです。

解像度（ピクセル）	発色数 ^{〔注〕}
1024 × 768	約 1677 万色
1280 × 1024	
2560 × 1440	

注 擬似的に色を表示するディザリング機能を利用

外部ディスプレイやデジタルテレビの接続

■外部ディスプレイやデジタルテレビを接続すること

パソコン本体に外部ディスプレイやデジタルテレビを接続することで、次のことができます。

- 表示するディスプレイを切り替える。
- 2つのディスプレイに同時に表示する。
- 2つのディスプレイで1つのデスクトップを表示する（マルチモニター機能）。
- 接続したデジタルテレビやディスプレイで音声を出力する。

ここでは、外部ディスプレイやデジタルテレビを接続する手順について説明しています。



- ▶ HDMI出力端子に接続したデジタルテレビやディスプレイで音声を出力するには、設定が必要な場合があります（HDMI出力端子搭載機種のみ）（→ P.130）。

■必要なものを用意する

□外部ディスプレイやデジタルテレビ

外部ディスプレイやデジタルテレビによって接続するコネクタや接続方法が異なります。それぞれ次のコネクタなどに接続します。接続するときは、必ず外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルもご覧ください。

●外部ディスプレイをアナログ接続する場合

外部ディスプレイコネクタに接続します。



- ▶ パソコン本体の外部ディスプレイコネクタに接続したアナログディスプレイでは、著作権保護された Blu-ray Disc (Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ) や DVD の映像の視聴はできません。

●デジタルテレビや外部ディスプレイで HDMI 対応のものを接続する場合

HDMI 出力端子に接続します。

□ケーブル

外部ディスプレイやデジタルテレビとパソコンを接続するケーブルです。

●ディスプレイケーブル

外部ディスプレイコネクタとの接続時に使用します。

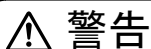
●HDMI ケーブル

HDMI 出力端子との接続時に使用します。

□外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアル

外部ディスプレイやデジタルテレビにより接続方法が異なります。必ず外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルもご覧ください。

■外部ディスプレイやデジタルテレビを接続する



- 外部ディスプレイやデジタルテレビの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。

2 パソコン本体にケーブルを接続します。

接続するコネクタにより使用するケーブルの種類が異なります。詳しくは、「必要なものを用意する」(→ P.119) をご覧ください。

また、コネクタの場所については、「各部の名称と働き」(→ P.36) をご覧ください。

3 外部ディスプレイやデジタルテレビにケーブルのもう一方のコネクタを接続します。

接続方法は、外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルをご覧ください。

4 外部ディスプレイやデジタルテレビの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。

5 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。

必要に応じて、表示するディスプレイを切り替えます。

外部ディスプレイやデジタルテレビ接続後、「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示された場合は、次のように対応してください。

- 外部ディスプレイやデジタルテレビに CD-ROM など必要なファイルが添付されていることがあります。この場合は、添付のマニュアルをご覧ください。必要なファイルをインストールしてください。



- ▶ 外部ディスプレイやデジタルテレビを接続後、接続したディスプレイのみに表示する設定にしても、接続するディスプレイによっては、パソコン本体の液晶ディスプレイと接続したディスプレイの両方に画面が表示されることがあります。必要に応じて、表示するディスプレイを切り替えてください。
- ▶ パソコン本体の液晶ディスプレイや接続した外部ディスプレイやデジタルテレビに、パソコンの画面を表示するときの画面の解像度については、「解像度と発色数についての注意」(→ P.118) をご覧ください。

外部ディスプレイやデジタルテレビに表示
できる解像度と発色数

外部ディスプレイコネクタに接続したディスプレイの場合（外部ディスプレイコネクタ搭載機種のみ）
接続した外部ディスプレイがサポートしている次の解像度を表示できます。
外部ディスプレイがこの解像度をサポートしているかどうかは、お使いの外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。



- パソコン本体の外部ディスプレイコネクタに接続したアナログディスプレイでは、著作権保護された Blu-ray Disc（Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）や DVD の映像の視聴はできません。

解像度（ピクセル）	発色数
1024 × 768	約 1677 万色
1280 × 800	
1360 × 768	
1440 × 900	
1600 × 900	
1600 × 1200 [注 1]	
1680 × 1050	
1920 × 1080	
1920 × 1200	
2560 × 1440 [注 2]	
2560 × 1600 [注 2]	

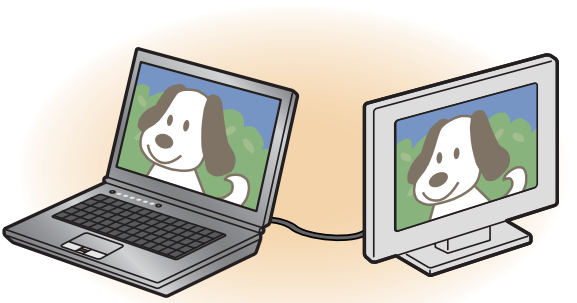
注 1 外部ディスプレイコネクタ、DisplayPort コネクタに接続した場合のみ表示可能。
注 2 DisplayPort コネクタに接続した場合のみ表示可能です。

HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビやディスプレイの場合（HDMI 出力端子搭載機種のみ）
接続したデジタルテレビやディスプレイがサポートしている次の解像度を表示できます。
デジタルテレビやディスプレイがこの解像度をサポートしているかどうかは、お使いのデジタルテレビやディスプレイのマニュアルをご覧ください。

解像度（ピクセル） [注 1]	発色数
1280 × 720（720p）	約 1677 万色
1360 × 768	
1920 × 1080（1080i、1080p）	
3840 × 2160 [注 2]	
4096 × 2160 [注 3]	

注 1 接続したデジタルテレビやディスプレイの解像度より大きい解像度の場合は表示できません。
注 2 リフレッシュレートは 30Hz
注 3 リフレッシュレートは 24Hz

パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示の場合（外部ディスプレイコネクタ搭載機種のみ）



パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時に表示する場合は、表示するディスプレイを次のように設定してください。

- パソコン本体の液晶ディスプレイ
メインディスプレイ（またはプライマリデバイス）：
内蔵ディスプレイ（またはノートブック、Notebook）
- 外部ディスプレイ
2 番目のディスプレイ（またはセカンダリデバイス）：
PC モニター nnn（または PC モニタ）

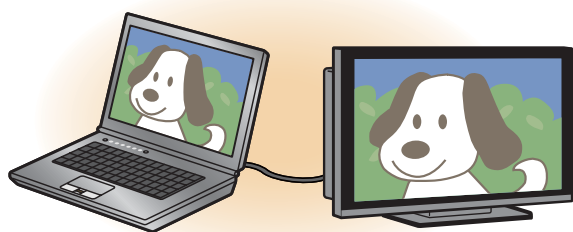
nnn には、お使いのディスプレイの型名が表示され
ます。お使いのパソコン本体の液晶ディスプレイの解像
度は、「パソコン本体の液晶ディスプレイに表示でき
る解像度と発色数」(→ P.118) をご確認ください。
外部ディスプレイの解像度は、外部ディスプレイのマ
ニュアルにてご確認ください。
パソコン本体の液晶ディスプレイの解像度以下であ
り、かつ、お使いの外部ディスプレイがサポートして
いる次の解像度を表示できます。

解像度 (ピクセル)	発色数 ^[注 1]
1024 × 768	約 1677 万色
1280 × 800 ^[注 2]	
1280 × 1024	
1360 × 768 ^[注 2]	
1440 × 900 ^[注 2]	
1600 × 900 ^[注 2]	
1600 × 1200	
1680 × 1050 ^[注 2]	
1920 × 1080 ^[注 2]	

注 1 パソコン本体の液晶ディスプレイは擬似的に色を表
示するディザリング機能を利用

注 2 外部ディスプレイの解像度と同じ場合、表示できます。

□パソコン本体の液晶ディスプレイとデジタルテレビの 同時表示の場合



パソコン本体の液晶ディスプレイとデジタルテレビ
に同時に表示する場合は、表示するディスプレイを次
のように設定してください。

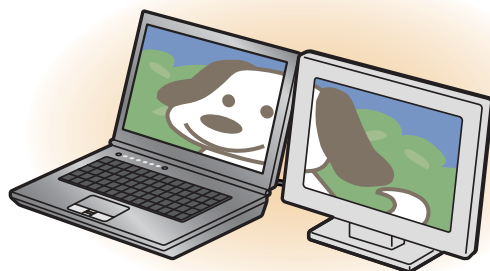
- パソコン本体の液晶ディスプレイ
メインディスプレイ (またはプライマリデバイス) :
内蔵ディスプレイ (またはノートブック、Notebook)
- デジタルテレビ
2 番目のディスプレイ (またはセカンダリデバイス) :
デジタルテレビ

接続したデジタルテレビがサポートしている次の解
像度を表示できます。

解像度 (ピクセル)	発色数 ^[注]
1280 × 720	約 1677 万色
1920 × 1080	
2560 × 1440	

注 パソコン本体の液晶ディスプレイは擬似的に色を表
示するディザリング機能を利用

□マルチモニターの場合



マルチモニター機能をお使いになるときは、表示する
ディスプレイを次のように設定してください。

- パソコン本体の液晶ディスプレイ
メインディスプレイ (またはプライマリデバイス) :
内蔵ディスプレイ (またはノートブック、Notebook)
 - 外部ディスプレイやデジタルテレビ
2 番目のディスプレイ (またはセカンダリデバイス) :
PCモニター nnn (またはPCモニタ、デジタルテレビ)
- nnn には、お使いのディスプレイの型名が表示されま
す。お使いのディスプレイなどに表示できるそれぞ
れの解像度で表示できます。

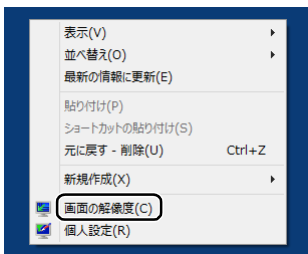
画面の解像度の変更

ここでは、ディスプレイにパソコンの画面を表示するときの、画面の解像度を変更する方法について説明しています。

重要

- ▶ 設定変更時の画面表示の乱れについて
解像度を変更するときに一時的に画面表示が乱れることがあります。故障ではありません。

- 1 スタート画面で「デスクトップ」をクリックします。
『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』
- 2 デスクトップ画面の何も無いところを右クリックし、表示されるメニューから、「画面の解像度」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

「画面の解像度」ウィンドウが表示されます。

- 3 解像度を変更します。

「解像度」の▼をクリックし、表示される画面で解像度を選択します。



解像度の変更
→ をドラッグします。

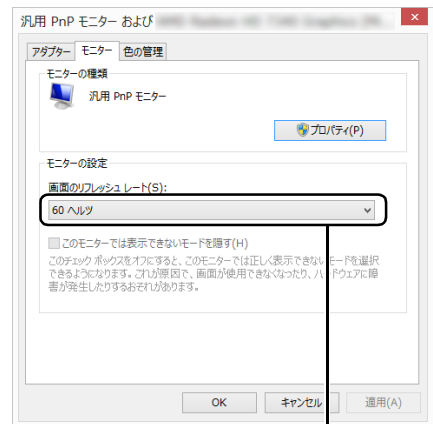
接続した外部ディスプレイやデジタルテレビの解像度を変更したい場合は、「ディスプレイ表示の変更」でディスプレイを選んでから設定してください。設定可能な解像度は外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルをご覧ください。

- 4 「適用」をクリックします。

設定を確認するウィンドウが表示されたら、「変更を維持する」をクリックします。

■ リフレッシュレートの変更

1. 「画面の解像度」ウィンドウで「詳細設定」をクリックし、表示されたウィンドウで「モニター」タブをクリックします。
2. リフレッシュレートの▼をクリックし、表示されるメニューからリフレッシュレートを変更します。



▼をクリックして選びます。

3. 「適用」をクリックします。

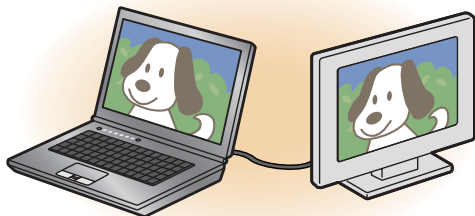
設定を確認するウィンドウが表示されたら、「変更を維持する」をクリックし、「OK」をクリックします。

- 5 「OK」をクリックします。

表示するディスプレイの切り替え

このパソコンに外部ディスプレイやデジタルテレビなどを接続した場合に、表示するディスプレイを切り替えることができます。

ここでは、切り替え方法について説明しています。



■ディスプレイの表示について

ディスプレイの表示は、次のように切り替えることができます。なお、お使いのパソコンにより搭載されているコネクタが異なります。

□全機種共通

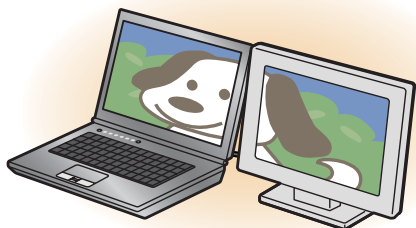
●1つのディスプレイで表示する

- ・ パソコン本体の液晶ディスプレイ
- ・ 外部ディスプレイコネクタに接続したアナログディスプレイ
- ・ HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビ

●2つのディスプレイで同時に表示する

- ・ パソコン本体の液晶ディスプレイと、接続した外部ディスプレイ
- ・ パソコン本体の液晶ディスプレイと、接続したデジタルテレビ
- ・ 外部ディスプレイコネクタに接続したアナログディスプレイと、HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビ

●2つのディスプレイで1つのデスクトップを表示する



2つのディスプレイで1つのデスクトップを表示する方法については、「マルチモニター機能を使う」(→ P.125) をご覧ください。

重要

- ▶ 動画再生中に、表示するディスプレイを切り替えないでください。
- ▶ Blu-ray Disc (Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ) の映像は、パソコン本体の液晶ディスプレイおよび HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビやディスプレイにのみ表示できます。

Point

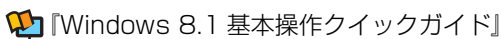
- ▶ HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビやディスプレイには、BIOS セットアップの画面を表示することはできません。
- ▶ Windowsが起動すると、表示されるディスプレイは、前回 Windows で使用していた状態になります。
ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合や、プラグアンドプレイに対応していないディスプレイが接続されている場合は、パソコン本体の液晶ディスプレイのみの表示になります。
- ▶ お使いのテレビによってはテレビの解像度がパソコン本体の液晶ディスプレイよりも低いため、鮮明に表示できない場合があります。

■デスクトップ画面から切り替える

Point

- ▶ 外部ディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、正常に表示されないことがあります。状況に応じて次の操作を行ってください。
 - ・ 何も表示されない場合
何も操作しないでお待ちください。10 秒ほどで表示先がパソコン本体の液晶ディスプレイに戻ります。表示先がパソコン本体の液晶ディスプレイに戻らないときは、 +  を押して、表示先を切り替えてください。
 - ・ 正常に表示されない場合
外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応している解像度や走査周波数を確認し、設定を変更してください。

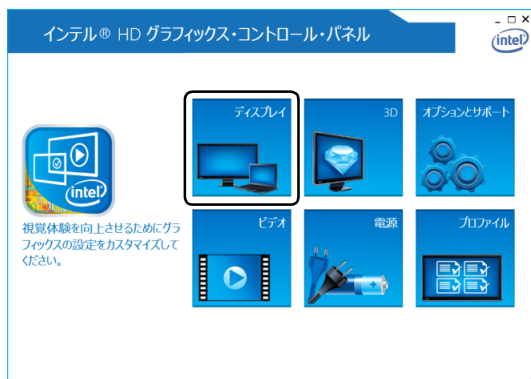
1 スタート画面で「デスクトップ」をクリックします。



2 デスクトップ画面の何も無いところを右クリックし、表示されるメニューから「グラフィックス・プロパティ...」をクリックします。

「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」ウィンドウが表示されます。

3 「ディスプレイ」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

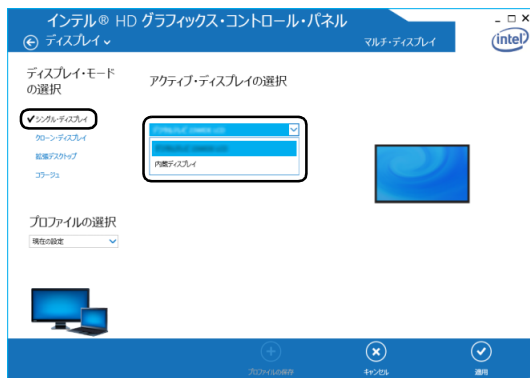
4 「ディスプレイ」をクリックし、「マルチ・ディスプレイ」をクリックします。



5 表示するディスプレイを選択します。

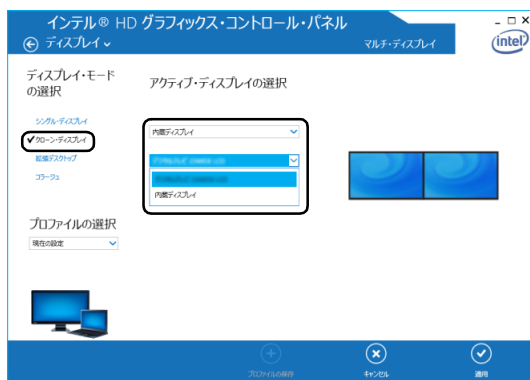
■ 1つのディスプレイで表示する場合

「ディスプレイ・モードの選択」の「シングル・ディスプレイ」をクリックした後、「アクティブ・ディスプレイの選択」の▼をクリックし、表示するディスプレイを選択します。



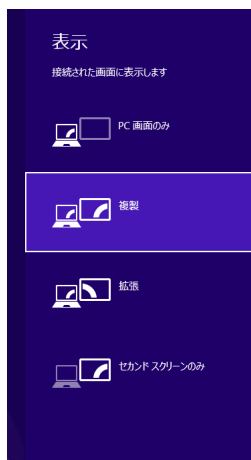
■ 2つのディスプレイで同時に表示する場合

「ディスプレイ・モードの選択」の「クローン・ディスプレイ」をクリックした後、「アクティブ・ディスプレイの選択」の▼をクリックし、表示するディスプレイを選択します。このとき、最上段は「内蔵ディスプレイ」に設定してください。



■キーボードで切り替える

キーボードで表示する画面を切り替えるには、**[Win] + [P]** を押し、カーソルキーで表示方法を選んで、**[Enter]** を押してください。

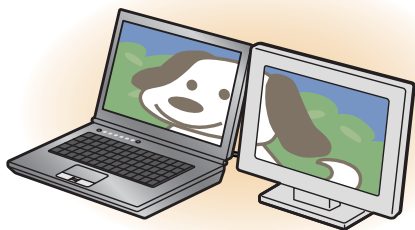


Point

- ▶ プラグアンドプレイに対応していない外部ディスプレイの場合、キーボードで切り替えることはできません。「デスクトップ画面から切り替える」(→P.123) をご覧ください。
- ▶ キーボードで切り替える場合には、クローンディスプレイのメインディスプレイの変更はできません。メインディスプレイは、自動的に以前に設定したディスプレイになります。

■マルチモニター機能を使う

このパソコンには、パソコン本体の液晶ディスプレイと接続したディスプレイを使用して、2つのディスプレイで1つのデスクトップを表示できる「マルチモニター機能」があります。



□マルチモニター機能をお使いになるうえでの注意

- マルチモニター機能をお使いになる前に、使用中のアプリを終了してください。
- マルチモニター機能をお使いになるときは、パソコン本体の液晶ディスプレイをメインディスプレイ(プライマリデバイス)、接続したディスプレイを2番目のディスプレイ(セカンダリデバイス)に設定してください。
- マルチモニター機能の使用中的ご注意
 - ・マルチモニター機能を使用中は、キーボードでディスプレイの表示を切り替えることはできません。
 - ・2つのディスプレイにまたがるウィンドウがある場合は、表示するディスプレイの設定を変更しないでください。
 - ・2番目のディスプレイ(セカンダリデバイス)のみに表示されているアプリを起動中に、2番目のディスプレイ(セカンダリデバイス)の使用を終了しないでください。アプリおよびWindowsの動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
- メインディスプレイ(プライマリデバイス)のみで表示されるもの
 - ・パソコン本体の液晶ディスプレイの全画面表示
 - ・一部のスクリーンセーバー
 - ・動画再生画面の全画面表示
 - ・アクセラレーター機能を使用している動画再生画面

□マルチモニター機能を設定する

- 1 外部ディスプレイをパソコンに接続します。
- 2 スタート画面で「デスクトップ」をクリックします。
『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』
- 3 デスクトップ画面の何も無いところを右クリックし、表示されるメニューから、「画面の解像度」をクリックします。
「画面の解像度」ウィンドウが表示されます。

- 4 「複数のディスプレイ」の▼をクリックして「表示画面を拡張する」を選択します。



(画面は機種や状況により異なります)

- 5 「適用」をクリックします。
- 6 確認のウィンドウが表示されたら「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

□ディスプレイの表示位置を変更する

ここでは使用する2つのディスプレイの表示位置を変更する場合の手順について説明します。

- 1 マルチモニター機能を設定します。
- 2 スタート画面で「デスクトップ」をクリックします。
📁『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』
- 3 デスクトップ画面の何も無いところを右クリックし、表示されるメニューから、「画面の解像度」をクリックします。
「画面の解像度」ウィンドウが表示されます。
- 4 ディスプレイのイラストを、表示する位置にドラッグします。

ディスプレイのイラストの配置により、「1」のディスプレイから「2」のディスプレイへの移動方法が決定されます。イラストの位置をディスプレイの物理的な配置と対応させる必要はありません。

- マルチディスプレイ内を左右に移動させたい場合
「1」「2」と表示されたディスプレイを左右に並べます。



左右に並べます。

(画面は機種や状況により異なります)

- マルチディスプレイ内を上下に移動させたい場合
「1」「2」と表示されたディスプレイを縦に並べます。



上下に並べます。

(画面は機種や状況により異なります)

- 5 「適用」をクリックします。
- 分割したデスクトップを表示する位置が変更されます。

ディスプレイ省電テクノロジー設定

このパソコンには、見た目の画質を維持したままバックライトの省電力を行い、バッテリー駆動時間を延ばす「ディスプレイ省電テクノロジー」機能があります。

■ディスプレイ省電テクノロジーをお使いになるうえでの注意

- バッテリー駆動時のみ動作します。
- ご購入時は次のように設定されています。
 - ・ディスプレイ省電テクノロジー機能：「有効」
 - ・レベル：「最長バッテリー駆動時間」
- ディスプレイ省電テクノロジー機能が動作しているときは、次のように表示される場合がありますが、故障ではありません。
 - ・表示している画像を切り替えたときに画面の明るさや色調が徐々に変更される。
 - ・画像のグラデーション部分に段差が見える。

■ディスプレイ省電テクノロジー機能を設定する

1 スタート画面で「デスクトップ」をクリックします。



2 デスクトップ画面の何も無いところで右クリックし、表示されるメニューから「グラフィックス・プロパティ…」をクリックします。

「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」ウィンドウが表示されます。

3 「電源」をクリックします。

4 「バッテリー駆動」をクリックします。

5 「ディスプレイ省電テクノロジー」を設定します。

- ・動作させる場合は、「有効」をクリックし、動作レベルのバーを設定します。
バーを左に設定するほど画質が優先され、バーを右に設定するほどバッテリー駆動時間が優先される設定になります。
- ・動作させない場合は、「無効」をクリックするか、「最高画質」に設定します。

6 「適用」をクリックします。

「適用」をクリックすると、画面にメッセージが表示されることがあります。この場合は、画面の指示に従って操作してください。

7 画面右上の × をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

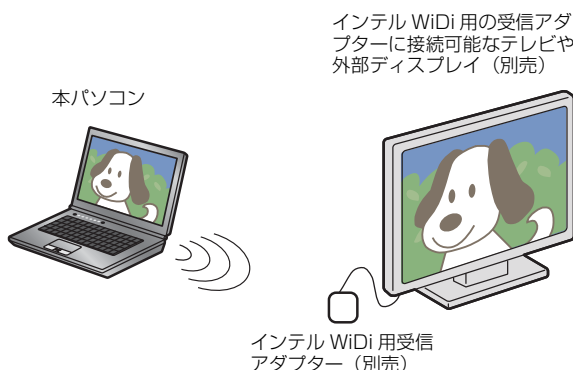
インテル WiDi を使う

この項目は、インテル WiDi 搭載機種の方のみお読みください。

ここでは、インテル WiDi を使うために必要なものや、接続方法について説明しています。

■インテル WiDi とは

インテル WiDi (ワイダイ) とは、このパソコンに搭載されている無線 LAN 機能を利用して、パソコンの画面やパソコンに保存している動画などをワイヤレスでテレビや外部ディスプレイに表示する機能です。



■お使いになるうえでの注意

- インテル WiDi をお使いになるには、本パソコンの他に次のものがが必要です。
 - ・別売のインテル WiDi 用の受信アダプター
 - ・インテル WiDi 用の受信アダプターに接続可能な、別売のテレビや外部ディスプレイ (1280 × 720 ドット以上の解像度をサポートしたもの)
- 同時に使用できるディスプレイは、パソコン本体の液晶ディスプレイと、インテル WiDi で表示しているディスプレイの2つまでです。
- BIOS セットアップの画面、Windows 起動中の画面、省電力モードからの復帰中の画面、およびシャットダウン中の画面はテレビや外部ディスプレイに表示できません。
- インテル WiDi で接続すると、音声は接続したテレビや外部ディスプレイからの出力に切り替わります。
- インテル WiDi で表示した画面では、マウスカーソルやウィンドウの移動、入力した文字などの表示には遅延が生じます。

- 動画コンテンツを表示する場合、再生する映像によっては、パソコンの画面やスピーカーで再生する場合に比べて画質や音質が低下し、なめらかな映像が視聴できない場合があります。

特に、AVCHD 形式の動画などは、映像再生の負荷が高いため、映像が乱れたり音声途切れたりする場合があります。

- ご利用のインテル WiDi 用受信アダプター（別売）によっては、著作権保護機能が使用されている動画を再生するときに、アダプターのアップデートが必要になる場合があります。
- 高ビットレートの動画を再生すると、なめらかに再生されない場合があります。
- インテル WiDi は無線 LAN を使用するため、ご利用環境によっては、通信速度の低下や通信不能が原因でテレビや外部ディスプレイに画面が表示されない場合があります。無線 LAN について、詳しくは「無線 LAN」(→ P.138) をご覧ください。
- インテル WiDi は無線 LAN を使用しますが、Web サイト閲覧など、通常のインターネット接続と同時にご利用いただけます。
- インテル WiDi と無線 LAN でのインターネット接続を同時にお使いになる場合は、無線 LAN アクセスポイントとの接続を完了させてから、インテル WiDi の接続を行ってください。
- 無線 LAN の電波を停止している場合は、インテル WiDi をお使いになることができません。

■必要なものを準備する

インテル WiDi をお使いになるには、本パソコンの他に次のものがが必要です。

- 別売のインテル WiDi 用の受信アダプター
 - 別売の、インテル WiDi 用の受信アダプターに接続可能なテレビや外部ディスプレイ
- インテル WiDi 用の受信アダプターに添付されているマニュアルをご覧ください。対応したものをご用意ください。

■インテル WiDi を使う

- 1 テレビや外部ディスプレイに、別売のインテル WiDi 用の受信アダプターを接続します。

接続方法については、お使いのテレビや外部ディスプレイと、受信アダプターのマニュアルをご覧ください。

- 2 マウスポインターを画面の右上隅に合わせて「チャーム」を表示し、 (デバイス) をクリックします。

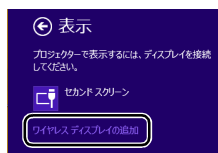
『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』

- 3 「デバイスチャーム」から「表示」をクリックします。

この後は、状況により操作が異なります。お使いの状況にあわせてご覧ください。

□お使いのディスプレイを初めて接続する場合

- 1 「ワイヤレスディスプレイの追加」をクリックします。



「デバイスの追加」の画面が表示されます。

- 2 接続対象のディスプレイをクリックします。



- 3 「テレビの WPS PIN を入力してください」と表示されたら、接続対象のディスプレイに表示されている 8 桁の数字を入力し、「次へ」をクリックします。表示されるまでに時間がかかる場合があります。



- 4 接続対象のディスプレイに画面が表示されます。表示されるまでに時間がかかる場合があります。

□接続しているディスプレイを切断する場合

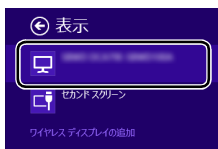
1 「切断」をクリックします。



⊞ + [P] を押した後に「切断」を選ぶことで切断することもできます。

□切断した後に再度接続する場合

1 接続対象のディスプレイをクリックします。



Point

- ▶ 表示するディスプレイを切り替えるときは ⊞ + [P] を押します。2つのキーを押すごとに、「複製（液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示）→拡張（液晶ディスプレイと外部ディスプレイのマルチモニター表示）→プロジェクターのみ（外部ディスプレイ表示）…」の順でディスプレイ表示方法を選ぶことができます。

なお、テレビや外部ディスプレイに表示できる解像度と発色数については、「外部ディスプレイやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数」（→P.120）をご覧ください。

サウンド

再生時／録音時のサウンドを調節する

このパソコンのサウンドを調節するときは、スピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定・調整してください。スピーカーが故障する原因となる場合があります。

■デスクトップアプリごとに音量を調節する

デスクトップアプリは「音量ミキサー」ウィンドウでアプリごとに音量を調節できます（一部のデスクトップアプリには個別に調節できないものもあります）。

1 音量を調節したいデスクトップアプリを起動します。

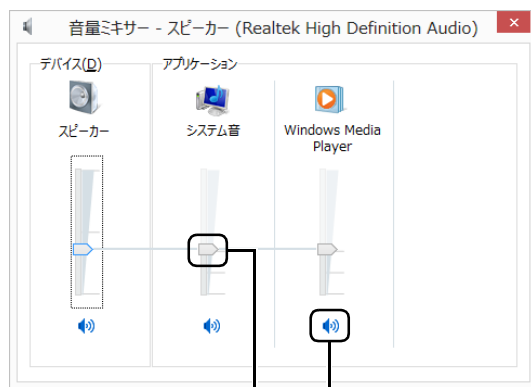
2 画面左下隅の ⊞ を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると ⊞ が表示されます。

3 「ハードウェアとサウンド」▶「サウンド」の順にクリックし、「システム音量の調整」をクリックします。

「音量ミキサー」ウィンドウが表示されます。

4 「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいアプリの音量つまみを上下にドラッグして、適切な音量に調節します。



・ミュート
ここをクリックして ⊞ にすると音が消えます。
もう一度クリックして ⊞ にすると元の音量に戻ります。

・音量つまみ
下にドラッグすると音が小さく、上にドラッグすると音が大きくなります。

（画面は機種や状況により異なります）

・デバイス

このパソコンのスピーカーから出る音量です。デスクトップ画面右下の通知領域の「音量つまみ」で設定した音量と同じです。

HDMI 出力端子に接続したテレビから音を出す場合は、「HDMIデバイス」と表示されます(HDMI 出力端子搭載機種のみ)。

・アプリケーション

起動しているデスクトップアプリごとに音量を調節できます。

「デバイス」に設定した音量が最大値になります。

・音量つまみ

下にドラッグすると音が小さく、上にドラッグすると音が大きくなります。

・ミュート

ここをクリックして  にすると音が消えます。もう一度クリックして  にすると元の音量に戻ります。

5 (閉じる) をクリックします。

「音量ミキサー」ウィンドウが閉じます。

■再生や録音する機器ごとに音量を調節する

□再生や録音する機器を選択する

このパソコンで音声を再生したり録音したりするときに、音声の出力先を選択することができます。

HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビやディスプレイから音を出したい場合も、次の手順で再生する機器を選択してください(HDMI 出力端子搭載機種のみ)。

1 画面左下隅の を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると  が表示されます。

2 「ハードウェアとサウンド」▶「サウンド」の順にクリックします。

「サウンド」ウィンドウが表示されます。

3 「再生」タブや「録音」タブで機器を選択し、「既定値に設定」をクリックします。



(画面は機種や状況により異なります)

選択した機器にチェックマークが付きます。

4 「OK」をクリックします。

「サウンド」ウィンドウが閉じます。

□再生する機器の音量を調節する

ここでは、例としてスピーカーの音量を調節する方法を説明します。

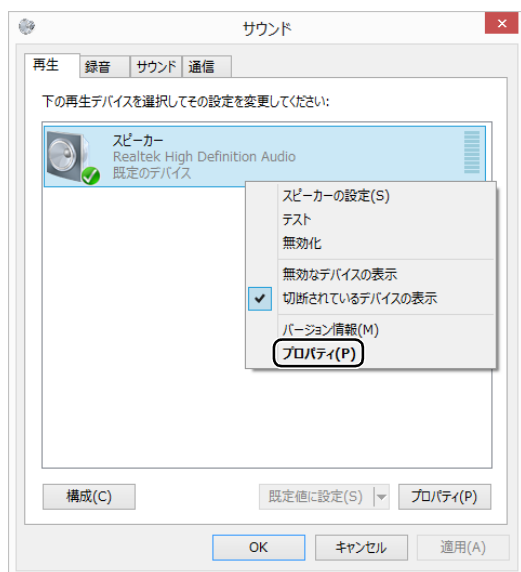
1 画面左下隅の を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると  が表示されます。

2 「ハードウェアとサウンド」▶「サウンド」の順にクリックします。

「サウンド」ウィンドウが表示されます。

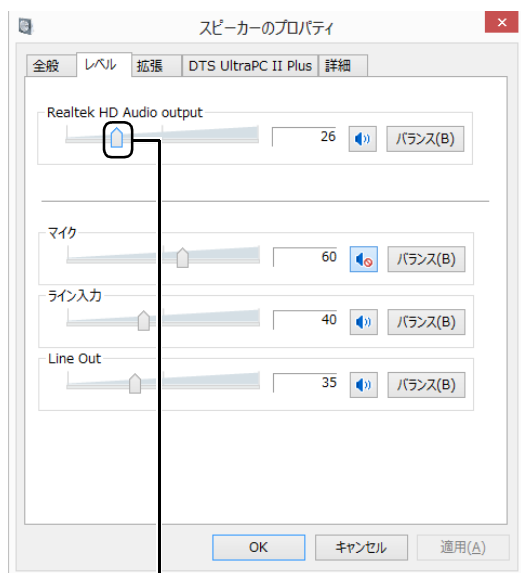
- 3 「再生」タブの「スピーカー」を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

「スピーカーのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 4 「レベル」タブをクリックします。
- 5 音量を調節したい項目で、音量つまみを左右にドラッグして、適切な音量に調節します。



音量つまみ

- ・ : スピーカーから音が聞こえます。
- ・ : スピーカーから音が聞こえません（ミュートになっています）。
- ・ 「バランス」：左右の音量のバランスを調節できます。

- 6 「OK」をクリックします。
「スピーカーのプロパティ」ウィンドウが閉じます。
- 7 「OK」をクリックします。
「サウンド」ウィンドウが閉じます。

□ 録音する機器の音量を調節する

ここでは、例としてマイクの音量を調節する方法を説明します。

- 1 画面左下隅の を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると が表示されます。
- 2 「ハードウェアとサウンド」▶「サウンド」の順にクリックします。
「サウンド」ウィンドウが表示されます。
- 3 「録音」タブの「マイク」を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。

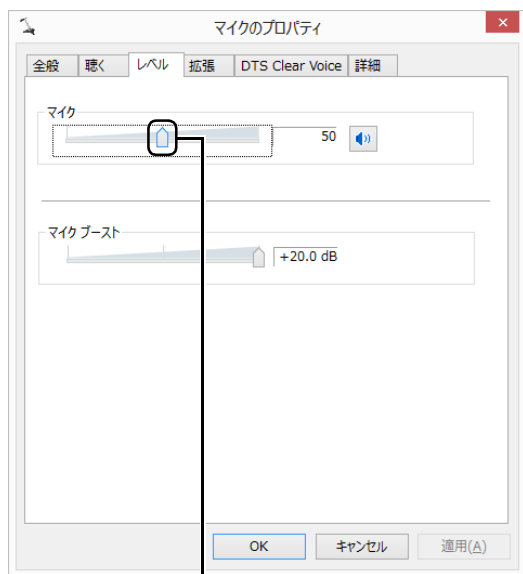


(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

「マイクのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 4 「レベル」タブをクリックします。

- 5 音量を調節したい項目で、音量つまみを左右にドラッグして、適切な音量に調節します。



音量つまみ

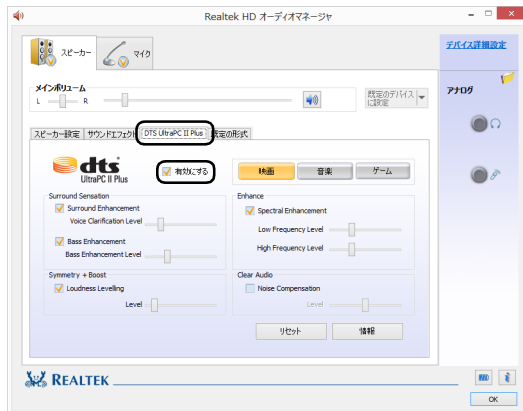
- ・ : スピーカーから音が聞こえます。
 - ・ : スピーカーから音が聞こえません（ミュートになっています）。
- 6 「OK」をクリックします。
「マイクのプロパティ」ウィンドウが閉じます。
- 7 「OK」をクリックします。
「サウンド」ウィンドウが閉じます。

■スピーカーの音質を調節する
(DTS Ultra PC II Plus™ 搭載機種)
パソコンに内蔵されているスピーカーの音質を、より詳細に調節することで、クリアで広がりのあるサラウンド効果や、重厚感のある低音を実現します。

重要

- ▶ DTS Ultra PC II Plus™ の音質の調節は、内蔵スピーカーとヘッドホンが対象となります。

- 1 画面左下隅の を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると が表示されます。
- 2 「ハードウェアとサウンド」▶「Realtek HD オーディオマネージャ」の順にクリックします。
「Realtek HD オーディオマネージャ」が見つからない場合は画面右のスクロールバーの ▼ をクリックして、隠れている画面を表示してください。
- 3 「DTS UltraPC II Plus」タブをクリックし、「有効にする」を にします。



(画面は機種や状況により異なります)

4 再生する音のジャンルを選択します。

再生する音のジャンルによって、「映画」「音楽」「ゲーム」のいずれかを選択します。

5 各項目を設定して、スピーカーの音質を変更します。

にして、つまみを左右にドラッグすると、適切なレベルに調整できます。

■ Surround Sensation

- ・ Surround Enhancement
声の帯域信号の明瞭度を上げ、セリフなどを聞き取りやすくします。さらに、音に広がりをもたせ、音に取り巻かれるような感覚を体験できます。
- ・ Bass Enhancement
低域の倍音成分をコントロールし、厚みのある豊かな低音にします。

■ Symmetry + Boost

- ・ Loudness Levelling
音源による音量差を、ある一定の音量に統一し、音源ごとの音量調整の煩わしさを低減すると共に、スピーカーの限界を超える大きな音量に達しないようにします。

■ Enhance

- ・ Spectral Enhancement
音の大きさに応じて、音の低域成分と高域成分ごとに音質を調整し、より高音質にします。

■ Clear Audio

- ・ Noise Compensation
周囲のノイズの大きさに合わせ、音量や音質を調整し、ノイズの中でも、音声を聞き取りやすくします。

兼用端子の機能切り替え

兼用端子搭載機種のみ

お使いの機種に搭載されている兼用端子は、複数の機能を兼用しています。必要に応じて機能の切り替えを行ってください。

オーディオの入出力端子の種類と場所については、「各部の名称と働き」(→ P.36)をご覧ください。

ご購入時の端子は次のように機能します。

- ヘッドホン・ラインアウト兼用端子：ヘッドホン
 - マイク・ラインイン兼用端子：マイク入力
 - マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子：ヘッドホン
 - ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子：ヘッドホン
 - ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子：ヘッドホン
- 設定を変更することにより、「ライン出力」「ライン入力」「マイク入力」「ヘッドセット」として機能させることができます。
- これらの設定を変更するには、次の手順を行ってください。

重要

- ▶ 次の兼用端子に機器を接続するときは、接続した機器の音量を小さくするか、出力を停止してください。
 - ・ マイク・ラインイン兼用端子
 - ・ マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子
 - ・ ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子
 - ・ ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子

1 機能を切り替えたい端子に外径 3.5mm のミニプラグに対応した機器を接続します。

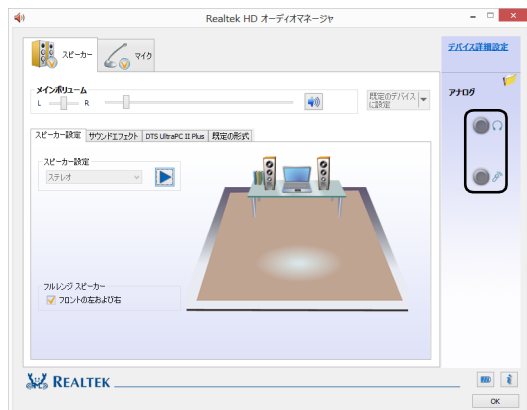
機器を接続していないときは、切り替えられません。

2 画面左下隅の を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると  が表示されます。

3 「ハードウェアとサウンド」▶「Realtek HD オーディオマネージャ」の順にクリックします。

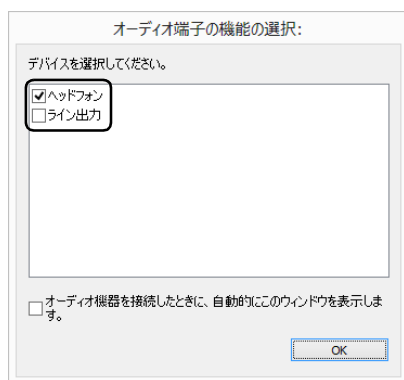
4 切り替えたい端子のアイコンをダブルクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

デバイスを選択するウィンドウが表示されます。

5 使用するデバイスを☑にします。



(画面はヘッドホン・ラインアウト兼用端子の設定画面です)

- ・「ヘッドホン」：ヘッドホン出力として動作します。
内蔵スピーカーから音が出なくなります。
- ・「ライン出力」：ライン出力として動作します。
内蔵スピーカーからも音が出ます。
- ・「マイク入力」：マイク入力として動作します。
- ・「ライン入力」：ライン入力として動作します。
- ・「ヘッドセット」：マイク入力、およびヘッドホン出力として動作します。
内蔵スピーカーから音が出なくなります。

Point

- ▶ 各端子に機器を接続するとデバイスを選択するウィンドウが表示されるように設定する場合「オーディオ端子の機能の選択：」ウィンドウで「オーディオ機器を接続したときに、自動的にこのウィンドウを表示します。」の☐を☑にします。

6 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

通信

有線 LAN

ここでは、LAN（有線 LAN）を使うために必要となるものや LAN ケーブルの接続方法、ネットワークの設定方法について説明しています。

無線 LAN をお使いになる場合には、「無線 LAN」（→ P.138）をご覧ください。

重要

- ▶ ネットワーク設定時のご注意
TCP/IP などのネットワークの設定は、有線 LAN と無線 LAN で異なります。お使いになる状況に合わせて、必要な設定を行ってください。
- ▶ セキュリティ対策をしてください
初めてインターネットに接続するときは必ずセキュリティ対策をしてください。
このパソコンの出荷後、お客様にご購入いただくまでの間にも、セキュリティの脆弱性が新たに見つかったり、悪質なコンピューターウイルスが出現していたりする可能性があります。初めてインターネットに接続する場合は、マニュアルの手順に従って、パソコンを最新の状態にし、セキュリティ対策を行ってください。

■必要なものを用意する

LAN を利用してインターネットに接続するには、次のような機器が必要です。

●ネットワーク機器

ネットワーク接続の目的に合わせて、このパソコンで使える LAN のスピードを確認してから必要なものをご用意ください。ネットワーク機器には次のようなものがあります。

- ・ダイヤルアップルーター
- ・ブロードバンドルーター
- ・ブロードバンドモデム
- ・ハブ

●LAN ケーブル

ストレートタイプとクロスタイプがあります。また、お使いになるネットワークのスピードに合ったものが必要です。接続するネットワーク機器のマニュアルをご覧ください。

●ネットワーク機器のマニュアル

お使いになるネットワーク機器によって、接続や設定の方法が異なります。必ずネットワーク機器のマニュアルや、プロバイダーや回線事業者から提供されるマニュアルもご覧ください。

■LAN ケーブルを接続する

⚠ 警告

- ⊘ ● 雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。
落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源ケーブルをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。
落雷による感電、火災の原因となります。

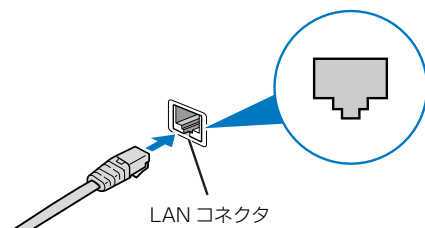
⚠ 注意

- ⚡ ● LAN コネクタに指などを入れないでください。
感電の原因となることがあります。
- ❗ ● LAN ケーブルを接続する場合は、必ず LAN コネクタに接続してください。
接続するコネクタを間違えると、故障の原因となることがあります。

1 パソコン本体の電源を切ります。

AC アダプタを取り外します。

2 LAN コネクタに、LAN ケーブルの一方を接続し、もう一方を、お使いになるネットワーク機器のコネクタに接続します。



LAN ケーブルをコネクタの向きに合わせてしっかり差し込みます。

3 ネットワーク機器の電源を入れます。

4 パソコン本体の電源を入れます。

LAN を使用する場合は、消費電力が大きいため、AC アダプタのご使用をお勧めします。

Point

- ▶ スリープ／休止状態の解除をお勧めします
LAN 機能を使ってネットワーク（インターネットなど）に接続中は、スリープや休止状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワーク（インターネットなど）への接続が正常に行われない場合があります。
なお、ご購入時の状態では、一定時間パソコンを操作しないとスリープになるよう設定されていますので、前述のような不都合がある場合には、「スリープ／休止状態の設定変更」（→ P.148）をご覧ください。
- ▶ 有線 LAN 機能を使ってネットワーク（インターネットなど）に接続する場合は「ステータスパネルスイッチ」で「有線 LAN」を「OFF」にしないでください。有線 LAN が使用できず、通信を行うことができません。詳しくは「パソコンの節電」（→ P.151）をご覧ください。
- ▶ LAN ケーブルを取り外すときは
LAN コネクタから LAN ケーブルを取り外すときは、プラグのツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。

続いてネットワークの設定をします。

■ネットワークの設定をする

ネットワークへは、「TCP/IP の設定」と「フルコンピュータ名とワークグループの確認」を行うことにより接続することができます。

□TCP/IP の設定

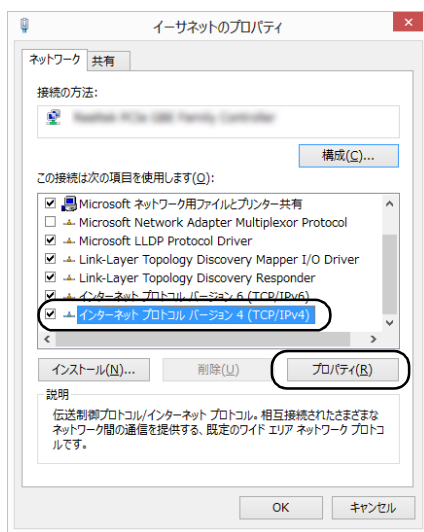
Point

- ▶ TCP/IP の設定を変更する場合は、Windows に管理者アカウントでサインインしてください。

- 1 画面左下隅の  を右クリックし、表示されたメニューから「ネットワーク接続」をクリックします。スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると  が表示されます。ネットワーク接続の一覧が表示されます。
- 2 一覧から「イーサネット」を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。

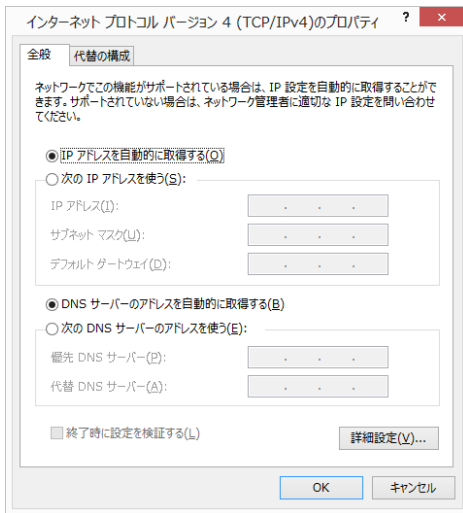


- 3 「この接続は次の項目を使用します」の一覧から、「インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。



他のプロトコルのネットワークに接続する場合は、お使いのネットワークにあわせて設定してください。

4 IP アドレスの設定をします。



■ ネットワーク上にブロードバンドルーターなどの DHCP サーバーがある場合

1. 「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」が ☒ になっていることを確認します。
☐ になっている場合は、☐ をクリックして ☒ にします。

■ ネットワーク上に DHCP サーバーがない場合

1. 「次の IP アドレスを使う」の ☐ をクリックして ☒ にします。
2. 「IP アドレス」に IP アドレスを入力します。
例：192.168.0.1
3. 「サブネットマスク」にサブネットマスクを入力します。
例：255.255.255.0

Point

- ▶ IP アドレスの重複にご注意ください
パソコン本体の IP アドレスをブロードバンドモデムやルーター、お使いのネットワーク上にある他のパソコンやタブレットと重複しないように設定してください。IP アドレスが重複すると、ネットワークによる通信ができません。

5 「OK」をクリックします。

6 「OK」をクリックします。

7 画面右上の をクリックし、表示されているすべてのウィンドウを閉じます。

続いて、フルコンピュータ名、ワークグループを確認します。

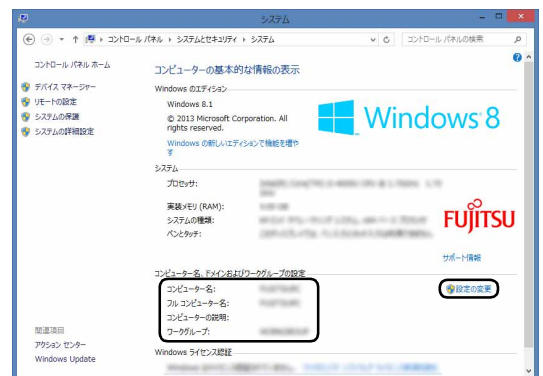
□ フルコンピュータ名とワークグループの確認

Point

- ▶ フルコンピュータ名、ワークグループを変更する場合は、管理者アカウントでサインインしてください。

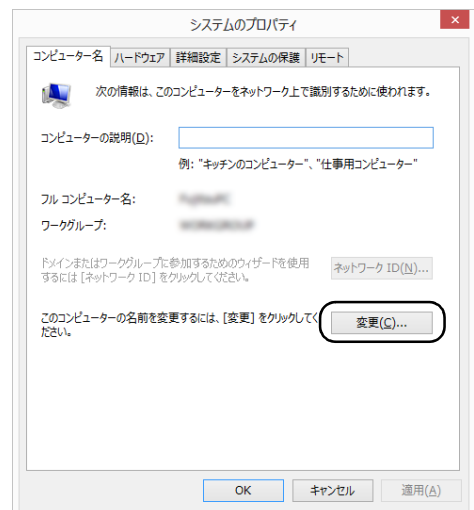
1 画面左下隅の  を右クリックし、表示されたメニューから「システム」をクリックします。
スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると  が表示されます。

2 「コンピュータ名、ドメインおよびワークグループの設定」の「フルコンピュータ名」、「ワークグループ」を確認します。変更する場合は「設定の変更」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

3 「システムのプロパティ」ウィンドウで「変更」をクリックして、「フルコンピュータ名」または「ワークグループ」を変更します。



■フルコンピューター名

ネットワーク上で、パソコンやタブレットを識別するための名前です。設定するときは、他のパソコンやタブレットと重複しないように、半角英数字 15 文字以内で名前を付けてください。機種名やパソコンやタブレットの使用者名などをフルコンピューター名に設定すると、識別しやすくなります。

■ワークグループ

ネットワークにつながったパソコンやタブレットの集まりを表します。複数のパソコンやタブレットに共通のワークグループの名前を付けると、同じネットワークにつながっている「仲間」として、ネットワーク上でファイルやプリンターの共有が行えます。

ワークグループは、半角英数字 15 文字以内で好きな名前を付けることができます。通常、ネットワークを組むときは、各パソコンやタブレットに同じワークグループを設定してください。

4 「OK」をクリックします。

再起動を確認するメッセージが表示された場合は、画面の指示に従って再起動してください。

無線 LAN

無線 LAN 搭載機種のみ

無線 LAN でインターネットに接続する方法については、「インターネットに接続する」(→ P.167) をご覧ください。

また、無線 LAN の電波を発信／停止する方法については、「無線通信機能の電波を発信する／停止する」(→ P.146) をご覧ください。

■無線 LAN をお使いになるうえでの注意

ここでは、無線 LAN をお使いになるうえで注意していただきたいことについて説明しています。

□無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関する注意

重要

- ▶ お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンやタブレットなどと無線 LAN アクセスポイント（ワイヤレス LAN ステーション、ワイヤレスブロードバンドルーターなど）間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

●通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ・ ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
 - ・ メールの内容
- などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

●不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- ・ 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- ・ 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- ・ 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- ・ コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN アクセスポイントやパソコンに搭載されている無線 LAN は、これらの問題に対応するためのセキュリティのしくみをもっています。

そのため、別途ご購入された無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品の、セキュリティに関する設定を正しく行うことで、これらの問題が発生する可能性を少なくすることができます。

しかし、無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品は、ご購入時の状態ではセキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

上記のようなセキュリティ問題が発生する可能性を少なくするためには、無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品に添付されている取扱説明書に従い、これらの製品のセキュリティに関するすべての設定を必ず行ってください。

なお、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」までお問い合わせください。

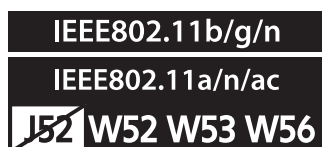
当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。

セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線 LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生した場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

□5GHz 帯のチャンネル（周波数帯）の種類

5GHz 帯を利用した無線 LAN には、W52、W53、W56 という 3 種類のチャンネル（周波数帯）があります。これは、2007 年 1 月 31 日および 2005 年 5 月 16 日に総務省により発表された「電波法施行規則の一部を改正する省令」により、5GHz 帯のチャンネル（周波数帯）の変更と、新チャンネルの追加が行われたためです。

●IEEE 802.11a/b/g/n/ac 準拠



●IEEE 802.11a/b/g/n 準拠



- ▶ IEEE 802.11n では、2.4GHz/5GHz 両方の周波数帯のチャンネルを使用します。

□電波放射の環境への影響

- このパソコンは、他の高周波デバイス同様に、高周波エネルギーを放出していますが、このパソコンが放出するエネルギーのレベルは、例えば携帯電話のような無線デバイスが放出する電磁エネルギーよりはるかに低く抑えられています。

- このパソコンは、高周波安全基準および勧告のガイドライン内で動作するため、本製品の使用者に対し、安全性を確信しています。本基準および勧告は、科学界の統一見解を反映しており、研究班の審議および広範な研究文献を継続的に調査し解釈する科学者たちの委員会を根本としています。

- ある状況や環境において、このパソコンの使用は、建物の所有者や団体の責任ある代表者により制限されることがあります。例えば、下記にあげる場合です。

・他のデバイスやサービスに対し干渉の危険がある環境での使用

- 特定の団体や環境（例えば空港）で無線デバイスの使用に適用される方針が明確にわからない場合は、機器の電源を入れる前に本製品の使用許可について問い合わせをしてください。

□電波放射の人体への影響

このパソコンから放射される出力パワーは、例えば携帯電話が放射する電波のレベルよりはるかに低くなっています。それでも、このパソコンは、通常の動作中に人間の接触に対し電位が最小限にとどめられるように使用されなくてはなりません。使用中はこのパソコンのアンテナ部分に極力触れないでください。無線 LAN アンテナの場所については、「各部の名称と働き」（→ P.36）をご覧ください。

□無線 LAN による通信を行うための注意

- 電波法の定めにより W56 のチャンネルは屋外でご利用になれますが、W52、W53 のチャンネルは屋外でご利用になれません。このパソコンに内蔵の無線 LAN を 5GHz 帯でご利用になる場合、特定のチャンネルの電波の発信を停止することはできないため、屋外ではご利用になれません。
- このパソコンは、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご利用になると罰せられることがあります。
- 航空機内での使用は、各航空会社に事前にご確認ください。

- IEEE 802.11gとIEEE 802.11bが混在する環境では、IEEE 802.11gはIEEE 802.11bとの互換性をとるため、IEEE 802.11g 本来の性能が出ない場合があります。IEEE 802.11g 本来の性能が必要な場合は、IEEE 802.11gとIEEE 802.11bを別の無線 LAN ネットワークにし、使用しているチャンネルの間隔を5チャンネル以上空けてお使いください。
- このパソコンの使用中、特に無線 LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。通信性能が低下する場合があります。
また、このパソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。無線 LAN アンテナの場所については、「各部の名称と働き」(→ P.36) をご覧ください。
- このマニュアルに従わずに設定したり使用したりすると、無線通信に有害な干渉を生じることがあります。
- このパソコンがラジオ、テレビの受信機に有害な干渉を与える原因となっている場合は（このパソコンの電源を入／切することで原因となっているかが判別できます）、次の方法で干渉を取り除くようにしてください。
 - ・このパソコンと受信機の距離を離す
 - ・受信機を接続しているコンセントと別系統回路のコンセントにこのパソコンを接続する
 - ・経験のあるラジオ／テレビ技術者に相談する
- このパソコンの不正な改造は行わないでください。不正な改造により発生した、ラジオやテレビへの干渉についての責任は負いません。
- 近くに他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器がある場合、干渉により本来の性能が出ない場合があります。この場合、他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器と使用しているチャンネルの間隔を空けるように変更して、干渉の影響が最小となるチャンネルでお使いください。それでも解決しない場合は、他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器から3m以上離して干渉の影響が最小となる場所でお使いください。

□良好な通信を行うために

- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、次のとおりです。

無線 LAN の種類 ^[注]	推奨する最大通信距離
IEEE 802.11a 準拠	見通し半径 15m 以内
IEEE 802.11b、 IEEE 802.11g 準拠	見通し半径 25m 以内
IEEE 802.11n、 IEEE 802.11ac 準拠	見通し半径 50m 以内

注 お使いの機種により搭載されていない種類もあります。

ただし、無線 LAN の特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、アプリ、設置状況、電波状況などの使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。

- パソコン本体は、他の電気機器から離して設置してください。パソコン本体と電源が入った電気機器を近づけていると、正常に通信できなかったり、電気機器の障害になったりすることがあります。正常に通信できない場合は、使用するチャンネルや使用場所を変更してください。特に、電子レンジなどの強い高周波エネルギーを出す機器の使用時は、影響を受けやすく、正常に通信できないことがあります。
- 放送局や無線機などが近く、正常に通信できないときは、パソコン本体の設置場所を変えてみてください。周囲の電波が強すぎると、正常に通信できないことがあります。
- このパソコンの無線 LAN は、Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器と同じ周波数帯（2.4GHz 帯）を使用するため、パソコン本体の近辺で Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を使用すると電波干渉が発生し、通信速度の低下や接続不能になる場合があります。

- Bluetoothワイヤレステクノロジー機器との電波干渉を防ぐには、次の対策を行うと、電波の干渉を防ぐことができる場合があります。
 - ・ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器とパソコン本体との間は 10m 以上離して使用する。
 - ・ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器の電源を切るか、電波を停止する。
Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルをご覧ください、電源を切るか、電波を停止してください（単独で電源を切れないものを除く）。
 - ・ 無線 LAN の 5GHz 帯を利用する（ただし利用できるのは屋内のみ）。
- 5GHz 帯チャンネルの W53（52 ～ 64ch）、W56（100 ～ 140ch）では、無線 LAN アクセスポイントの DFS 機能が作動した場合、W53/W56 の通信はいったん切断されます。DFS 機能により、その無線 LAN アクセスポイントが再起動した場合は、W53/W56 以外のすべての通信もいったん切断されます。

■無線 LAN の仕様 (IEEE 802.11a/b/g/n/ac 準拠)

項目	仕様 [注 1]
ネットワークの種類	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠 (5GHz 帯のチャンネルは W52/W53/W56 です) (Wi-Fi® 準拠) [注 2]
転送レート	IEEE 802.11b 準拠: 11 ~ 1Mbps (自動切り替え) IEEE 802.11a 準拠、IEEE 802.11g 準拠: 54 ~ 6Mbps (自動切り替え) IEEE 802.11n 準拠: 300 ~ 6Mbps (自動切り替え、HT20/40 対応) [注 3] [注 4] IEEE 802.11ac 準拠: 867 ~ 6Mbps (自動切り替え、VHT20/40/80 対応) [注 5] [注 6]
使用周波数	2,400MHz ~ 2,483.5MHz 5,150MHz ~ 5,340MHz 5,460MHz ~ 5,740MHz
チャンネル [注 8]	IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠: 1 ~ 13ch IEEE 802.11a 準拠: W52 (36/40/44/48ch) /W53 (52/56/60/64ch) /W56 (100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch) IEEE 802.11n 準拠: 2.4GHz モード 1 ~ 13ch 5GHz モード W52 (36/40/44/48ch) /W53 (52/56/60/64ch) /W56 (100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch) IEEE 802.11ac 準拠: W52 (36/40/44/48ch) /W53 (52/56/60/64ch) /W56 (100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch)
セキュリティ [注 9]	SSID (ネットワーク名) WEP (セキュリティキー (WEP キー): 64/128 ビット) [注 7] WPA- パーソナル (WPA-PSK) (TKIP/AES) WPA2- パーソナル (WPA2-PSK) (TKIP/AES) WPA- エンタープライズ (WPA) (TLS/PEAP) (TKIP/AES) WPA2- エンタープライズ (WPA2) (TLS/PEAP) (TKIP/AES) IEEE 802.1X (TLS/PEAP)

注 1 アドホック通信には対応していません。

注 2 Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。

注 3 IEEE 802.11n では HT20/40 に対応しています。HT40 を利用するには、無線 LAN アクセスポイントも HT40 に対応している必要があります。

注 4 IEEE 802.11n を使用するときの無線 LAN アクセスポイントの設定で、HT40 の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちに HT40 の機能を無効にしてください。

注 5 IEEE 802.11ac では VHT20/40/80 に対応しています。VHT80 を利用するには、無線 LAN アクセスポイントも VHT80 に対応している必要があります。

注 6 IEEE 802.11ac を使用するときの無線 LAN アクセスポイントの設定で、VHT40/80 の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちに VHT40/80 の機能を無効にしてください。

注 7 WEP による暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長 24 ビットを引いた 40 ビット / 104 ビットです。

注 8 このパソコンに搭載されている無線 LAN の IEEE 802.11b では、無線チャンネルとしてチャンネル 1 ~ 13 を使用しています。無線 LAN アクセスポイントのチャンネルを、1 ~ 13 の間で設定してください。設定方法については、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

注 9 IEEE 802.11n、IEEE 802.11ac で接続するためには、パスメーカー (PSK) を AES に設定する必要があります。

Bluetooth ワイヤレステクノロジー

ここでは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使用する方法について説明しています。

■Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは

Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットやモデム、携帯電話などの周辺機器や他の Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載のパソコンやタブレットなどに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。

重要

- ▶ Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになる場合は、セキュリティの設定をすることをお勧めします。
セキュリティの設定をしないと、通信内容を傍受されたり、ネットワークに侵入されたりする危険があります。

■Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使うための設定をする

パソコンと Bluetooth ワイヤレステクノロジー対応機器を接続するためには、「Bluetooth デバイスの管理」を使用します。

- 1 マウスポインターを右上隅に合わせて「チャーム」を表示し、 (設定) をクリックします。

 『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』

- 2 「設定チャーム」から「PC 設定の変更」▶「PC とデバイス」▶「Bluetooth」の順にクリックします。「Bluetooth デバイスの管理」の画面が表示されます。

Point

- ▶ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルもあわせてご覧ください。それらのマニュアルに設定方法が記載されている場合は、そちらの手順に従って設定してください。

■Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特長

このパソコンの Bluetooth ワイヤレステクノロジーの主な特長は、次のとおりです。

なお、すべての Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器に接続可能なことを保証するものではありません。

- 出力 Class2、Bluetooth v4.0 に準拠しています。
Bluetooth v4.0 およびそれ以前の規格に準拠した機器と接続が可能です。
- 最大通信速度は 2.1Mbps (Bluetooth v4.0 の理論上の最大値) です。ただし、実際の通信速度はお使いの環境により異なります。

■必要なものを用意する

- Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器

Bluetooth ワイヤレステクノロジーを利用してパソコンと接続する機器です。お使いのパソコンに搭載されている Bluetooth ワイヤレステクノロジーの規格に対応したものををご用意ください。なお、Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器には次のようなものがあります。お使いになる目的に応じてご用意ください。

- ・キーボード
- ・マウス
- ・プリンター
- ・ヘッドセット
- ・携帯電話

- Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアル
お使いになる Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器によって設定方法が異なる場合があります。必ず Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルもご覧ください。

重要

- ▶ ペ어링コード（PIN またはパスコード）について

パソコンと Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器の接続（ペ어링）設定をするときには、機器によっては「ペ어링コード（PIN またはパスコード）」が必要になる場合があります。「ペ어링コード（PIN またはパスコード）」については、後述の「Windows ヘルプとサポート」および Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルをご覧ください。

- ▶ プロファイルについて

Bluetooth ワイヤレステクノロジーには「プロファイル」という仕様があり、同じプロファイルをもつ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器どうしを接続し、そのプロファイルの機能を使用することができます。

このパソコンには、このパソコンがサポートしているプロファイルに対応した Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を使用することができます。このパソコンがサポートしているプロファイルは次のとおりです。

- ・ HID、HCRP、DUN、SPP、OPP、PAN、A2DP、AVRCP、HFP、HOGP

■Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになるうえでの注意

ここでは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになるうえで注意していただきたいことについて説明しています。

□Bluetooth ワイヤレステクノロジーご使用時におけるセキュリティに関する注意

重要

- ▶ お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーでは、電波を利用して周辺機器や他のパソコンやタブレットとの間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

●通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、ID やパスワード、その他の個人情報などの通信内容を盗み見る可能性があります。

●不正に使用される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内の周辺機器やパソコンへアクセスし、次の行為をされてしまうおそれがあります。

- ・ 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- ・ 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- ・ 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- ・ コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

このパソコンおよび一部の周辺機器や他のパソコンやタブレットに内蔵されている Bluetooth ワイヤレステクノロジーは、これらの問題に対応するためのセキュリティのしくみをもっています。

そのため、別途ご購入された Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載の周辺機器や他のパソコンやタブレットがセキュリティのしくみをもっている場合、セキュリティに関する設定を正しく行うことで、これらの問題が発生する可能性を少なくすることができます。しかし、Bluetooth ワイヤレステクノロジー内蔵の周辺機器や他のパソコンやタブレットは、ご購入時の状態ではセキュリティに関する設定が施されていない場合があります。上記のようなセキュリティ問題が発生する可能性を少なくするためには、周辺機器や他のパソコンやタブレットに添付されている取扱説明書に従い、これらの製品のセキュリティに関するすべての設定を必ず行ってください。

なお、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」までお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで
使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご
自身の判断と責任においてセキュリティに関する設
定を行い、製品を使用することをお勧めします。

セキュリティ対策を施さず、あるいは、Bluetooth ワ
イヤレステクノロジーの仕様上やむを得ない事情に
よりセキュリティの問題が発生した場合、当社は、こ
れによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

□Bluetooth ワイヤレステクノロジーによる通信を 行うための注意

- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大
通信距離は、見通し半径 10m 以内（出力 Class2
の最大値）です。

ただし、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特性
上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、アプ
リ、設置状況、電波状況などの使用環境により通信
距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不
能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。

- このパソコンのBluetoothワイヤレステクノロジー
用アンテナは、パソコン本体に内蔵されています。
このパソコンの使用時、特に Bluetooth ワイヤレス
テクノロジーの通信中はアンテナ部分に極力触れな
いください。通信性能が低下する場合があります。
また、このパソコンを設置する場合には、周囲が金
属などの導体（電気を通しやすいもの）でできてい
る場所を避けてください。通信性能が低下し、設置
環境によっては通信できなくなることがあります。
Bluetooth ワイヤレステクノロジー用アンテナの
場所については、「各部の名称と働き」（→ P.36）
をご覧ください。

- パソコン本体は、他の電気機器から離して設置し
てください。パソコン本体と電源が入った電気機器を
近づけていると、正常に通信できなかったり、電気
機器の障害になったりすることがあります。正常に
通信できない場合は、使用場所を変更してください。
特に、電子レンジなどの強い高周波エネルギー
を出す機器の使用時は、影響を受けやすく、正常に
通信できないことがあります。

- 放送局や無線機などが近く、正常に通信できないと
きは、パソコン本体の設置場所を変えてみてくだ
さい。周囲の電波が強すぎると、正常に通信できな
いことがあります。

- Bluetooth ワイヤレステクノロジーは IEEE
802.11b、IEEE 802.11g や IEEE 802.11n の
2.4GHz 帯規格の無線 LAN と同じ周波数帯の電波
を使用します。そのため、ご使用の状態によっては
無線 LAN と Bluetooth ワイヤレステクノロジーの
電波が干渉し、他のパソコンやタブレットなどとの
通信速度が低下したり、Bluetooth ワイヤレステ
クノロジーで接続したワイヤレスヘッドホンなどの
音質が悪くなったりする場合があります。

- 無線 LAN 機器との電波干渉を防ぐには、次の対策
を行うと、電波の干渉を防ぐことができる場合があ
ります。

- ・無線 LAN 機器とパソコン本体との間は 10m 以
上離して使用する。
- ・無線 LAN 機器の電源を切る。
- ・無線 LAN 機器の電波を停止する。
- ・無線 LAN の 5GHz 帯を利用する（ただし利用で
きるのは屋内のみ）。

- このパソコンに USB アダプタ型などの他の
Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を取り付
けて、同時に使用しないでください。

□電波放射の環境への影響

- このパソコンは、他の高周波デバイス同様に、高周
波エネルギーを放出していますが、このパソコンが
放出するエネルギーのレベルは、例えば携帯電話の
ような無線デバイスが放出する電磁エネルギーよ
りはるかに低く抑えられています。

- このパソコンは、高周波安全基準および勧告のガイ
ドライン内で動作するため、このパソコンの使用者
に対し、安全性を確信しています。本基準および勧
告は、科学界の統一見解を反映しており、研究班の
審議および広範な研究文献を継続的に調査し解釈
する科学者たちの委員会を根本としています。

- ある状況や環境において、このパソコンの使用は、
建物の所有者や団体の責任ある代表者により制限
されることがあります。例えば、下記にあげる場合
です。

- ・他のデバイスやサービスに対し干渉の危険がある
環境での使用

- 特定の団体や環境（例えば空港）で無線デバイスの
使用に適用される方針が明確にわからない場合は、
機器の電源を入れる前にこのパソコンの使用許可
について問い合わせをしてください。

□電波放射の人体への影響

- このパソコンから放射される出力パワーは、例えば携帯電話が放射する電波のレベルよりはるかに低くなっています。それでも、このパソコンは、通常の動作中に人間の接触に対し電位が最小限にとどめられるように使用されなくてはなりません。使用中はこのパソコンのアンテナ部分に極力触れないでください。

□干渉に関する注意

- このマニュアルに従わずに設定したり使用したりすると、無線通信に有害な干渉を生じることがあります。
- このパソコンがラジオ、テレビの受信機に有害な干渉を与える原因となっている場合は（このパソコンの電源を入／切することで原因となっているかが判別できます）、次の方法で干渉を取り除くようにしてください。
 - ・このパソコンと受信機の距離を離す
 - ・受信機を接続しているコンセントと別系統回路のコンセントにこのパソコンを接続する
 - ・経験のあるラジオ／テレビ技術者に相談する
- このパソコンの不正な改造は行わないでください。不正な改造により発生した、ラジオやテレビへの干渉についての責任を負いません。

無線通信機能の電波を発信する／停止する

パソコンに搭載されている無線 LAN や Bluetooth ワイヤレステクノロジーなどの無線通信機能の電波を発信／停止する方法について説明します。

病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、あらかじめ無線通信機能の電波を停止してください。

無線通信機能の電波の発信／停止には、次の 2 つの方法があります。

- すべての無線通信機能の電波を発信／停止する
パソコンに搭載されている、すべての無線通信機能の電波を発信／停止します。
- 特定の無線通信機能の電波だけを発信／停止する
すべての無線通信機能の電波が発信されている状態で、特定の無線通信機能の電波の発信／停止だけを切り替えます。
例えば、無線 LAN の電波は発信したまま、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波を停止したいときなどに便利です。

point

- ▶ 省電力モードで無線 LAN や Bluetooth ワイヤレステクノロジーを無効にする設定にしている場合は、省電力モードを OFF にしてください。

■すべての無線通信機能の電波を発信／停止する
パソコンに搭載されている、すべての無線通信機能の電波を発信／停止します。

お使いの機種によって、電波の発信／停止方法が異なります。ワイヤレス通信ランプについては、「各部の名称と働き」(→ P.36) をご覧ください。

point

- ▶ 特定の無線通信機能の電波を停止する設定にしている場合は、発信する設定に変更してください。詳しくは、「特定の無線通信機能の電波だけを発信／停止する」(→ P.147) をご覧ください。

□電波を発信する

[Fn] + [F5] を押して、電波を発信します。電波の発信が開始すると、ワイヤレス通信ランプが点灯します。

point

- ▶ ワイヤレス通信ランプについて
機内モードがオフのときに点灯します。
機内モードは、パソコンに搭載されている無線通信機能の電波を停止する機能です。機内モードをオンにすると電波が停止します。
機内モードがオフ（ワイヤレス通信ランプ点灯時）でも電波が停止している場合があります。電波の発信／停止の状態は、「特定の無線通信機能の電波だけを発信／停止する」(→ P.147) の手順で表示される画面で確認できます。

□電波を停止する

[Fn] + [F5] を押して、電波を停止します。電波が停止すると、ワイヤレス通信ランプが消灯します。

■特定の無線通信機能の電波だけを発信／停止する

- 1 マウスポインターを右上隅に合わせて「チャーム」を表示し、 (設定) をクリックします。

 『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』

- 2 「設定チャーム」で「ネットワーク」アイコンをクリックします。



- 3 設定を切り替えます。

- ・電波を発信する場合は、発信する機能の  (オフ) をクリックして  (オン) にします。
- ・電波を停止する場合は、停止する機能の  (オン) をクリックして  (オフ) にします。

□Bluetooth だけを発信／停止する

- 1 マウスポインターを右上隅に合わせて「チャーム」を表示し、 (設定) をクリックします。

 『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』

- 2 「設定チャーム」から「PC 設定の変更」▶「PC とデバイス」▶「Bluetooth」の順にクリックします。「Bluetooth デバイスの管理」の画面が表示されます。

- 3 設定を切り替えます。

- ・電波を発信する場合は、発信する機能の  (オフ) をクリックして  (オン) にします。
- ・電波を停止する場合は、停止する機能の  (オン) をクリックして  (オフ) にします。

スリープ／休止状態

Windows の省電力機能を使用すると、パソコンを待機状態にしているときに消費電力を抑えることができます。ここでは、省電力機能のうち、「スリープ」と「休止状態」について説明しています。

スリープ／休止状態とは

■スリープ

作業中のデータなどをメモリに保存してパソコンを待機状態にすることです。

ご購入時の設定では、一定時間パソコンを操作しないと、自動的にスリープになるように設定されています。手動でスリープにする操作については、「スリープにする／復帰させる」(→ P.45) をご覧ください。

■休止状態

作業中のデータなどをハードディスクに保存して、パソコン本体の電源を切ることです。

スリープに比べると、待機状態にしたり復帰(レジューム)したりするための時間は長くなりますが、消費電力は削減されます。

ご購入時の設定では、スリープしてから一定時間経過するか、バッテリーの残量が少なくなると、自動的に休止状態になるように設定されています。

□休止状態にする

- 1 マウスポインターを画面の右上隅に合わせて「チャーム」を表示し、 (設定) をクリックします。

 『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』

- 2 「電源」▶「休止状態」の順にクリックします。ディスプレイの表示が消え休止状態になります。

Point

- ▶ 「休止状態」が表示されていない場合は、次の手順で設定を変更してください。

1. 画面左下隅の  を右クリックし、表示されたメニューから「電源オプション」をクリックします。
スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると  が表示されます。
2. 「電源オプション」ウィンドウが表示されたら、左側にある「スリープ解除時のパスワード保護」をクリックします。

3. 「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリックします。
 4. ウィンドウの下部にある「休止状態」の□をクリックして☑にします。
 5. 「変更の保存」をクリックします。
 6. 「電源オプション」ウィンドウを閉じます。
- ▶ 電源ボタンを押したときや、液晶ディスプレイを閉じたときに休止状態に切り替わるように設定を変更することができます (→ P.148)。
 - ▶ 機種によっては、休止状態にして、液晶ディスプレイを閉じた後、液晶ディスプレイを開いても、復帰 (レジューム) しないことがあります。その場合は、電源ボタンを押してください。

スリープ／休止状態にするうえでの注意

- パソコンをお使いの状況によっては、スリープや休止、復帰 (レジューム) に時間がかかる場合があります。
- スリープや休止状態にした後、すぐに復帰 (レジューム) しないでください。必ず、10 秒以上たってから復帰 (レジューム) するようにしてください。また、再度スリープや休止状態にする場合は、復帰 (レジューム) させた後、必ず 10 秒以上たってから、スリープや休止状態にするようにしてください。
- スリープや休止状態に移行するまでの間、USB マウスや USB キーボードなどの周辺機器を操作しないでください。復帰 (レジューム) した後、周辺機器を正しく認識しなくなることがあります。
- 接続している周辺機器のドライバーが正しくインストールされていない場合、スリープや休止状態にならないことがあります。
- スリープや休止状態、復帰 (レジューム) のときに、画面に一瞬ノイズが発生する場合がありますが、故障ではありません。
- スリープ中は、周辺機器の取り付け／取り外しをしないでください。
- ネットワークの設定によっては、スリープ中に DHCP サーバーから割り当てられた IP アドレスの有効期限が切れると、パソコン本体がスリープから元の状態に戻ることがあります。
この場合は、IP アドレスの有効期間を延長するか、DHCPの使用を中止して固定IPをお使いください。

- 次の場合は、自動的にスリープや休止状態になりません。
 - ・ DVD-VIDEO などの動画再生時
 - ・ テレビ機能をお使いの場合 (テレビチューナー搭載機種のみ)
- 次の場合は、スリープや休止状態にしないでください。
 - ・ Windows の起動処理中または終了処理中
 - ・ パソコンが何か処理をしている最中 (プリンター出力中など)、および処理完了直後
 - ・ ハードディスクにアクセス中
 - ・ オートラン CD-ROM/DVD-ROM (セットすると自動で始まる CD-ROM/DVD-ROM) を使用中
 - ・ ビデオ CD や Blu-ray Disc (Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ)、DVD-VIDEO などを再生中
 - ・ 音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
 - ・ ディスクにデータを書き込みまたは書き換え中
 - ・ ドライバーのインストールが必要な周辺機器を取り付けて、ドライバーをインストールしているとき
 - ・ マルチモニター機能を使用中
 - ・ ネットワークに接続して通信中
 - ・ デジタルテレビに表示しているとき
 - ・ マウスの操作中
 - ・ LAN 機能を使ってネットワーク (インターネットなど) に接続中

スリープ／休止状態の設定変更

ディスクにデータを書き込むときや、LAN を使用するときなど、必要に応じて設定を変更してください。

■電源ボタンを押したとき／液晶ディスプレイを閉じたときの省電力機能を変更する

□ご購入時の設定

- 電源ボタンを押す
スリープ状態に切り替わる
- 液晶ディスプレイを閉じる
スリープ状態に切り替わる

□設定を変更する

- 1 画面左下隅の  を右クリックし、表示されたメニューから「電源オプション」をクリックします。スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると  が表示されます。
- 2 「電源オプション」ウィンドウが表示されたら、「電源ボタンの動作の選択」または「カバーを閉じたときの動作の選択」をクリックします。



- ・ 電源ボタンの動作の選択
電源ボタンを押したときの省電力機能を変更する場合、クリックします。
- ・ カバーを閉じたときの動作の選択
液晶ディスプレイを閉じたときの省電力機能を変更する場合、クリックします。

- 3 必要に応じて電源ボタンとカバーの設定の項目を変更します。



(画面は機種や状況より異なります)

Point

- ▶ 機種によっては、休止状態にして、液晶ディスプレイを閉じた後、液晶ディスプレイを開いても、復帰（レジューム）しないことがあります。その場合は、電源ボタンを押してください。
- ▶ パソコンがスリープから復帰（レジューム）するとき、あらかじめ Windows に設定してあるパスワードの入力を必要とすることで、このパソコンのセキュリティを高めることができます。

1. 「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリックします。
2. 「パスワードを必要とする（推奨）」の左の  をクリックして  にします。

指紋認証で指紋情報を登録しておく、パスワード入力を省略することができます（指紋センサー搭載機種のみ）。

- 4 「変更の保存」をクリックします。

■スリープになるまでの時間を変更する

- 1 画面左下隅の  を右クリックし、表示されたメニューから「電源オプション」をクリックします。スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると  が表示されます。
- 2 「電源オプション」ウィンドウが表示されたら、左側の「コンピューターがスリープ状態になる時間を変更」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

3 「コンピューターをスリープ状態にする」の設定を変更します。



4 「変更の保存」をクリックします。

Point

▶ 設定を元に戻す

変更した設定は次の手順で元に戻すことができます。

1. 「電源オプション」ウィンドウ左側の「コンピューターがスリープ状態になる時間を変更」をクリックします。
2. 「このプランの既定の設定を復元」をクリックします。
3. 「はい」をクリックします。
4.  をクリックします。

電源プラン

パソコンの利用状況に応じた設定に変更することで、消費電力を抑えることができます。

ご購入時は次の3つの電源プランが用意されています。

● バランス

ハードウェアでサポートされている場合に、自動的にパフォーマンスと消費電力のバランスをとります。

● 省電力

可能な限りコンピューターのパフォーマンスを低下させ、消費電力を抑えます。

● 高パフォーマンス

パフォーマンスを優先しますが、消費電力が増える可能性があります。

Point

- ▶ 電源プランを「高パフォーマンス」に設定すると、バッテリー駆動時間が短くなります。

1 画面左下隅の  を右クリックし、表示されたメニューから「電源オプション」をクリックします。スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると  が表示されます。

2 お使いになる状況に適した電源プランの  をクリックして  にします。



「高パフォーマンス」を選択する場合は、「追加プランの表示」の  をクリックして「高パフォーマンス」を表示させます。

(画面は機種や状況により異なります)

3  をクリックします。

なお、各電源プランにある「プラン設定の変更」をクリックすると、各電源プランの設定を変更することができます。

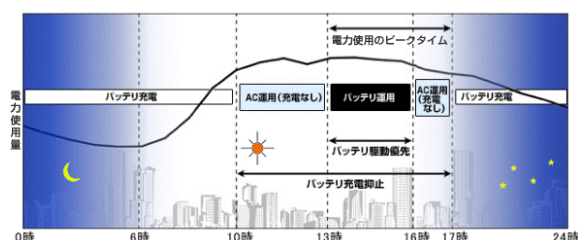
パソコンの節電

ピークシフト設定

■「ピークシフト設定」とは

夏場の昼間など電力需要がピークとなる時間帯の電力使用を抑え、夜間などの電力需要の少ない時間帯に電力使用を移行することをピークシフトといいます。「ピークシフト設定」により、次のような使い方ができるようになります。

- 時間帯により AC アダプタ運用とバッテリー運用を切り替えて、ピークタイム時の電力消費を抑える
- 電力需要が増える時間帯にはバッテリー運用でパソコンを利用し、バッテリーへの充電を抑制する
- 電力需要の少ない夜間にバッテリー充電を行う



「ピークシフト設定」による運用イメージ



- ▶ お住まいの地域の電力使用量を知りたい場合は、各電力会社のホームページなどで確認してください。

■「ピークシフト設定」をお使いになるうえでの注意

- DVD-VIDEO や Blu-ray Disc (Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ) の再生など、パソコンを長時間お使いになる場合は、「ピークシフト設定」を一時的に無効にしてください。
- 「ピークシフト設定」は Windows にサインインしているときに動作します。
パソコンの電源が切れている場合や、スリープや休止状態、Windows からサインアウトしている場合は動作しません。

■「ピークシフト設定」を使う

「ピークシフト設定」は、ご購入時の状態では無効に設定されています。お使いになる場合は、サポートページから Q&A ナンバー「9809-1611」を検索して、有効にする手順を確認してください。

省電力モード

一部の機能の使用を制限することで、パソコン本体の動作を中断させずに、消費電力を抑えることができます。

詳しくは、「ステータスパネルスイッチ」(→ P.82)をご覧ください。

バッテリーユーティリティ - ECO Sleep

■「ECO Sleep」とは

「ECO Sleep」とは、電源オフ状態や休止状態でバッテリーの充電が完了している場合に、AC アダプタからの電力供給を止めることにより消費電力を抑える機能です。

■「ECO Sleep」の設定を変更する

「ECO Sleep」の設定は、「バッテリーユーティリティ」で変更します。

- 1 スタート画面左下の をクリックします。
 が表示されていない場合は、マウスポインターを動かすと表示されます。
 『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』
- 2 「FUJITSU - バッテリーユーティリティ」の「バッテリーユーティリティ」をクリックします。
「バッテリーユーティリティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「ECO Sleep」をクリックします。
- 4 「変更」をクリックします。
「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。
- 5 「ECO Sleep」を有効にする場合は「低待機モード」を、「ECO Sleep」を無効にする場合は「通常モード」をクリックし、「OK」▶「閉じる」をクリックします。

- 「ECO Sleep」について、詳しくは次の手順で表示されるヘルプをご覧ください。
 1. スタート画面左下の をクリックします。
 が表示されていない場合は、マウスポインターを動かすと表示されます。
 『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』
 2. 「FUJITSU - バッテリーユーティリティ」の「ヘルプ」をクリックします。
- 「ECO Sleep」が動作中の場合、電源オフ状態や休止状態ではバッテリー充電ランプは点灯しません。

バッテリーユーティリティ - 満充電量の設定

バッテリーの満充電量を 80% に抑えることで、バッテリーの充電に使用する電力を節約するとともに、バッテリーの消耗を抑え、バッテリーの寿命を延ばすことができます。

■設定を変更する

- 1 スタート画面左下の  をクリックします。
 が表示されていない場合は、マウスポインターを動かすと表示されます。
 『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』
 - 2 「FUJITSU - バッテリーユーティリティ」の「バッテリーユーティリティ」をクリックします。
「バッテリーユーティリティ」ウィンドウが表示されます。
 - 3 「バッテリー満充電量」をクリックします。
 - 4 「変更」をクリックします。
「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。
 - 5 「80% 充電モード」を選択し、「OK」▶「閉じる」の順にクリックします。
- ご購入時のバッテリーの満充電量は、100% に設定されています。
 - 「80% 充電モード」に変更すると、バッテリー残量が 70% 以上の場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。69% 以下で充電されます。

アプリ

このパソコンには、あらかじめたくさんのアプリがインストールされています。

一度削除したアプリをもう一度使いたいときや、アプリの動作がおかしくなったとき、アプリをインストールし直すことができます。

Windows 8.1 には、Windows 8.1 のスタート画面で動作する Windows ストア アプリと、デスクトップ画面で動作するデスクトップアプリの2種類があります。

Windows ストア アプリ

Windows 8.1 専用のアプリです。

■インストール

ストアからインストールします。ストアの利用には Microsoft アカウントでサインインする必要があります。

- 1 スタート画面で「ストア」をクリックします。
ジャンルごとにアプリが表示されます。
- 2 インストールしたいアプリをクリックします。
インストールしたいアプリが見つからない場合は、画面下のスクロールバーの  を数回クリックし、隠れている画面を表示してください。

Point

- ▶ 画面右上にある入力フォームから検索することもできます。検索したいアプリの名前を入力して、 をクリックします。

この後は画面の指示に従って操作してください。

■更新プログラム

インターネットに接続していると、インストール済のストアアプリが最新のバージョンでなかった場合、自動的に更新されます。

□自動更新を無効にする

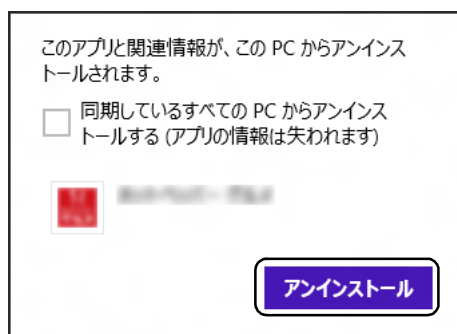
- 1 「ストア」画面で、マウスポインターを右上隅に合わせて「チャーム」を表示し、 (設定) をクリックします。
- 2 「アプリの更新」をクリックします。
- 3 「アプリの更新プログラム」の「アプリを自動的に更新する」の  (はい) をクリックして  (いいえ) にします。

■アンインストール

スタート画面およびアプリ画面の操作でアンインストールできます。アンインストールした Windows ストア アプリはストアから再インストールすることができます。

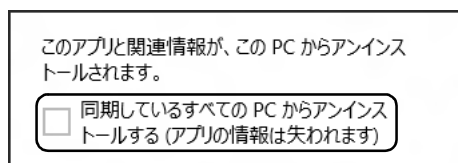
 『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』

- 1 スタート画面またはアプリ画面でアンインストールしたいアプリのタイルを右クリックします。
- 2 「アンインストール」をクリックします。
- 3 次の画面が表示されたら「アンインストール」をクリックします。



Point

- ▶ 「同期しているすべてのPCからアンインストールする (アプリの情報は失われます)」が表示された場合、クリックして ☒ にすると、お使いの Microsoft アカウントで他のパソコンやタブレットにサインインしたときもアンインストールされた状態になります。



デスクトップアプリ

Windows 7 で使用していたものがほとんどそのまま使用できます。

■デスクトップアプリをインストール／アンインストールするうえでの注意

- デスクトップアプリをインストールする前には、必ずアプリのマニュアルなどを読んで、インストールの方法を確認する
- インストールし直す場合は、元のアプリを削除する

●管理者アカウントでサインインする

ユーザーアカウントの種類が、「標準アカウント」、「Guest アカウント」の場合はアプリの削除ができません。管理者アカウントでサインインしてください。ユーザーアカウントの種類は、次の手順で確認できます。

1. 画面左下隅の  を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると  が表示されます。
2. 「ユーザーアカウントとファミリーセキュリティ」をクリックします。
3. 「ユーザーアカウント」をクリックします。
「ユーザーアカウント」ウィンドウが表示されます。
4. 画面右のアカウント名の下に表示されている、アカウントの種類を確認します。
「Administrator」は、管理者アカウントであることを意味します。

●起動しているデスクトップアプリをすべて終了する

他のアプリが起動していると、エラーが発生する場合があります。アプリの削除をする前に、次の作業を行ってください。

- ・起動しているアプリをすべて終了する
- ・タスクバーに常駐するタイプのアプリをすべて終了する
- ・スクリーンセーバーを「なし」に設定する
 1. デスクトップ画面のなにもないところを右クリックし、表示されたメニューから「個人設定」をクリックします。
 2. 画面右下の「スクリーンセーバー」をクリックします。
 3. 「スクリーンセーバー」を「(なし)」にして、「OK」をクリックします。

●共有ファイルは削除しない

アプリの削除中に、「共有ファイルを削除しますか？」というメッセージが表示されることがあります。

共有ファイルは削除しないことをお勧めします。共有ファイルを削除すると、インストールされている他のデスクトップアプリが影響を受け、正しく動作しなくなる場合があります。

■インストール

□搭載デスクトップアプリをインストールする

次の手順で、ハードディスクのリカバリ領域からアプリをインストールすることができます。

1 スタート画面左下の④をクリックします。

④が表示されていない場合は、マウスポインターを動かすと表示されます。

『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』

2 「ソフトウェアディスク検索（ハードディスク）」をクリックします。

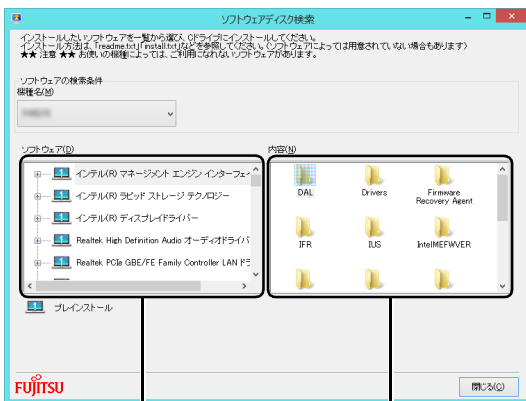
「ソフトウェアディスク検索（ハードディスク）」が見つからない場合は、画面下のスクロールバーの▶を数回クリックし、隠れている画面を表示してください。

3 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。

4 「ソフトウェアディスク検索（ハードディスク）」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。

5 「機種名」欄の右側の▼をクリックし、表示されたリストからお使いの機種名（品名）をクリックして選択します。

6 「ソフトウェア一覧」からインストールするアプリの名称をクリックしてインストールします。 デスクトップアプリの名称をクリックすると、アプリに含まれるファイルが画面右側に表示されます。



デスクトップアプリの名称

含まれるファイル

（画面は機種や状況により異なります）

7 デスクトップアプリのインストール方法は、各デスクトップアプリによって異なります。それぞれの「readme.txt」、「install.txt」などでインストール方法を確認してください。

Point

- ▶ リカバリ領域を削除している場合や破損してしまった場合は、⑤「ソフトウェアディスク」から、デスクトップアプリをインストールしてください。
- ▶ ⑤「ソフトウェアディスク」は「リカバリディスクセットを作っておく」（→ P.170）をご覧ください。また、購入することもできます（→ P.110）。

□「Office」をインストールし直す

「Office」搭載機種のみ

「Office」搭載機種をお使いの方で、「Office」のみインストールし直したい場合は、マイクロソフト社のホームページからダウンロードしてインストールしてください。インストール方法については次のホームページをご覧ください。

<http://www.office.com/jppipcsetup/>

□ドライバーをインストールし直す

サウンドの再生や画面表示などが正常に行われないとき、ドライバーを更新すると問題が解決できる場合があります。

□お使いのパソコンに搭載されているドライバーについて

- 各ドライバーは、改善のため事前連絡なしに変更することがあり、ご購入時に添付されているものよりも新しいバージョンのドライバーが、サポートページ（<http://azby.fmworld.net/support/>）の「機種別サポート情報・ダウンロード」で公開されている場合があります。

サポートページ（<http://azby.fmworld.net/support/>）の「機種別サポート情報・ダウンロード」に最新のドライバーがない場合は、ドライバーを削除し、再インストールしてください。

- ドライバーの削除や、再インストール手順については、各ドライバーのフォルダー内にある「readme.txt」「install.txt」などのファイルをご覧ください。

●ドライバーの格納されているフォルダーは、次の手順でご確認ください。

1. スタート画面左下のをクリックします。
が表示されていない場合は、マウスポインターを動かすと表示されます。
2. 『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』
「ソフトウェアディスク検索(ハードディスク)」をクリックします。
「ソフトウェアディスク検索(ハードディスク)」が見つからない場合は、画面下のスクロールバーのを数回クリックし、隠れている画面を表示してください。
3. 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。
4. 「ソフトウェアディスク検索(ハードディスク)」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。
「ソフトウェアディスク検索」ウィンドウが表示されます。
5. 「機種名」欄の右側のをクリックし、表示されたリストからお使いの機種名(品名)をクリックして選択します。
6. 「ソフトウェア」の一覧から更新したいドライバーをクリックして選択します。
選択したドライバーが格納されているフォルダーの内容が表示されます。

Point

- ▶ プリンターなど、このパソコンに添付されていない周辺機器のドライバーについては、お使いの周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■アンインストール

□デスクトップアプリのアンインストール機能を使う
Windows に対応したデスクトップアプリには、アンインストール機能(デスクトップアプリを削除する機能)が用意されているものがあります。
デスクトップアプリによって操作方法が異なります。詳しくは、デスクトップアプリのマニュアルまたはヘルプをご覧ください。

□「プログラムのアンインストール」機能を使う

- 1 起動しているデスクトップアプリをすべて終了します。
- 2 画面左下隅のを右クリックし、表示されたメニューから「プログラムと機能」をクリックします。
スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせるとが表示されます。
- 3 一覧から削除したい項目をクリックします。
- 4 「アンインストールと変更」(または「アンインストール」)をクリックし、画面の指示に従ってアプリを削除します。
- 5 デスクトップアプリの削除が終了したら、「プログラムと機能」ウィンドウで、をクリックします。

Point

- ▶ 「プログラムのアンインストール」機能で削除できないデスクトップアプリについては、デスクトップアプリのマニュアルまたはヘルプをご覧ください。
- ▶ 「いくつかのファイルは削除されませんでした」と表示されても、削除が完了していれば通常問題ありません。

ハードディスクの領域について

電源を切って作業しますので、この内容を印刷しておくことをお勧めします。

CドライブとDドライブの割合を変更する

次の機種を除く

- 約 128GB SSD 搭載機種
- ハードディスク 2 台搭載機種
- SSD + ハードディスク搭載機種 [注]

注：SSD が C ドライブ、ハードディスクが D ドライブになります。そのため、C ドライブと D ドライブの割合は変更できません。

C ドライブと D ドライブの割合を変更すると、すべてのデータが削除されます。本当に変更が必要か検討してから操作してください。

■注意事項

- データはすべて削除されます

この操作をすると、ハードディスク内のデータ（C ドライブ、D ドライブ共に）がすべて削除されます。あらかじめ必要なデータを DVD や外付けのハードディスクなどにバックアップしておいてください。

- 外付けハードディスクや USB メモリ、増設用内蔵ハードディスクユニットは必ず取り外してください
接続したまま操作を続けると、大切なデータを壊してしまう可能性があります。

- ドライブの容量制限

C ドライブ、D ドライブ共に 100GB より小さい容量には変更できません。

- 領域設定を変更するときは、必ず「トラブル解決ナビ」をお使いください

市販のアプリなどで領域設定を変更してしまうと、「バックアップナビ」の「パソコンの状態」のバックアップや復元、および C ドライブをご購入時の状態に戻すリカバリなどができなくなります。

この場合は、「リカバリ領域を復元する」(→ P.157) をご覧になり、「ハードディスク全体をリカバリ」を実行してください。

- D ドライブを少なくしすぎないようにしてください
「バックアップナビ」を使ったバックアップができなくなってしまう場合があります。

- 必ず AC アダプタを接続してください

■領域設定の変更手順

- 1 「トラブル解決ナビ」を起動します。

「「トラブル解決ナビ」を起動する」(→ P.101) をご覧ください。

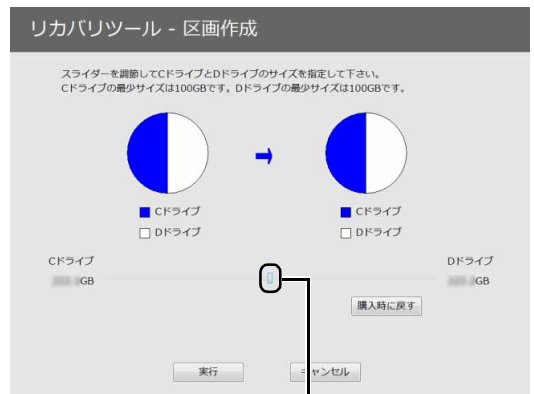
- 2 「ユーティリティ」をクリックします。

- 3 「領域設定」をクリックします。

- 4 「同意する」をクリックして ☒ にし、「次へ」をクリックします。

ハードディスクの領域を設定する画面が表示されます。

- 5 スライダーを左右にドラッグして、C ドライブと D ドライブの容量を指定します。



左右にドラッグ

(画面は機種や状況により異なります)

- 6 容量を決めたら、「実行」をクリックします。

- 7 「「領域設定」を作成します。」というウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。
ハードディスクの領域が設定されます。

- 8 「完了」をクリックします。

トラブル解決ナビの最初の画面が表示されます。

- 9 C ドライブをご購入時の状態に戻します。

「ご購入時の状態に戻すリカバリを実行する」(→ P.110) をご覧ください。

ご購入時に戻すリカバリを実行すると、領域の変更が完了します。

リカバリ領域を削除する

リカバリ領域を削除して、その分 D ドライブで使用できる容量を増やすことができます。

■注意事項

- リカバリ領域の削除後に、ご購入時の状態に戻すリカバリを行う場合は、「リカバリディスクセット」が必要です
リカバリ領域の削除前に「リカバリディスクセット」を必ず作成してください。リカバリディスクセットの作成方法は、「リカバリディスクセットを作っておく」(→P.170)をご覧ください。
購入することもできます。購入方法は「ディスクが必要な場合」(→P.110)をご覧ください。
- 外付けハードディスクや USB メモリ、増設用内蔵ハードディスクユニットは必ず取り外してください
接続したまま操作を続けると、大切なデータを壊してしまう可能性があります。
- CD/DVDドライブが搭載されていない機種の場合、ポータブル CD/DVD ドライブを用意してください
・ポータブル CD/DVD ドライブは、「スーパーマルチドライブユニット (FMV-NSM54)」をお勧めします。
・操作を開始する前のパソコンの電源が切れた状態のときに、あらかじめ接続してください。
- 必ず AC アダプタを接続してください

■リカバリ領域の削除手順

- 1 ①「トラブル解決ナビディスク (リカバリ起動ディスク)」または ②「トラブル解決ナビ&ソフトウェア&リカバリデータディスク」を使って「トラブル解決ナビ」を起動します。
「「トラブル解決ナビ」を起動する」(→ P.101)をご覧ください。
- 2 「ユーティリティ」をクリックします。
- 3 「リカバリ領域の削除」をクリックします。
- 4 「リカバリ領域の削除」の説明が表示されたら、「次へ」をクリックします。
「ご使用上の注意」が表示されます。
- 5 内容をよくお読みになり、同意する場合は「同意する」をクリックして ③にし、「次へ」をクリックします。
「ご使用上の注意」を下までスクロールすると、「同意する」が選択できるようになります。

6 画面のメッセージに従って操作します。

この後は、

1. リカバリディスクセットの確認
2. リカバリ領域の削除

の順に進んでいきます。画面のメッセージに従って操作を進めてください。

「リカバリ領域の削除が完了しました。」と表示されたら手順 7 に進んでください。

7 「完了」をクリックします。

8 トラブル解決ナビの最初の画面が表示されたら、ディスクを取り出します。

ポータブル CD/DVD ドライブを接続している場合は取り外します。

9 「終了」をクリックします。

10 「再起動」をクリックします。

Windows が起動します。

11 デスクトップ画面で (PC) をダブルクリックします。

ハードディスクの容量が増えていることを確認します。

以上でリカバリ領域の削除は完了です。

リカバリ領域を復元する

リカバリ領域を復元するためには「ハードディスク全体をリカバリ」を行います。リカバリ領域のみ復元することはできません。

「リカバリディスクセット」を用意してください。

重要

- ▶ 次の場合でも、「全ドライブをご購入時の状態に戻す」を行うとハードディスクの内容はすべて削除されます。D ドライブの内容もすべて削除されます。
 - ・ハードディスク 2 台搭載機種
 - ・SSD + ハードディスク搭載機種

■注意事項

- ハードディスクの内容はすべて削除されます
リカバリ領域を復元するときに、ハードディスクの領域が設定し直されます。このためハードディスクの内容はすべて削除されます。あらかじめ必要なデータをDVDや外付けのハードディスク、microSDカードなどにバックアップしておいてください。
- 「リカバリディスクセット」が必要です
リカバリ領域の復元には、「リカバリディスクセット」が必要です。「リカバリディスクセット」を作成していない場合や、紛失・破損された場合は購入できます。購入方法は「ディスクが必要な場合」(→ P.110)をご覧ください。
- 外付けハードディスクや USB メモリ、増設用内蔵ハードディスクユニットは必ず取り外してください
接続したまま操作を続けると、大切なデータを壊してしまう可能性があります。
- CD/DVDドライブが搭載されていない機種の場合、ポータブル CD/DVD ドライブを用意してください
・ポータブル CD/DVD ドライブは、「スーパーマルチドライブユニット (FMV-NSM54)」をお勧めします。
・操作を開始する前のパソコンの電源が切れた状態のときに、あらかじめ接続してください。
- 必ず AC アダプタを接続してください

■リカバリ領域の復元手順

- 1 ⑧「トラブル解決ナビディスク (リカバリ起動ディスク)」または⑨「トラブル解決ナビ&ソフトウェア&リカバリデータディスク」を使って「トラブル解決ナビ」を起動します。
「トラブル解決ナビ」を起動する(→ P.101)をご覧ください。
- 2 「リカバリ」をクリックします。
- 3 「ハードディスク全体をリカバリ」をクリックします。
「ハードディスク全体をリカバリ」の説明が表示されます。
- 4 「次へ」をクリックします。
「ご使用上の注意」が表示されます。
- 5 「ご使用上の注意」をよく読み、同意する場合は「同意する」をクリックして⑩にし、「次へ」をクリックします。

6 画面のメッセージに従って操作します。

この後は、

1. リカバリディスクセットの確認
2. ハードディスクの領域を設定する
3. リカバリデータをコピーする
4. リカバリを実行する
5. リカバリ領域を復元する
6. 最終処理を実行する

の順に進んでいきます。画面のメッセージに従って操作を進めてください。

7 「ディスクの復元が完了しました。」と表示されたら、ディスクを取り出します。

8 「完了」をクリックします。

パソコンの電源が自動的に切れます。

ポータブル CD/DVD ドライブを接続している場合は取り外します。

以上で「リカバリ領域を復元する」は終了です。

続けて、「セットアップする」(→ P.19)をご覧ください。
り、セットアップを行ってください。

Point

- ▶ ユーザー登録は再度行う必要はありません。
- ▶ すでにMicrosoftアカウントを取得されているため、「セットアップする」(→ P.19) の手順 12 では、そのアカウントでサインインしてください。
- ▶ Office 搭載機種で、「リカバリディスク有償サービス」で購入したリカバリディスクセットを使い、ご購入時の状態に戻すリカバリを行った場合、Office がインストールされた状態にリカバリされません。セットアップ後に、マイクロソフト社のホームページからダウンロードしてインストールしてください。インストール方法については次のホームページをご覧ください。
<http://www.office.com/jppipcsetup/>

BIOS の設定

電源を切って作業しますので、この内容を印刷しておくことをお勧めします。

BIOS セットアップの操作

■BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、パソコンの環境を設定するためのプログラムです。パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- 特定の人だけがパソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- 起動時の自己診断テストで BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

BIOS セットアップの操作は、キーボードで操作します（タッチでは操作できません）。

Point

- ▶ BIOS セットアップの設定項目については、BIOS セットアップ画面の「項目ヘルプ」をご覧ください。
- ▶ BIOS セットアップ画面の表示について
HDMI 出力端子に接続したテレビやディスプレイには BIOS セットアップ画面は、表示されません（HDMI 出力端子搭載機種のみ）。
なお、DisplayPort コネクタに接続した外部ディスプレイには、BIOS セットアップ画面を表示させることができます（ポートリプリケータ添付機種のみ）。
- ▶ 起動時の自己診断テスト（POST（ポスト））
パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」（POST：Power On Self Test）といいます。
 - ・起動時の自己診断テスト中は電源を切らないでください。
 - ・POST の画面は、液晶ディスプレイのみに表示されることがあります。また、HDMI 出力端子に接続したテレビやディスプレイには表示されません（HDMI出力端子搭載機種のみ）。

■BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップは、電源が切れた状態から操作を始めてください。

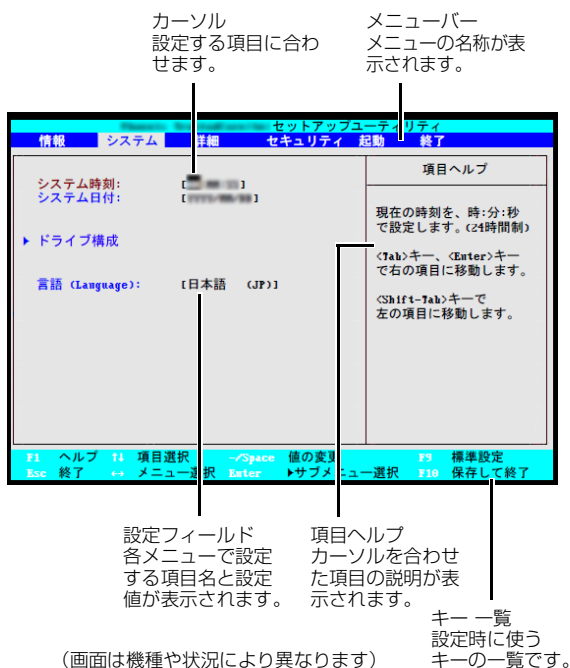
Point

- ▶ BIOS セットアップの画面ではなく Windows が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待ってから、パソコンの電源を切り、もう一度手順 1 からやり直してください。

- 1 AC アダプタを接続し、**[F2]** を押しながら、パソコンの電源を入れます。
- 2 BIOS の画面が表示されたら、**[F2]** から指を離します。
BIOS セットアップ画面が表示されます（→ P.159）。

■BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。



■設定を変更する

重要

- ▶ BIOSセットアップの設定を間違えると、パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。

このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻してパソコンを再起動してください。

- 1  または  でカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。

選択したメニュー画面が表示されます。

- 2  または  でカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。

項目名に「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。

項目名にカーソルを移動して  を押すと、サブメニューが表示されます。元のメニュー画面に戻るときは  を押します。

- 3 **【Space】** キーまたは  を押して、選択している項目の設定値を変更します。

続けて他の設定項目を変更する場合は、手順 1 ～ 3 を繰り返してください。

- 4 設定を保存して終了します。

Point

- ▶ 設定時によく使用するキーは、次のとおりです。

- ・  、 

設定する項目にカーソルを移動します。

- ・  、 

メニューを切り替えます。

- ・ 

「▶」印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。

設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。

- ・ **【Space】** キー

キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーのことです。各項目の設定値を変更します。

この他、使用するキーの案内が画面に表示されます。

■変更内容を取り消す

設定した内容を取り消すには、保存してある変更前の設定値を読み込みます。

- 1  を押します。

「終了」(「Exit」)メニューが表示されます。サブメニューを表示しているときは、「終了」(「Exit」)メニューが表示されるまで、 を 2 ～ 3 回押してください。

- 2  または  を押して「変更前の値を読み込む」(「Discard Changes」)を選択し、 を押します。

「変更前の値を読み込みますか？」(「Load previous configuration now?」)というメッセージが表示されます。

- 3  または  で「はい」(「Yes」)を選択し、 を押します。

BIOSセットアップのすべての設定項目に変更前の値が読み込まれ、すべての変更が取り消されます。

Point

- ▶ 設定した内容を保存せずに BIOS セットアップを終了する

1. 「終了」(「Exit」)メニューの「変更を保存せずに終了する」(「Exit Discarding Changes」)を選択し、 を押します。設定値を変更していないときは、これで BIOS セットアップが終了します。

設定値を変更しているときは、「設定が変更されています！変更した内容を保存して終了しますか？」(「Setup Warning」)というメッセージが表示されます。

2.  または  で「いいえ」(「No」)を選択し、 を押します。

すべての変更が取り消されて、BIOS セットアップが終了します。

■BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を保存しておく必要があります。

次の操作を行って、設定内容を保存してからBIOS セットアップを終了してください。

1 **[Esc]** を押します。

「終了」(「Exit」)メニューが表示されます。サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]** を2～3回押してください。

2 **[↓]** または **[↑]** を押して「変更を保存して終了する」(「Exit Saving Changes」)を選択し、**[Enter]** を押します。

次のいずれかの確認メッセージが表示されます。

セットアップ確認
変更した内容を保存して終了しますか？
[はい] [いいえ]

または

Setup Confirmation
Save configuration changes and exit now?
[Yes] [No]

(画面は機種や状況により異なります)

3 **[←]** または **[→]** で「はい」(「Yes」)を選択し、**[Enter]** を押します。

すべての設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、このパソコンが再起動します。

Point

▶ BIOSセットアップを終了せずに設定内容を保存する

次の操作をすると、いったん設定内容を保存した後、続けて他の項目を設定できます。

1. 「終了」(「Exit」)メニューの「変更を保存する」(「Save Changes」)を選択し、**[Enter]** を押します。

「変更した内容を保存しますか？」(「Save configuration changes now?」)というメッセージが表示されます。

2. **[←]** または **[→]** で「はい」(「Yes」)を選択し、**[Enter]** を押します。

■BIOS をご購入時の設定に戻す

ここでは、設定を変更した BIOS を、ご購入時の状態に戻す手順について説明しています。

1 BIOS セットアップを起動します。

2 **[Esc]** を押します。

「終了」(「Exit」)メニューが表示されます。

3 **[↓]** または **[↑]** を押して「標準設定値を読み込む」(「Load Setup Defaults」)を選択し、**[Enter]** を押します。

確認のメッセージが表示されます。

4 **[←]** または **[→]** で「はい」(「Yes」)を選択し、**[Enter]** を押します。

BIOS セットアップの設定項目に、標準設定値が読み込まれます。

5 **[↓]** または **[↑]** を押して「変更を保存して終了する」(「Exit Saving Changes」)を選択し、**[Enter]** を押します。

確認のメッセージが表示されます。

6 **[←]** または **[→]** で「はい」(「Yes」)を選択し、**[Enter]** を押します。

読み込んだ標準設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、このパソコンが再起動します。

BIOS のパスワード機能

このパソコンでは、不正使用を防止するために BIOS パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は、このパソコンを使用できなくなります。

BIOS のパスワードは Windows が起動する前の設定なので、Windows のパスワードよりもさらにセキュリティを高めたいときに有効です。

■BIOS のパスワードを設定するとできること

BIOS のパスワードを設定すると、次の場合にパスワードの入力を要求され、パスワードを知っている人のみこのパソコンを使用できるようになります。

- パソコンの電源を入れたとき
- パソコンを再起動したとき
- BIOS セットアップを始めるとき
- 休止状態からレジュームするとき

また、ハードディスク用のパスワードを設定すると、このパソコンのハードディスクを他のパソコンに取り付けても使用できないようにすることができます。

■BIOS パスワード機能をお使いになるうえでの注意

このパソコンの BIOS パスワード機能を使うときは、次の点に注意してください。

●パスワード設定時に必ず行うこと

管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れると、パスワード機能が解除できなくなり、修理が必要となります。

そのため、パスワードを設定したら、次のことを行ってください。

- ・「パスワードを変更する」(→ P.164) および「パスワードを削除する」(→ P.164)を印刷しておく
- ・設定したパスワードを忘れないよう、書き留めておく

また、これらは安全な場所に保管しておいてください。

管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元までご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。

●パスワードを忘れるとすべてのデータが消えてしまいます

ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、もしもパスワードを忘れてしまうと、たとえ修理をしても、パスワードの解除やハードディスク内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。

パスワードの管理には充分注意してください。

■パスワードの種類

このパソコンで設定できるパスワードは次の3つです。

●管理者用パスワード (Supervisor Password)

このパソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。

●ユーザー用パスワード (User Password)

「管理者」以外でこのパソコンをお使いになる方（ご家族など）が使用するパスワードです。BIOS セットアップで変更可能な項目に制限があります。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

- ハードディスク用パスワード (HDD Password)
このパソコンのハードディスクを、他のパソコンでは使用できないようにしたいときに使用するパスワードです。ハードディスクを他のパソコンに取り付けて使用する場合に認証が必要となるため、ハードディスクが盗難にあったときなどに情報漏洩や不正使用を防止します。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

■パスワードを設定する

管理者用パスワード／ユーザー用パスワード、ハードディスク用パスワードを設定する方法を説明します。

□管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する

1 BIOS セットアップを起動します。

2 「セキュリティ」(「Security」)メニューの「管理者用パスワード設定」(「Set Supervisor Password」)または「ユーザー用パスワード設定」(「Set User Password」)を選択して **[Enter]** を押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 パスワードを入力します。

- ・入力できる文字種はアルファベットと数字のみです。なお、アルファベットの大文字と小文字は区別されません。
- ・入力した文字は表示されず、代わりに「■」や「*」が表示されます。

4 パスワードを入力したら **[Enter]** を押します。

パスワードの再入力を求められます。

5 手順 3 で入力したパスワードを再度入力して

[Enter] を押します。

「セットアップ通知」(「Setup Notice」)と書かれたウィンドウが表示されるか、「変更が保存されました。」(「Changes have been saved.」)というメッセージが表示されます。

6 **[Enter]** を押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」(「Setup Warning」)と書かれたウィンドウか、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」

(「Passwords do not match. Re-enter password.」) というメッセージが表示されます。

[Enter] を押して、手順3からやり直してください。パスワードの設定を中止するときは、**[Esc]** を押してください。

7 「セキュリティ」(「Security」) メニューの「起動時のパスワード」(「Password on Boot」) を「使用しない」(「Disabled」) 以外に設定します。

パソコンを起動したときに、BIOS のパスワードを求めるウィンドウが表示される設定になります。

☐ ハードディスク用パスワードを設定する

1 BIOS セットアップを起動します。

2 「セキュリティ」(「Security」) メニューの「ハードディスクセキュリティ (Hard Disk Security)」
▶「ドライブ [ドライブ番号] 用パスワード設定 (Set Drive [ドライブ番号] HDD Password)」
(「[ドライブ番号]」には機種により異なる数字が入ります。) を選択して **[Enter]** を押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 パスワードを入力します。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。アルファベットの太文字と小文字は区別されません。入力した文字は表示されず、代わりに「■」や「*」が表示されます。

4 パスワードを入力したら **[Enter]** を押します。

パスワードの再入力を求められます。

5 手順3で入力したパスワードを再度入力して

[Enter] を押します。

「セットアップ通知」(「Setup Notice」)と書かれたウィンドウか、「変更が保存されました。」(「Changes have been saved.」) というメッセージが表示されます。

6 **[Enter]** を押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」(「Setup Warning」)と書かれたウィンドウか、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」

(「Passwords do not match. Re-enter password.」) というメッセージが表示されます。

[Enter] を押して、手順3からやり直してください。パスワードの設定を中止するときは、**[Esc]** を押してください。

■パスワード機能を使う

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力が必要になります。

- パソコンの電源を入れたとき
- パソコンを再起動したとき
- BIOS セットアップを始めるとき
- 休止状態からレジュームするとき

パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、**[Enter]** を押してください。

- 設定したパスワードと違うパスワードを入力すると、「パスワードが正しくありません。」(「Invalid Password」) というメッセージが表示されます。その場合は、**[Enter]** を押し、正しいパスワードを入力してください。

- 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません。」(「System Disabled」) というメッセージが表示され、警告音が鳴り続けます。その場合は、電源ボタンを押してパソコンの電源を切ってから10秒ほど待って、もう一度電源を入れます。その後、正しいパスワードを入力してください。

☐ パソコンの電源を入れたときなどのパスワード入力

パソコンの電源を入れたときやパソコンを再起動したとき、BIOS セットアップを始めるとき、休止状態からレジュームするときには、パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されます。パスワードを入力し、**[Enter]** を押してください。

□ハードディスク用のパスワードについて

ハードディスク用のパスワードを設定すると、パソコンを起動するときにパスワードの入力が必要になります。

設定状態によっては、管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードの入力が必要になります。

Point

- ▶ 管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードが同じ場合は、パスワードの入力は 1 回になります。

■パスワードを変更する／削除する

□パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、次の操作を行ってください。

- 1 BIOS セットアップを起動します。
- 2 「セキュリティ」(「Security」)メニューで変更したいパスワード設定を選択して **[Enter]** を押します。
 - ・ 管理者用パスワード設定 (Set Supervisor Password)
 - ・ ユーザー用パスワード設定 (Set User Password)
 - ・ ハードディスクセキュリティ (Hard Disk Security) ▶ ドライブ*用パスワード設定 (Set Drive * HDD Password)
(*には機種により異なる数字が入ります。)パスワード入力用のウィンドウが表示されます。
- 3 設定してあるパスワードを入力し、**[Enter]** を押します。
新しいパスワードの入力を求められます。
- 4 新しく設定したいパスワードを入力し、**[Enter]** を押します。
新しいパスワードの再入力を求められます。

重要

- ▶ パスワード設定時に必ず行うこと
管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れると、パスワード機能が解除できなくなり、修理が必要となります。
そのため、パスワードを設定したら、次のことを行ってください。
 - ・ 解除する手順が書かれたこのページを印刷しておく
 - ・ 設定したパスワードを忘れないよう、何かに書き留めておく

また、これらは安全な場所に保管しておいてください。

管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元までご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。

- ▶ パスワードを忘れるとすべてのデータが失われます
ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、もしもパスワードを忘れてしまうと、たとえ修理をしても、パスワードの解除や、ハードディスク内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。
パスワードの管理には充分注意してください。

5 手順 4 で入力したパスワードを再度入力して

[Enter] を押します。

「変更が保存されました。」(「Change has been saved」)というメッセージが表示されます。

6 **[Enter]** を押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」(「Setup Warning」)と書かれたウィンドウか、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」(「Passwords do not match. Re-enter password.」)というメッセージが表示されます。
[Enter] を押して、手順 4 からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、**[Esc]** を押してください。

Point

- ▶ 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません。」(「System Disabled」)というメッセージが表示され、警告音が鳴り続けます。その場合は、電源ボタンを 4 秒以上押してパソコンの電源を切ってから 10 秒ほど待って、もう一度電源を入れます。その後、正しいパスワードを入力してください。

□パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順を最初から行い、手順 4 ～ 5 で何も入力せずに、**[Enter]** を押してください。

BIOS が表示するメッセージ一覧

パソコンを起動した直後に、画面上にメッセージが表示される場合があります。これらのメッセージは「BIOS セットアップ」という、パソコンの環境を設定するためのプログラムが表示しています。

■メッセージが表示されたときは

パソコン本体や周辺機器に問題があると、パソコンを起動したときにエラーメッセージが表示されます。

エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

1 BIOS セットアップの設定値を確認します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップを起動して各項目の値が正しいか確認してください。

また、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して再起動してください。

それでもメッセージが表示される場合は、手順 2 に進んでください。

2 周辺機器を取り外します。

別売の周辺機器の拡張カードや、メモリ交換可能な機種でメモリなどを取り付けている場合には、パソコンの電源を切ってからそれらを取り外し、再びパソコンを起動して動作を確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

3 取り外した周辺機器を、1 つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を 1 つずつ取り付け、パソコンを再起動して動作を確認してください。

このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記のように処置してもまだ同じメッセージが表示される場合や、次の「メッセージ一覧」に当てはまるメッセージがない場合は、パソコン本体が故障している可能性があります。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」のご利用については、「サポート＆サービス紹介」(→ P.104) をご覧ください。

■メッセージ一覧

このパソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。メッセージ中の「n」には数字が表示されます。また、メッセージは機種により異なります。

●< F1 >キーを押すと継続、< F2 >キーを押すと BIOS セットアップを起動します。

(Press <F1> to Continue or <F2> to Enter Setup または Press <F1> to resume, <F2> to Enter Setup)

起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前にこのメッセージが表示されます。

[F1] を押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、[F2] を押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。

●リアルタイムクロックのエラーです。日付と時刻の設定を確認してください。

(Real Time Clock Error - Check Date and Time settings)

日付と時刻の設定値が正しくありません。

設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。

次のメッセージが表示された場合は、各項目ごとに記載されている対応を行い、再起動してください。なお、再起動しても同じメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

●前回の起動中にファンエラーが発生しました。

(Fan Error occurred during previous boot.)

前回の起動時の自己診断テスト中に、ファンエラーが発生していたことを示します。

●Invalid system disk

Replace the disk, and then press any key

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

●Non-System disk or disk error

Replace and press any key when ready

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

●NTLDR is missing

Press any key to restart

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

●Remove disks or other media.

Press any key to restart

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

●Operating system not found

OS が見つからなかったことを示しています。

BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。

●キーボード接続エラーです。(Keyboard error または Stuck Key)

キーボードテストで、接続エラーが発生したことを示しています。

テンキーボードや外付けキーボードを接続している場合は、正しく接続されているかを確認し、パソコンを再起動してください。

●Failure Fixed Disk n

●System timer error

システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。

●Real time clock error

リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。

●Check date and time settings

日付と時刻の設定値が正しくありません。

設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。

●System CMOS checksum bad - Default configuration used

CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、標準設定値が設定されたことを示しています。

【F2】を押して BIOS セットアップを起動し、設定を保存して再起動してください。再起動してもこのメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリーが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられます。

●NVRAM データが正しくありません。(Invalid NVRAM Data)

NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。

次のメッセージが表示された場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

●ファンエラー。システムの電源が切れます。(Fan Error has occurred)

冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。

●Extended Memory Failed at address line: nn

メモリのテスト中にエラーが発見されたことを示しています。

●Thermal Sensor Error has occurred

温度制御系の設定が正しく行えなかったことを示しています。

●起動可能なデバイスが見つかりませんでした。(Bootable Device was not found)

起動可能なデバイスが見つからなかった場合に表示されます。【Enter】を押すと起動メニュー (Boot Menu) が起動しますので、起動可能なデバイスが表示されているかどうかを確認してください。

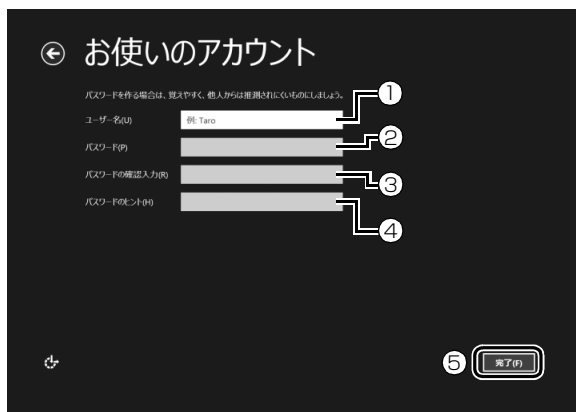
インターネットに接続せずにセットアップしたときは

ここでは、セットアップ中にインターネットに接続しなかった場合、どのようにセットアップを完了したら良いか説明します。操作の流れは次のようになります。

- 1 Windows セットアップ時にローカルアカウントを取得する (→ P.167)
- 2 インターネットに接続する (→ P.167)
- 3 Microsoft アカウントに切り替える (→ P.169)
- 4 Windows を終了する
「Windows のセットアップをする」手順 19 (→ P.32)
- 5 パソコンを快適にお使いいただくための準備をする (→ P.33)

Windows セットアップ時にローカルアカウントを取得する

「Windows のセットアップをする」の手順 12 で次のような画面が表示された場合の操作方法です。



- ①「ユーザー名」を入力します。
・「Windows のセットアップをする」の手順 8 で入力した PC 名と同じ名前を入力できません。
・ 12 文字以内の半角英数字 (a ~ z, A ~ Z, 0 ~ 9) で好きな名前を入力してください。
- ②「パスワード」を入力します。
12 文字以内の半角英数字 (a ~ z, A ~ Z, 0 ~ 9) で好きなパスワードを入力してください。
- ③②で入力したものと同じものを入力します。
- ④自分だけがパスワードを思い出せるようなヒントを入力してください。かなも漢字も使用できます。
- ⑤「完了」をクリックします。

Windows のセットアップが完了しました。
スタート画面が表示されるまでお待ちください。

インターネットに接続する

このパソコンをお使いになるときは、有線 LAN または無線 LAN でインターネットに接続してください。

インターネットの設定方法については、ご契約のプロバイダーの指示に従ってください。



- ▶ データ通信カードやアダプター、モバイルWi-Fiルーターなどのデータ通信機器をお使いになりインターネットに接続する場合、設定および使用方法については、データ通信機器に添付のマニュアルをご覧ください。
- ▶ データ通信機器に関しては、ご契約のデータ通信サービス会社にお問い合わせください。

■有線 LAN でインターネットに接続する

有線 LAN をお使いになる場合は、LAN ケーブルを LAN コネクタに接続します。

■無線 LAN でインターネットに接続する

ここでは、無線 LAN アクセスポイントと内蔵無線 LAN を使って、無線 LAN でインターネットに接続する方法を説明します。



- ▶ パソコンを屋外で使う場合、電波法の定めにより 5GHz 帯の電波を停止する必要があります。

Step1 無線 LAN アクセスポイントを設定する

別売の無線 LAN アクセスポイントを用意し、インターネットに接続する設定を行ってください。設定方法は、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。



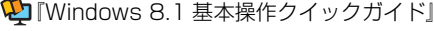
- ▶ 無線 LAN アクセスポイントは、セキュリティの設定をしてお使いになることをお勧めします。
セキュリティの設定をしないと、通信内容を傍受されたり、ネットワークに侵入されたりする危険があります。

無線 LAN アクセスポイントに設定した情報を、次の欄に記入してください。

記入後は第三者に漏れないよう注意してください。

Step2 パソコンの設定をする

Windows 8.1 の標準機能を使って無線 LAN の設定を行う方法を説明します。

- 1 無線 LAN アクセスポイントの電源が入っていることを確認します。
無線 LAN アクセスポイントの電源の入れ方については、無線 LAN アクセスポイントに添付されているマニュアルをご覧ください。
- 2 マウスポインターを画面の右上隅に合わせて「チャーム」を表示し、 (設定) をクリックします。

- 3 「設定チャーム」で「利用可能」アイコンをクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

- 4 次の画面の操作をします。



- ①「Wi-Fi」がオフになっていたら、 (オフ) をクリックして  (オン) にします。
- ②Step 1 で記入した無線 LAN アクセスポイントのネットワーク名 (SSID) をクリックします。
- ③「自動的に接続する」の  をクリックして  にします。
- ④「接続」をクリックします。

- 5 次の画面の操作をします。



- ①Step 1 で記入した無線 LAN アクセスポイントのパスワードを入力します。
「ルーターのボタンを押しても接続できます。」と表示されていたら、無線 LAN アクセスポイント (ルーター) のボタンを押して接続できる場合があります。
詳しくは、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。
- ②「次へ」をクリックします。

- 6 正しく設定できたか確認します。

正しく設定できると、「接続済み」と表示されます。



Point

- ▶ 「接続済み」と表示されなかった場合は、もう一度、Step 1 で記入した無線 LAN アクセスポイントの設定情報と、手順 5 で入力したパスワードを確認してください。
- ▶ 無線 LAN アクセスポイントで設定した内容と同じ情報をパソコンに設定しないと、ネットワークに接続できません。無線 LAN アクセスポイントの設定がわからない場合は、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。
- ▶ プロバイダーから提供されるインターネット接続に必要な情報が正しく設定されているか確認してください。設定する情報がわからない場合は、ご契約のプロバイダーにお問い合わせください。

これで無線 LAN を使ったインターネット接続は完了です。

Microsoft アカウントに切り替える

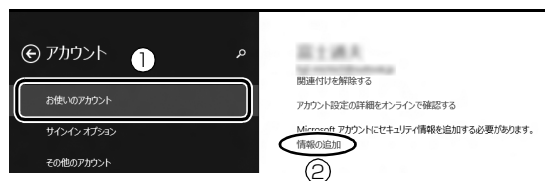
Windows 8.1 では Microsoft アカウントでサインインすることで、様々な機能やサービスを快適に利用できます。インターネットに接続したら、ローカルアカウントを Microsoft アカウントに切り替えてください。

Microsoft アカウントに切り替える方法については、サポートページから Q&A ナンバー「8209-9156」を検索してご覧ください。

この PC で本人確認を行う

Microsoft アカウントに切り替えた後など、このパソコンを快適にお使いになるために、本人確認を行う必要がある場合があります。

- 1 「チャーム」を表示し、 (設定) をクリックします。
 『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』
- 2 「設定チャーム」で「PC 設定の変更」をクリックし、「アカウント」をクリックします。
- 3 ①「お使いのアカウント」をクリックし、②「情報の追加」または「確認する」と表示されている場合は、本人確認を行う必要があります。
クリックし、その後は画面の指示に従って操作してください。



- ➡ この後は、「Windows のセットアップをする」の手順 19、および「パソコンを快適にお使いいただくための準備をする」(→ P.33) を行ってください。

インターネットを安心してお使いいただくために

青少年によるインターネット上の有害サイトへのアクセス防止について

インターネットの発展によって、世界中の人とメールのやりとりをしたり、個人や企業が提供しているインターネット上のサイトを活用したりすることが容易になっており、それに伴い、青少年の教育にもインターネットの利用は欠かせなくなっています。しかしながら、インターネットには違法情報や有害な情報などを掲載した好ましくないサイトも存在しています。

特に、下記のようなインターネット上のサイトでは、情報入手の容易化や機会遭遇の増大などによって、青少年の健全な発育を阻害し、犯罪や財産権侵害、人権侵害などの社会問題の発生を助長していると見られています。

- ・アダルトサイト (ポルノ画像や風俗情報)

- ・他人の悪口や誹謗中傷を載せたサイト
- ・出会い系サイト・犯罪を助長するようなサイト
- ・暴力残虐画像を集めたサイト
- ・毒物や麻薬情報を載せたサイト

サイトの内容が青少年にとっていかに有害であっても、他人のサイトの公開を止めさせることはできません。情報を発信する人の表現の自由を奪うことになるからです。また、日本では非合法であっても、海外に存在しその国では合法のサイトもあり、それらの公開を止めさせることはできません。有害なインターネット上のサイトを青少年に見せないようにするための技術が、「フィルタリング」といわれるものです。フィルタリングは、情報発信者の表現の自由を尊重しつつ、情報受信側で有害サイトの閲覧を制御する技術です。100% 万全ではありませんが、多くの有害サイトへのアクセスを自動的に制限できる有効な手段です。特に青少年のお子様がいらっしゃるご家庭では、「フィルタリング」を活用されることをお勧めします。

「フィルタリング」を利用するためには、一般に下記の 2 つの方法があります。

「フィルタリング」はお客様個人の責任でご利用ください。

- ・パソコンにフィルタリングの機能をもつアプリをインストールする
 - ・インターネット事業者のフィルタリングサービスを利用する
- これらのアプリのインストール方法やご利用方法については、それぞれのアプリの説明書またはヘルプをご確認ください。なお、アプリやサービスによっては、「フィルタリング」機能を「有害サイトブロック」、「有害サイト遮断」、「Web フィルタ」、「インターネット利用管理」などと表現している場合があります。あらかじめ機能をご確認のうえ、ご利用されることをお勧めします。

[参考情報]

- ・社団法人電子情報技術産業協会のユーザー向け啓発資料「パソコン・サポートとつきあう方法」
- ・デジタルアーツ株式会社 (i-フィルター® 6.0 提供会社)「フィルタリングとは - 家庭向けケーススタディー」

■「i-フィルター® 6.0」について

このパソコンには、フィルタリング機能をもつ「i-フィルター® 6.0」が用意されています。使い方については、「「i-フィルター® 6.0」を使う」(→ P.169) をご覧ください。

■「i-フィルター® 6.0」を使う

このパソコンに用意されている「i-フィルター® 6.0」はご利用期間 90 日間のお試し版となっています。ぜひお試しください。初めてお使いになるときは、次の手順で初期設定を行ってください。

なお、お試し版を登録するにはメールアドレスが必要です。

- 1 インターネットに接続します。
- 2 デスクトップ画面上の  (i-フィルター 6.0 のセットアップ) をダブルクリックします。

- 3 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックします。

「続行するには管理者アカウントのパスワードを入力して、[はい] をクリックしてください。」と表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「はい」をクリックします。

「有害サイトフィルタリングソフト「i-フィルター 6.0」のご紹介」の画面が表示されます。

- 4 「「i-フィルター 6.0」をインストールする」をクリックします。

「i-フィルター® 6.0」の使用許諾の画面が表示されます。この後は画面の指示に従ってインストールを進めてください。

Point

- ▶ 次のような画面が表示された場合は、「i-フィルター® 6.0」はインストール済みです。
「OK」▶「完了」の順にクリックして、画面を閉じてください。



- 5 「i-フィルター 6.0」の画面が表示されたら、インターネットに接続していることを確認して、「90 日の無料お試し付き「i-フィルター 6.0」【お申込み】」をクリックします。

この後は画面の指示に従って登録を進めてください。登録が完了すると「i-フィルター® 6.0」が利用できるようになります。

次回使うときは、デスクトップ画面右下の通知領域に表示された ⓘ アイコンから、設定を行うことができます。

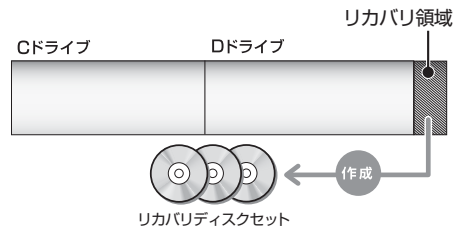


利用開始から 90 日間を超えてご利用になる場合は、継続利用の登録（有償）を行ってください。別のフィルタリングアプリをご利用になる場合は、市販のアプリをご購入のうえ、ご利用ください。

リカバリディスクセットを作っておく

このパソコンには、トラブルに備えて、本体のディスクの「リカバリ領域」という場所に、ご購入時の C ドライブの中身が保存されています。パソコンにトラブルが起こったときは、このリカバリ領域から C ドライブをご購入時の状態に復元できます。

リカバリ領域のデータのバックアップディスク（リカバリディスクセット）を 1 回に限り作成することができます。リカバリ領域のデータを利用できなくなる場合に備え、パソコンご購入後できるだけ早く作成してください。



Point

- ▶ リカバリディスクセットの作成には長時間がかかります。時間に余裕をもって作業をしてください。
またリカバリディスクセットは購入できます。購入方法については「ディスクが必要な場合」(→ P.110)をご覧ください。
- ▶ 「リカバリディスクセット」は、次の場合に使用します。
- ・リカバリ領域を削除しているときに C ドライブをリカバリする
 - ・リカバリ領域を破損してしまったときに C ドライブをリカバリする
 - ・ハードディスク全体をリカバリする
- 詳しくは、「リカバリ領域を復元する」(→ P.157)をご覧ください。

■リカバリディスクセットとは

「バックアップナビ」を使って作成する次のディスクです。

□BD-R、BD-R DL、BD-R XL で作成した場合

- ・トラブル解決ナビ&ソフトウェア&リカバリデータディスク [注]

注：1 回に限り作成可能です。

Point

- ▶ BD-R、BD-R DL、BD-R XL でリカバリディスクセットを作成したり、使用したりできるのは、Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみです。
- ▶ リカバリディスクセット添付機種では「トラブル解決ナビ&ソフトウェア&リカバリデータディスク」は作成できません。

□DVD-R、DVD-R DL、DVD+R DL で作成した場合

- ・トラブル解決ナビディスク（リカバリ起動ディスク）
- ・リカバリデータディスク 1 [注 1]
- ・リカバリデータディスク 2 [注 1]
- ・リカバリデータディスク 3 [注 1] [注 2]
- ・ソフトウェアディスク 1
- ・ソフトウェアディスク 2

注 1：1 回に限り作成可能です。

注 2：お使いの機種によっては、ない場合もあります。

リカバリディスクセットを作るうえでの注意

■LIFEBOOK および ARROWS をお使いの方は、必ず AC アダプタを接続してください

■ディスクを用意してください

- ・お使いになれるディスク
DVD-R、DVD-R DL、DVD+R DL、BD-R、BD-R DL、BD-R XL
- ・DVD-R、DVD-R DL、DVD+R DL のうちの、どのディスクを使用しても、必要枚数は同じになります。
- ・BD-R、BD-R DL、BD-R XL をお使いになれるのは Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみです。どのディスクを使用しても、必要枚数は 1 枚になります。

■「Roxio Creator」が必要です

「Roxio Creator」はこのパソコンに用意されています。「Roxio Creator」を削除すると、リカバリ領域のデータをディスクに書き込むことができなくなります。

■CD/DVD ドライブが搭載されていない機種の場合、ポータブル CD/DVD ドライブを用意してください

ポータブル CD/DVD ドライブは、「スーパーマルチドライブユニット (FMV-NSM54)」をお勧めします。作成を始める前に接続してください。

ポータブル CD/DVD ドライブで使いになれるのは DVD-R のみです。

■リカバリデータディスクおよびソフトウェアディスクではパソコンは起動できません

リカバリディスクセットの作成手順

- 1 スタート画面左下の ① をクリックします。タッチパネルの場合は、スタート画面でまっすぐ上にスライドします。① が表示されていない場合は、マウスポインターを動かすと表示されます。
- 2 「バックアップナビ」をクリックします。
- 3 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。
「続行するには管理者アカウントのパスワードを入力して、[はい] をクリックしてください。」と表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「はい」をクリックします。
- 4 「バックアップナビ」の概要を説明する画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。

5 次の画面の操作をします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります。)

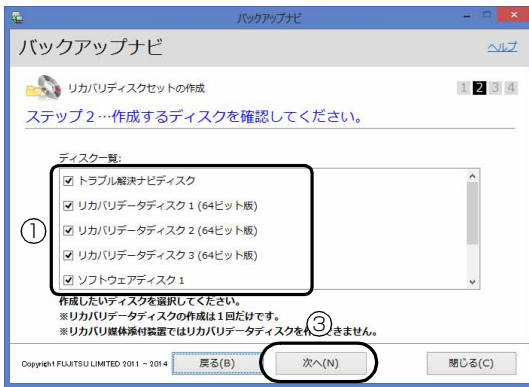
- ①「管理」タブをクリックします。
- ②「リカバリディスクセットの作成」をクリックします。

6 次の画面の操作をします。



- ①クリックして、お使いになるディスクの種類を選択してください。
- ②必要なディスクの枚数を確認します。
- ③「次へ」をクリックします。

7 次の画面の操作をします。



①作成するディスクを選択します。

手順 6 で BD-R、BD-R DL、または BD-R XL を選択した場合、一覧には「トラブル解決ナビ&ソフトウェア&リカバリデータディスク」1 枚のみ表示されます。

②用意した空きディスクのレーベル面に作成するディスクの名前を記入します。

レーベル面に記入するときは、ボールペンや鉛筆などの先の硬いものは使わないでください。ディスクに傷が付くおそれがあります。

③「次へ」をクリックします。

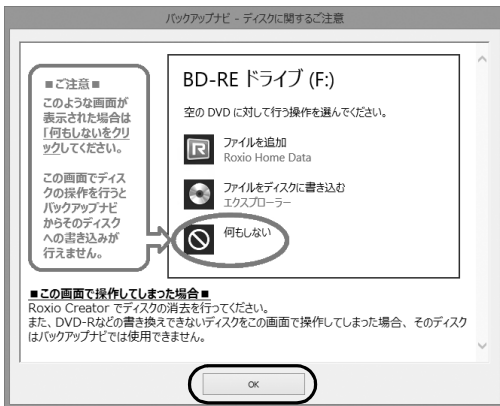
重要

- ▶ リカバリデータディスク 1～3 を作成するときは、すべて選択し、作業を中断しないでください。

Point

- ▶ リカバリディスクセット添付機種では「リカバリデータディスク」または「トラブル解決ナビ&ソフトウェア&リカバリデータディスク」を作成できません。そのため、文字がグレーで表示され選択できません。

8 内容を確認して「OK」をクリックします。



9 ステップ 3 の画面が表示されたら、作成するディスクの名称を記入した空きディスクをセットします。



作成中のディスクに印が付きます。

所用時間のめやす

Point

- ▶ ディスクをセットしたとき、「空の DVD に対して行う操作を選んでください。」というメッセージが表示されることがあります。「何もしない」をクリックすると、そのまま操作を続けることができます。
- ▶ ディスクの作成所用時間はめやすです。実際の時間とは異なる場合があるのでご了承ください。

10 ディスクが認識されるまで 30 秒ほど待ってから、「開始」をクリックします。

ディスクへの書き込みが始まります。しばらくお待ちください。

11 書き込みが完了し CD/DVD ドライブが開いたら（またはスロットからディスクが飛び出したら）、次のように操作します。

■次のディスクを作成する場合

ディスクを取り出して、次に作成するディスクをセットし、ステップ 3 の画面で「開始」をクリックします。同様の操作を、すべてのディスクを作成するまで繰り返してください。

■すべてのディスクの作成が終了した場合

「リカバリディスクセットの作成に成功しました。」というメッセージが表示されたら、ディスクを取り出して「完了」をクリックします。

手順 5 の画面に戻ります。これでリカバリディスクセットの作成は完了です。

重要

- ▶ リカバリディスクは 1 回しか作成できませんので、大切に保管してください。

パソコンの電源を完全に切る

日常的なパソコンの使用では、この方法で電源を切る必要はありません。

重要

- ▶ 次のような場合は、ここで説明している手順でパソコンの電源を切ってください。
 - ・トラブル解決ナビを起動する
 - ・BIOS セットアップを起動する
- 上記以外にも、操作前にパソコンの電源を完全に切る必要のある場合があります。
詳しくは、「Windows を終了する」(→ P.44) をご覧ください。

- 1 マウスポインターを画面の右上隅に合わせて「チャーム」を表示し、 (設定) をクリックします。
『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』
- 2 「PC 設定の変更」をクリックします。
- 3 画面左側のメニューで「保守と管理」をクリックします。
- 4 画面左側のメニューで「回復」をクリックします。
- 5 画面右側のメニューで「今すぐ再起動する」をクリックします。
- 6 「オプションの選択」画面が表示されたら、「PC の電源を切る」をクリックします。

富士通パソコンの廃棄・リサイクルに関するご案内

個人でご利用のお客様が本製品を廃棄する場合は、次のお申し込みホームページよりお申し込みください。
リサイクルの流れや注意事項などの最新の情報は、お申し込みホームページでご確認ください。

お申し込み ホームページ	http://azby.fmworld.net/recycle/ ※スマートフォンからもお申し込みできます。
お問い合わせ 電話番号	03-5715-3140 (通話料金お客様負担) 受付時間 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝日および弊社指定休日を除く)

PC リサイクルマークについて

PC リサイクルマークは、メーカーとユーザーのみなさまが協力し合って、ご使用済み家庭用パソコンを資源に変えるためのマークです(法人(個人事業主を含む)、企業は除く)。PC リサイクルマークが付いた使用済み当社製パソコンは、新たな料金負担なく回収・再資源化いたします。ご使用済み家庭用パソコンのリサイクル活動に、ぜひご協力をお願いいたします。

PC リサイクルマークの付いていない当社製パソコンについては、有償で回収・再資源化をうけたまわります。料金など詳しくは、お申し込みホームページをご確認ください。

PC リサイクルマーク



- 注1: 装置銘板は機種により異なります。
- 注2: パソコン本体にカバーなどがある機種は、PC リサイクルマークが隠れている場合があります。

重要

- ▶ 法人(個人事業主を含む)、企業のお客様へ
お申し込みホームページは、個人のお客様を対象にしています。
法人、企業のお客様向けパソコンリサイクルについては、弊社ホームページ「IT 製品の処分・リサイクル」(<http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html>) をご覧ください。

パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

パソコンを廃棄あるいは譲渡する際、ハードディスクに記録されたお客様のデータが流出して、再利用される可能性があります。結果的にデータが流出してしまうことがあります。
原因として、パソコンのハードディスクに記録されたデータは、削除したり、ハードディスクを再フォーマットしたりしても、データが消えたように見えるだけで、特殊なソフトウェアを利用することで、読み取ることができるからです。また、ハードディスク上のソフトウェアを削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があります。

そのため、パソコンを廃棄あるいは譲渡する際は、ハードディスク上のデータが第三者に流出することがないように全データの消去の対策をお願いいたします。対策として、専用ソフトウェアやサービス(有償)のご利用をお勧めいたします。
詳しくは、サポートページの「パソコン廃棄、譲渡前の常識! データを消去しよう」(<http://azby.fmworld.net/usage/special/erasedata/>) をご覧ください。

■ハードディスクデータ消去

パソコンの廃棄・譲渡時のデータ流出というトラブルを回避する安全策の1つとして、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。

「ハードディスクデータ消去」は、WindowsなどのOSによるファイル削除やフォーマットと違い、ハードディスクの全領域について、元あったデータに固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。

「ハードディスクデータ消去」の使用方法については、サポートページからQ&A ナンバー「6604-6237」を検索してご覧ください。

付属品の廃棄について

■使用済み乾電池の廃棄について

ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウス、リモコンなどには乾電池を使用しており、火中に投げると破裂のおそれがあります。使用済み乾電池を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

□個人のお客様へ

使用済み乾電池を廃棄する場合は、一般廃棄物の扱いとなりますので、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

□法人、企業のお客様へ

使用済み乾電池を廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分業の許可を取得している会社へ処分を委託してください。

■使用済みバッテリーの取り扱いについて

バッテリーパックを交換できる機種のみ

- ・リチウムイオン電池のバッテリーパックは、貴重な資源です。リサイクルにご協力ください。
- ・使用済みバッテリーは、ショート（短絡）防止のためビニールテープなどで絶縁処理をしてください。
- ・バッテリーを火中に投げると破裂のおそれがありますので、絶対にしないでください。

□個人のお客様へ

使用済みバッテリーは廃棄せずに充電式電池リサイクル協力店に設定してあるリサイクル BOX に入れてください。詳しくは、一般社団法人 JBRC [ジェイビーアールシー] のホームページ (<http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html>) をご覧ください。

弊社は、一般社団法人 JBRC に加盟し、リサイクルを実施しています。



- ▶ リサイクルにお申し込みいただく場合は、バッテリーパックは外さずに、パソコンといっしょにリサイクルにお出してください。パソコンのリサイクルについては、「富士通パソコンの廃棄・リサイクルに関するご案内」(→ P.173) をご覧ください。

□法人・企業のお客様へ

法人、企業のお客様は、弊社ホームページ「ICT製品の処分・リサイクル方法」(<http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html>) をご覧ください。



Li-ion

このマークは、リチウムイオン電池のリサイクルマークです。

液晶ディスプレイが添付または内蔵されている機種をお使いのお客様へ

LED バックライト付ではない液晶ディスプレイの蛍光管には水銀が含まれております。

廃棄を予定しているパソコンの仕様を確認してください。環境配慮のため、お申し込みホームページからリサイクルをお申し込みください(→ P.173)。

海外でのノートパソコンの修理について

お客様が海外滞在中に、万が一富士通ノートパソコンが故障した場合、滞在先の国や地域でもハードウェアの修理サービスを受けることができます。本サービスは、保証書に記載している保証期間にかかわらず、本体に最初に電源を入れた日から1年間は無料[注]で修理を行います。2年目以降は有料での修理となります。

本サービスをご利用いただける国・地域、サービス内容やご利用方法について詳しくは、弊社のホームページ (<http://azby.fmwworld.net/support/globalrepair/>) の「海外でのノートパソコンの修理について」をご覧ください。

注：・機器本体に同梱された保証書記載の「無料修理規定」に定める範囲内の修理に限り、修理料金は無料となります。

- ・保証開始日は「@メニュー」から確認できます。「安心・サポート」▶「トラブル診断」▶「目的でさがす」▶「パソコンの情報を表示する」の順にクリックし、「パソコンの情報」が表示されたら「実行する」をクリックしてください。

■サービスのご利用方法

ご利用いただくにはユーザー登録が必要です(入会費・年会費無料)。ユーザー登録方法については、「ユーザー登録をする」(→ P.103) をご覧ください。修理サービスをご利用になる場合は、滞在地域のヘルプデスクに電話でご依頼ください(英語および現地語での対応となります)。

なお、ご利用の前に必ず弊社のホームページ (<http://azby.fmwworld.net/support/globalrepair/>) をご覧ください。

■サービスのご利用上の注意

- ・修理にてハードディスク交換を行う場合、本サービスでは何も格納していない状態のハードディスクの取り付けまでを実施します。リカバリやデータ復元はお客様ご自身で実施していただきます。あらかじめご了承ください。
 - ・海外に渡航する場合は、リカバリディスクセットを作成して、お持ちくださいますようお願いいたします。作成方法は、「リカバリディスクセットを作っておく」(→ P.170) をご覧ください。
- サービス拠点では、リカバリディスクの販売および日本からの取り寄せなどのサービスは行っておりません。あらかじめご了承ください。

・引取修理およびセンドバック修理の場合、パソコンの輸送に必要な梱包については、お客様ご自身で梱包箱を用意して行っていただきます。梱包箱の提供は有料となる場合があります。詳しくは窓口にご確認ください。

■海外でのご使用について

・本サービスの対象機種を含む富士通パソコンおよび周辺機器は日本国内仕様です。

・本サービスは、お客様個人の責任のもとで対象機種を一時的に海外（ただし対象地域に限る）に持ち出される場合に修理サービスをご提供するものであり、対象地域における動作保証をするものではありません。

・内蔵の無線 LAN、モバイル WiMAX、Bluetooth ワイヤレステクノロジーは日本以外の国または地域ではご使用になれません。

・内蔵のテレビチューナーおよび添付のテレビチューナー・ユニットは日本国内専用ですので、アンテナ入力端子にアンテナを接続しないでください。

・国・地域により電圧などが異なりますので、電源ケーブルなどは、ご使用になる国・地域の規格にあったものをご使用ください。

・富士通パソコンを海外に持ち出す場合や、海外で使用する場合には、サポートページから Q&A ナンバー「9206-6259」や「4301-7762」を検索してご覧ください。

□各地域のヘルプデスク情報

地域	サービス拠点	ヘルプデスク情報
北米地域	Fujitsu America, Inc.	・ 電話番号 : +1-901-259-5790 ・ 営業時間 : 月曜日 ~ 金曜日 7 時 ~ 19 時 (中部標準時 UTC-06:00) ・ 対応言語 : 英語
ヨーロッパ、中東、 アフリカ地域および インド	Fujitsu Technology Solutions	ホームページから滞在国・地域のヘルプデスクをご確認ください。 対応言語は英語および現地語となります。 http://support.ts.fujitsu.com/contact/servicedesk/ 注：ホームページは英語で表示されます。 または、国際修理の central number にご連絡ください。 ・ 電話番号 : +49-89-356-480-226 ・ 営業時間 : 月曜日 ~ 金曜日 9 時 ~ 17 時 (中央ヨーロッパ標準時 UTC+01:00) ・ 対応言語 : 英語、ドイツ語
アジア・パシフィック・ オーストラリア地域 (インド、韓国、日本を除く)	Fujitsu PC Asia Pacific Ltd.	修理の問い合わせについては、直接サービスセンター、もしくはヘルプデスクにご連絡ください。詳しくはホームページを確認してください。 http://hk.fujitsu.com/pc/service_apac 注：ホームページは英語で表示されます。

各地域のヘルプデスク情報については、弊社のホームページ (<http://azby.fmwworld.net/support/globalrepair/list.html>) の「海外でのノートパソコンの修理について」にて最新情報を確認してください。

富士通パーソナルコンピュータ修理規定

最新版はホームページに掲載しています。
<http://azby.fmworld.net/support/repair/syurikitei/>

第1条 (本規定の適用)

- 富士通株式会社 (以下「富士通」といいます) は、お客様が富士通の「故障や修理に関する受付窓口」にて修理の依頼をされた場合、または富士通の専用ホームページ「<http://azby.fmworld.net/support/repair/index.html>」(以下「専用ホームページ」といいます) にて修理の依頼をされた場合、本規定に定める条件により修理を行います。なお、お客様が日本国外から修理の依頼をされる場合および販売店または販売会社経由で修理の依頼をされる場合は、本規定は適用されないものとします。
- 前項に基づき富士通が本規定に定める条件により修理を行う場合は、本規定の内容及び、次条に定める対象機器に同梱されている保証書 (以下「保証書」といいます) 裏面の無料修理規定 (以下「無料修理規定」といいます) の内容に優先して適用されるものとします。なお、本規定に定めのない事項については、無料修理規定の内容が有効に適用されるものとします。

第2条 (対象機器)

本規定に基づく修理の対象となる機器 (以下「対象機器」といいます) は、お客様が日本国内において購入された日本国内向け富士通製パーソナルコンピュータ (詳細は本規定末尾記載、以下同じ) および当該日本国内向け富士通製パーソナルコンピュータ用の富士通製周辺機器 (ただしプリンタは除きます) とします。

第3条 (修理の形態)

- 富士通は、お客様より対象機器の修理をご依頼いただいた場合、現象や使用状況等を伺いながら簡単な切り分け診断を行い、修理の必要があると富士通が判断した場合に、次のいずれかの形態により修理を行います。ただし、対象機器の機種または離島等の一部地域等、修理の形態が限定される場合があるものとします。
 - 引取修理 (パソコン修理便)
お客様のご自宅から故障した対象機器を引き取り、修理完了後ご自宅までお届けします。
 - 訪問修理
訪問修理が可能な製品について、お客様が訪問修理を希望された場合は、富士通指定の修理サービス会社の担当者がお客様のご自宅を訪問し、修理作業を行います。なお、訪問料は、保証書で特に無料と定められている場合を除き、保証期間の内外を問わず、別途有料となります。また、離島の一部地域では、訪問料とは別に訪問に要する実費 (フェリー代、宿泊代等) をお客様にご負担いただく場合があります。
- 前項にかかわらず、当該切り分け診断の結果、故障の原因が外付けキーボード、マウス、ACアダプタにあると富士通が判断した場合は、富士通は、原因部品の良品をお客様のご自宅に交付いたします。なお、故障部品については、お客様から富士通に送付していただきます。

第4条 (保証期間内の修理)

- 保証期間内に、取扱説明書、対象機器添付ラベル等の注意書きに従った正常な使用状態で対象機器が故障した場合には、富士通は、無料修理規定に従い、無料で修理を行います。
- 前項にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、保証期間内であっても有料修理となります。
 - 保証書が対象機器に添付されていない場合
 - 保証書に必要事項の記入がない場合、または字句を書き替えられた場合、その他事実と異なる記載がされていた場合
 - ご使用上の誤り (水などの液体こぼれ、水没、落下等)、または改造、誤接続や誤挿入による故障・損傷の場合
 - 火災、地震、水害、落雷その他の天災地変、公害、塩害、ガス害 (硫化ガス等)、異常電圧や指定外の電源使用による故障・損傷の場合
 - 富士通指定の有寿命部品、消耗品 (バッテリー、乾電池等) または定期交換部品の自然消耗、磨耗、劣化等により部品の交換が必要となった場合
 - 接続している他の機器、非純正品、不適当な消耗品またはメディアのご使用に起因して対象機器に生じた故障・損傷の場合
 - お買い上げ後の輸送や移動または落下等、お客様における不適当なお取り扱いにより生じた故障・損傷の場合
 - 対象機器のハードウェア部分に起因しない不具合 (例：対象機器にプレインストールまたは添付されたソフトウェア製品に起因する不具合、ウイルス感染による不具合等を含む、以下同じとします) の場合
 - お客様が設定されたパスワードの忘却やお客様が施錠された鍵の紛失により、メインボード、本体カバーその他の部品の交換が必要となった場合
 - お客様のご使用環境や維持・管理方法に起因して生じた故障・損傷の場合 (例：埃、錆、カビ、虫・小動物の侵入および糞尿による故障等)
- 第1項にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、保証期間内であっても、別途それぞれの料金が発生するものとします。

- 第3条第1項第(2)号に基づき訪問料が発生した場合は、当該訪問料
- 対象機器のハードウェア部分に起因しない不具合で、ソフトウェアの再インストールにより復旧する場合であって、お客様が当該再インストールを希望された場合は、ソフトウェア再インストール料

第5条 (保証期間外の修理)

- お客様による修理のご依頼が保証期間外の場合、富士通は、有料で修理を行います。
- 次の各号のいずれかに該当する場合は、修理料金の他にそれぞれの料金が発生するものとします。
 - 第3条第1項第(2)号に基づき訪問料が発生した場合は、当該訪問料
 - ハードウェア部分に起因する故障ではなく、ソフトウェアの再インストールで復旧する場合で、お客様が当該再インストールを希望された場合は、ソフト再インストール料
- お客様による修理のご依頼が保証期間外の引取修理の場合であって、お客様に伺った故障の現象が確認できず、修理の必要がないと富士通が判断した場合は、その診断作業に対して診断料が発生するものとします。また、対象機器お預かり後にお客様が修理のご依頼をキャンセルされた場合 (第6条第2項および第3項に定める場合を含みます) であっても、診断料が発生するものとします。
- お客様による修理のご依頼が保証期間外の訪問修理の場合であって、富士通指定の修理サービス会社の担当者が、訪問先でお客様に伺った故障の現象が確認できず、修理の必要がないと判断した場合は、当該診断作業に対して訪問料と診断料が発生するものとします。また、担当者がお客様ご指定の場所に訪問し、修理作業に入る前に修理のご依頼をキャンセルされた場合は、訪問料が発生するものとします。

第6条 (修理料金の見積もり)

- 修理が有料修理の場合であって、お客様が修理のご依頼時に修理料金の見積もりを希望された場合、富士通は、引取修理の場合は対象機器のお預かり後に診断作業を行い、見積金額をお知らせするものとし、訪問修理の場合は訪問前にお客様から現象や使用環境等伺った内容に基づき診断を行い、概算の見積金額をお知らせするものとします。富士通もしくは富士通指定の修理サービス会社の担当者は、当該見積金額での修理について、お客様にご了承いただいたうえで、修理を行います。ただし、お客様が修理のご依頼時に修理料金の上限金額をご提示いただいた場合であって、修理料金が上限金額を超えない場合は、お客様にご了承いただいたものとして見積提示なしに修理を行います。
- 前項のうち引取修理の場合であって、お客様に見積金額をお知らせした日から1か月を超えても、お客様から見積もりに対するご回答がなかった場合は、お客様が修理のご依頼をキャンセルされたものとし、富士通は、修理を実施せずに、お預かりした対象機器をお客様に返却いたします。
- 第1項のうち引取修理の場合であって、修理の過程において新たな故障の原因が判明した場合等、お客様に見積金額をお知らせした後に当該金額を変更する必要がある場合には、富士通は、再度見積金額をお知らせするものとし、当該再見積もり後の金額での修理についてお客様にご了承いただいたうえで、修理を継続いたします。なお、当該再見積もり後の金額での修理についてお客様にご了承いただかなかった場合は、お客様が修理のご依頼をキャンセルされたものとし、富士通は、修理を中止し、お預かりした対象機器をお客様に返却いたします。

第7条 (修理料金等の支払い方法)

第4条または第5条に基づき発生した修理料金等については、お預かりした対象機器の返却時に現金にてお支払いいただきます。

第8条 (修理期間)

引取修理の場合、富士通は、対象機器のお預かりから、修理完了後の対象機器のご自宅へのお届けまで、原則として7日間に対応いたします。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、7日間を超える場合があるものとします。

- お客様から伺った故障の現象が確認できず、修理箇所の特定ができない場合
- 引取修理の場合であって、引き取り先が離島の場合
- 有料修理の場合であって、お客様が修理料金の見積もりを希望された場合
- お客様のご都合により、修理完了後の対象機器の返却日に日程変更等が生じた場合
- 天災地変、戦争、暴動、内乱、輸送機関の事故、労働争議その他不可抗力の事由が生じた場合
- 第12条第1項に定める補修用性能部品が在庫切れの場合

第9条 (修理品の保管期間)

引取修理の場合であって、修理完了後にお客様に修理の完了および返却日をお知らせしているにもかかわらず修理後の対象機器をお受け取りいただけない場合、または対象機器お預かり後にお客様が修理のご依頼をキャンセルされたにもかかわらず当該対象機器をお引き取りいただけない場合は、富士通は、対象機器をお預かりした日から6か月間の保管期間の経過をもって、お客様が当該対象機器の所有権を放棄されたものとみなし、当該対象機器を自由に処分できるものとし、この場合、富士通はお客様に対し、当該保管に要した費用および当該処分に関する費用を請求できるものとし、また、保証期間外の修理の場合は、別途修理料金または診断料を請求できるものとします。

第10条 (故障部品の取り扱い)

修理を行うために対象機器から取り外した故障部品については、お客様はその所有権を放棄するものとし、富士通は、当該故障部品をお客様に返却しないものと

します。なお、当該故障部品は、環境への配慮から再調整後検査し、富士通の品質保証された補修用性能部品として再利用する場合があります。

第 11 条 (修理ご依頼時の注意事項)

お客様は、修理をご依頼されるにあたり、あらかじめ以下の事項についてご了承いただくものとします。

- (1) お客様が保証期間内に修理をご依頼される場合は、必ず対象機器に同梱されている保証書を対象機器に添付いただくものとします。
- (2) お客様が修理をご依頼された対象機器の記憶装置 (ハードディスク等) に記憶されたデータ、プログラムおよび設定内容 (以下総称して「データ等」といいます) につきましては、富士通では一切保証いたしません。お客様は、修理をご依頼される前に、お客様の責任においてバックアップをとっていただくものとします。(日頃から随時バックアップをとられることをお勧めいたします。) なお、修理および修理前の診断作業の過程で、データ等が変化・消去される場合があります。お客様が修理をキャンセルされた場合 (第 6 条に定める場合を含みます) でも、当該キャンセルの時点で既に富士通が修理前の診断作業を実施していた場合は、当該作業の過程でデータ等が変化・消去されている場合があります。
- (3) 富士通は、修理および修理前の診断作業の過程で、インターネットへの接続確認等の目的で対象機器をインターネットに接続する場合があります。お客様が修理をキャンセルされた場合 (第 6 条に定める場合を含みます) でも、当該キャンセルの時点で既に富士通が修理前の診断作業を実施していた場合は、当該作業の過程で対象機器がインターネットに接続されている場合があります。なお、当該接続によりデータ等が変化・消去される場合があります。また、富士通は、当該接続によりデータ等が変化・消去される等の問題が生じ、当該問題を解決するために必要と判断した場合、データ等を変更、消去等する場合があります。
- (4) 修理完了後のオペレーティングシステム (OS) ならびにその他のプログラムの再インストールおよびセットアップ等につきましては、お客様ご自身で実施いただくものとします。
- (5) お客様ご自身で貼り付けられたシール等につきましては、取り外したうえで修理をご依頼いただくものとします。また、お客様ご自身で行われた塗装や刻印等につきましては、元の状態への復旧はできないものとします。
- (6) 富士通は、修理期間中の代替機の貸し出しは行わないものとします。なお、修理期間中の対象機器の使用不能による補償等は、本規定で定める責任を除き富士通では一切責任を負わないものとします。
- (7) お客様が対象機器にパスワードを設定されている場合は、当該設定を解除したうえで修理をご依頼いただくものとします。
- (8) 対象機器の修理とは関係のない記録媒体 (CD、DVD、メモリーカード、フロッピーディスク、MO 等)、他の機器との接続ケーブル、および添付品等につきましては、事前にお客様の方で対象機器から取り外したうえで修理をご依頼いただくものとします。なお、万が一これらが対象機器に付加された状態で修理をご依頼いただいた場合、富士通ではこれらの管理につき一切責任を負わないものとします。
- (9) 修理のご依頼時に、当該修理にリカバリディスクが必要である旨富士通からおお客様にお知らせした場合は、お客様は必ず対象機器に同梱されているリカバリディスクを添付いただくものとします。
- (10) 次の各号のいずれかに該当するものは、修理の対象から除かれるものとします。
 - a. お客様が対象機器出荷時の標準搭載の部品を加工・改造されたこと、または対象機器出荷時の標準搭載以外の部品を使用されたことに起因する故障の修理
 - b. ウィルスの除去
 - c. 液晶ディスプレイの一部に非点灯、常時点灯などの表示が存在する場合の修理・交換
 - d. データ等のバックアップおよび復旧作業
- (1) 訪問修理の場合であって、富士通または富士通指定の修理サービス会社がおお客様への訪問日程調整のご連絡に努めたにもかかわらず、ご連絡がつかない状態が 2 週間以上継続した場合は、修理をキャンセルされたものとみなすことがあります。

第 12 条 (補修用性能部品)

1. 補修用性能部品は、製品の機能を維持するために必要な部品をいい、故障部品と機能、性能が同等な部品 (再利用品および第 10 条に定める故障部品の再利用も含む) とします。
2. 富士通における補修用性能部品の最低保有期間につきましては、対象機器に同梱されている説明書記載のとおりとなります。補修用性能部品の保有期間の終了をもって、当該対象機器の修理対応は終了となります。

第 13 条 (個人情報の取り扱い)

1. 富士通は、本規定に基づく修理に関してお客様から入手した情報のうち、当該お客様個人を識別できる情報 (以下「お客様の個人情報」といいます) につき、以下の利用目的の範囲内で取り扱います。

- (1) 修理を実施すること。
- (2) 修理の品質の向上を目的として、電子メール、郵便、電話等によりアンケート調査を実施すること。
- (3) お客様に有益と思われる富士通または富士通の子会社、関連会社もしくは提携会社の製品、サポートサービス等の情報を、電子メール、郵便、電話等によりお客様へ提供すること。

- (4) お客様の個人情報の取り扱いにつき、個別にお客様の同意を得るために、当該お客様に対し電子メール、郵便、電話等により連絡すること、および当該同意を得た利用目的に利用すること。
2. 富士通は、前項に定める利用目的のために必要な範囲で、お客様の個人情報を業務委託先に取り扱わせることができるものとします。
3. 富士通は、「個人情報の保護に関する法律」において特に認められている場合を除き、お客様の個人情報につき、第 1 項に定める以外の利用目的で取り扱い、または前項に定める以外の第三者に開示、提供することはありません。

第 14 条 (責任の限定)

1. 富士通が実施した修理に富士通の責に帰すべき瑕疵が発見され、当該修理完了日より 3 か月以内に、当該修理時の「診断・修理報告書」を添えてその旨お客様より富士通にご連絡いただいた場合、富士通は自己の責任と費用負担において必要な修理を再度実施いたします。なお、ここの瑕疵とは、当該修理を実施した箇所の不具合により再度修理が必要となる場合をいいます。
2. 合理的な範囲で富士通が前項の修理を繰り返し実施したにもかかわらず、前項の瑕疵が修理されなかった場合には、富士通は、当該瑕疵に起因してお客様に生じた損害につき、賠償責任を負うものとします。
3. 対象機器の修理に関連して富士通がお客様に対して損害賠償責任を負う場合、その賠償額は、修理料金相当額を上限とします。また、富士通は、富士通の責に帰することのできない事由から生じた損害、富士通の予見の有無を問わず特別の事情から生じた損害、逸失利益については、責任を負わないものとします。
4. 対象機器の修理に関連してお客様が被った損害が、富士通の故意または重大過失に起因するものである場合には、前項の規定は適用されないものとします。

第 15 条 (変更)

富士通は、本規定の内容を変更する必要がある場合は、お客様に対する通知をもって変更できるものとします。なお、当該通知は、専用ホームページでの表示により行われるものとします。

第 16 条 (専属的合意管轄裁判所)

本規定に基づく対象機器の修理に関する訴訟については、東京地方裁判所をもって第一審における合意上の専属的管轄裁判所とします。

付則

本規定は、2014 年 4 月 1 日から実施します。

■対象機器

- ・ ARROWS Tab QH シリーズ
- ・ ARROWS Tab Wi-Fi QH シリーズ
- ・ FMV シリーズ
- ・ FMV STYLISTIC QH シリーズ
- ・ ESPRIMO / LIFEBOOK (品名が以下のように表記される製品)

品名: * H *** / ***
↑ ↑ ↑
アルファベット 数字 数字またはアルファベット
(2 ~ 3 桁) (1 ~ 3 桁)

品名: W * * / *
↑ ↑ ↑
アルファベット 数字 アルファベット

品名: * H / R **
↑ ↑
アルファベット 数字またはアルファベット
(1 ~ 2 桁)

文字コードの取り扱いに関する注意

環境依存文字の取り扱いについて

環境依存文字とは、お使いのアプリや相手のパソコンの環境によって、正しく表示されない可能性のある文字のことです。文書データなどを作成するときに環境依存文字を使用すると、Eメールやホームページ上で字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。

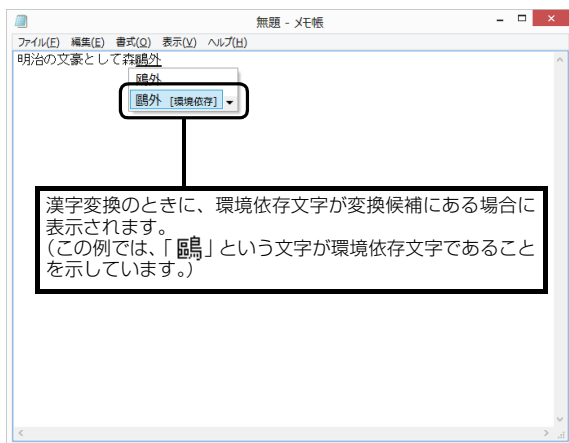
トラブルを避けるため、環境依存文字はできるだけ使用しないことをお勧めします。

環境依存文字を使用すると、次のようなトラブルが起きることがあります。

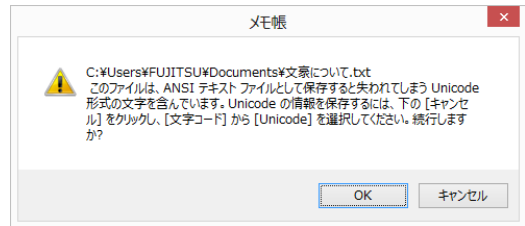
- ・ Eメールのやり取りで環境依存文字を使用すると、送信側と受信側で、字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。
 - ・ アプリが環境依存文字に対応していない場合、アプリが環境依存文字を正しく表示したり認識したりできない場合があります。
 - ・ お使いのプリンターによっては、環境依存文字を使用して印刷すると、字形が異なったり崩れたりして印刷される場合があります。
 - ・ インターネットのサイトなどで運用側のシステムが環境依存文字に対応していない場合、環境依存文字を入力すると、字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。
- 例 ショッピングサイト、検索サイト、ブログ、ホームページ、インターネット掲示板など

Windows 8.1、Windows 7 では、環境依存文字を取り扱うときに、注意をうながすメッセージが表示されます。次に表示されるメッセージの例を説明します。

例 1 文字入力中に環境依存文字を示すメッセージ



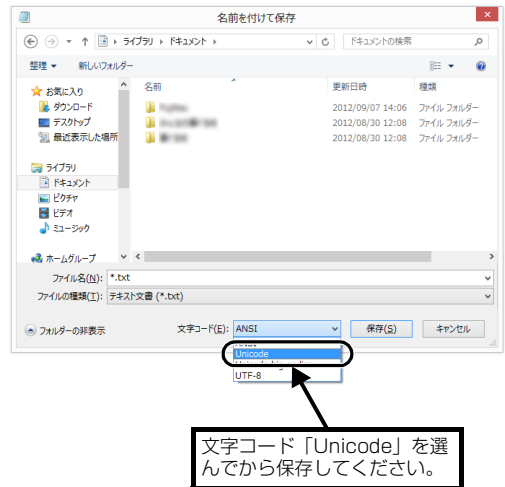
例 2 環境依存文字を含んだファイルを保存するときに表示されるメッセージ



- ・ 環境依存文字を含んだファイルを保存するときに表示されます。「キャンセル」をクリックすると作成中の状態に戻るので、環境依存文字を変更して保存し直すことをお勧めします。

Point

- ▶ 文字コードを他の形式にして保存する
環境依存文字を含んだファイルは、次のように文字コードを Unicode 形式にすることで保存できます。ただし、Unicode に対応していない OS やアプリでこのファイルを開くと、文字化けを起こしたり正常に表示されなかったりする場合がありますのでご注意ください。



Windows 8.1、Windows 7 と Windows XP 以前との文字の互換性

Windows 8.1、Windows 7、Windows Vista は、日本工業規格「JIS X 0213:2004」に対応しています。Windows XP 以前の OS は「JIS X 0213:2004」に対応していないため、「JIS X 0213:2004」で新たに追加された文字や字形変更された文字を使用して作った文書データは、字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。また、Windows XP 以前の OS で作られた文書データに、「JIS X 0213:2004」で字形変更された文字が含まれる場合は、異なった字形で表示されます。

□参考：JIS X 0213:2004 改正における字形変更の比較（一例）

改正後字形：Windows 8.1、Windows 7、Windows Vista 改正前字形：Windows XP 以前の OS

UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形
5026	倦	倦	5C60	屠	屠	6753	杓	杓	701E	漚	漚
50C5	僅	僅	5DF7	巷	巷	6962	檣	檣	7026	漚	漚
5132	儲	儲	5E96	庖	庖	698A	榭	榭	7058	灘	灘
51A4	冤	冤	5EDF	廟	廟	6994	榔	榔	707C	灼	灼
537F	卿	卿	5FBD	徽	徽	69CC	槌	槌	7149	煉	煉
53A9	厩	厩	6062	恢	恢	6A0B	榑	榑	714E	煎	煎
53DB	叛	叛	6108	愈	愈	6A3D	樽	樽	717D	煽	煽
54E8	哨	哨	6241	扁	扁	6ADB	櫛	櫛	7259	牙	牙
55A9	喻	喻	6357	抄	抄	6B4E	歎	歎	7337	猷	猷
5632	嘲	嘲	6372	捲	捲	6C72	汲	汲	7511	甌	甌
5642	噂	噂	63C3	掬	掬	6DEB	淫	淫	75BC	疼	疼
564C	噲	噲	647A	摺	摺	6EA2	溢	溢	77A5	瞥	瞥
56C0	轉	轉	64B0	撰	撰	6EBA	溺	溺	7941	祁	祁
5835	堵	堵	64E2	擢	擢	6F23	漣	漣	7947	祇	祇
5C51	屑	屑	6666	晦	晦	7015	瀕	瀕	79B0	禰	禰

UCS: Universal multiple-octet coded Character Set

改正後字形：Windows 8.1、Windows 7、Windows Vista 改正前字形：Windows XP 以前の OS

UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形
79E4	秤	秤	84EC	蓬	蓬	8CED	賭	賭	9306	鑄	鑄
7A7F	穿	穿	8511	蔑	蔑	8FBB	辻	辻	939A	鎚	鎚
7B08	笈	笈	853D	蔽	蔽	8FBF	辿	辿	9453	鎚	鎚
7B75	筵	筵	85A9	薩	薩	8FC2	迂	迂	9784	鞆	鞆
7BAD	箭	箭	85AF	薯	薯	8FC4	迄	迄	9798	鞆	鞆
7BB8	箸	箸	85F7	諸	諸	8FE6	迦	迦	98F4	飴	飴
7BC7	篇	篇	86F8	蛸	蛸	9017	逗	逗	9905	餅	餅
7BDD	箒	箒	8755	蝕	蝕	9019	這	這	990C	餌	餌
7C3E	簾	簾	8956	襖	襖	9022	逢	逢	9957	饗	饗
7C7E	粿	粿	8A1D	訝	訝	903C	逼	逼	9A19	騙	騙
7FEB	翫	翫	8A3B	註	註	9041	遁	遁	9BD6	鯖	鯖
7FF0	翰	翰	8A6E	詮	詮	905C	遜	遜	9C2F	鰯	鰯
817F	腿	腿	8AFA	諺	諺	9061	遡	遡	9C52	鱒	鱒
82A6	芦	芦	8B0E	謎	謎	912D	鄭	鄭	9D09	鴉	鴉
8328	茨	茨	8B2C	謬	謬	914B	曾	酋	9D60	鵠	鵠
845B	葛	葛	8C79	豹	豹						

パソコン本体の主な仕様

ここでは、パソコン本体の主な仕様を紹介しています。

■仕様の調べ方

仕様について詳しくは「富士通アドバイザー」(→ P.33) の「サポート & サービス情報」から「パソコンの仕様を調べる」を選択して表示されるホームページの内容をご覧ください。なお、仕様の詳細を調べるときに、お使いのパソコンの型名が必要になることがあります。型名は次の場所に記載されています。

- 保証書
- パソコン本体の裏面に貼付されたラベル
- 「@メニュー」を起動し、「安心・サポート」▶「トラブル診断」▶「目的でさがす」▶「パソコンの情報を表示する」▶「実行する」の順にクリックすると表示される画面



▶ 型名の確認方法の詳細は、サポートページから Q&A ナンバー「3702-5873」を検索して参照できます。

■LIFEBOOK SH90/S、SH75/S

注記については、「仕様一覧の注記について」(→ P.182) をご覧ください。

品 名			LIFEBOOK SH90/S	LIFEBOOK SH75/S
CPU 注1			インテル® Core™ i5-4210U プロセッサ（HT テクノロジー対応）	
メインメモリ			PC3L-12800 DDR3L SDRAM、ECC なし	
	標準容量		4GB（4GB × 1）注2	
	最大容量		12GB	
CD/DVD ドライブ注3			スーパーマルチドライブ	
無線 LAN 注4	規格		IEEE 802.11a/b/g/n/ac 準拠 （5GHz 帯チャンネル：W52/W53/W56）（Wi-Fi® 準拠）注5 インテル WiDi 対応注6	
	内蔵アンテナ		ダイバーシティ方式注7	
電源供給方式	AC アダプタ注8		入力 AC100V ～ 240V、出力 DC19V（3.42A）	
	バッテリー	内蔵バッテリーパック	リチウムイオン 77Wh	
		増設用バッテリー	リチウムイオン 28Wh	
消費電力			ホームページに掲載された仕様一覧をご覧ください。 仕様一覧の表示方法は「 ■仕様の調べ方 」をご覧ください（→ P.181）。	
外形寸法（幅×奥行×高さ） （突起部含まず）			319 × 215 × 13.6 ～ 19.8mm	
本体質量 （バッテリーパック含む）注9			モバイル・マルチベイ用カバー装着時： 約 1.46kg スーパーマルチドライブユニット装着時： 約 1.57kg 増設用内蔵バッテリーユニット装着時： 約 1.67kg	モバイル・マルチベイ用カバー装着時： 約 1.34kg スーパーマルチドライブユニット装着時： 約 1.45kg 増設用内蔵バッテリーユニット装着時： 約 1.55kg

パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

仕様一覧の注記について

- 注 1 ソフトウェアによっては CPU 名表記が異なることがあります。
- 注 2 最大メモリ容量にするために、別売の増設メモリを取り付ける必要があります。
- 注 3 読み出し、書き込み速度については、ホームページに掲載された仕様一覧をご覧ください。仕様一覧の表示方法は「**■**仕様の調べ方」をご覧ください（→ P.181）。
- 注 4 無線 LAN の仕様については、「無線 LAN」（→ P.138）をご覧ください。
- 注 5 Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。
- 注 6 インテル WiDi については、「インテル WiDi を使う」（→ P.127）をご覧ください。
- 注 7 IEEE 802.11n 準拠、IEEE 802.11ac 準拠を使用したときは、MIMO 方式にもなります。
- 注 8 標準添付されている電源ケーブルは AC100V（国内専用品）用です。また、矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用 AC 電源など）に接続されると、故障する場合があります。
- 注 9 各製品で質量が異なる場合があります。

■商標および著作権について

インテル、Intel、インテル Core は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。Roxio、Roxio のロゴ、Roxio Creator は Corel Corporation およびその関連会社の商標または登録商標です。Corel、Corel のロゴ、WinDVD は Corel Corporation およびその関連会社の商標または登録商標です。TRENDMICRO、およびウイルスバスターは、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。デジタルアーツ /DIGITAL ARTS、ZBRAIN、アイフィルター /i-フィルターはデジタルアーツ株式会社の登録商標です。デジブックは株式会社トリワークスの登録商標です。「メモリースティック」は、ソニー株式会社の商標または登録商標です。

SDXC ロゴは、SD-3C, LLC. の商標です。  ExpressCard™、ExpressCard™ ロゴは、Personal Computer Memory Card International Association（PCMCIA）の商標で、富士通へライセンスされています。Manufactured under license from DTS Licensing Limited. DTS, the Symbol, & DTS and the Symbol together are registered trademarks, and DTS UltraPC II Plus is a trademark, of DTS (BV) Limited (in Hong Kong and China) and DTS, Inc. (outside of Hong Kong and China). © DTS, Inc. All Rights Reserved. 

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。  Bluetooth® は、Bluetooth SIG の商標であり、富士通へライセンスされています。Google、Google ロゴ、Android は、Google Inc. の商標または登録商標です。@nifty は、ニフティ株式会社の商標です。その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。その他の各製品は、各社の著作物です。その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright FUJITSU LIMITED 2014

Microsoft アカウント

メールアドレス (Microsoft アカウント)、パスワードを記入してください。



メールアドレス
(Microsoft アカウント)

パスワード

@

※第三者に漏れないよう充分に注意して管理してください。

LIFEBOOK SH シリーズ

取扱説明書＜詳細版＞

B5FK-4751-01-01

発行日 2014 年 12 月

発行責任 富士通株式会社

〒 105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

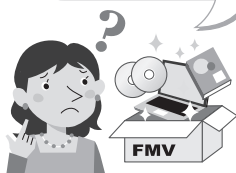
- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。



パソコン操作に困ったら、**お電話**ください。
プロがご自宅にお伺いし、解決します！

富士通パソコン出張サービス PC 家庭教師 (有料)

セットアップって
むずかしそう…
やってくれないかな。



パソコン 基本設定

めんどろなパソコンのセット
アップは、お任せください！

14,300円(税込)～

ウイルス感染！？
うちに来て、
みてほしい。



かけつけ診断

原因がわからないトラブルも
プロが解決に導きます！

10,100円(税込)～※

デジカメの写真、
どうやって
プリントするの？



教えて パソコンレッスン

お客様の「したい」ことを
丁寧に説明します！

14,300円(税込)～

(注) メニュー名、料金は、予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

※ 診断の結果、必要なリカバリ等の作業が発生した場合、別途費用が発生します。

通話料
無料

みんな つなぐよ
0120-37-2794

■ 受付時間：10時～19時 ■ 訪問時間：10時～20時 (有料サービス)

※ 携帯電話、PHSからも通話可能です。システムメンテナンスのため、休止させていただく場合がございます。

「PC家庭教師」は弊社指定のサービス会社がご自宅に伺い、その場でサポートする有料の出張サービスです。電話での技術相談をご希望の場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。

「PC家庭教師」のほかにも、富士通の有料サービス「バリューplus」では、多彩なメニューをご用意しております。詳しくはホームページをご覧ください。

例 ● Word、Excelも電話で相談できるPCコンシェルジュサービス
● 3年間メーカー延長保証サービス など

富士通 バリューplus

検索

